カミヤ遺跡・羽代前田遺跡

（はしろまえだ）

中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書

2008年3月

島根県浜田県土整備事務所
江津市教育委員会

『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡 』正 誤 表

遺跡名	ページ・図番号	誤	正
カミヤ遺跡	挿図目次　第9図	S=1/100	S=1/200
羽代前田遺跡	写真目次　図版6　左下	土器溜02出土状況	土器溜02検出状況
羽代前田遺跡	写真目次　図版9　左中	SE→NW	NE→SW
カミヤ遺跡	P12　23行目	6～18は奈良時代から	8～18は奈良時代から
カミヤ遺跡	P15　7行目	W1～23は漆器で、外面にスタンプ文が施される。W7や絵付けが施されるW12などが混在している。	W1～23は漆器で、外面にスタンプ文が施されるW7や、絵付けが施されるW13などが混在している。
羽代前田遺跡	P20　2行目	胎土などは古墳時代後期遺構の土師器と同じだが、	胎土などは古墳時代後期以降の土師器と同じだが、
羽代前田遺跡	P20　17行目	89は小型の蓋で外面にヘラミガキが施されている。	89は小型の壷で外面にヘラミガキが施されている。
カミヤ遺跡	P31　第33表　2	土師器	弥生土器
カミヤ遺跡	P31　第33表　2	古墳中期	弥生
カミヤ遺跡	P32　第33表　48	蓋	輪状つまみ蓋
カミヤ遺跡	P42　第40表　W80	棒状具	板状具
カミヤ遺跡	P42　第40表　W80	先尖棒	その他
カミヤ遺跡	P42　第40表　W80	端部炭化	
カミヤ遺跡	P43　第40表　W103	残材	短材
カミヤ遺跡	P43　第40表　W104	残材	短材
羽代前田遺跡	P50　第7表　30	古墳後期	不明
羽代前田遺跡	P50　第7表　55	陶器	磁器
羽代前田遺跡	P53　第7表　146	不明	蓋
羽代前田遺跡	P54　第7表　168	瓶	壷
カミヤ遺跡	写真図版34　写真右上	遺物番号161	遺物番号169

訂正箇所は、太字アンダーラインの文字です。

カミヤ遺跡　漆器（容器）における漆の状況一覧

掲載No.	大分類	中分類	小分類	内（下地）	内（仕上）	外（下地）	外（仕上）
W1	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W2	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W3	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W4	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W5	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W6	容器	挽物	漆器皿	黒		黒	
W7	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤（絵付）
W8	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤（絵付）
W9	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W10	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤（絵付）
W11	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤（絵付）
W12	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤（絵付）
W13	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤
W14	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤
W15	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W16	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W17	容器	挽物	漆器皿	黒		黒	
W18	容器	挽物	漆器椀	—	—	黒	
W19	容器	挽物	漆器椀	黒	赤（絵付）	黒	
W20	容器	挽物	漆器椀	黒	赤（絵付）	黒	
W21	容器	挽物	漆器椀	黒	赤（絵付）	黒	
W22	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤（絵付）
W23	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	

カミヤ遺跡　第40表　建物19計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.14m）				2間（3.15m）			
主軸		N−98.9°−E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	26×25	32×30	35×33	37×29	33×25	28×24	30×22	29×22
	底径座標（m）	137.25	137.09	137.12	136.97	137.11	137.06	—	—
柱間距離（m）		1−2	2−3	4−5	5−6	7−8	8−9	1−4	2−5
		2.12	2.02	1.96	2.10	1.91	2.11	1.75	1.71
柱穴（cm）	番号	9	—	—	—				
	上面径（cm）	32×27							
	底径座標（m）	—							
柱間距離（m）		3−6	4−7	5−8	6−9				
		1.67	1.36	1.40	1.48				

カミヤ遺跡・羽代前田遺跡

（はしろまえだ）

中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書

2008年3月

島根県浜田県土整備事務所
江津市教育委員会

序

江津市教育委員会は、島根県浜田農林振興センター（現在機構改革により島根県浜田県土整備事務所となっている）の委託を受けて、平成16年度から文化庁の国庫補助事業を併用し、中山間地域総合整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりましたが、このたび報告書を刊行する運びとなりました。本報告書は平成16年度から平成17年度まで調査された江津市跡市町『カミヤ遺跡』と、平成17年度から平成18年度にかけて調査された江津市二宮町羽代『羽代前田（はしろまえだ）遺跡』の調査成果を取りまとめたものです。

江津の中央を流れ奔る江の川は、中国太郎の異名を持つ中国地方最大の河川として知られていますが、古来より中国路陰陽を結ぶ大動脈として、文化、経済、人の交流を促してきました。15世紀の半ばには既に江の川河口は対外貿易基地の一基地となり、環日本海交流の要衝の地として重要視されていたことが中国や朝鮮などの文献などにより明らかになっています。

カミヤ遺跡では、奈良時代から近世に掛けての集落跡が調査され、集落の移動が確認されるとともに、中世には本格的なタタラ製鉄を行っていたことが確認されました。また、羽代前田遺跡の調査では、古墳時代後期に展開した集落遺跡の片鱗を伺うことが出来ました。

両地区での本格的な発掘調査は今回が初めてのことで、江津市にとって大変貴重な歴史資料を得ることとなりました。本書が地域の歴史と文化に理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の皆様や島根県浜田県土整備事務所、文化庁、島根県教育委員会、島根県埋蔵文化財調査センターをはじめ、調査に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月

江津市教育委員会

教育長　野　上　公　司

例　　言

1. 本書は島根県浜田県土整備事務所（旧島根県浜田農林振興センター）が実施した中山間総合整備事業に伴い、江津市教育委員会により平成16年度から平成18年度に本調査を行ったカミヤ遺跡及び羽代前田（はしろまえだ）遺跡発掘調査における本報告書である。

2. 発掘調査は島根県浜田県土整備事務所（旧島根県浜田農林振興センター）の委託金と文化庁の国庫補助金、島根県補助金を得て江津市が実施した。

3. 発掘対象地は下記のとおりである。

カミヤ遺跡	江津市跡市町字舞立（まいたち）
羽代前田遺跡	江津市二宮町字羽代（はしろ）

4. 本報告書掲載遺跡の調査履歴は下記のとおりである。

平成14年度	事業範囲分布調査	平成17年度	カミヤ遺跡本調査
平成15年度	カミヤ遺跡試掘調査		羽代前田遺跡本調査
平成16年度	カミヤ遺跡本調査	平成18年度	羽代前田遺跡本調査
	事業範囲追加分布調査	平成19年度	報告書作成
	羽代前田遺跡試掘調査		

5. 調査体制は次のとおりである。

事務局　江津市教育委員会

平成16年度	野上公司（ひろし）	教育長	平成17年度	野上公司	教育長
	的場溥勝	生涯学習課長		林　浩司	生涯学習課長
	小林茂雄	同　課長補佐		木村恒夫	生涯学習課長
	山崎真理子	同　主事		中西一郎	同　課長補佐
調査担当	梅木茂雄	同　主任主事		藤岡美津子	同　総括主任
事務補助員	福本和世子	同　嘱託員		山崎香織	同　主任
調査補助員	無川美和子	同　嘱託員	調査担当	梅木茂雄	同　主任
調査補助員	澤津　孝	同　嘱託員	事務補助員	福本和世子	同　嘱託員
			調査補助員	無川美和子	同　嘱託員
			調査補助員	澤津　孝	同　嘱託員

平成18年度	野上公司	教育長	平成19年度	野上公司	教育長
	木村恒夫	生涯学習課長		石田道明	生涯学習課長
	中西一郎	同　課長補佐		中西一郎	同　課長補佐
	山崎香織	同　主任		山崎香織	同　主任
調査担当	梅木茂雄	同　主任	調査担当	梅木茂雄	同　主任
事務補助員	福本和世子	同　嘱託員	事務補助員	福本和世子	同　嘱託員
調査補助員	無川美和子	同　嘱託員	調査補助員	原田朋和	同　嘱託員
調査補助員	原田朋和	同　嘱託員			

6. 調査及び報告書の作成に際し、次の組織、個人に指導・助言をいただいた。記して感謝する。
島根県文化財課、島根県埋蔵文化財調査センター：内田律雄、角田徳幸、東山信二

7. 報告書の作成は以下のものが携わった。(50音順)
梅木茂雄、榎本(藤本)淳子、上手文子、鹿森三鈴、主原洋子、原田朋和、山田ゆう子

8. 挿図で使用した方位は測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は世界測地系による。標高は海抜高を示す。

9. 科学分析は文化財調査コンサルタント㈱に委託した。

10. 図版中の柱穴はPitの省略記号Pで表す。

11. 図版の構成上、遺構・遺物の図版掲載順序と本文の掲載順序は必ずしも対応しない。

12. 観察表中の径の記載は蓋の場合、以下の通りとする。
　口径→底径枠へ
　つまみ径及び天井部径→口径枠へ
それぞれ示す。

13. 報告書の文責及び調査内容に関する責は全て梅木に帰する。

14. 報告書掲載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

本 文 目 次

第１章　調査の経緯……1

第２章　カミヤ遺跡・羽代前田遺跡の位置と歴史的環境……1

第３章　カミヤ遺跡の調査……2

第１節　カミヤ遺跡の立地……2

第２節　調査区について……2

第３節　調査の結果１(遺構)……4

第４節　調査の結果２(遺物)……12

第５節　カミヤ遺跡総括……16

第４章　羽代前田遺跡の調査……17

第１節　羽代前田遺跡の立地……17

第２節　調査区について……17

第３節　調査の結果１(遺構)……18

第４節　調査の結果２(遺物)……19

第５節　羽代前田遺跡総括……21

第５章　カミヤ遺跡の科学分析……22

参考文献　……173

カミヤ遺跡　表目次

第 1 表　建物 01 計測表
第 2 表　建物 02 計測表
第 3 表　建物 03 計測表
第 4 表　建物 04 計測表
第 5 表　建物 05 計測表
第 6 表　建物 06 計測表
第 7 表　建物 07 計測表
第 8 表　建物 08 計測表
第 9 表　建物 09 計測表
第 10 表　建物 10 計測表
第 11 表　建物 11 計測表
第 12 表　建物 12 計測表
第 13 表　建物 13 計測表
第 14 表　建物 14 計測表
第 15 表　建物 15 計測表
第 16 表　建物 16 計測表
第 17 表　建物 17 計測表
第 18 表　建物 18 計測表
第 19 表　柱列 01 計測表
第 20 表　柱列 02 計測表
第 21 表　性格不明遺構計測表
第 22 表　土坑計測表
第 23 表　溝計測表
第 24 表　谷計測表
第 25 表　段状遺構計測表
第 26 表　焼土範囲計測表
第 27 表　流路跡計測表
第 28 表　集石遺構計測表
第 29 表　加工段計測表
第 30 表　Ⅰ－C 区ピット計測表
第 31 表　カミヤ遺跡出土遺物分類表
第 32 表　各時代における器種一覧表
第 33 表　遺物観察表
第 34 表　土錘観察表
第 35 表　鞴羽口観察表
第 36 表　炉構造材・鉄滓観察表
第 37 表　石器観察表
第 38 表　骨製品観察表
第 39 表　鉄器観察表
第 40 表　木製品観察表
第 41 表　江津市南部の遺跡一覧表

カミヤ遺跡　グラフ目次

グラフ 1　調査区別遺物集計グラフ
グラフ 2　調査区別遺物構成比（百分率）

カミヤ遺跡　挿図目次

第 1 図　江津市南部の遺跡　S ＝ 1/40,000
第 2 図　カミヤ遺跡周辺の状況　S ＝ 1/10,000
第 3 図　カミヤ遺跡調査区配置図　S ＝ 1/2,000
Ⅰ区（A ～ C）　Ⅱ区（D ～ G）
第 4 図　本調査及び確認調査範囲指定図　S ＝ 1/600
第 5 図　調査区全体図　S ＝ 1/400
第 6 図　Ⅰ区調査区土層図　S ＝ 1/80
第 7 図　Ⅱ区調査区土層図　S ＝ 1/80
第 8 図　Ⅰ－C 区調査区土層図　S ＝ 1/60
第 9 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺構配置図 1　S ＝ 1/100
第 10 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺構配置図 2　S ＝ 1/100
第 11 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺構配置図 3　S ＝ 1/100
第 12 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺物出土状況 a　S ＝ 1/60
第 13 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺物出土状況 b　S ＝ 1/60
（●木製品■製鉄関連）
第 14 図　Ⅰ－A 区　谷 1　遺物出土状況 c　S ＝ 1/60
（●木製品■製鉄関連）
網かけは集石遺構 01
第 15 図　Ⅰ－A 区　集石遺構 01　実測図　S ＝ 1/20
杭列 01・02　実測図　S ＝ 1/40
第 16 図　Ⅰ－A 区　加工段 01　実測図　S ＝ 1/80
第 17 図　Ⅰ－B 区・Ⅱ－D 区西側　遺構配置図　S ＝ 1/200
第 18 図　Ⅰ－B 区　土層図　S ＝ 1/80
第 19 図　Ⅰ－B 区　加工段 02・03　実測図　S ＝ 1/60
第 20 図　Ⅰ－B 区　性格不明遺構 01・02　実測図　S ＝ 1/30
第 21 図　Ⅰ－B 区　遺構配置図　S ＝ 1/100

第22図	Ⅰ－B区　建物01　実測図	S＝1/80
第23図	Ⅱ－D区西側　建物02・03　実測図	S＝1/80
第24図	Ⅰ－B区　建物04・05　実測図	S＝1/80
第25図	Ⅰ－B区　建物06・07　実測図	S＝1/80
第26図	Ⅰ－B区　建物08・09　実測図	S＝1/80
第27図	Ⅰ－B区　建物10・11　実測図	S＝1/80
第28図	Ⅱ－E区西側・F区西側・G区 遺構配置図	S＝1/200
第29図	Ⅱ－F区西側　土坑01～03　実測図	S＝1/20
第30図	Ⅱ－E区西側　柱列01・建物12・建物13 実測図	S＝1/80
第31図	Ⅱ－F区西側・G区　建物14・建物15 実測図	S＝1/80
第32図	Ⅱ－D区・E区・F区　遺構配置図	S＝1/200
第33図	Ⅱ－D区・E区・F区　調査区土層図	S＝1/80
第34図	Ⅱ－F区　トレンチ06 集水遺構及び遺物出土状況	S＝1/30
第35図	Ⅱ－D区　集石遺構02　実測図 土坑04　実測図	S＝1/20 S＝1/30
第36図	Ⅱ－D区　溝06～10　実測図	S＝1/120
第37図	Ⅱ区　性格不明遺構03　土坑05・06 溝11実測図	S＝1/120（土坑06はS=1/40）
第38図	Ⅱ－D区　建物配置図	S＝1/100
第39図	Ⅱ－D区　建物16　実測図 Ⅱ－F区　柱列02　実測図	S＝1/80 S＝1/80
第40図	Ⅱ－D区　建物17・建物18　実測図	S＝1/80
第41図	カミヤ遺跡出土遺物実測図1	S＝1/3
第42図	カミヤ遺跡出土遺物実測図2	S＝1/3
第43図	カミヤ遺跡出土遺物実測図3	S＝1/3
第44図	カミヤ遺跡出土遺物実測図4	S＝1/3
第45図	カミヤ遺跡出土遺物実測図5	S＝1/3
第46図	カミヤ遺跡出土遺物実測図6	S＝1/3
第47図	カミヤ遺跡出土遺物実測図7	S＝1/6（172・173はS＝1/3）
第48図	カミヤ遺跡出土遺物実測図8	S＝1/3
第49図	カミヤ遺跡出土遺物実測図9	S＝1/1
第50図	カミヤ遺跡出土遺物実測図10	S＝1/1（S24はS＝1/2）
第51図	カミヤ遺跡出土遺物実測図11	S＝1/2（S26・S28はS＝1/3）
第52図	カミヤ遺跡出土遺物実測図12	S＝1/2（S40はS＝1/4 S42・B1はS＝1/1 F1はS=1/3）
第53図	カミヤ遺跡出土遺物実測図13	S＝1/3
第54図	カミヤ遺跡出土遺物実測図14	S＝1/3（W30はS＝1/6） S＝1/3
第55図	カミヤ遺跡出土遺物実測図15	S＝1/3（W62
第56図	カミヤ遺跡出土遺物実測図16	はS＝1/6）
第57図	カミヤ遺跡出土遺物実測図17	S＝1/3（W74はS＝1/6） S＝1/3（W94
第58図	カミヤ遺跡出土遺物実測図18	はS＝1/6） S＝1/3
第59図	カミヤ遺跡出土遺物実測図19	S＝1/3
第60図	カミヤ遺跡出土遺物実測図20	S＝1/3
第61図	カミヤ遺跡出土遺物実測図21	S＝1/3
第62図	カミヤ遺跡出土遺物実測図22	S＝1/3
第63図	カミヤ遺跡出土遺物実測図23	S＝1/6（W176・W178はS＝1/3）
第64図	カミヤ遺跡出土遺物実測図24	S＝1/3
第65図	カミヤ遺跡出土遺物実測図25	S＝1/3（W194・W195はS＝1/6）
第66図	カミヤ遺跡出土遺物実測図26	S＝1/3（W202
第67図	カミヤ遺跡出土遺物実測図27	はS＝1/12） S＝1/3（W204・
第68図	カミヤ遺跡出土遺物実測図28	W207・W211は S＝1/6） S＝1/3（W214・
第69図	カミヤ遺跡出土遺物実測図29	W217は S＝1/6） S＝1/3（W231
第70図	カミヤ遺跡出土遺物実測図30	はS＝1/6） S＝1/6
第71図	カミヤ遺跡出土遺物実測図31	S＝1/3
第72図	カミヤ遺跡出土遺物実測図32	S＝1/3（W256・
第73図	カミヤ遺跡出土遺物実測図33	W259～262は S＝1/6） S＝1/3（W271・
第74図	カミヤ遺跡出土遺物実測図34	W272は S＝1/6） S＝1/6（W281
第75図	カミヤ遺跡出土遺物実測図35	はS＝1/12） S＝1/6（W288
第76図	カミヤ遺跡出土遺物実測図36	はS＝1/12）

カミヤ遺跡　写真目次

写真図版表紙		カミヤ遺跡調査区遠景　W → E
写真図版 1	上	カミヤ遺跡調査区遠景　S → N
	下	カミヤ遺跡調査区遠景　SE → NW
写真図版 2	上	カミヤ遺跡調査区遠景　W → E
	下	カミヤ遺跡Ⅰ－Ｂ区　調査区遠景　S → N
写真図版 3		カミヤ遺跡調査区遠景　N → S
写真図版 4	上	カミヤ遺跡Ⅱ区　調査区遠景　S → N
	下	カミヤ遺跡Ⅱ区　調査区からの遠景　NE → SW
写真図版 5	上	カミヤ遺跡Ⅱ区　調査区遠景　S → N
	下	Ⅰ－Ａ区　完掘状況　NE → SW
写真図版 6	左上	Ⅰ－Ａ区　Ａ－Ａ’　土層堆積状況
	右上	Ⅰ－Ａ区　Ａ－Ａ’　土層堆積状況
	左中	Ⅰ－Ａ区　Ａ－Ａ’　土層堆積状況
	右中上	Ⅰ－Ａ区　谷 1 遺物出土状況
	右中下	Ⅰ－Ａ区　谷 1 遺物出土状況
	左下	Ⅰ－Ａ区　谷 1 遺物出土状況
	右下	Ⅰ－Ａ区　谷 1 遺物出土状況
写真図版 7	上	Ⅰ－Ａ区　集石遺構 01 検出状況　SW → NE
	下	Ⅰ－Ａ区　谷 1 全景　SW → NE
写真図版 8	上	Ⅰ－Ａ区　谷 1 全景　W → E
	下	Ⅰ－Ａ区　遺構完堀状況遠景　S → N
写真図版 9	上	Ⅰ－Ｂ区　遺構完堀状況　SE → NW
	下	Ⅰ－Ｂ区　建物 01 復元状況　EN → WS
写真図版 10	上	Ⅰ－Ｂ区　遺構完堀状況　S → N
	下	Ⅰ－Ｂ区　加工段 02・03 完堀状況　SE → NW
写真図版 11	左上	Ⅰ－Ｂ区　加工段 02・03　P2 半裁状況
	右上	Ⅰ－Ｂ区　加工段 02・03　P2 完堀状況
	左中上	Ⅰ－Ｂ区　P188 完堀状況
	右中上	Ⅰ－Ｂ区　P175 検出状況
	左中下	Ⅰ－Ｂ区　P187 半裁状況
	右中下	Ⅰ－Ｂ区　P190 半裁状況
	左下	Ⅰ－Ｂ区　SK16 完堀状況
	右下	Ⅰ－Ｂ区　P288 完堀状況
写真図版 12	左上	Ⅰ－Ｂ区　P280 検出状況
	左中上	Ⅰ－Ｂ区　P280 完堀状況
	右上	Ⅰ－Ｂ区　P290 検出状況
	右中上	Ⅰ－Ｂ区　P290 完堀状況
	左中下	Ⅰ－Ｂ区　P291 検出状況
	左下	Ⅰ－Ｂ区　P291 完堀状況
	右中下	Ⅰ－Ｂ区　P295 検出状況
	右下	Ⅰ－Ｂ区　P295 完堀状況
写真図版 13	左上	Ⅰ－Ｂ区　P309 検出状況
	右上	Ⅰ－Ｂ区　P309 完堀状況
	中	Ⅰ－Ｂ区　調査区完堀遠景　E → W
	左下	Ⅰ－Ｂ区　P281 検出状況
	右下	Ⅰ－Ｂ区　P281 完堀状況
写真図版 14	上	Ⅱ区　調査区完堀状況遠景　EN → WS
	下	Ⅱ区　調査区完堀状況遠景　NE → SW
写真図版 15	上	Ⅱ－Ｄ区　完堀状況遠景　NW → SE
	下	Ⅱ－Ｄ・Ｅ・Ｆ区　完堀状況遠景　NW → SE
写真図版 16	上	Ⅱ－Ｄ区　遠景　WS → EN
	下	Ⅱ－Ｄ区　完堀状況遠景　NE → SW
写真図版 17	左上	Ⅱ－Ｄ区　溝 10 完堀状況　WS → EN
	右上	Ⅱ－Ｄ区　集石遺構 02 土坑完堀状況
	右中上	Ⅱ－Ｄ区　集石遺構 02 土坑半裁状況
	左中下	Ⅱ－Ｄ区　集石遺構 02 内遺物出土状況
	右中下	Ⅱ－Ｄ区　集石遺構 02 検出状況
	左下	Ⅱ－Ｄ区　集石遺構 02 検出状況
	右下	Ⅱ－Ｄ区　P145 完堀状況
写真図版 18	左上	Ⅱ－Ｆ区　SK13 検出状況
	右上	Ⅱ－Ｆ区　P54 検出状況
	左中上	Ⅱ－Ｆ区　P32 検出状況
	右中上	Ⅱ－Ｆ区　P34 検出状況
	左中下	Ⅱ－Ｆ区　P61 検出状況
	右中下	Ⅱ－Ｆ区　SK16 検出状況
	左下	Ⅱ－Ｆ区　土坑 06 板木の蓋検出状況
	右下	Ⅱ－Ｆ区　土坑 06 半裁状況
写真図版 19	上	Ⅱ－Ｅ区　遺構検出状況　SE → NW
	下	Ⅱ－Ｅ区　土坑 05 完堀状況　SW → NE
写真図版 20	上	Ⅱ－Ｅ区　性格不明遺構 03 検出状況　SW → NE
	下	Ⅱ－Ｅ区　性格不明遺構 03 調査状況
写真図版 21	上	Ⅱ－Ｅ区　性格不明遺構 03 調査状況　SW → NE
	下	Ⅱ－Ｆ区　撹乱全景　SE → NW
写真図版 22	上	Ⅱ－Ｆ区　撹乱全景　NW → SE
	下	Ⅱ－Ｆ区　遺構検出状況　ES → WN
写真図版 23	左上	Ⅱ－Ｆ区　溝 11 検出状況　W → E
	右上	Ⅱ－Ｆ区　溝 11 完堀状況　W → E
	左下	Ⅱ－Ｆ区　溝 04 検出状況　E → W
	右中下	Ⅱ－Ｆ区　P9 検出状況
	右下	Ⅱ－Ｆ区　P9 完堀状況
写真図版 24	上	Ⅱ－Ｆ区　土坑 01 半裁状況
	左中	Ⅱ－Ｆ区　土坑 01 検出状況
	右中	Ⅱ－Ｆ区　土坑 01 遺物出土状況
	左下	Ⅱ－Ｆ区　土坑 02 検出状況
	右下	Ⅱ－Ｆ区　土坑 02 半裁状況
写真図版 25	上	Ⅱ－Ｆ区　土坑 03 調査状況
	左中	Ⅱ－Ｆ区　土坑 03 検出状況
	右中	Ⅱ－Ｆ区　土坑 03 調査状況

	左下	Ⅱ－Ｆ区　P5 検出状況
	右下	Ⅱ－Ｆ区　P5 半裁状況
写真図版 26	上	Ⅱ－Ｆ区　集水遺構及び遺物出土状況　SE → NW
	下	Ⅱ－Ｆ区　集水遺構完堀状況　SE → NW
写真図版 27	上	Ⅱ－Ｆ区　集水遺構遠景　SE → NW
	下	Ⅱ－Ｇ区　遺構検出状況　E → W
写真図版 28		カミヤ遺跡出土遺物 1
写真図版 29		カミヤ遺跡出土遺物 2
写真図版 30		カミヤ遺跡出土遺物 3
写真図版 31		カミヤ遺跡出土遺物 4
写真図版 32		カミヤ遺跡出土遺物 5
写真図版 33		カミヤ遺跡出土遺物 6
写真図版 34		カミヤ遺跡出土遺物 7
写真図版 35		カミヤ遺跡出土遺物 8
写真図版 36		カミヤ遺跡出土遺物 9
写真図版 37		カミヤ遺跡出土遺物 10
写真図版 38		カミヤ遺跡出土遺物 11
写真図版 39		カミヤ遺跡出土遺物 12
写真図版 40		カミヤ遺跡出土遺物 13

羽代前田遺跡　表目次

第 1 表　谷計測表
第 2 表　焼土面計測表
第 3 表　炭化面計測表
第 4 表　土器溜計測表
第 5 表　溝計測表
第 6 表　ピット計測表
第 7 表　遺物観察表
第 8 表　木製品観察表
第 9 表　羽代前田遺跡出土遺物分類表
第 10 表　製鉄関連遺物観察表
第 11 表　各時代における器種一覧表
第 12 表　石器観察表
第 13 表　骨製品観察表
第 14 表　江津市中央部の遺跡一覧表

羽代前田遺跡　グラフ目次

グラフ 1　調査区別遺物集計グラフ
グラフ 2　調査区別遺物構成比（百分率）

羽代前田遺跡　挿図目次

第 1 図	江津市中央部の遺跡	S ＝ 1/20,000
第 2 図	羽代前田遺跡周辺の状況	S ＝ 1/5,000
第 3 図	羽代前田遺跡調査区・トレンチ配置図	S ＝ 1/2,000
第 4 図	Ⅱ区調査区土層図	S ＝ 1/40
第 5 図	調査区全体図	S ＝ 1/200
第 6 図	トレンチ土層図 1	S ＝ 1/60
第 7 図	トレンチ土層図 2	S ＝ 1/60
第 8 図	Ⅰ区調査区土層図 1	S ＝ 1/60
第 9 図	Ⅰ区調査区土層図 2	S ＝ 1/60
第 10 図	Ⅰ区調査区土層図 3	S ＝ 1/60
第 11 図	Ⅰ－Ａ区　遺構配置図	S ＝ 1/80
第 12 図	Ⅰ－Ａ区　土器溜 01　実測図（上）	S ＝ 1/20
	焼土面　実測図（下）	S ＝ 1/20
第 13 図	Ⅰ－Ａ区　土器溜 02　実測図	S ＝ 1/20
第 14 図	Ⅰ－Ｂ区　溝 01　実測図（上）	S ＝ 1/40
	Ⅰ－Ｃ区　土器溜　実測図（下）	S ＝ 1/80
第 15 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 1	S ＝ 1/3
第 16 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 2	S ＝ 1/3
第 17 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 3	S ＝ 1/3
第 18 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 1	S ＝ 1/3
第 19 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 2	S ＝ 1/3
第 20 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 3	S ＝ 1/3
第 21 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 4	S ＝ 1/3
第 22 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 5	S ＝ 1/3
第 23 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 6	S ＝ 1/3
第 24 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 7	S ＝ 1/3
第 25 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 8	S ＝ 1/3
第 26 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 9	S ＝ 1/3（191・192 は S ＝ 1/6）
第 27 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 10	S ＝ 1/3
第 28 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 11	S ＝ 1/3（S1・S2 は S ＝ 1/1）

羽代前田遺跡　写真目次

写真図版 1	上	羽代前田遺跡調査区遠景　EN → WS
	下	羽代前田遺跡調査区遠景　E → W
写真図版 2	上	羽代前田遺跡調査区遠景　ES → WN
	下	羽代前田遺跡調査区遠景　N → S
写真図版 3	左上	トレンチ 3　土層堆積状況
	左中上	トレンチ 5　土層堆積状況
	右上	トレンチ 24　土層堆積状況
	左中下	トレンチ 21　土層堆積状況
	左下	トレンチ 23　土層堆積状況
	右中下	Ⅱ区トレンチ　土層堆積状況
	右下	Ⅱ区トレンチ　遺物出土状況
写真図版 4	上	Ⅰ－A 区　遠景　SE → NW
	下	Ⅰ－A 区　遠景　WN → ES
写真図版 5	左上	Ⅰ－A 区　焼土面検出状況　SE → NW
	右上	Ⅰ－A 区　焼土面検出状況　SW → NE
	左中	Ⅰ－A 区　焼土面炭化物検出状況　SW → NE
	右中	Ⅰ－A 区　焼土面完堀状況　SW → NE
	左下	Ⅰ－A 区　焼土面半裁状況
	右下	Ⅰ－A 区　遺物出土状況
写真図版 6	左上	Ⅰ－A 区　土器溜 01 検出状況
	右上	Ⅰ－A 区　土器溜 02 検出状況
	中	Ⅰ－A 区　土器溜 02 検出状況
	左下	Ⅰ－A 区　土器溜 02 出土状況
	右下	Ⅰ－A 区　土器溜 02 検出状況
写真図版 7	上	Ⅰ－A 区　完堀状況遠景　NE → SW
	下	Ⅰ－A 区　完堀状況全景　NE → SW
写真図版 8	上	Ⅰ－A 区　完堀状況全景　ES → WN
	下	Ⅰ－A 区　完堀状況遠景　EN → WS
写真図版 9	上	Ⅰ－B 区　遠景　ES → WN
	左中	Ⅰ－B 区北側　土層堆積状況　SE → NW
	右中	Ⅰ－B 区北側　土層堆積状況　SE → NW
	左下	Ⅰ－B 区　溝 01　検出状況　EN → WS
	右下	Ⅰ－B 区　溝 01　完堀状況　SW → NE
写真図版 10	上	Ⅰ－B 区　完堀状況遠景　E → W
	下	Ⅰ－B 区・C 区　完堀状況遠景　N → S
写真図版 11	左上	Ⅰ－C 区　G－G'　土層堆積状況　EN → WS
	右上	Ⅰ－C 区　G－G'　土層堆積状況　SE → NW
	右中	Ⅰ－C 区　遺物出土状況　EN → WS
	左中	Ⅰ－C 区　遺物出土状況　NW → SE
	左下	Ⅰ－C 区　土器溜検出状況　N → S
	右下	Ⅰ－C 区　遺物出土状況　NE → SW
写真図版 12	上	Ⅰ－C 区　完堀状況遠景　EN → WS
	左中	Ⅰ－C 区　Pit1 検出状況
	左下	Ⅰ－C 区　Pit1 半裁状況
	右中	Ⅰ－C 区　Pit2 検出状況
	右下	Ⅰ－C 区　Pit2 半裁状況
写真図版 13		羽代前田遺跡出土遺物 1
写真図版 14		羽代前田遺跡出土遺物 2
写真図版 15		羽代前田遺跡出土遺物 3
写真図版 16		羽代前田遺跡出土遺物 4
写真図版 17		羽代前田遺跡出土遺物 5
写真図版 18		羽代前田遺跡出土遺物 6
写真図版 19		羽代前田遺跡出土遺物 7
写真図版 20		羽代前田遺跡出土遺物 8
写真図版 21		羽代前田遺跡出土遺物 9
写真図版 22		羽代前田遺跡出土遺物 10
写真図版 23		羽代前田遺跡出土遺物 11
写真図版 24		羽代前田遺跡出土遺物 12
写真図版 25		羽代前田遺跡出土遺物 13

第１章　調査の経緯

中山間総合整備事業に先立ち、島根県浜田農林振興センター（以下浜田農振）は平成14年、江津市教育委員会（以下市教委）へ市内の事業対象地区16箇所に対し埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。これを受けて市教委は平成14年3月から平成15年12月27日まで随時分布調査及び試掘調査を行いながら該当する遺跡について浜田農振と文化財保護の調整に入った。平成16年4月2日浜田農振と江津市は協定を締結し、平成16年4月22日付契約を交わしカミヤ遺跡の調査に入った。翌平成17年度も引き続きカミヤ遺跡の調査を行い、平成17年12月29日まで現場調査を行った。調査の途中で事業箇所の追加が発生したため、分布調査及び試掘調査を行った結果、羽代前田遺跡が取り扱い協議の対象となり、平成18年度に羽代前田遺跡の調査を行うこととなった。当初1月から3月をカミヤ遺跡の整理期間に充てていたが、浜田農振より計画変更の依頼があり、協議の結果平成18年1月6日付け契約を結び、羽代前田遺跡の調査を開始した。平成18年度は引き続き前田遺跡の調査を行っていたが、平成18年9月4日島根県浜田県土整備事務所（以下浜田県土：旧浜田農振）から、事業計画変更による遺跡の全面盛土を希望する協議を受けた。盛土保存となる調査区に対する調査費用については、国庫補助事業（受益者負担分）の対称から除外されるため、江津市が受益者負担分を負担することで平成18年9月4日付け変更契約を行い、調査中の遺跡は盛土保存を前提とする調査に切り替え、水路以外の調査区は盛土保存となった。これを受けて平成19年1月10日付で国庫補助事業の計画変更申請を行い、続いて平成19年2月16日に島根県補助事業の計画変更申請を行い、平成19年3月26日まで調査を行った。

平成19年度はカミヤ遺跡及び羽代前田遺跡の整理作業及び報告書作成を行った。

調査中にカミヤ遺跡で２回、羽代前田遺跡で１回の現地説明会を開催し、その他カミヤ遺跡では国家公務員新任研修受け容れや、美土里ネット協賛で地元小学校の発掘体験などを行い、文化財保護思想の普及啓発に努めた。また、広く市民へ文化財保護思想の普及啓発を行うため、調査結果は随時（年間20件程度）江津市出前講座により活用している。

第２章　カミヤ遺跡・羽代前田遺跡の位置と歴史的環境

江津市は、日本海側の沿岸部に位置し、中国山地より流れ下る江の川により中央で分断されている。市域は準平原の前地斜面で形成されているため、高い山はあまり存在せず、比較的高さの整った低い山並みが連なっている。日本海の沿岸部では、海浜部から丘陵までクロスナ層を挟んだ新・旧砂丘に覆われているが、山間部は河川により形成された細く入り組んだ谷と急峻な山並みが連続し、狭い盆地を繋いでいる。

【カミヤ遺跡】（カミヤ遺跡：第１図・第２図）

カミヤ遺跡は加志岐川により形成された狭隘な山谷の奥部で確認された遺跡で、周辺には他の遺跡がほとんど存在せず孤立した集落を形成しているのが特徴である。近世には遺跡に隣接して近世浜田三次往還が通っており、浜田－有福－跡市－川戸の流通経路となっていた。

【羽代前田遺跡】（羽代前田遺跡：第１図・第２図）

羽代前田遺跡は都野津平野の周辺地域に当たる遺跡で、錯綜する谷の奥部に展開する擂鉢状のやや急斜面に立地し、周囲に古墳時代の遺跡が散在する。谷の下方では棚橋押込遺跡ほか、古墳時代の須恵器窯跡が確認されており、谷伝いに久本奥窯跡まで行けるため、この辺りの谷が窯業生産の場所として活用されていたことが考えられる。

第３章　カミヤ遺跡の調査

第１節　カミヤ遺跡の立地（第２図・第３図）

カミヤ遺跡は、丘陵中腹の瘠せ尾根と両側の谷を埋めた緩やかな斜面に展開しており、眼下に広がる小規模な盆地との比高差はおよそ 10m を測るが、境界が崖地となっている。その為、カミヤ遺跡は盆地と隔離された高所に立地しているような印象を受ける。

第２節　調査区について

1. 調査区の設定（第３図～第５図）

調査区を大きくⅠ区（平成 16 年度調査）・Ⅱ区（平成 17 年度調査）と２分割し、それぞれ調査前の地形に合わせてⅠ－Ａ～Ｃ区、Ⅱ－Ｄ～Ｇ区とした。調査前の土地は全て近世以降に水田として活用されており、調査中はそれぞれの小区分をさらに水田一枚分の区画に沿って細分割していたが、ここでの報告は割愛する。

Ⅱ－Ｇ区は盛土計画部分であったが、北側に隣接するⅡ－Ｆ区の浅い層で遺構が確認されたため、確認調査を行った。また、Ⅱ－Ｄ・Ｅ・Ｆ区は凡そ半分が盛土計画となっているが、耕作土を一度除去するため、盛土計画箇所は耕作土以下について確認調査を行い、検出した遺構のプランを記録した。

2. 調査区の概要

Ⅰ－Ａ区（第６図・第９図）

カミヤ遺跡の西端にある谷地形に当たり、尾根に沿って北東から南西に軸を取り南西へ下っている。谷は調査区の外まで延びており、加志岐川に連結しているようだ。この谷の下層には奈良時代から中世までの遺物が堆積しており、杭列や木製品を廃棄した様子が確認出来た。また、中世の製鉄関連遺物が多量に含まれていることから、付近で製鉄を行っていた事が想定される。谷は中世までにある程度土砂の堆積を繰り返していたが、近世までに谷は完全に埋まり、調査前は水田として活用されていた。調査区の南半分は盛土計画の為、遺構の状況を確認する為に試掘調査を行った。

Ⅰ－B区（第6図・第17図）

谷から東へ上る丘陵尾根部分を指す。尾根筋の上方は赤土と礫、岩盤からなる土質で傾斜度が強く、近世の棚田によりかなりの部分で削平を受けていた。削平を免れた場所では簡単な加工段や径20～40cmほどの柱穴などがまばらに存在する。尾根は下へ向かうにつれ緩斜面となっており、中腹では建物跡が1棟確認出来た。尾根筋下方の土質は、岩盤をベースとした粘土質の土層が堆積しているため水捌けが悪いが、建物跡はこの辺りに集中している。下方の柱穴には径50～80cmのやや大型のものも含まれてくる。

Ⅰ－C区（第7図・第8図）

Ⅰ－B区から東へ回り込んだ谷地形の頂部にあたる。試掘調査の後で事業対象から外れたが、調査時に柱穴が確認出来た。現在は盛土が施されて平坦な水田になっているが、Ⅰ－C区の旧地形は緩やかな緩斜面として完全に残っていたことが確認出来た。

Ⅱ－D区（第32図・第33図）

Ⅰ－B区の尾根を東に回り込んだ谷地形からなり、Ⅰ－C区からの緩斜面が続いていたようだ。Ⅰ－D区の北側半分は近世の削平を受けており、近世以前の遺構は確認出来なかったが、南側半分と北東側は盛土が施されており、旧地形が残っていた。削平による平坦面のうち、岩盤質の西側半分では少数の柱穴が確認されたに過ぎないが、粘土質の地盤を持つ東側半分では多数の柱穴が柱根と共に確認出き、削平当初は住居跡ととして活用されていた様子が窺える。Ⅱ－D区西側は一段落ち込んでおり、Ⅰ－B区下方と隣接している。粘土質の地盤に多数の柱穴が穿たれている。

Ⅱ－E区（第28図・第32図・第33図）

Ⅱ－D区南側半分からの緩斜面が続いており、遺構は少なく、明確な建物は確認出来なかったが遺物は奈良時代から平安時代のものが一定量確認出来た。西側は一段下がっており、Ⅰ－B区下方、Ⅱ－D区西側と隣接している。盛土保存の対象地である。遺構面精査の結果、粘土質の地盤に柱穴が確認出来た。

Ⅱ－F区（第28図・第32図・第33図）

Ⅱ－E区の南側に隣接し、西側、中央部、東側で異なる特長を持つ。西側は、Ⅱ－E区西側から更に一段下がった平坦地で、盛土保存の為の確認調査を行っている。大まかに2条の溝により区画された範囲に沿って、牛の蹄跡による撹乱が無数に確認できる。その他土坑墓と、数棟の建物跡が確認出来た。中央部は擂鉢状に窪み、集水遺構には木製品が大量に投棄されていた。東側は近世の作田により削平を受けた平坦地が広がる岩盤質の地盤で、西側からの溝の続きがかろうじて確認出来る程度であった。

Ⅱ－G区（第28図）

Ⅱ－F区西側の南に隣接する平坦面で、盛土保存の為確認調査を行った。大型の柱穴を伴う建物跡や溝が確認出来た。

第３節　調査の結果１（遺構）

縄文時代の石器が多く確認されたが、明確な遺構は確認出来なかった。また、弥生時代から古墳時代を通して遺物はほとんど確認されておらず、当該時期の遺構も確認されなかった。カミヤ遺跡では、奈良時代から近世までの遺物が多く出土しており、遺構もこの時期のものが大半を占めている。Ｉ－Ａ区の谷は厳密に言うと自然地形だが、一部人為的な設備を伴っているので遺構として報告する。

1. Ｉ－Ａ区

谷（第５図・第９図～第14図）

谷は調査区北西端では浅くなっており、若干南東寄りにカーブした後で深度を増しながら南西へ下っていく。土砂の堆積状況は、谷の底辺では岩盤上に灰色系の粘質土と青灰色系砂礫層が互層状に堆積し、その上方では茶色系の土砂が短期間で大量に堆積しており、間欠的な流水を繰り返した後に土石流や人工的な造成が行われた可能性が考えられる。

谷の埋土から縄文時代の石器が50点程度確認されたが、土器は１点しか確認出来なかった。石器の石材は黒曜石が多く、次にサヌカイトが多い。石鏃や小型刃物類、小型石器の未製品が多く、核が確認されたので、谷周辺で石器を製作し、主に狩猟を中心とした季節的な活動の場として活用されていたと推定できる。その他各種石斧や石錘などが出土していることから、ある程度の採取・漁撈活動も行われていたようだ。その後、遺物は奈良時代後期から出現増加し、近世までほぼ連続して遺物が確認できる。奈良時代から中世までの遺物は、主に互層状堆積中からの出土だが、流水の為、層序が乱れており、層位ごとの遺物取上げは不可能だった。その他、互層状堆積での出土遺物には製鉄関連遺物と木製品がある。製鉄関連遺物の時期決定を行った結果、鎌倉時代から室町時代前半を示す結果が出た（第５章参照）。これは、互層状堆積中の陶磁器と比べても整合が取れており、層の時期決定根拠とする。互層状堆積中の木製品溜りの時期についても、同様としたい。

互層状堆積は中世を以って一時期固定される。その後は、上部で茶色系土砂の堆積が始まる。茶色系土砂中の遺物には、中世から近世までの時期幅が認められる。互層状堆積の上で谷底を堰き止めるような配置の集石遺構01が確認出来た。

集石中に鉄滓を含んでいたので時期は中世以降と思われる。集石遺構01より谷下方で杭列が検出出来た（杭列01・02ほか）。杭は谷の両肩部で谷筋に並行して互層状堆積の上から打ち込まれており、両肩部の杭列間の幅は約4mを測る。集石遺構01と杭列は同じ層位に対して働きかけており、関連した遺構の可能性が考えられる。

木製品溜り（第10図～第14図）

木製品は谷の互層状堆積中で万遍無く出土していたが、大きく３箇所で比較的まとまって検出出来た。まず調査区西端上方で南北軸を取って下っていた谷が南西に転換する屈曲点で、右肩に開いた窪みに木製品が漂着したような円形に纏まった堆積状況を示している（第12図）。主な組成は用途不明の棒状・板状製品及び未製品、杭などで、廃棄されたような状況を示す。

次に谷が下り、谷幅が極端に狭くなる辺りで、纏まった堆積が見られる（第13図）。ここの主な

組成も、棒状・板状木製品や杭であるが、組箱や曲げ物、漆器椀などが目に付く。杭材などの堆積状況を見ると、谷筋に対し直交しているものが多く、滞水中での堆積と考えられる。ここからは鹿の角も出土しているが、自然のものと思われる。漆器椀や匙状木製品はここより少し上流で纏まって出土している。

谷が開放される辺りで杭材がまばらに出土している（第 14 図）。杭材は谷の傾斜に対し並行して堆積しているため、流水の中で堆積したようだ。

流路跡（第 11 図）

互層状堆積層が安定した後に、自然流路が出来ていた。流路の埋土は黄色系の真砂土で、地山土と思われるが、焼土と炭を若干含んでいた。互層状堆積層の上部に堆積している茶色系の土砂が堆積する前に埋没しているので、遺構の時期は中世以降近世以前となるが、出土遺物には龍泉窯系碗 D 類と思われる器種があるため、中世後半から近世までの遺構としておく。

集石遺構 01（第 14 図・第 15 図）

集石の配置方法は、谷を横断する軸に対し、まず浅い土坑を掘り込み、次に大型の石を土坑中に一列に配置し、大型の石で裏込めを施している。谷上方に対し中型の石を充填し、谷下方に対し小型の石を充填している。集石の高さは低く、上部に茶色系粘質土の盛土を行っていた可能性も考えられるが、調査では確認できなかった。集石に隣接し、丸木杭 1 本と添え杭 1 本が打ち込まれていたが、用途は不明である。集石の組み方に、谷上方からの力を受け止める意思が認められ、土砂の固定を行った可能性が考えられるが推察の域を出ない。

杭列 01・02（第 14 図・第 15 図）

谷の両肩部に打ち込まれている杭列の内、左岸は杭の流出や倒壊が多く比較的残りの良い右岸の杭列を図化した。使用されている杭は板状の大型品と中型の丸木杭で構成されており、50 ～ 60cm 間隔で整然と打ち込まれている。土砂の固定がその目的と考えられるが、横板など土留めの為の施設が確認出来なかったので、土嚢を使用したか、若しくは土砂の固定以外の用途として使用した可能性がある。

焼土範囲（第 10 図）

谷の北西端の耕作土直下で、焼土の範囲を検出した。出土遺物は、五徳 1、陶器 18、染付含め磁器 9、石州瓦 2 があり、時期は幕末から明治時代と思われる。一緒に吹き硝子小容器 1 点が出土している。硝子は無色透明なため、明治以降の製品と思われ、他の遺物と時期にずれが生じている。おそらく無用となった古い陶磁器を後世に一括廃棄したものと思われる。

加工段 01（第 16 図）

丘陵から谷へ下る斜面の中腹を削平した加工段が検出された。堀方は等高線に並行して溝を掘り込み、側面は緩やかに外へ開いている。検出された床面は微傾斜を取っており、そこから不規則で小規模なピットが検出された。段の性格は不明だが、全体的に簡素な造りをしており、一時的な施

設を伺わせる。時期は不明である。

2. Ⅰ－B区（第17図・第18図・第21図）

建物02・03は共にⅡ－D区西側にあたるが、Ⅰ－B区の建物と同一面上の遺構の為、ここで報告する。

加工段02・03（第17図・第19図）

後述する建物01付近で検出された加工段であるが、加工段03の肩部で連続する浅いピットが検出された。加工段03は緩やかに西から東へかけて上がっており、坂道の可能性が考えられる。

性格不明遺構01・02（第17図・第20図）

浅い土坑に礫を充填している遺構だが、性格は不明である。性格不明遺構02は同じ埋土が充填されているピットの付属施設と考えられる。柱を埋ける為の地盤補強であろうか。

性格不明遺構01から陶磁器が2点出土している。産地不明だが見込みに点状のハリ跡が確認された為、時期は近世と思われる。

建物について

個別の建物について述べる前に建物の時期について考察しておく。

カミヤ遺跡で検出された柱穴から数棟の掘立柱建物を復元したが、大まかに東西軸を取る一群と、東西軸から南へ軸を振る一群に分かれる。

粘土質の地盤に建てられた建物は柱根の残存するものが多く、加工方法や外皮の有無などが確認出来た。外皮を残す柱は多くは無いが確実に存在している。今回の調査では柱根底部の加工方法に一定の法則が認められたので、Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型の3種類に分類を試みた。それぞれの特長は以下のとおりである。

Ⅰ型・・・ノミでハツって接地面を平坦に造り出している。接地面積が広く、柱を設置する場合は一番安定すると思われる。W282・283など。

Ⅱ型・・・向き合った2方向から内側へ楔状に削り込み整形している。先端の接地面積は狭く、固い地盤では不安定だが、粘土質の柱穴底へ杭の様に打ち込んでしまえば加工面全体が接地することになり、Ⅰ型より接地面積を広く取れるうえ、横からの力にもある程度対応できるので安定すると思われる。しかし、当時そこまで考えて加工したものかは疑念が残る。W277など。

Ⅲ型・・・Ⅰ型より一手間多い加工方法で、先に外周をある程度内側に削り込み、その後平坦面を造り出している。接地面積はやや狭いが、その分平坦面を造りだす手間は少なくて済む。W287・288など。

1棟の建物で同型の加工法が採られている事から、ある程度形式的に連続すると思われるが、1棟の建物で3タイプが併存している物も見受けられる。建物の復元に誤りが無ければ設置環境、若しくは同時に使用される材の中で何らかの理由により加工方法が選択されている可能性が有るが、今回の調査では明らかに出来なかった。

建物01（第22図）

東西に軸を取る2間×3間の側柱建物で、柱穴規模は50cm程、床面積は約30m²ほどである。建物の南側は近世の水田による削平を受けており、柱穴の下場がかろうじて確認された。時期は中世と思われる。

建物02・03（第23図）

東西軸を持ち1間以上×2間以上の柱穴配置を取る建物2棟を復元した。柱穴規模は50～70cm程、建て軸は建物01と同じで、Ⅰ－B区の他の建物も概ね東西軸で建てられている。この2棟は平面上では重複しており、建替えの可能性を持つが、時期的な前後関係は押さえられなかった。時期はおそらく中世と思われる。建物03のP1でⅡ型の柱根が確認された。

建物04（第24図）

東西に軸を取る1間以上×2間以上の側中建物で、P4から染付けの小片が1点出土しているが、詳細は不明だった。時期は中世後半から近世と思われる。P1でⅡ型の柱根が残っていた。

建物05（第24図）

東西から南へ軸を振る1間×2間の建物で、P3にⅠ型の柱根を持つ。P3から、口縁が外反する磁器皿の小片1点が出土したが詳細は不明である。時期は中世以降としたい。

建物06（第25図）

南北軸から若干西へ軸を振る建物1棟を復元した。南北軸を基準にした建物はこれだけで、柱穴配置も他の建物とは若干異なる。遺構の時期等不明である。

建物07（第25図）

東西軸に乗る1間×2間の建物を復元した。P3から古墳時代後期から奈良時代と思われる土師器片1点が出土している。

建物08（第26図）

東西へ軸を取る1間×2間の側柱建物だが、南へ1間延びる2間×2間の総柱建物になる可能性が有る。P2・3・4・7でⅠ型の柱根を持つ。

建物09（第26図）

東西へ軸を取る1間×2間以上の側柱建物で、P1・2はⅢ型の、P3はⅠ型の柱根を持つ。P2の

柱根には樹皮が残っていた。

建物 10（第 27 図）

東西軸を取る 2 間× 3 間の側柱建物で、図化されていないが、P2 にⅢ型の柱根を持つ。

建物 11（第 27 図）

東西軸を取る 1 間× 2 間の側柱建物で、P2 にⅢ型の柱根を持つ。P3 から乳白色の釉が掛かった磁器小片 1 点が出土した。器種及び時期の詳細は不明であるが、中世から近世のものと思われる。

3. Ⅱ－E 区西側（第 28 図・第 30 図）

Ⅱ－E 区西側は確認調査の為、遺構精査が不充分だった。本来は別の柱穴配置や遺構形態を取っている可能性を否定できないが現状を報告する。

柱列 01（第 30 図）

東西に軸を取り、等高線に沿って並ぶ柱列 01 を復元した。柱穴の規模は 60 ～ 80cm ほどで、柱間距離は約 2m ある。大型の建物の可能性が強いが建物として復元できなかった為、柱列として報告する。

建物 12（第 30 図）

東西に軸を取る 1 間× 2 間以上の柱穴配置を持つ建物を復元した。柱穴規模は約 20cm ほどで小型の建物と思われる。

建物 13（第 30 図）

東西に軸を取る 1 間× 2 間の建物で、柱穴規模は約 40cm を測る中型の建物と思われる。建物 12・13 は今回の報告では建物としたが、共に高所にあたる北側の柱列を検出出来なかった。

溝 01（第 28 図）

直線状を呈す溝 01 を検出した。溝 01 の性格は不明であるが、暗渠の可能性がある。その他の溝状遺構は現水田の暗渠である。

4. Ⅱ－F 区西側（第 28 図・第 29 図）

土坑 01（第 28 図・第 29 図）

南北に軸を取る土坑 1 基が確認されたので、遺構の性格を確認する為に調査を行った。土坑の平面形は長方形を呈し、長軸での底部長さは 120cm ほどである。底部北端で土師器坏 1 個体が検出された。おそらく墓坑と思われる。土師器坏を伴う墓坑は埋築遺跡で確認されており、北頭屈曲木棺直葬であった。この土坑も同様の埋葬形体を取っていると思われる。土坑の時期は土師器坏の形式

から中世であるが、胎土の色調が暗茶色を呈している為、中世後期の可能性が強い。確認調査のため遺物は現地で埋め戻され保存されている。

土坑 02・03（第 28 図・第 29 図）

東西に軸を取る浅い土坑で、今回の調査で 5 基確認され、そのうち 2 基について確認調査を行った。長軸での底部長さは両者とも 90cm ほどである。土坑 03 は土坑中に 95 × 40cm の箱型に板材を組んでおり、同様の板で蓋をされている。土坑 02 の土層観察で木板の立ち上がりが確認されたため、この土坑中に残る木質も土坑 03 と同様の箱だったと考えられる。おそらく小型の木棺墓と思われる。土坑 02 から、瓦質土器が出土している。時期は中世後半から近世までと思われる。土坑 03 の時期は、溝 04 との切り合い関係から溝より古い事は確実だが、詳細は不明である。おそらく土坑 02 と同様、中世頃ではないかと考える。

溝 03・04（第 28 図）

東西に軸を取りながら併走する 1 組の溝を確認した。幅は 6m を測る。溝 03 は途中から屈曲して南東に軸をとり、溝 04 を切って延びているため、時期的には溝 03 の方が新しい。また、溝 04 は土坑 03 を切っているので、溝 04 の時期は土坑 03 より新しく、近世頃と思われる。調査当初は近世浜田三次往還が付近を通っていた為、付け替え前の道路状遺構の可能性を考慮していたが、根拠が弱く、現時点では性格不明とする。現在確認されている浜田三次往還は現県道とほぼ同じ場所を通っていたようだが、途中で一旦カミヤ遺跡の南端崖地中腹に上がり、300m ほど進んだ後でまた現県道位置まで降りている。調査区外南東に細長い畑があるが、これが往還道の痕跡である。

撹乱 01・02（第 28 図網掛け部分）

粘土質の土層上に偶蹄目の足跡が密集して検出されたので撹乱として調査した。おそらく牛の足跡と思われる。撹乱の埋土は淡灰色粘質土で、水田の耕作土と思われる。撹乱は 2 種類あり、撹乱 02 は土坑 01 及び溝 04 の上でも検出されたので、中世以降のものである。標高 134m 付近の土質は同じで、調査前の水田もこの辺りに区切りは無かったので、この水田が出来る前の行動範囲が撹乱 02 の範囲で規制されていたことが分る。撹乱 01 の行動範囲はほぼ標高 134.7m より低い所で規制されているのが分る。行動が規制されている理由は不明だが、旧水田の形状が反映されている可能性がある。

溝 02（第 28 図）

溝 02 は東西に軸を取っており、裾が広がっている。排水施設の可能性があるが詳細は不明である。出土遺物に奈良時代後半の須恵器坏などがあるが、これを以って直ちに遺構の時期とするには若干根拠が弱い。

5. Ⅱ－G区（第28図・第31図）

建物14（第31図）

東西軸から若干南へ軸を振る中抜け側柱建物で、柱穴規模は40～80cmほどである。建物01とほぼ同等の規模を有し、近い時期の可能性がある。土坑02を始めとする東西軸に乗る土坑と隣接しながらもⅡ－G区の柱穴群は全て土坑群より南に展開しており、建物が建っていた時期には土坑を認識していた可能性が高い。確認調査のため明確な時期は不明だが、土坑と同時期の中世後半以降の建物と思われる。

建物15（第31図）

南北軸を取り、建物14と重複して建つ側柱建物で、柱穴規模は40～80cmを測る。

P2は、建物14のP4にあたり、建物15のP1がP2を切り込んでいるので、建物15の方が新しい。

溝05ほか溝状遺構（第28図）

溝04と並行して通る溝で、溝間の幅は2mを測る。現存している近世浜田三次往還の道幅が2m前後なので、こちらのセットの方が溝03・04より旧往還道としての可能性は高いが、遺構の残存状態が悪いことと、確認調査のため情報に乏しく、何れにしろ確証は無い。この他にもⅡ－G区から数条の溝が認められたが、いずれも性格は不明である。

4. Ⅱ－D区・E区・F区（第32図・第33図）

集水遺構（第34図）

Ⅱ－F区中央で検出された遺構で、遺構埋土の上面から近世の造成を受けており、水田になっていた。旧地形は擂鉢状に窪む谷地形で、集水遺構は谷の集点にあたるため、雨水などはほとんどここに集まっていたと考えられる。ここからは、木製品・未製品等120点程度が集中して出土しているが製品は少なく、ほとんどが木材加工に伴う残材であった。遺構の時期は近世以前と思われるが、土器の出土が無いため、詳細な時期の判断は難しい。

集石遺構02（第35図）

Ⅱ－D区の谷地形底部で谷筋に直交して東西に軸を取る集石遺構を検出した。長径1.4mほどの土坑中に石や礫が積み上げられており、Ⅰ－A区の谷で検出された集石遺構01と良く似ているが、性格は不明である。出土遺物の染付は高台外面に絵付けを施し、端部の釉を欠き取っている。遺構の設置時期は近世と思われる。

土坑04（第35図）

東西に軸を持ち、倒卵形の平面を持つ長径2mほどの土坑を1基検出した。土坑中には径80cmほどの石が礫数点と共に落ち込んでいる。棒状の木製品1点を伴う。性格時期共に不明である。

土坑 05（第 37 図）

Ⅱ－Ｅ区で検出された不整形の大型土坑で、長径が 8m 以上ある。2 基の土坑を連結したような造りになっている。遺物は出土しておらず性格及び時期は不明である。

土坑 06（第 37 図）

Ⅱ－Ｅ区で確認された直径 1.3m ほどの円形土坑で、径 80cm ほどの板木の蓋が土坑中に落ち込んでいるのが確認できる。蓋の上には礫が置いてあり、蓋と一緒に落ち込んでいたようだ。貯蔵穴若しくは土坑墓と思われるが時期は不明である。

性格不明遺構 03（第 37 図）

プラン検出当初はきれいな隅丸五角形を呈していたため、弥生時代末期の竪穴住居を想定して調査に入ったが、床面施設は何も検出されず不整形で浅い落ち込みとなった。性格時期共に不明である。

溝 06（第 36 図）

東西軸を取る浅い溝を確認したが、性格時期共に不明である。この辺りは近世の水田により削平を受けている為、近世以降の可能性が有る。

溝 07・08（第 36 図）

等高線に沿って東西に軸を取る浅い溝で、Ｉ－Ｂ区の加工段 02・03 から延びている浅い段に繋がると思われる。おそらく集落内の道と思われる。溝 06 で南北軸を取る折れ曲がり部分は、道の分岐と思われる。時期は不明である。

溝 09・10（第 36 図）

東西軸から若干北に軸を振る溝で、共に一連の遺構と思われる。調査中は溝と認識していたが、加工段の可能性がある。埋土から奈良時代後期の遺物が纏まって出土している為、遺構廃棄時期は奈良時代後期頃と思われる。

溝 11（第 37 図）

Ⅱ－Ｆ区溝 04 の延長線上に位置する浅い溝で、当初旧往還道の一部の可能性を持って調査を行っていたが、根拠が弱く性格時期共に不明とする。

Ⅱ－Ｆ区柱列 02（第 39 図）

集水遺構に沿って柱穴列が確認された。柱穴間距離は 2m 程、柱穴径は 50cm 程度で柱根が残っている。P2・3 で外皮の残るＩ型の柱根を確認した。それぞれの柱穴内からは、土師器、須恵器や鉄滓が確認出来た。時期は奈良時代後期前後と思われる。

建物 16（第 39 図）

東西に軸を取る 1 間×２間の中抜け側中建物で、中央の柱穴にはレキが充填されている。P1 で

Ⅲ型、P2・8でⅠ型、P5でⅡ型の柱根型式を持っている。

建物17（第40図）

東西に軸を取る1間×2間の建物で、柱穴規模は60～80cmほどあり、P3からⅢ型の柱根が確認された。P4から須恵器が確認されている。

建物18（第40図）

東西に軸を取る2間以上×2間と思われる建物で、P4から中世土師器坏が確認されている。建物の南側が延びて南北軸を取る建物になる可能性を残す。

建物19（第32図）

N－98.9°－Eに軸を取る2間×2間の総柱建物で、梁行き4.14m、桁行き3.15mを測る。柱穴規模は30～40cmほどと小形である。柱間距離は梁行きで2m程、桁行きは北側1.7m・南側1.5mほどの2種類を測る。床面積は130m²ほどになる。柱穴からは古式の土師器細片が出土しているが、詳細な時期は不明である。おそらく奈良時代頃の建物と思われる。

第4節　調査の結果2（遺物）

縄文時代から古墳時代（第41図）

1～3は縄文時代から弥生時代の遺物で、古墳時代の遺物は確認出来なかった。1は縄文土器鉢と思われ、浅い沈線が廻っている。2は弥生土器口縁で、端部を摘み出しているが器種は不明である。胎土から末期頃の遺物と思われる。3は弥生土器を転用した円盤型土製品と思われる。薄手の壷若しくは甕胴部の周囲を打ち欠いて円形に整形している。時期は末期と思われる。4・5は時期不明の土器容器口縁である。胎土は縄文土器の様で細かい砂粒を含む黒色を呈している。器形は土師器甕口縁の様になっているが、器壁がかなり厚く土師器の範疇には無い。

奈良時代から平安時代

土師器（第41図）

6～18は奈良時代から平安時代の甕と思われる。口縁は外反し、頸部との境界が曖昧で、胴部の張りは弱く、ほぼ真っ直ぐ底部へ向かっていく。14・15・17・18は口縁端部を摘み出したり、面を持たせたりしている。

土錘（第41図）

19～35は管状土錘である。大きさで3種類程度、形状で3種類程度に分かれている。

大きさは19～30を小型品と考えているが、将来的に2分割出来そうである。中型品として31・32を考えている。34・35は大型品としている。形状では、19などの細形、22などの棗形、34などの俵形を確認している。時期は奈良から平安頃としているが、中世の可能性も残している。

須恵器（第42図～第45図）

36～54は須恵器蓋で、須恵器坏に伴うものである。摘みの確認できる物は全て輪状摘みで、ボタン状摘みや、摘み無しの蓋は見られなかった。ただし、天井部が欠けているものについてはその可能性を残している。44は回転糸切り痕を留める。47・48・54は体部の屈曲が弱いもの、若しくは体部が直線的に開くものである。47・48は端部に丸みを持たせ内側に折り返している。54の端部は外側へ開いている。49は高い器高と狭い天井部をもつ。55は高台付き皿で底部に回転糸切り痕を残している。

56～74は高台付き坏だが、用途として碗や鉢になりうる物も含まれている。底部調整が判るものに関しては、68以外は回転ヘラ切り調整であるが、中にはナデ調整を施しているものが含まれている可能性がある。同形式で容量の違うものが有りそうだが、今回は資料数が少ない為考察は控える。焼成は若干甘い物も含まれているが、まったくの焼成不良は無い。56～58は口径と底径の差が小さく、体部の開きが直立傾向にある。59は高台が外側に付き、体部は真っ直ぐ外傾している。58は高台が完全に外側に付いている。58・59の器形は碗としても良いかと思う。60は低い器高を持ち、口縁端部は先細り外反している。華奢な高台がやや内側に付く。今回出土した高台付き坏の中では古い部類に入ると思われる。59・61の高台タタミ付きはナデにより若干窪んでいる。63は高台の外側が体部と一体化している。高台が外側に付く直前のものと思われる。68は底部に回転糸切り調整を施し、高い高台が付く。74は体部が湾曲しており、口縁端部は摘み出されて内側に面を持つ。高台端部は先細り内側に段を有する。

75～94は無高台の坏である。焼成不良が7割以上を占め、焼成の甘いものを含めると9割ほどに達する。底部調整が確認できるものは回転ヘラ切りだが、切り離し後ナデているものが含まれている可能性がある。また調整が不明なものも数点ある。75は器高が高く体部は湾曲傾向を示しながらやや外側に開く。76は底部付近にヘラケズリ調整を施している。80は直線的に体部が開き、口縁付近で若干外反気味に摘み出している。82は低い器高を持ち、体部中ほどがナデにより窪んでいる。86は低い器高と大きな口径を持ち扁平な印象を受ける。

95～101は坏口縁である。97・99は体部上方にナデによる窪みを持つ。100は端部を鋭く摘み出している。101の口縁は直立傾向が強く、坏若しくは壺の口縁と思われる。

102～108は無高台の坏だが、底部の切り離しに回転糸切りを用いている。ロクロは右（R）回転である。102は若干湾曲傾向を示す体部を持ち、底部切り離しに回転糸切りを用いている。焼成は良好である。103～105は碗を模倣したと思われる坏で、125のような土師器坏の祖形になると思われる。

109～116・118・119は壷である。109の口縁端部は上方に摘み出されている。111・114・115・116は肩が丸い壷胴部で112のような肩部が屈曲するものも見られる。113は高台の付く小型の壷である。118・119は大型の壷底部で、底部付近に横方向のヘラケズリを残す。117・120・121は甕である。117は直立気味に外反する単純口縁で、端部に面を持ち浅い沈線を廻らせている。122・123は甕口縁と思われるが、123は伏せた状態で焼成されていることが自然釉の状態で確認されたため、古八幡付近遺跡で報告されているような器台になる可能性を残す。口縁端部は内側に面を持ち、外面に3条の沈線で区画された波状文が施されている。

中世から近世（第45図～第46図）

124～132は土師器で、124は高台の付く坏である。125・129～132は無高台の坏で、底部切り離しに回転糸切りを用いている。128は柱状高台の坏と思われる。126・127は坏口縁部である。127は内面に赤彩が施されている。

135は備前系陶器壷で、太く短い口縁が外反し、底部付近は急激に収束し底部へ至る。肩部にはクシ描き波状文を施す。時期は15世紀後半前後と思われる。136・137は備前系の陶器擂鉢で、口縁を上方へ拡張しており、放射状の粗いクシ目が通る。15世紀前半のものと思われる。

138～140は磁器である。138は白磁Ⅳ類、139は青磁で見込みに草花文を陰刻し、釉を欠き取っている。140は龍泉窯系青磁碗で外面に細い蓮弁と思われる直線文が通り、内面には輪花文を施している。

141は土師質の土器である。内面黒色を呈す器種不明品である。

142は磁器碗で、おそらく肥前系と思われる。二次的に被熱している。143・144は薄造りの瓦質土器で、精緻なスタンプ文が施されている。145は土師器だが緑色の釉薬が掛けられている。146は瓦質土器の口縁で端部に面を持ち、内面にハケメを施す。147・148は五徳と思われる。147は口縁に切り込みが入る。148は窓が開いている。149は鉢の口縁と思われるが詳細は不明である。150・151は鉢の口縁で、おそらく火鉢と思われる。151は頸部に3点以上のS字文を施文している。152は土師器のホウロク若しくは土鍋と思われる。内面にハケメが施される。153は火鉢若しくは火壷の底部と思われる。

製鉄関連遺物（第46図～第48図）

154～161は羽口で、製鉄関連のものと思われる。

162～169は炉壁で、胎土にスサを混入している。162・165・166・167・169はそれぞれ粘土単位の剥離痕を残す。162・163・164・167は通風孔が認められる。孔径は約3cmほどである。170は炉底滓で底部前面に床面が溶着している。流出孔付近と思われる。171は炉底滓で碗状滓である。172～173は流出滓で、大量の炭化物を包含している。174～190は鉄滓で、177・178・183は流動滓である。

製鉄関連遺物のほとんどが、Ⅰ－A区谷の互層状堆積中から出土しており、時期は中世以前と考えている。科学分析の結果では鎌倉時代から室町時代前半と出ており、矛盾はない。

石器（第49図～第52図）

S1～S7は石鏃及び石鏃未製品と思われる。S8は石錐で、使用により端部が磨滅している。S15は断面が台形状の石器で長辺の一方に細かい調整を施している。S23は石匙の破損品と思われる。S24は自然石の一端に両面から刃付けを行っている。チョッパーの用な使用法を考えるが、石錘未製品の可能性もある。S22の石刃は長辺の一方に刃付けを行っている。S25は石錘である。S26～28は磨石と思われる。S29は打製石斧で、S30も同じく打製石斧と思われる。S31は磨製石斧の欠損品と思われる。S32は扁平磨製石斧で、刃部はハマグリ刃になっている。S34～S38は砥石である。S35は玉作用の溝持ち砥石で、欠損品である。2条の溝を持つ。S39は木の葉状の加工が施されている。用途不明品である。S40は要石と思われる。砥石の転用品である。S41は一部砥石として使用され

ている。S42は碁石と思われる。

鉄器その他（第52図）

F1は中世の二又鏃である。B1は角のようなやや軟質の素材を面取りし、先端を細く仕上げている。時期用途共に不明である。

木製品（第53図～第76図）

柱を除く木製品のほとんどはⅠ－A区谷とⅡ－F区集水遺構から出土している。

W1～23は漆器で、外面にスタンプ文が施される。W7や絵付けが施されるW12などが混在している。形体としては、高い高台が付くW1や低い高台が付くW16と刳込み高台のW17などが認められる。低い高台を持つものの中にはW4などの様に厚い底部を持つものがある。体部の立ち上りは内湾気味に上方へ立ち上がるW5と、内湾気味に外傾するW8、真っ直ぐ外反するW7などがある。

W24～29は杓子形木器で、大きさが3種類程度に分かれる。W28は身の側辺が失われているが杓子形木器である。W30は大型の刳物匙と思われる。端部上面は若干の盛り上がりをみせる。W31～33は組み物で木釘が残っているものもある。W34は刳物容器で低部に穿孔痕がある。W35～46は曲物で、W35～38は円形曲物底部、W39～46は曲物側板で、W43・46はケビキが確認できる。W44は樺皮1列綴じと思われ、段数は2段確認出来た。W47の形状は木針と同じため木針としておくが、厚みがあるため、針として機能しない可能性がある。W48～50は箸と思われるが、他の用途も考慮し、箸状細棒としておく。W51～52は断面方形の小さな細棒だが、端部を斜めに切り落としている。用途不明である。W54はやや厚みのある細板で、端部を加工している。W55は留針と思われる。端部に加工を加えず身を扁平に作っている。若干の反りがある。W56～62は棒状木製品で、様々な物があるが、加工は雑で単純な造りをしている。端部を先細りさせるものや斜めに切り落とすものなどが見られる。W63は方形の刳込みを持つ脚材と思われる。W64～66は枘と枘穴を持つ棒状品である。W67は把手若しくは工具の柄と思われる。W68は中央の孔周辺に小孔が廻っており、小孔には軸木が挿入されていた。形状はロクロの弾み車に似るが、用途は不明である。W69～71は中央に穿孔された板状品である。いずれも片面に細かい切れ目が入っている。W69は木釘跡が残っている。W72は薄板で、端部を山形に切り落としている。W74は両端部を切り落とした板材で丁寧な面取りがされている。W75・76は片面に細かい切り込みが入る。W77～90は用途不明の板状加工品である。この他様々な板状加工を施された材が出土している。W77・78は端部を丸く仕上げている。W88・89は円形の刳込みを持つ。W96は木栓状と思われる板材である。W97～101は加工品の残材と思われる。W97・99は三角形に切り落とされている。W102は挿入型の留具と思われる。W103～110は角材である。W103・104は短材だが用途不明である。加工品残材の可能性もある。W111・112は円形の穴が大きく開いている。W113～142は乱雑な加工が施されている用途不明品で、大まかに板状のものと棒状のものに分かれる。W143～171は不定形な材の両端部を切り落とした短材で、切り落とし方は様々なものがある。W173～175の板材は木製品溜りで杭と一緒に纏まって出土している。W176の角材は端部を斜めに切り落としている。建物の柱穴から出土しているが、用途は不明である。柱の補助材であろうか。W177は大型材の両面に刳込みを入れている。W178は縦方向に穿孔を施している。W179は細長い角材である。用途は不明である。W185～192は角材や板材の

両端部を切り落とした短材で、ある程度加工された物を短く加工している。用途は不明であるが加工品残材の可能性がある。W193は大型の板材で丁寧に面取りが施され、端部を斜めに切り落としている。W194は薄い板材で、端部を両側から切り落としている。W195は小さな穿孔が施されている。W196・197は方形の刳込みを入れている。いずれも用途は不明である。W198は角材の両側面を方形に切り落とし、木栓状に仕上げている。W199～201は厚い材に乱雑な加工を施し、台形状に切り落としを行っている。用途は不明である。W202は長い角材で端部を細く削り出している。W203は大型の板材で長方形を呈している。壁板であろうか。

W204～213は板材若しくは角材を加工した杭材で、矢板のような使われ方をしたものもあったのではないかと考える。大型の材を使用しているものが多く、中には転用材も含まれていると思われる。先端の加工方法は、両側から切り込んで先端を山形にするものと、斜めに切り落とすものが見られる。

W214～230は丸木を半裁、若しくは3から4分割している杭材で、大型の丸木を割って用いているものが多い。先端に対する加工は、割れていない部分に対し行われているものが多く、割れ口をそのまま利用している。

W232～268は丸木杭で、ほとんど細丸木を使用しているが、大型のものもある。

先端部の加工以外は未加工のものが多い。先端の加工は鉛筆を削るように全周囲を細かく切り落としていくものと、大きく4方向を切り落とし仕上げ調整をするもの、2方向から切り落として楔状に仕上げるもの、斜めに切り落とすものに分かれる。単純な加工は細丸木に多く、加工方法が材の大きさによって使い分けられている事がわかる。

W270は楔状の杭で端部を鋭角に切り出している。W271・272は棒状品の端部を細く削り出している。杭と思われるが大きく反っており、別の製品の可能性が考えられる。

W273は鹿の角である。自然物だが、他の木製品と共に廃棄されており、角製品素材の可能性も残す。

W274～289は柱材である。外皮を剥ぎ取っているものと、残すものがある。底部加工については建物の説明で触れているので省く。W281のように外周の加工を施すものがあるが、設置のためのハツリ加工と思われ、装飾的な加工は認められない。W276は断面が台形になる刳込みを施している。W287は長方形の穴が開いている。

第5節　カミヤ遺跡総括

調査の結果、古代から近世までほぼ連続して遺構が検出され、集落の変遷が近世まで追えることが解った。最新の建物跡は調査区外の北側に有り、古代に丘陵下方から発生した集落が徐々に水田を拡大しながら丘陵上方へ移動していく様子が伺える。また、中世の一時期に製鉄を行っていたことが調査結果及び科学分析結果から明らかとなった。

Ⅰ区の谷から出土した木製品には主に建築部材、食事具、生活道具、杭があり、中世にはある程度土地を区画改良して活用していたことが解った。木製品に関してはその他にも特徴的な傾向が見受けられるので何点か挙げておく。まず1点目は、多くの木製品が一部炭化していることである。遺物包含層にも炭化物や焼土などが確認されるため、この集落が火災にあっている可能性がある。

次に目に付いた特徴は、短い木材の両端を切り落とした短材が大量に出土している点である。目的は不明だが、木製品製作に伴う廃材と捉えると、木材の加工は現地で行われていた可能性が考えられる。3点目の特徴は、多くの木製品を谷に廃棄している点である。通常不要な木材などは薪として燃料に再利用すると思われるが、何故かカミヤ遺跡では短材などの補助燃料向きの小さな木片まで無造作に廃棄している。おそらく何らかの理由があると思われるが今回の調査では判明しなかったので、今後の課題としたい。

また、カミヤ遺跡ではまとまった石器製品と未成品が出土しており、縄文時代にこの地を活動の場として利用していたことが解った。石材は黒曜石とサヌカイトが多いが、その中でも黒曜石は剥離しきれていないものが多く、製作技術の未熟さか、若しくは原石が剥離しにくい特徴を持っている可能性が考えられる。どちらにしても短期間（個人単位、若しくは同一原料単位）での製作と見ることが出来る。

第4章　羽代前田遺跡の調査

第1節　羽代前田遺跡の立地（第2図）

遺跡の立地する擂鉢状の斜面は、南北に延びる谷の分岐点付近の緩斜面に形成されており、遺跡の主要な時期である古墳時代後期から中世には東西にも谷が伸びていたようだ。遺跡は中世以降に土砂の堆積を受けて谷が埋まっている。

遺跡本体は調査区より上方に当たる西側にあると思われ、今回の調査区は、遺跡本体の外周部と考えられる。

第2節　調査区について

1. 調査区の設定（第3図）

試掘調査の結果、網掛け部分が本調査対象地になった為南北に2分割し、南側をⅠ区、北側をⅡ区とし、調査に入った。Ⅰ区は調査の都合で変則的に南からⅠ－D区・Ⅰ－A区・Ⅰ－B区・Ⅰ－C区としている。北側は調査区設定前に計画変更があったため、Ⅱ区とする。

2. 概要

試掘調査（第3図・第6図・第7図）

試掘調査は緩斜面全体で行った。調査の結果、緩斜面全体で遺跡が確認され、斜面上方の方がより遺跡密度が濃い事がわかった。Ⅱ区にあたる地点では、建物跡と思われる遺構や古墳時代後期の土器溜りを検出している。谷底は深い低湿地となっており、土器と共に自然木などが確認された。おそらく低湿地も何らかの活用が図られていたのではないかと思われる。

Ⅰ－A区（第5図・第8図・第9図）

ほ場整備の切り盛りの関係により調査区を東西に2分割して、調査を行った。西側は標高78m付近まで調査を行い、尾根を検出した。

東側では東西に延びる谷と尾根の一部を検出した。谷底では中世の焼土面を検出し、下層からは土器溜りや集石遺構と共にレキの堆積が検出された。集石遺構とレキの堆積層下の調査を行う前に事業計画の変更があったため調査を中止し、盛土保存となった。

Ⅰ－B区（第5図・第9図）

東西に延びる尾根と、そこから北側へ展開する緩斜面を検出した。緩斜面には遺物包含層や東西へ流れる流路などを検出した。

Ⅰ－C区（第5図・第10図）

西から東へ下る緩やかな緩斜面と、土器溜り、及び柱穴と思われるピットを検出した。斜面下方にあたる東端は低湿地になっている。

Ⅰ－D区（第5図）

遺物包含層を検出したが、調査途中で事業計画の変更があり、調査を中断した。

Ⅱ区（第3図・第4図・第5図）

耕作土除去後トレンチを設定し、調査を行った。調査後事業計画の変更があり、全面盛土保存となった。

第3節　調査の結果1（遺構）

Ⅰ－A区

谷（第5図・第8図・第9図）

東西軸を取りながら南へ下る細い谷で、谷の下場は完全に調査区内に入っているが、南側の上場は調査区の外にある。谷はレキの堆積後に一度安定しており、集石遺構や土器溜りが検出されている。その後、浅く土砂の堆積があった後、焼土が堆積している。その後はある程度まで土砂の堆積を受けた後で水田として整地されている。

集石遺構（第11図）

土器溜りと共に検出された遺構で、散漫なレキの堆積中に数箇所石が集中して堆積している状況が確認出来た。尾根から転落した石が帯状に堆積していると考えられるものもあるが、中には独立して不整円形の平面プランを持つ集石が確認出来た。性格時期など不明だが、中世以前と思われる。

土器溜り（第11図・第12図・第13図）

集石遺構と共に土器溜りが2箇所で検出された。土器溜01の器種構成は須恵器甕で、その他土師器甕や坏、高杯、壷などを含んでいる。時期は古墳時代後期と奈良時代が混在している。土器溜02の主な器種構成は須恵器甕や土師器甕で、その他に須恵器の壷や坏、高杯などを含んでいる。主な時期は古墳時代後期だが、一部奈良時代の遺物も含まれている。

焼土面（第12図）

谷筋に沿って東西に軸を取る不整形帯状の浅い溝で、木炭と共に焼土や炭化面が纏まって堆積していた。検出面で中世遺物が出土しており、時期は中世頃と考えられる。

Ⅰ－B区

溝01（第5図・第14図）

緩斜面に対して直交する不整形帯状の溝を検出した。遺物を伴っておらず時期は不明だが、直上の遺物包含層が古墳時代後期以降のため、それ以前の遺構と思われる。

Ⅰ－C区

土器溜り（第14図）

土製支脚や移動式カマドを中心とした土器溜りで、須恵器甕や土師器甕などを含んでいる。時期は古墳時代後期から奈良時代頃と思われる。

柱穴（第14図）

等高線に並行して2基の柱穴を確認した。時期性格共に不明である。

第4節　調査の結果2（遺物）

試掘調査の遺物

試掘調査で出土した遺物をまとめて報告する。主に土器溜りの遺物で、大量の土師器甕と少量の須恵器が出土している。

1～23は土師器甕で、古墳時代中期からの流れを引き継いで胴部は球形の丸底を呈すものと、胴部最大径が下方に下がり、なで肩になる新しい傾向を示すものがある。外面にハケメが施される。ハケメの種類には、粗いものと密なものが見られる。口縁から頸部にかけて数種類の特長が見られる。口縁を外反させ、丸く収める5などの他に、端部を薄く引き上げている1や、端部を玉縁状に丸める2・3などが認められる。頸部は肩部から屈曲して立ち上がる1や、肩部から口縁まで連続した緩やかな曲線を持つ6などが見られる。また、頸部の長さが短い18などや、頸部と口縁を意識して分けている4・20・23などがある。

24 ～ 26 は小型の甕で口縁は直線的に外反する。28 は坏の口縁でヘラミガキを施している。30 は厚底の底部を持つ土師質の土器で、胎土などは古墳時代後期遺構の土師器と同じだが、類例が無い。器種は甕のようなものになると思われるが、時期は不明である。31 は手捏の坏で、坩堝若しくはミニチュア土器と思われる。32 は須恵器模倣の土師器坏で体部中ほどに稜線を持つ。時期は古墳後期と思われる。34・35 は甑の把手で、大型のものと小型のものが見られる。

36・37 は須恵器蓋で肩部に稜線が入っており、端部が若干窪んでいる。38 は須恵器坏で口縁端部が若干窪んでいる。39 は須恵器坏と思われる。径が小さく体部から受部が直線的に延びている。蓋の可能性がある。ここまでは古墳時代後期の須恵器である。40・41 は奈良時代前期の蓋坏で 40 の蓋にはボタン状の摘みが付く。41 の坏はしっかりとした高台が付く。42 ～ 43 は須恵器坏で回転糸切り痕が残る。44 は須恵器坏で低い高台が付いている。45 ～ 48 は土師器坏で中世のものである。49 はハソウ胴部で、肩部には沈線により区画されたクシ状の連続刺突文が廻る。50 ～ 55 は龍泉窯系青磁で、50・51 はⅡ類、52・53 は B4 類、54・55 は C 類辺りだと思われる。56 は薄造りの陶器で数条の沈線が交差している。器種及び時期不明である。

本調査の遺物

57 ～ 103 は土師器甕で、特長については試掘調査の遺物とほぼ同様だが、57・58 のように頸部の長いものがある。57 は複合口縁の退化したもので、古墳時代中期である。59 は口縁端部を摘み出し、外側へ折り返している。89 は小型の甕で外面にヘラミガキが施されている。91 は小型の甕と思われる。96 ～ 100 は胴部最大径が下がる器種で、大部分が奈良時代の甕と思われるが、99 などは甑の口縁になる可能性がある。また 100 は口縁に指頭圧痕が残る調整の雑なもので、移動式カマドの可能性が有る。103 は厚く短い口縁が強く外反している大型の器種である。104 は厚い底部と内湾する短い口縁を持つ。

105 ～ 115 は土師器坏の口縁で高杯のものと思われるが、108 は須恵器を模倣した土師器の可能性がある。高杯の坏部は全体的に小型で、見込みが深い。ヘラミガキ調整が残っているものが確認できる。116 ～ 119 は高杯の脚部で、脚裾があまり広がらない。118 は脚充填部の粘土量が多く、重たい。120 は短い脚が付く脚付きの甕のような器種になると思われる。121 ～ 123 は土製支脚である。

124 ～ 133・135・136 は甑である。124 は甑と思われるが、把手の付き方が通常の甑と違い、上下に把手接合部がある。上下２つの把手が付いていたか、環状の把手が付いていた可能性がある。接合部形状を見ると、円管状の把手を貼り付けた痕があり、把手の接合部付近は中空だった可能性がある。121・129 ～ 133・135・136 は甑の把手部分である。121 は甑の把手で端部が先細り、くびれを持つ。129 は細長い把手で、緩やかに上方へ反っている。130 は短く扁平な把手である。133 は太い棒状の把手で、あまり反りが無い。

134・137 ～ 141 は移動式カマドである。134 は肩部が張り出している。137 はなで肩で、風防が無い。廂の有無は不明である。粘土紐積み上げ法で作られており、内部の調整は雑である。139 は廂部分だが、風防は付かない。142 は丸球状の土錘である。

143 ～ 147 は須恵器蓋で、146 は高いボタン状の摘みを持つ。147 の輪状摘みは小さいものが付いている。148 ～ 153 は須恵器坏である。150 は口縁の立ち上がりが短く、受部も小さい。152 は

高台の付かない坏である。153は高台付き坏で、低部調整は回転ヘラ切りと思われる。

154～165は須恵器高杯で、脚部に透かしの入るものは見られないが、沈線で脚部を上下に区画する159などが見られる。坏部は、有蓋の154・155と無蓋の156・157が見られる。165は脚裾と思われるが、貯蔵具の口縁になる可能性がある。166～195は須恵器貯蔵具である。器種は甕が多いが、166は玉縁口縁を持つ瓶類のものである。167は広口の壷若しくは甕口縁と思われる。168は壷肩部で、奈良時代以降のものと思われる。173～176は壷と思われる。176は細口の壷で肩部に2条の沈線が廻る。191は甕で口縁は無文である。192は焼き歪みが激しい。193が192の口縁になると思われる。

198～202は須恵質の瓦である。198は中世以降の燻し瓦と思われる。199は焼成不良で、並行に縄目が通る。平安時代から中世のものと思われる。202は顎部を失っている。

203は土師質の甕と思われる。204～208は土師器坏である。209・210は青磁碗である。211は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類口縁である。

213は備前系の甕底部である。212は土師器擂鉢で在地系と思われる。

S1は石槍である。S2は黒曜石の核で周辺を打ち欠いてある。I1～3は鉄滓で、I1は焼成が弱いため、色彩が浅く磨滅している。W1～4は木製品で、W1は低い高台の付く漆器椀である。W3は穿孔が施されている。W4は周辺を削り矢板状になる。B1は骨片である。

第5節　羽代前田遺跡統括

調査の結果、古墳時代後期・奈良時代・中世の遺物が纏まって確認された。一番多いのは古墳時代後期で、付近に集落があると思われる。古八幡付近遺跡・高津遺跡の調査で集落の移動に一定の決まりが認められ、古墳時代後期と奈良時代の集落立地が共に丘陵斜面のやや高所を利用していることがわかっている。今回の調査でも丘陵斜面高所で古墳時代後期と奈良時代の遺物が纏まって出土していることから、追認資料として有効なのではないかと思われる。

土器溜りは、丘陵裾から谷底にかけての変化点に堆積しており、各時期の遺物が混在していることから、各時期で廃棄した遺物が谷底へ転落堆積しているのではないかと考える。ただし、谷中の堆積は層位の逆転、撹乱が頻繁に起こるため、各時期の遺物の混在がどの段階で行われていたのかは不明である。中世に関しては、焼土面の検出面より上層で遺物が確認できるが、若干の層位撹乱を受けており、土器溜01では中世の遺物も1点見られる。

第５章　カミヤ遺跡の科学分析

文化財調査コンサルタント株式会社

AMS 年代測定結果

AMS 年代測定結果を別表１に示す。また、巻末資料に暦年較正結果を示す。別表１には、３種類の年代と、$\delta^{13}C$ 値を示してある。

補正 $\delta^{14}C$ 年代は、^{14}C 濃度が環境により変動することから、$\delta^{13}C$ を測定し、$\delta^{13}C = -25‰$に規格化した^{14}C 濃度を求め、年代値を算出したもの（暦年較正年代）を５年単位で丸めた値である。

上記の年代は、いずれも西暦 1950 年からさかのぼった年代値で示してある。

一方暦年代は、時代（時間）とともにランダムに変化している大気中二酸化炭素の^{14}C 濃度を、樹木の年輪や海底堆積物のしま状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた暦年代較正データ（INTCAL04）を用いて、較正したものである。較正には OxCal ver. 3.1 を用いている。

別表１　AMS 年代測定結果

試料			$\delta^{13}C$	補正^{14}C	年較正用年	暦年較正年代		測定番号
No.	遺構名	状態	(‰)	(yrBP)	(yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	(PLD-)
No.385 (GKA-1)	Ⅰ区 8層	炭 自然乾燥	−27.10±0.12	660±20	662±21	AD1280－1305(34.5%) AD1365－1385(33.7%)	AD1280－1320(48.2%) AD1350－1390(47.2%)	8926
No.154 (GKA-2)	Ⅰ区 9層	炭 自然乾燥	−25.90±0.18	650±20	652±21	AD1285－1305(27.7%) AD1360－1385(40.5%)	AD1280－1320(43.0%) AD1350－1390(52.4%)	8927
No.345 (GKA-3)	Ⅰ区 7層	炭 自然乾燥	−27.45±0.13	665±20	666±21	AD1285－1300(37.3%) AD1365－1385(30.9%)	AD1270－1320(51.4%) AD1350－1390(44.0%)	8928
No.152 (GAK-4)	Ⅰ区 9層	炭 自然乾燥	−27.77±0.13	715±20	717±21	AD1270－1290(68.2%)	AD1260－1300(95.4%)	8929
No.477 (GKA-5)	Ⅰ区 7層	炭 自然乾燥	−25.70±0.20	680±25	681±24	AD1270－1300(50.7%) AD1360－1380(17.5%)	AD1270－1310(64.0%) AD1350－1390(31.4%)	8930
No.387 (GKA-6)	Ⅰ区 8層	炭 自然乾燥	−24.26±0.16	750±20	750±20	AD1255－1280(68.2%)	AD1225－1285(95.4%)	8931

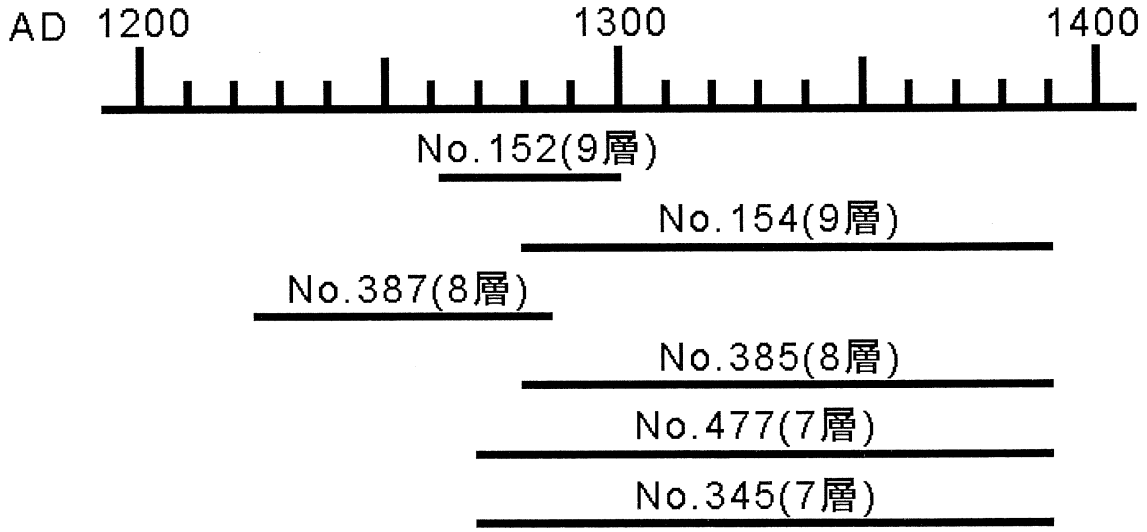
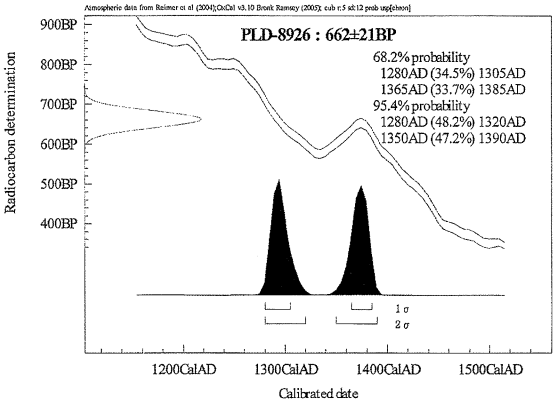


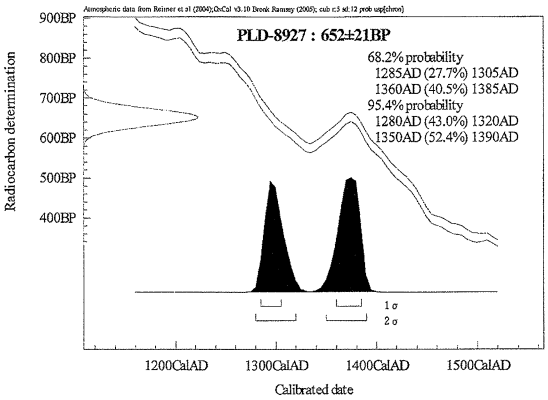
図１　暦年代較正年代（2σ領域）の分布

暦年校正結果



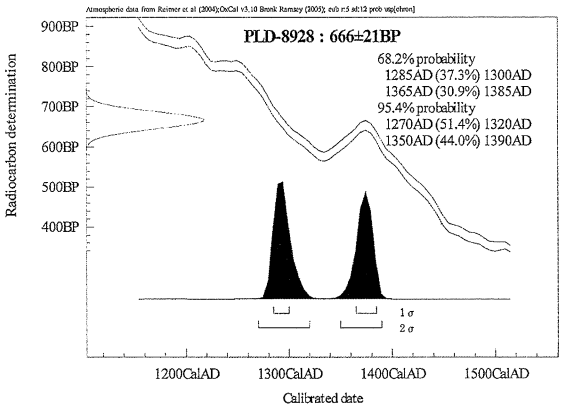
暦年較正結果：GKA-1（No.385）

GKA — 1



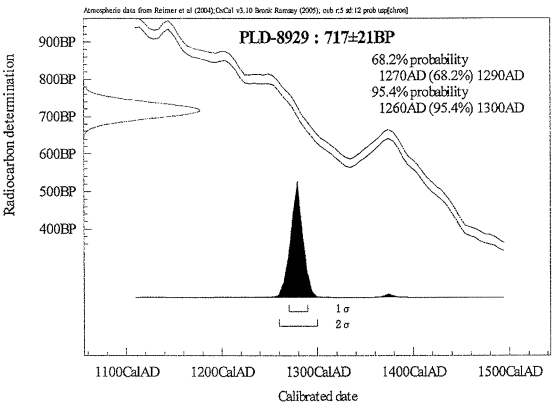
暦年較正結果：GKA-2（No.154）

GKA — 2



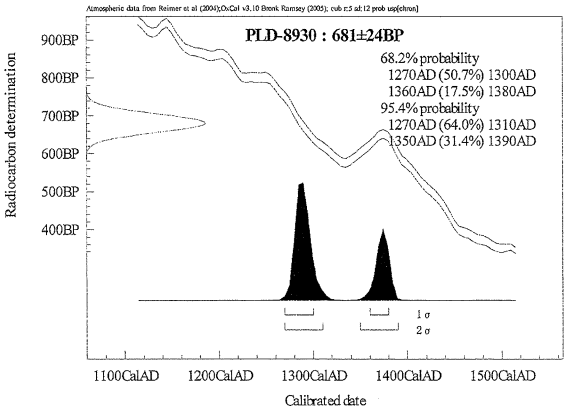
暦年較正結果：GKA-3（No.345）

GKA — 3



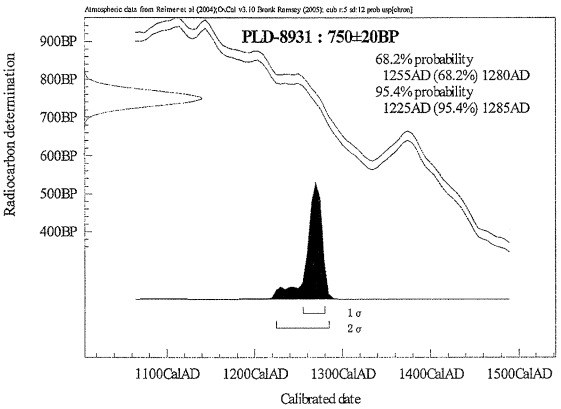
暦年較正結果：GKA-4（No.152）

GKA — 4



暦年較正結果：GKA-5（No.477）

GKA — 5



暦年較正結果：GKA-6（No.387）

GKA — 6

第1表　建物01計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間（7.33m）				2間（3.76m）			
主軸		S-84.0°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	54×44	53×44	39×30	70×49	33×32	56×50	31×30	53×47
	底径座標（m）	138.43	138.43	138.44	138.56	138.37	138.33	138.38	138.25
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-6	6-8	3-5	5-7	7-9
		2.09	1.67	2.30	2.28	2.75	2.25	2.24	2.92
柱穴（cm）	番号	9							
	上面径（cm）	45×36							
	底径座標（m）	138.25							
柱間距離（m）		8-9							
		3.76							

第2表　建物02計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.24m）				1間（2.52m）			
主軸		N-88.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4				
	上面径（cm）	76×38	70×50	48×42	38×27				
	底径座標（m）	136.45	136.44	136.58	136.58				
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4					
		2.68	2.56	2.52					

第3表　建物03計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.67m）				1間（3.56m）			
主軸		N-88.4°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4				
	上面径（cm）	73×51	46×46	67×53	82×62				
	底径座標（m）	136.40	136.33	136.23	135.67				
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4					
		2.32	2.35	3.56					

第4表　建物04計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（6.21m）				1間（2.99m）			
主軸		N-78.6°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	35×24	54×39	36×34	52×32	46×40			
	底径座標（m）	135.87	135.76	136.08	135.63	135.71			
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-5				
		3.29	2.92	2.99	3.45				

第5表　建物05計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（6.24m）				1間（2.96m）			
主軸		N-78.8°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径（cm）	30×24	28×24	56×45	34×32	22×22	41×36		
	底径座標（m）	135.70	135.96	135.68	135.36	135.62	135.71		
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-5	5-6	3-6		
		2.89	3.35	2.96	3.25	2.63	2.66		

第6表　建物06計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.72m）				2間（3.24m）			
主軸		N-20.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	23×21	38×28	112×51	30×30	38×30	60～×60～	23×22	25×21
	底径座標（m）	135.74	135.49	135.32	135.48	135.44	135.82	135.34	—
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-6	2-5	5-7	3-8	6-7
		2.24	2.36	1.66	1.58	1.57	1.55	3.04	2.40
柱穴（cm）	番号	—							
	上面径（cm）								
	底径座標（m）								
柱間距離（m）		7-8							
		2.32							

第7表　建物07計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.77m）				1間（2.86m）			
主軸		N-86.4°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	108×49	49×47	79×73	68～×68～	64×56			
	底径座標（m）	135.50	135.41	135.18	135.19	135.32			
柱間距離（m）		1-2	1-3	3-4	4-5	2-5			
		4.69	2.86	2.28	2.49	2.76			

第8表　建物08計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.47m）				1間（2.15m）			
主軸		N-81.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径（cm）	52×37	78×54	117×70	44×42	48×32	72×31	52×27～	
	底径座標（m）	135.96	135.82	135.54	135.57	136.08	136.36	135.51	
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	3-7	4-5	5-6	6-7	
		2.74	2.73	2.15	2.10	2.30	0.41	2.72	

第9表　建物09計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.12m）				1間（2.54m）			
主軸		N-83.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	45×39	116×109	35×31	38×31	29×23			
	底径座標（m）	135.79	135.42	135.57	135.73	136.12			
柱間距離（m）		1-2	2-3	4-5	3-5				
		2.60	2.52	2.23	2.60				

第10表　建物10計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間（6.91m）				1間（2.56m）			
主軸		N-87.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	38×28	47×44	32×25～	64×59	76×42			
	底径座標（m）	136.04	136.12	135.91	136.12	135.68			
柱間距離（m）		1-2	2-3	3-4	1-5				
		2.38	2.07	2.46	2.56				

第11表　建物11計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（3.33m）				2間（2.57m）			
主軸		N-3.25°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径（cm）	66×52	56×47～	42×39	44×26	30×27～	38×36		
	底径座標（m）	135.87	135.47	136.28	136.00	135.72	—		
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-5	3-4	4-6			
		1.76	1.57	2.38	1.43	1.14			

第12表　建物12計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（3.68m）				1間（1.40m）			
主軸		N-86.5°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径（cm）	26×20	40×28	23×22	39×36	21×11	30×25		
	底径座標（m）	—	—	—	—	—	—		
柱間距離（m）		1-6	3-5	5-6					
		1.40	1.67	2.01					

第13表　建物13計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.70m）				1間（3.05m）			
主軸		N-87.0°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4				
	上面径（cm）	53×48	54×49	53×34	49×36				
	底径座標（m）	—	—	—	—				
柱間距離（m）		1-4	2-3	3-4					
		3.05	2.34	2.36					

第14表　建物14計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間（7.02m）				1間（4.41m）			
主軸		N-85.6°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	67×43	77×54	74×58	64×45	109×75	48×45	56×49	66×56
	底径座標（m）	—	—	—	—	—	—	—	—
柱間距離（m）		1-2	2-4	4-5	1-6	6-8	4-7	7-10	5-11
		2.40	2.03	2.30	1.99	2.09	1.92	1.96	4.41
柱穴（cm）	番号	9	10	11					
	上面径（cm）	74×70	62×55	70×44					
	底径座標（m）	—	—	—					
柱間距離（m）		8-9	9-10	10-11					
		2.61	2.20	2.21					

第15表　建物15計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.22m）				2間（5.56m）			
主軸		N-1.4°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径（cm）	73×60	64×43	60×43	64×39	55×44	54×50	28×20	
	底径座標（m）	—	—	—	—	—	—	—	
柱間距離（m）		1-3	3-4	1-5	5-7	4-6			
		3.18	2.04	3.03	2.53	2.84			

第16表　建物16計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間（7.74m）				1間（3.99m）			
主軸		N-79.0°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	130×72	34～×34～	139×67～	96×64	110×66	82×66	71×58	104×40
	底径座標（m）	137.74	137.48	137.84	137.74	137.78	137.55	137.70	138.02
柱間距離（m）		1-2	1-3	3-5	5-8	2-4	4-7	7-9	5-6
		3.92	2.29	2.43	3.02	2.44	2.46	2.83	1.94
柱穴（cm）	番号	9	—						
	上面径（cm）	86×46							
	底径座標（m）	137.90							
柱間距離（m）		6-7	8-9						
		1.97	3.99						

第17表　建物17計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.96m）				1間（2.48m）			
主軸		N-78.2°-E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径（cm）	62×56	102×73	63×55	61×51	60×54	97×64		
	底径座標（m）	138.38	137.99	138.08	137.75	137.88	137.83		
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-5	5-6	3-6		
		3.00	2.93	2.48	2.88	3.08	2.38		

第18表　建物18計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間（5.13m）				2間（3.87m）			
主軸		N-76.5°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径（cm）	40×37	60×43	54×42	60×53	48×42	55×50		
	底径座標（m）	138.40	138.06	138.08	138.86	138.85	138.12		
柱間距離（m）		1-2	2-3	1-4	4-6	3-5			
		2.18	2.95	1.95	1.92	1.94			

第19表　柱列01計測表

主軸		N-89.9°-W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	96×84	75×64	82×70					
	底径座標（m）	—	—	—					
柱間距離（m）		1-2	2-3						
		2.41	2.22						

第20表　柱列02計測表

主軸		N-71.9° -W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	52×48	50×46	86×80					
	底径座標（m）	134.41	134.56	134.53					
柱間距離（m）		1-2	2-3						
		2.08	1.98						

第21表　性格不明遺構計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	不整円形		230.00～ 104.00～	165.00 61.00	28.00	N-89.0° -W	弥生土器
02	不整形		298.00 455.00	200.00～ 390.00	71.80	N-76.8° -W	陶器
03	隅丸五角形		440.00 420.00	— —	24.00	N-22.3° -W	

第22表　土坑計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	長方形		146.00 118.00	87.00～ 32.00	59.00	N-1.0° -W	土師器坏
02	長方形		110.00 85.00	71.00 48.00	16.00	N-82.2° -E	
03	長方形		116.00 95.00	64.00 38.00	15.00	N-87.7° -W	
04	倒卵形		196.00 154.00	140.00 95.00	55.00～	N-88.0° -E	
05	不整楕円形		530.00 140.00	244.00 56.00	60.00	N-31.4° -W	
06	円形		128.00 —	112.00 —	54.00	N-69.0° -W	

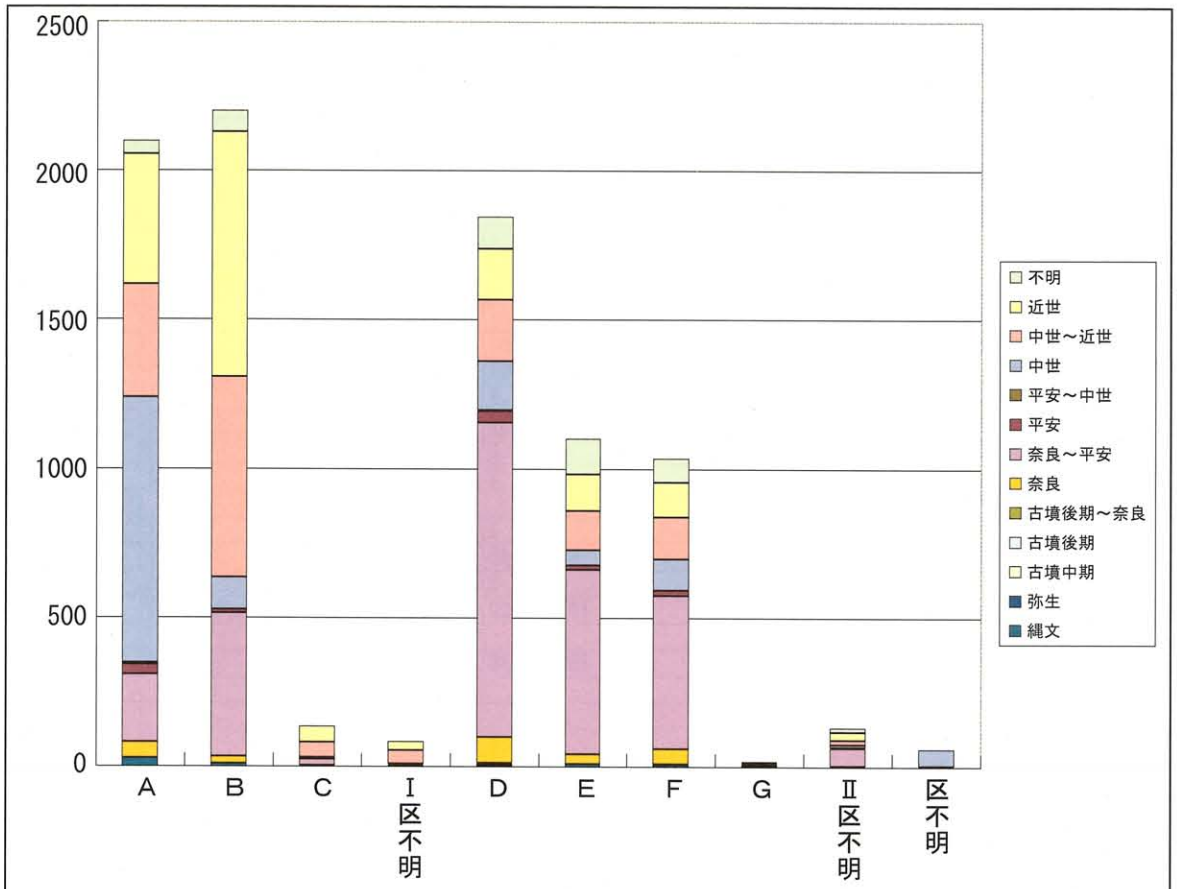
第23表　溝計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	南に下る直線形		185.00 —	40.00 —	—	N-21.2° -E	
02	等高線に沿う直線系		1,285.00 —	370.00 —	—	N-29.4° -W	
03	等高線に沿う浅いL字形		136.50～ —	50.00 —	—	N-88.2° -W	
04	等高線に沿う直線形		267.50～ —	85.00 —	—	N-82.1° -E	
05	等高線に沿う直線系		250.00 —	22.00 —	—	N-84.6° -E	
06	等高線に沿う直線系		286.00 260.00	50.00 35.00	10.00	N-89.0° -W	
07	等高線に沿う直線系		374.00 316.00	70.00 40.00	6.00	N-89.6° -E	
08	等高線に沿う浅いL字形		118.00 114.00	98.00 60.00	20.00	N-76.1° -W	陶器
09	等高線に沿う直線系		1,090.00 1,080.00	60.00 30.00	20.00	N-86.4° -W	
10	等高線に沿う直線系		1,854.00 1,820.00	— —	70.00	N-82.0° -E	
11	等高線に沿う直線系		540.00 510.00	80.00 52.00	10.00	N-81.3° -E	

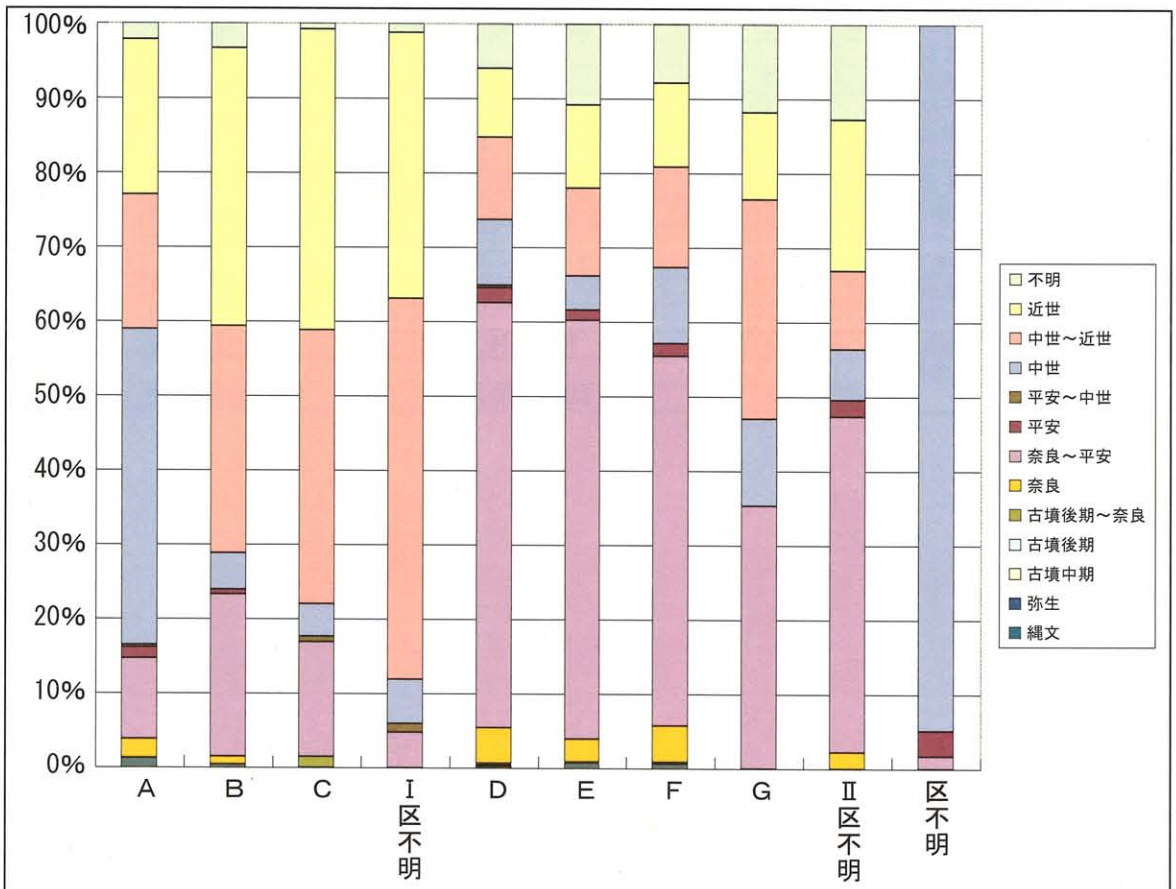
遺構計測表第24～第30表は79ページに掲載

第31表　カミヤ遺跡出土遺物分類表

時代	時期	種別	Ⅰ区				Ⅰ区集計	Ⅱ区					Ⅱ区集計	不明集計	総計
			A	B	C	不明		D	E	F	G	不明			
縄文		石器	25	9			34	3	8	7			18		52
		縄文土器	1				1								1
弥生		弥生土器						5					5		5
弥生後期		弥生土器		1			1	1					1		2
古墳	中期	土師器						2					2		2
	後期	須恵器						1	1	2			4		4
古墳～平安		土師器						1					1		1
古墳後期～平安		須恵器		2	3		5	3					3		8
奈良		須恵器	54	24			78	89	34	51		3	177		255
奈良～平安		土師器	53	241	12		306	588	317	263		14	1,182		1,488
		須恵器	176	240	9	4	429	467	302	251	6	46	1,072	1	1,502
平安		土師器	2				2	1					1		3
		須恵器	29	13			42	37	15	17		3	72	2	116
平安～中世		土師器	3			1	4	2					2		6
		須恵器	1		1		2	2					2		4
平安末～中世		土師器	2				2								2
中世		土器						1					1		1
		土師器	38	13			51	45	27	54		3	129		180
		須恵器	8				8	3	2				5		13
		磁器	92	89	5	5	191	29	18	37	2	6	92		283
		陶器	5				5			7			7		12
		製鉄遺物	747	4	1		752	86	4	8			98	56	906
		古銭		1			1								1
		金属製品	1				1								1
中世前期		磁器						1					1		1
中世～		石製品		1			1			1			1		2
中世～近世		土師器	1				1								1
		陶器	374	659	42	43	1,118	198	126	132	5	13	474		1,592
		瓦器	6	15	8		29	7	4	8		1	20		49
近世		土器				1	1								1
		土師器	10	11			21		1				1		22
		土製品									1		1		1
		瓦器	1	1		1	3		2				2		5
		磁器	310	602	50	26	988	145	77	76		17	315		1,303
		陶器	113	205	4	2	324	25	40	39		10	114		438
		古銭	2				2		1				1		3
		金属製品	1	2	1		4	1	2	2	1		6		10
		不明		1			1								1
近世～現代		磁器			1	2	3								3
不明		石器	2	4			6			1	1	1	3		9
		土器	28	63	1	1	93	90	93	60		13	256		348
		土師器	2	1			3	4					4		7
		粘土塊	5				5	1	22	9		1	33		38
		須恵器	1				1								1
		瓦器								1			1		1
		古銭							1				1		1
		金属製品	6	4			10	14	3	10	1	2	30		40
		自然物	1				1								1
総計			2,100	2,206	138	86	4,530	1,852	1,100	1,036	17	133	4,138	59	8,727



グラフ1　調査区別遺物集計グラフ



グラフ2　調査区別遺物構成比（百分率）

第32表　各時代における器種一覧表

時　代	種　別	器　種	合計
縄文	サヌカイト	石刃未製品	2
		石鏃	3
		石鏃未製品	2
		打製石斧	1
		磨製石斧	1
		偏平磨製石斧	1
		未製品	4
	安山岩系	磨石	1
	凝灰岩系	磨石	1
		石錘	1
		打製石斧	1
		磨製石斧	1
	黒曜石	石錐	1
		石刃未製品	1
		石鏃未製品	1
		台形石器	1
		核	1
		未製品	5
		不明	15
	石英	石鏃未製品	1
	粘板岩系	石匙	1
	不明	磨石	1
		チョッパー	1
		石錘	1
		不明	3
	縄文土器	不明	1
弥生	土器	不明	5
古墳後期	須恵器	甕	3
		器台若しくは甕	1
古墳後期～平安	須恵器	甕	3
		器台若しくは甕	4
奈良	須恵器	坏	164
		蓋	72
		輪状つまみ付蓋	13
		つまみ付蓋	2
		坏若しくは蓋	3
		壷	1
		甕	1
		不明	6
奈良～平安	土師器	坏	30
		高台付坏	2
		高坏	8
		製塩土器	1
		甕	28
		壷若しくは甕	6
		カマド	3
		カマド若しくは羽口	7
		甑	1
		土錘	37
		粘土魂	26
		不明	1,341
	焼成不良須恵器	坏	13
		蓋	4
		不明	1
	須恵器	坏	569
		蓋	10
		高台付皿	1
		壷	43
		壷（高台付）	1
		甕	103
		壷若しくは甕	20
		蓋若しくは壷	2
		壷若しくは瓶類	2
		瓶	2
		不明	726
平安	土師器	甕	1
	須恵器	坏	113
平安～中世	土師器	坏	6
	須恵器	坏	1
		甕	1
		壷若しくは甕	2
中世	土器	不明	1
	土師器	坏	177
	須恵器	壷若しくは甕	1
		備前系擂鉢	11
	白磁	皿	1
		碗	1
		合子	1
		不明	177
	青磁	碗	4
		不明	98
	天目系	不明	1
	陶器	壷	1
	須恵器	擂鉢	1
	備前焼	擂鉢	4
		不明	7

時　代	種　別	器　種	合計
中世	鉄器	鉄鏃	1
	製鉄遺物	鉄滓	661
		炉内滓	4
	炉構造材	羽口	64
		炉壁	173
	古銭	景祐元宝	1
	炭	不明	1
	不明	不明	5
中世～近世	土師器	坏	1
	瓦質土器	鉢類	1
		不明	48
	天目系	不明	27
	陶器	蓋	1
		壷	1
		鉢	2
		備前系擂鉢	3
		こね鉢	6
		植木鉢	1
		火鉢	3
		はんど	4
		五徳	5
		皿	13
		七厘	2
		土瓶胴折型	1
		灯明皿	8
		徳利	4
		片口	9
		瓦	41
		不明	1,428
近世	土器	鉢類	1
		ほうろく	1
		七厘	1
		五徳	2
		七厘若しくは五徳	1
		不明	18
	瓦質土器	鉢類	3
		鉢	1
		不明	1
	磁器	不明	55
		碗	2
	染付	皿	7
		仏飯具	1
		不明	1,525
	陶器	擂鉢	93
		土瓶	2
	唐津焼	擂鉢	9
		不明	39
	陶器人形	長浜人形	2
	石見焼	徳利	1
		不明	2
	古銭	寛永通宝	3
	銅製品	キセル	6
		銅製錘	1
		不明	3
	窯道具	不明	1
近世以降	陶器	燻し瓦	1
		ハセ	5
		ハリ	2
		タイル	1
	石見焼	瓦	28
不明	チャート系	砥石	1
		不明	1
	凝灰岩系	砥石	1
	砂岩系	砥石	1
	不明	要石	1
	粘板岩系	砥石	3
	土器	高坏	4
		甕	1
		不明	343
	土師器	甕	1
		鉢類	1
		壷	1
		不明	5
	粘土魂	焼粘土塊	38
	須恵器	甕	1
	瓦質土器	鉢	1
	鉄製品	やりがんな	1
		工具	1
		釘	6
		鉄塊	3
		不明	12
	古銭	不明	1
	鉄塊	不明	17
	自然物	骨	1
	不明	不明	1
総計			8,712

第33表　遺物観察表

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
1	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	縄文土器	不明		2.1～			ナデ	施紋		3条の沈線を施す	淡茶色	暗茶色	淡茶色	粗、1mm程の白色砂粒目立つ。黒曜石の石粒を含む。	やや不良	縄文	黒曜石の石器製作場と同じ所で土器製作を行っていた可能性有り。
2	Ⅱ区	D		茶色粘質土層	土師器	甕	20.0	3.5～			ヨコナデ			口縁端部に面を持つ	淡橙色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳中期	
3	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	弥生土器	不明		2.8～							暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、2mm程の砂粒を多く含む。	やや不良	弥生後期	円盤型土製品の可能性あり。
4	Ⅰ区	B			土器	不明		3.7～						肥大した器壁	黒色	黒色	黒色	粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	不明	
5	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	土器	不明		3.7～						肥大した器壁	黒色	黒色	黒色	やや粗、1mm程の砂粒を多く含む。	やや不良	不明	
6	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	坏	14.0	4.15～			ナデ				黄茶色	暗茶色	黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	外面にスス付着。
7	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	弥生土器	甕	17.4	2.1～			風化により不明				淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	粗、2mm程の砂粒を多く含む。	良	弥生後期	
8	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	18.2	5.0～			ヨコナデ				淡灰茶色	暗茶色	淡灰茶色	粗、4mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	
9	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	11.0	2.15～			指オサエ	ヨコナデ			暗橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を多く含む。	良	奈良～平安	内面にスス付着。
10	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	土師器	甕	16.0	4.4～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡茶白色	淡茶色	淡茶白色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
11	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	土師器	甕	13.6	3.0～			ヨコナデ	ヘラケズリ			茶色	明橙色	茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
12	Ⅱ区	F		暗灰色粘質土層	土師器	甕	12.8	2.1～			ヨコナデ				明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
13	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	21.0	3.4～			不明	ヨコナデ		端部に面を持つ	淡橙色	淡茶色	明橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
14	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	21.9	8.6～			ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコハケメ	口縁端部外面に面を持つ	淡茶白色	淡茶色	暗茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	奈良～平安	
15	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	19.4	3.8～			不明	ヨコナデ			黄橙色	明橙色	明橙色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	良	奈良～平安	
16	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	22.0	3.75～			ヘラケズリ	ヨコナデ			淡茶色	暗桃色	暗桃色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
17	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	23.2	3.4～			ヨコナデ	ヘラケズリ		口縁端部肥厚し、内湾する	淡黄色	淡黄色	淡黄色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	
18	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	土師器	甕	22.5	2.75～			ヘラケズリ	ヨコナデ			黄茶色	暗茶色	黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	外面被熱。
36	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋	7.6	2.0～			回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	つまみ付後ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良。久本奥Ⅵ期。	
37	Ⅰ区	B	P275	淡灰茶色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋	7.6	1.5～			回転ナデ	切離し後回転ヘラケズリ	回転ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	奈良。久本奥Ⅵ期。	
38	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	蓋	18.4	2.0～			回転ナデ				灰色	灰色	淡灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良	ゆがみ有り。
39	Ⅱ区	D	SX09		須恵器	蓋	15.4	2.2～	15.9		回転ナデ			口縁端部やや内傾する	淡灰色	淡灰色	淡橙灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	
40	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	蓋	9.4	2.1～	14.5	14.3	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ		つまみ無し若しくはボタン状つまみ	灰色	灰色	灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	
41	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	蓋	8.3	2.2～	13.6	13.5	回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	重ね焼痕有り。
42	Ⅰ区	A			須恵器	蓋	7.6	1.4～			回転ナデ	回転糸切り		つまみ無し若しくはボタン状つまみ	灰色	灰色	灰色	密、黒色粒を多く含む。	良好	奈良	ロクロR。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
43	Ⅰ区	B	建物04P	暗灰色粘質土層	須恵器	蓋		2.0～			回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡紫灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	
44	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	輪状つまみ蓋	4.9	1.5～			回転ナデ	回転糸切り	つまみ付後ナデ		灰色	灰色	灰色	密、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良～平安。久本奥Ⅵ期。	ロクロL。
45	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	蓋	12.6	1.8～			回転ナデ				灰色	灰色	灰色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	重ね焼痕有り。
46	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	蓋		1.8～	13.8	13.1	回転ナデ				暗青灰色	暗青灰色	暗青灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を多く含む。	良好	奈良	ゆがみ有り。
47	Ⅰ区	A		青灰色土層	須恵器	輪状つまみ蓋	7.2	3.3	13.7	13.2	回転ナデ	ヘラケズリ後ナデ		口縁端部まきこむ	灰色	灰色	灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	重ね焼痕有り。ロクロR。
48	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	蓋	5.4	2.9	13.9	13.5	回転ナデ		つまみ付後ナデ	口縁屈曲せず開く	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良～平安	
49	Ⅱ区	D		暗茶灰色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋	5.0	3.3	13.0	12.9	回転ナデ		つまみ付後ナデ		青灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の砂粒を多く含む。	良	奈良。久本奥Ⅵ期。	重ね焼痕有。調整が雑になっている。
50	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋		2.65～	12.0	11.7	回転ナデ	つまみ付後ナデ			淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	奈良。久本奥Ⅵ期。	
51	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋	6.9	2.9	12.6	12.2	回転ナデ	切離し後ナデ	つまみ付後ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良	
52	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	輪状つまみ蓋	6.9	3.05	12.5	12.2	回転ナデ	つまみ付後丁寧なナデ			灰白色	灰白色	灰白色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	やや不良	奈良	
53	Ⅰ区	B		淡橙色粘質土層	須恵器	蓋		1.8～	12.4	12.2	回転ナデ			端部の反りが弱い	淡黄灰色	淡黄灰色	淡黄灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	不良	奈良	
54	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	輪状つまみ蓋	7.0	2.3	13.6	13.4	回転ナデ	つまみ付後ナデ		端部折り返される	灰色	灰色	灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良	平安	
55	Ⅱ区	D	集石01		須恵器	高台付皿	6.45	3.7	14.0	13.8	回転ナデ	回転糸切り	高台付後ナデ	高台端部に面を持つ	青灰色	青灰色	青灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	ロクロL。
56	Ⅱ区	D		淡灰色粘質土層	須恵器	高台付坏		5.2～		9.3	回転ナデ	回転ヘラケズリ	高台付後ナデ	高台底強いナデによりくぼむ	暗灰色	暗灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良	
57	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	高台付坏	13.8	6.0	14.0	9.2	回転ナデ	高台付後ナデ		高台タタミ付くぼむ	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	底部外面に自然釉。
58	Ⅰ区	A			須恵器	高台付坏	14.0	5.9～	14.2	11.3	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ	口縁端部つまみ出す。高台タタミ付くぼむ。	淡白色	淡灰色	淡白色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	やや不良	奈良	
59	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	高台付坏	14.2	7.7	14.3	7.3	回転ナデ	高台付後ナデ		高台外側に付き、端部折返す	淡灰色	灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	
60	Ⅰ区	B		排土	須恵器	高台付坏	13.5	4.3	13.6	9.3	回転ナデ	高台付後ナデ		口縁先細り外反	淡灰色	暗灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	奈良	
61	Ⅱ区	D		暗茶灰色粘質土層	須恵器	高台付坏		3.2～		7.6	回転ナデ	回転ヘラケズリ	高台付後ナデ	高台タタミ付に段を持つ	淡灰色	灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	
62	Ⅱ区	D		排土	須恵器	高台付坏		2.2～		8.4	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ			灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	奈良	
63	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	高台付坏	10.8	4.3	11.0	7.8	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ	高台外側に付く	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm程の砂粒を含む。	良好	奈良	伏せて焼いている。
64	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	高台付坏	11.6	4.7	11.8	7.5	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ		乳白色	淡灰白色	乳白色	密、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	ロクロL。
65	Ⅰ区	B		濃茶橙色粘質土層	須恵器	高台付坏		3.8～		7.8	回転ナデ	回転ヘラ切り		高台タタミ付くぼむ	淡青灰色	淡青灰色	淡青灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を多く含む。	良好	奈良～平安	
66	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	高台付坏	11.0	5.2	11.05	6.7	回転ナデ	高台付後ナデ			淡灰色	暗灰色	淡灰色	密、1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	奈良	内面にスス付着。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
67	Ⅰ区	A		排土	須恵器	高台付坏	11.8	5.2	12.0	7.4	回転ナデ	回転ヘラ切り後ヘラおこし	高台付後ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良	
68	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	高台付坏	14.2	6.75	14.3	7.6	回転ナデ	回転糸切り	高台付後ナデ	高台断面一部逆三角形になる	淡青灰色	淡青灰色	淡青灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	奈良	ロクロR。
69	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	高台付坏	11.5	5.5	11.6	5.8	回転ナデ				灰色	暗灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良	
70	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	高台付坏	12.6	5.7	12.7	6.2					灰白色	灰白色	灰白色	密、あまり砂粒を含まない。	不良	奈良	風化の為調整不明。
71	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	坏		3.1～		8.05	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の黒色粒を含む。	やや不良	奈良	墨書「×」。ロクロR。
72	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層	須恵器	高台付坏	12.1	5.3	12.4	7.8	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ		高台が外側に付く	淡灰白色	淡灰白色	淡灰白色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	奈良	
73	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	高台付坏	13.8	6.6	14.0	8.0	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ		灰白色	灰白色	灰白色	密、1mm以下の白色砂粒を含む。	良好	奈良	ロクロL。
74	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	高台付坏	12.4	5.4	12.8	6.7	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ	口縁端部つまみ出し面を持つ。高台退化する。	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の黒色粒を含む。	良好	奈良～平安	ロクロL。
75	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層	須恵器	坏	14.2	5.5	14.4	6.8	回転ナデ				灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の白色砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
76	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層	須恵器	坏	13.2	4.75	13.4	6.8	回転ナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラケズリ		乳白色	乳白色	乳白色	密、2mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	底部付近回転ヘラケズリ。ロクロL。
77	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	坏	12.7	4.4	12.8	6.0				体部内湾	乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm程の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	風化の為調整不明。
78	Ⅱ区	D		淡灰色粘質土層	須恵器	坏	12.0	4.5	12.2	7.0				口縁肥厚している	乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	風化の為調整不明。
79	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	坏	11.5	4.3	11.6	7.4	回転ナデ	回転ヘラ切り後調整不明			乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
80	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	坏	12.6	5.0	12.7	7.8	回転ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ			灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
81	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	坏	11.4	3.75	11.6	6.7	回転ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ		口縁やや肥厚	茶灰色	茶灰色	茶灰色	密、2mm程の砂粒を含む。	良	奈良～平安	口縁端部黒色。
82	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	坏	11.2	3.6	11.4	7.0	回転ナデ	回転ヘラ切り			淡青灰色	淡灰色	淡青灰色	やや粗、2mm以下の長石を多く含む。	やや不良	奈良～平安	
83	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	坏	11.2	3.1	11.4	7.8	回転ナデ		底部ナデ		灰色	灰色	灰色	やや粗、1mm程の砂粒を多く含む。	良好	奈良～平安	重ね焼痕有り。
84	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	坏	12.8	3.8	12.9	8.2	回転ナデ	回転ヘラ切り			淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
85	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層	須恵器	坏	12.3	3.8	12.4	7.9	回転ナデ	回転ヘラ切り			灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
86	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	坏	13.2	3.75	13.4	8.0	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ			灰白色	灰白色	灰白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
87	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	坏	12.15	3.6	12.2	7.9	回転ナデ	回転ヘラ切り			乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	
88	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	坏		2.0～		7.2	回転ナデ	回転ヘラ切り			灰白色	ススにより黒色	灰白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	不良	奈良～平安	内外共にスス付着。ロクロL。
89	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	坏		2.6～		7.0	回転ナデ	回転ヘラ切り			乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	ロクロL。
90	Ⅱ区	D	P163	暗茶灰色粘質土層	須恵器	坏		1.4～		6.5	回転ナデ	回転ヘラケズリ			灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
91	Ⅰ区	A			須恵器	坏		2.7～		4.9	回転ナデ	回転ヘラ切り			淡灰白色	淡灰白色	淡灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
92	Ⅰ区	B		青灰色砂レキ層	須恵器	坏		2.5～		6.5					乳白色	乳白色	乳白色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	
93	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層	須恵器	坏		1.6～		8.6	回転ナデ				淡灰白色	淡灰白色	淡灰白色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	
94	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	坏		1.5～		7.2	回転ナデ				乳白色	乳白色	乳白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	
95	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	坏	12.4	4.25～			回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
96	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層	須恵器	坏	11.6	3.5～	11.7		回転ナデ				乳白色	乳白色	乳白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	
97	Ⅰ区	B	P316	暗灰色粘質土層	須恵器	坏	12.6	4.2～	12.7		回転ナデ				暗紫色	暗灰色	暗灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
98	Ⅰ区	B	建物02P2	淡灰茶色粘質土層	須恵器	坏	12.2	3.0～	12.3		回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	重ね焼痕有り。
99	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	坏	11.9	3.7～	12.2		回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良～平安	
100	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	坏	17.5	4.15～	17.6		回転ナデ			口縁端部つまみ出し外反する	青灰色	黒灰色	青灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良～平安	
101	Ⅰ区	B		暗茶灰色粘質土層	須恵器	坏若しくは壷	13.6	6.6～			回転ナデ				灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良	奈良～平安	外面に自然釉。
102	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	坏	11.5	4.05	11.6	7.3	回転ナデ	回転糸切り			灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の黒色粒を含む。	良好	奈良～平安	ロクロR。
103	Ⅰ区	A		淡灰茶色土層	須恵器	坏	12.6	4.8	12.8	5.5	回転ナデ	回転糸切り		口縁外反する	淡灰色	淡灰色	淡灰色	良好、2mm程の白色砂粒を含む。	やや不良	平安	ロクロR。
104	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	坏		2.6～		6.7	回転ナデ	回転糸切り			暗灰色	暗灰色	暗紫色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	平安	ロクロR。
105	Ⅱ区	D	P145	淡茶色粘質土層	須恵器	坏		1.6～		5.3	回転ナデ	回転糸切り			暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	平安	ロクロR。
106	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	須恵器	坏		1.7～		6.2	回転ナデ	回転糸切り			淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒多く含む。	やや不良	平安	ロクロR。
107	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層	須恵器	坏		2.6～		6.2	回転ナデ	回転糸切り			灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	ロクロR。
108	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	坏		2.0～		9.1	回転ナデ	回転糸切り後ナデ			淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の白色砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	ロクロR。
109	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	壷	13.2	2.5～			回転ナデ			端部つまみ出す	灰色	暗灰色	灰色	やや粗、1mm程の砂粒を多く含む。	良好	奈良～平安	
110	Ⅱ区	D	建物16P2	暗茶色粘質土層	須恵器	壷		4.3～			回転ナデ				青灰色	青灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
111	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	須恵器	壷		14.1～			回転ナデ	頸部付け後ナデ			淡青灰色	淡青灰色	淡青灰色	やや粗、1mm以下の白色砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
112	Ⅰ区	A		淡茶色土層	須恵器	壷		4.2～			回転ナデ			肩鋭角に張る	淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	奈良	
113	Ⅱ区	D		暗茶灰色粘質土層	須恵器	壷（高台付）		3.0～		8.6	回転ナデ		高台付後ナデ		灰色	灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	外面に自然釉。
114	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	壷		4.4～			回転ナデ				暗灰色	暗灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
115	Ⅰ区	A		淡灰茶色土層	須恵器	壷		3.55～			回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良～平安	
116	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	須恵器	壷若しくは瓶類		5.0～			回転ナデ				淡灰色	淡青灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	肩部に自然釉。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
117	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	甕	18.1	6.1～			回転ナデ			口縁端部平坦	灰色	灰色	淡灰色	やや粗、黒色粒を含む。	良好	奈良	
118	Ⅱ区	D		淡灰色粘質土層	須恵器	壷若しくは甕		6.7～		20.1	内：同心円タタキ	回転ナデ		底部周辺にヘラケズリ	暗紫色	青灰色	暗紫色	粗、1mm程の砂粒を多く含む。	良好	平安～中世	外面は荒れている。
119	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	須恵器	壷若しくは甕		5.7～		12.2	回転ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ			淡灰色	暗灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	平安～中世	
120	Ⅰ区	C		暗茶色粘質土層	須恵器	甕		6.1～			タタキ後ナデ			沈線が入る	暗灰色	暗灰色	暗紫色	密、1mm程の砂粒を含む。	堅致	古墳後期～奈良	
121	Ⅰ区	B		暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	須恵器	甕		8.1～			タタキ後ナデ				淡青灰色	淡灰色	淡青灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～平安	
122	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	器台若しくは甕	48.6	13.0～			回転ナデ	波状文		口縁内傾し、面を持つ	灰色	灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～平安	
123	Ⅱ区	D		暗茶黒色粘質土層	須恵器	器台若しくは甕		9.4～		32.4	回転ナデ	波状文		端部内傾し、面を持つ	灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。黒色粒を含む。	良好	古墳後期～平安	外面に自然釉。口縁を下向きに焼成。
124	Ⅰ区	A		暗灰色・青灰色砂レキ層	土師器	高台付坏		2.0～		7.4	ナデ		高台付後ナデ		桃白色	桃白色	桃白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	植物痕跡有り。
125	Ⅱ区	D			土師器	坏	11.6	3.95	11.8	4.4	回転ナデ	回転糸切り			淡茶白色	淡茶白色	淡茶白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良	平安～中世	ロクロR。
126	Ⅰ区	B	建物16P6	暗灰色粘質土層	土師器	坏	7.9	1.8～	8.0		回転ナデ				明橙色	明橙色	明橙色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	
127	Ⅰ区	A		排土	土師器	坏		1.45～			回転ナデ				淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	密、あまり砂粒を含まない。	良	中世～近世	内面に赤彩。
128	Ⅱ区	F		暗青灰色粘質土層	土師器	坏		1.9～		3.7	回転ナデ	回転糸切り			暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	ロクロR。
129	Ⅰ区	A		淡灰茶色粘質土層	土師器	坏		1.8～		5.0	回転ナデ	回転糸切り			淡橙色	淡茶白色	淡橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	平安末～中世	ロクロR。
130	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	土師器	坏		1.6～		4.2	回転ナデ				淡茶白色	乳白色	淡桃色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	平安末～中世	
131	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	土師器	坏		1.5～		7.4	回転ナデ	回転糸切り			淡茶色	淡茶色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	ロクロR。
132	Ⅰ区	A		青灰色土層	土師器	坏		1.8～		5.4	回転ナデ	回転糸切り			黄白色	黄白色	黄白色	密、あまり砂粒を含まない。	やや不良	平安～中世	ロクロR。
133	Ⅰ区	C		淡茶色粘質土層	須恵器	甕		4.0～			タタキ				暗茶色	暗灰色	暗灰色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	やや不良	平安～中世	
134	Ⅰ区	A		表採	土師器	製塩土器		2.85～			外：ナデ	内：布目			淡桃色	淡橙色	淡黄色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	不明	
135	Ⅰ区	A		淡茶色土層	陶器	壷	13.2	22.85～	20.8		回転ナデ	不定方向ナデ		肩部に波状文	暗茶色	淡灰色	淡灰色～暗紫色	密、1mm程の小礫を含む。	堅致	中世	備前Ⅴ期と思われる。
136	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	備前系擂鉢	29.9	7.8～			回転ナデ	ハケメ			暗灰色	暗灰色	暗紫色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	使用によりハケメ磨滅。137と同一個体の可能性有り。
137	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	須恵器	備前系擂鉢		4.15～		11.8	回転ナデ	ハケメ			暗灰色	暗灰色	暗紫色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	使用によりハケメ磨滅。136と同一個体の可能性有り。
138	Ⅱ区	D		暗黒色粘質土層	白磁	碗	16.4	4.8～						玉縁口縁	白色	白色	灰色	密。	良好	中世前期	白磁Ⅳ類。
139	Ⅱ区	D		淡茶色土層	青磁	碗		1.6～		4.8		高台ケズリ出し	スタンプ		灰色	青緑色	灰色	堅致。	良好	中世	産地不明。
140	Ⅱ区	F		暗灰茶色粘質土層	青磁	碗		3.0～		4.6					暗緑色	暗緑色	灰白色	密。	良好	中世	龍泉窯系。
141	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	不明土器	不明		2.1～		12.4	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ミガキのような調整		黒色	淡橙色	黒色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	不明	

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
142	Ⅱ区	D	SK23	暗灰茶色粘質土層	磁器	碗	10.7	6.7	11.1	5.4	回転ナデ	回転ヘラケズリ		見込みに3ヶ所の砂土目。タタミ付釉かき取り痕。	青乳白色	青乳白色	灰色	密、砂粒を含まない。	良好	近世	2次的に被熱
143	Ⅰ区	A			瓦質土器	鉢類		2.8～			回転ナデ	スタンプ文			淡茶色	淡茶色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	近世	
144	Ⅰ区	B			瓦質土器	不明		1.7～			回転ナデ	スタンプ文			暗灰色	暗灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	近世	
145	Ⅰ区	A		明茶色土層	土師器	鉢類		3.1～			回転ナデ				淡茶色	淡茶色	淡茶色	密、あまり砂粒を含まない。	良	不明	淡橙色の化粧土を施し施釉している。緑色釉薬がかかる。
146	Ⅱ区	F			瓦質土器	鉢	16.4	3.0～	18.6		回転ヘラケズリ	回転ナデ	内:ヨコハケメ	口縁面を持ち、端部つまみ出す	黄白色	暗灰色	黄白色	粗、あまり砂粒を含まない。	良好	不明	
147	Ⅰ区			暗灰色粘質土層（砂レキ含む）	近世土器	五徳	25.0	5.05～			ナデ				淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	近世	
148	Ⅰ区	B		黒灰色粘質土層	土器	五徳	18.6	7.9～			回転ナデ	突起貼付け後ナデ			暗茶色	暗茶色	暗茶色	粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	近世	スス付着。
149	Ⅰ区			暗灰色粘質土層（砂レキ含む）	瓦質土器	鉢	22.5	4.95～			回転ナデ	ヘラミガキ		口縁端部に面を持つ	黒色	黒色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	近世	スス付着。
150	Ⅰ区	B		黒灰色粘質土層	土師器	鉢類	15.3	4.0～			回転ナデ			口縁内側へ肥大し、面を持つ	淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	良好	近世	
151	Ⅱ区	E		暗茶灰色粘質土層	瓦質土器	鉢類		5.6～			回転ナデ	ヘラミガキ		2条の沈線。頸立ち上がりS字の施文。	暗灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	近世	
152	Ⅰ区	A		明茶色土層	土師器	ほうろく	41.2	6.0～			回転ナデ	内：ハケメ			明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	近世	
153	Ⅱ区	E		暗灰茶色粘質土層	瓦質土器	鉢類		4.4～		26.8	手捏ね	ナデ			淡灰色	淡灰色	黒色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	中世～近世	

第34表　土錘観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）					形成方法	特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
						長さ	幅	厚さ	孔径	重さ(g)			内面	外面	断面				
19	Ⅰ区	B	暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	土師器	土錘	3.9	2.1	1.8	0.7	10	手捏ね		明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良～平安	4割欠損
20	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土師器	土錘	4.0	2.0	1.9	0.6	12	手捏ね	¥胎土中に植物を含む	橙白色	橙白色	橙白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	奈良～平安	
21	Ⅱ区	E	暗黒色粘質土層	土師器	土錘	3.75	2.15	2.15～	0.7	13	手捏ね		淡橙茶色	淡橙茶色		やや粗、2mm程の砂粒を若干含む。	良好	奈良～平安	
22	Ⅱ区	F	暗灰茶色粘質土層	土師器	土錘	3.2	2.05	2.25	0.6	12	手捏ね		淡黄色	淡黄色	淡黄色	やや粗、2mm以下の砂粒を多く含む。	良	弥生～平安？	
23	Ⅱ区	D	赤橙色粘質土層	土師器	土錘	3.25	2.0	1.7	0.7	9	手捏ね	胎土中に植物を含む	淡橙茶色	淡橙茶色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
24	Ⅰ区	B	暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	土師器	土錘	3.0	2.3	1.55～	0.5	7	手捏ね		淡茶橙色	淡茶橙色	淡茶橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	やや不良	奈良～平安	5割欠損
25	Ⅰ区	B	暗茶色粘質土層（包含層、炭含む）	土師器	土錘	2.8	2.2	2.0	0.7	10	手捏ね		淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	

第34表　土錘観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）					形成方法	特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
						長さ	幅	厚さ	孔径	重さ(g)			内面	外面	断面				
26	Ⅱ区	D	暗黒色粘質土層	土師器	土錘	3.5	2.4	2.4	0.8～0.85	17	手捏ね		淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
27	Ⅰ区	B	暗茶色粘質土層	土師器	土錘	4.0～	2.7	2.4～	0.7	18	手捏ね		橙灰色	橙灰色	橙灰色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	奈良～平安	2割欠損
28	Ⅱ区	E	暗灰色粘質土層	土師器	土錘	4.3	2.6	2.5	0.8～1.0	21	手捏ね		灰白色～暗灰色	灰白色～暗灰色	灰白色～暗灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
29	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	土師器	土錘	4.2	2.8	2.7	0.7	27	手捏ね		淡灰茶色	淡灰茶色	淡灰茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を少量含む。	やや不良	奈良～平安	
30	Ⅱ区	D	暗黒色粘質土層	土師器	土錘	3.7～	2.7	2.55	0.6～0.7	17	手捏ね	胎土中に植物を多く含む	淡灰白色	淡灰白色	淡灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
31	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土師器	土錘	5.55	3.1	2.6	0.7～0.9	52	手捏ね	胎土中に植物を含む	灰白色	灰白色	灰白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
32	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土師器	土錘	5.8	3.5	3.2	0.8	51	手捏ね	胎土中に植物を含む	白色	白色	白色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
33	Ⅱ区	F	暗青灰色砂レキ層	土師器	土錘	5.4	2.6	2.5	0.6	25	手捏ね		淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	奈良～平安	
34	Ⅱ区	D	暗黒色粘質土層	土師器	土錘	7.1	4.35	3.5	0.75～0.9	111	手捏ね	胎土中に穀物殻を多く含む	淡茶橙色	淡茶橙色	淡茶橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良	奈良～平安	
35	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土師器	土錘	7.6	4.15	4.1～	0.8～0.95	98	手捏ね	胎土中に穀物殻を多く含む	淡茶橙色	淡茶橙色	淡茶橙色	やや粗、2～3mm程の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	

第35表　鞴羽口観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）				形成方法	色調			胎土	焼成	時代
						長さ	厚さ	口径	直径		内面	外面	断面			
154	Ⅱ区	D	暗茶灰色粘質土層	土製品	鞴羽口	8.1	4.7	3.6	8.4	手捏ね	暗灰色	淡灰色	黄白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世
155	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	6.7	2.7	3.2	7.4	手捏ね	灰白色	淡灰色	橙茶色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	良好	中世
156	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	8.6	3.2	3.5	7.6	手捏ね	淡橙色	淡灰色	灰白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	中世
157	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	9.0	3.0	3.3	9.4	手捏ね	明橙色	淡灰色	明橙色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	良好	中世
158	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	8.6	4.2	4.6	9.7	手捏ね	明橙色	淡灰色	明橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を若干含む。	良好	中世
159	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	6.8	4.0	4.7	9.0	手捏ね	淡橙色	灰色	明橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	中世
160	Ⅱ区	D	暗茶黒色粘質土層	土製品	鞴羽口	9.0	6.2	3.6	8.0	手捏ね	淡茶色	淡灰色	淡茶色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	中世
161	Ⅱ区	D	暗茶灰色粘質土層	土製品	鞴羽口	6.6	2.1	—	—	手捏ね	黄橙色	灰色	赤橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を若干含む。	良好	中世

第36表　炉構造材・鉄滓観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	重さ(g)	備考
162	Ⅰ区	A	暗灰色・ 青灰色砂レキ層	炉構造材	炉壁	2,000.00	通風孔の傾斜が10度。 設置角が5度。
163				炉構造材	炉壁	102.00	
164	Ⅰ区	A	排土	炉構造材	炉壁	225.00	
165	Ⅰ区	A		炉構造材	炉壁	1,000.00	
166	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	1,200.00	
167	Ⅰ区	A	暗灰色・ 青灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	1,800.00	
168	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	315.00	
169	Ⅰ区	A	青灰色砂レキ層	炉構造材	炉壁	3,000.00	通風孔の傾斜が5度。 設置角が30度。
170				鉄滓	炉底滓	7,000.00	炉床が溶着している。 流出孔付近と思われる。
171				鉄滓	炉底滓	4,000.00	中央部窪む。
172	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	鉄滓	流出滓	481.00	再結合。
173	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流出滓	337.00	
174				鉄滓	炉内滓	600.00	
175	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	800.00	
176	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	1,200.00	炉床土を含む。
177				鉄滓	流動滓	212.34	
178	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	292.91	上下2層に分離している。
179	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	167.82	
180	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	235.71	工具跡残る。
181	Ⅰ区	A	暗灰色・ 青灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	294.24	炭化物多く含む。炉壁付着。
182	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流出孔滓	358.78	
183	Ⅰ区	B	暗茶色粘質土層	鉄滓	単位流動滓	98.17	
184	Ⅰ区	A		鉄滓	流動滓	60.43	
185	Ⅰ区	A		鉄滓	流動滓	84.71	
186	Ⅰ区	A		鉄滓	流動滓	25.12	
187	Ⅰ区	A	排土	鉄滓	流動滓	67.16	
188	Ⅰ区	A	排土	鉄滓	流動滓	53.02	
189				鉄滓	流動滓	159.88	
190				鉄滓	流動滓	82.81	

第37表　石器観察表

掲載No.	地区		土色	器種	石材	寸法（cm）				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
S1	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	2.1	1.55	0.3	0.93	凹基型。
S2	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	2.2	1.6	0.4	1.14	凹基型。
S3	Ⅰ区	A	淡灰茶色土層	石鏃未製品	サヌカイト	2.6～	2.1～	0.6	2.31	
S4	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	1.9～	1.7～	0.4	1.44	凹基型。
S5	Ⅰ区	A	暗灰色粘質土層	石鏃未製品	サヌカイト	2.1～	1.55～	0.4	1.16	凹基型。
S6	Ⅱ区	E	暗茶色粘質土層	石鏃未製品	石英	2.2	1.5	0.8	1.88	
S7	Ⅰ区	A	暗灰色砂質土層 (おもかす層含む)	石鏃未製品	黒曜石	2.5	2.1	0.9	3.33	凹基型。
S8	Ⅰ区	B	淡茶色土層	石錐	黒曜石	3.4	1.5	0.55	1.79	
S9	Ⅰ区	B	淡茶色土層	未製品	黒曜石	3.55	2.2	1.1	5.64	石錐の未製品の可能性有り。
S10	Ⅰ区	A	青灰色土層	未製品	黒曜石	3.25	2.1	1.0	5.50	
S11	Ⅰ区	A	排土	未製品	サヌカイト	2.3	2.0	0.55	2.74	
S12	Ⅰ区	A		未製品	サヌカイト	2.3	2.3	0.35	1.66	
S13	Ⅰ区	A	暗灰色・ 青灰色粘質土層	未製品	黒曜石	2.2	1.6	0.5	1.62	
S14	Ⅰ区	A	淡灰茶色土層	未製品	サヌカイト	3.5	2.5	0.6	3.86	
S15	Ⅰ区	A	淡灰色粘質土層	台形石器	黒曜石	3.4	1.8	0.9	5.31	

第37表　石器観察表

掲載No.	地区		土色	器種	石材	寸法（cm）				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
S16	Ⅰ区	A	排土	石刃未製品	サヌカイト	4.0	2.4	0.75	7.19	
S17	Ⅰ区	A	淡灰茶色土層	石刃未製品	サヌカイト	4.2	3.2	0.9	11.18	
S18	Ⅰ区	A		核	黒曜石	2.55	2.25	1.15	6.01	
S19	Ⅰ区	A	茶灰色粘質土層	未製品	黒曜石	2.4	2.2	0.65	2.80	
S20	Ⅰ区	A	淡灰茶色土層	未製品	黒曜石	2.1	1.95	1.0	5.00	
S21	Ⅰ区	A	排土	未製品	サヌカイト	3.1	2.3	0.7	6.01	
S22	Ⅰ区	A	淡茶色土層	石刃未製品	黒曜石	6.0	2.7	1.3	15.03	
S23	Ⅰ区	B	淡灰色粘質土層	石匙	粘板岩系	4.0	3.1	0.6	6.82	
S24	Ⅰ区	A	淡茶色土層	チョッパー		6.9	6.6	1.5	104.70	
S25	Ⅰ区	B		石錘	凝灰岩系	5.5	5.6	2.0	92.40	
S26	Ⅱ区	D	暗茶色粘質土層	磨石		9.6	9.0	4.1	563.00	P289
S27	Ⅰ区	A	淡灰茶色粘質土層	磨石	安山岩系	6.2	4.7	1.7	69.41	
S28	Ⅱ区	D	淡灰色粘質土層	磨石	凝灰岩系	10.0	8.6	4.25	498.00	
S29	Ⅰ区	A	排土	打製石斧	凝灰岩系	9.9	4.1	1.6	77.89	風化による磨滅が激しい。
S30	Ⅰ区	A	茶灰色粘質土層	打製石斧	サヌカイト	8.0	3.5	0.8	26.67	風化による磨滅が激しい。
S31	Ⅰ区	A	排土	磨製石斧	凝灰岩系	6.2～	4.7～	4.1	179.38	
S32	Ⅰ区	B		偏平磨製石斧	サヌカイト	13.2	5.4	2.2	215.83	
S33	Ⅰ区	A	排土	磨製石斧	サヌカイト	3.9～	2.9～	0.6～	7.99	
S34	Ⅱ区	G	淡灰茶色粘質土層	砥石	砂岩系	6.6	5.2	1.7	80.27	P92
S35	Ⅰ区	B	淡茶色土層	砥石	チャート系	8.05	3.6	0.9	29.73	棒状の物を研ぐ砥石。
S36	Ⅰ区	B		砥石	粘板岩系	3.6～	3.6～	0.8	10.27	
S37	Ⅰ区	A		砥石	粘板岩系	3.5～	4.8～	0.3	6.97	
S38	Ⅰ区	A		砥石	凝灰岩系	3.8～	3.0～	1.1	15.13	
S39	Ⅱ区			不明	チャート系	5.6～	2.8～	0.85	16.03	木の葉形石製品。
S40	Ⅰ区	B		要石		29.5	11.5	9.1	5000.00	全面砥石として使っている。
S41	Ⅰ区	B	淡茶色粘質土層	砥石	粘板岩系	9.0	5.15	0.8	33.43	
S42	Ⅰ区	B		碁石状石製品	安山岩系	2.1	2.1	0.5	3.03	碁石の可能性有り。

第38表　骨製品観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
B1	Ⅰ区	A	淡灰茶色粘質土層	骨製品	棒状骨製品	2.45	0.6	0.6	1.61	棒状に面取りを施し端部とがらせる

第39表　鉄器観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）				備考
						全長	鏃身幅	頸部長	重さ(g)	
F1	Ⅰ区	A	茶灰色粘質土層下層	鉄器	鉄鏃	12.3	4.7	4.8	28.42	二又鏃。櫛被付し。

第40表　木製品観察表

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W1	Ⅰ区	B	性格不明遺構01		容器	挽物	漆器碗	腰が深い		器高 4.2～	底径 7.8			
W2	Ⅰ区	A		暗青灰色土層	容器	挽物	漆器碗	厚底		器高 3.1～	底径 6.6			
W3	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗		口径 14.8	器高 4.0～				
W4	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗	厚底		器高 2.0～	底径 7.8			
W5	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗	腰が深い		器高 6.2～	底径 7.8			
W6	Ⅰ区	A		暗灰色砂レキ層	容器	挽物	漆器皿			器高 1.65～	底径 4.8			
W7	Ⅰ区	B	P340		容器	挽物	漆器碗		口径 13.8	器高 6.35	底径 7.1			
W8	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗	腰が深い	口径 16.8	器高 6.05	底径 8.7			
W9	Ⅰ区	A		茶灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗		口径 16.4	器高 4.9～				
W10	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗		口径 19.0	器高 5.75～				
W11	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗			器高 1.95～	底径 9.2			
W12	Ⅰ区	B	性格不明遺構01		容器	挽物	漆器碗	厚底		器高 3.4～	底径 5.4			
W13	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗		口径 18.8	器高 4.0～				
W14	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗		口径 18.3	器高 4.7～				
W15	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗	腰が浅い		器高 2.3～	底径 7.8			
W16	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗	厚底		器高 2.2～	底径 5.9			
W17	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器皿			器高 1.5～	底径 6.4			
W18	Ⅰ区	A		黒灰色粘質土層（やや砂っぽい）	容器	挽物	漆器碗	高台付く		器高 2.6～	底径 6.4			
W19	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗			器高 2.3～	底径 8.3			
W20	Ⅰ区	A			容器	挽物	漆器碗			器高 1.5～	底径 8.75			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W21	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗			器高 1.4～	底径 7.8			
W22	Ⅰ区	B	性格不明遺構01		容器	挽物	漆器碗			器高 1.55～				
W23	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	挽物	漆器碗			器高 3.45～				
W24	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層 (おもかす挟む)	食事具	杓子状木製品	その他		15.0	3.6	0.7			
W25	Ⅰ区	A			食事具	杓子状木製品	その他		17.2	7.7	0.9			
W26	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	食事具	杓子状木製品	その他		11.4	3.45	0.65			
W27	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	食事具	杓子状木製品	その他		11.0～	4.2～	0.4			
W28	Ⅰ区	A			食事具	杓子状木製品	その他		25.0	3.4	0.35			
W29	Ⅰ区	A			食事具	杓子状木製品	その他	一部炭化	25.2	6.2	0.75			
W30	Ⅰ区	A			不明品	匙状木製品	その他		40.8	10.2	3.3			
W31	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板	木栓止め2ヶ所	17.0～	7.3	0.8	容器の底の可能性。		
W32	Ⅰ区	A			不明品	板状具	有孔板	1箇所の穿孔	21.8～	5.65	1.15			
W33	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板		18.1	7.3	0.6			
W34	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	刳物	長方形盤		17.95～	2.2～	0.7			
W35	Ⅰ区	A			容器	曲物	底板		29.8～	0.9～	0.95	容器の底、若しくは蓋の可能性。		
W36	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	円盤状木製品		13.05～	3.6～	0.95			
W37	Ⅰ区	A			不明品	板状具	円盤型	曲物底部？	8.8～	1.7～	0.7			
W38	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	容器	曲物	底板		9.4～	7.3	0.5			
W39	Ⅰ区	A			容器	曲物	曲物身	一部炭化	23.3～	6.0	0.5			
W40	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	曲物	曲物身		6.3～	3.05	0.2			
W41	Ⅰ区	A			容器	曲物	曲物身	ケビキ跡	1.95～	2.5	0.25			
W42	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	容器	曲物	曲物身		4.75～	2.8	0.2			
W43	Ⅰ区	A			容器	曲物	曲物身		8.5～	4.2	0.25			
W44	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層 (砂レキを含む)	容器	曲物	曲物身	樹皮結束	7.25～	3.0～	0.35			
W45	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層 (やや砂っぽい)	容器	曲物	曲物身		14.4～	3.5	0.3			
W46	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	容器	曲物	曲物身	ケビキ跡	9.95～	4.6	0.3			
W47	Ⅰ区	A			不明品	板状具	先尖板	2箇所穿孔	13.4	1.8	1.0	木製の針、木針？		
W48	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	箸状細棒		12.3～	0.75	0.5			
W49	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層下層	不明品	棒状具	箸状細棒	端部やや炭化	9.8～	0.7	0.65			
W50	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層 (砂レキを含む)	不明品	棒状具	箸状細棒		10.05～	0.6	0.6			
W51	Ⅰ区	A			工具	棒状具	先尖棒	1方向切り落とし	5.1	0.65	0.5			
W52	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	棒状具	その他		4.6～	0.8	0.55			
W53	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	箸状細棒		6.35～	0.7	0.5			
W54	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	棒状具	先尖棒	一部炭化	17.6	1.6	0.7			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W55	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	棒状具	その他	端部ヘラ状に反る	25.2	2.0	1.05	端部炭化。		
W56	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	棒状具	その他		15.35～	2.3	1.15			
W57	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層上層	不明品	棒状具	箸状細棒		25.3	1.0	0.9			
W58	Ⅰ区	A		青灰色砂レキ層	不明品	棒状具	先尖棒		6.3～	1.1	0.8			
W59	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	不明品	棒状具	その他		14.15～	1.2	0.7			
W60	Ⅰ区	A		青灰色砂レキ層	不明品	棒状具	先尖棒		11.9～	1.0	0.9			
W61	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	角材	その他	端部切り落とし	16.2～	1.35	1.0			
W62	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	棒状具	その他		41.8	2.9	0.8			
W63	Ⅰ区	A			不明品	角材	その他	両端部切り落とし	25.9	4.25	3.7			
W64	Ⅰ区	A			不明品	板状具	ホゾ付き角材		19.9～	3.2	1.25			
W65	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	ホゾ穴	抉り入り	19.5～	3.5	1.7			
W66	Ⅰ区	A		青灰色砂レキ層上層	不明品	角材	ホゾ付き角材		20.4～	4.2	1.5			
W67	Ⅰ区	A			接合補助材	挿入型の止め具か把手	その他	ハンドル状	10.0	1.9	1.9			
W68	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	その他	有孔板	中央に穿孔、周囲5方に軸棒が通る	10.35	7.0～	2.3	はづみ車の可能性。		
W69	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板	端部切り落とし	10.25	9.0	0.8			
W70	Ⅰ区	A			不明品	板状具	有孔板		9.8	4.2	0.6			
W71	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板	軸棒残る	6.6	4.9	0.55			
W72	Ⅰ区	A		青灰色砂レキ層上層	不明品	板状具	その他	2方向切り落とし	29.9	5.6	0.25			
W73	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		33.4	4.1	0.6			
W74	Ⅰ区	A		地山上層	不明品	板状具	その他	両端部切り落とし	35.9	16.35～	1.3			
W75	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	1方向切り落とし	14.25～	5.1	0.55			
W76	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	ケビキ跡	14.9	3.9	0.65			
W77	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部切り落とし	9.3	4.3	0.5			
W78	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	両端部丸く仕上げる	12.8	4.8	0.7			
W79	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部切り落とし	6.9～	3.5	0.4			
W80	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	棒状具	先尖棒	端部炭化	10.4～	2.9	0.4			
W81	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	ケビキ跡	12.75	3.75	0.55			
W82	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		16.0	3.7	0.65			
W83	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部切り落とし	13.0～	3.1	0.6			
W84	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		10.7～	1.85	0.3			
W85	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		11.1～	2.2	0.3			
W86	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		9.55	3.75	0.55			
W87	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部切り落とし	7.15～	2.85	0.4			
W88	Ⅰ区	A			不明品	板状具	抉入板	円形抉り	16.8～	5.65～	0.6			
W89	Ⅰ区	A		暗灰色砂レキ層	不明品	棒状具	有孔棒		13.6～	1.1～	0.6			
W90	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	両端部切り落とし	12.8	3.85	1.0	木釘が残る。		
W91	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	短材	両端部切り落とし	7.7	3.8	0.9			
W92	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板	有孔	4.4	3.15	0.55			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W93	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	その他		26.1～	2.5	0.75			
W94	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	両端部切り落とし	50.5	3.9	0.8			
W95	Ⅰ区	A		暗青灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	刳り込み	14.9	1.95	0.45			
W96	Ⅰ区	A		暗青灰色土層	接合補助材	栓もしくは楔	その他	端部炭化	16.4～	6.7	0.8			
W97	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		6.4～	3.0～	0.25	容器の底、若しくは蓋の可能性。		
W98	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層下層	不明品	板状具	その他	一部炭化	3.75～	1.85	0.4			
W99	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部切り落とし	2.85～	2.5	0.2			
W100	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		4.7	1.2～	0.2			
W101	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		4.2～	1.7	0.4			
W102	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	接合補助材	挿入型の止め具か把手	その他		5.4	4.0～	2.35			
W103	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	残材		4.9	4.3～	1.2			
W104	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	残材		9.0	4.7	2.3			
W105	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	残材		10.45	3.3	1.5			
W106	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	短材		9.05	1.65	1.45			
W107	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層上層	不明品	角材	その他		11.55	3.95	2.85			
W108	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	棒状具	その他	刳り込み	25.45	3.2	2.5			
W109	Ⅰ区	A		淡灰色粘質土層	不明品	角材	短材	両端部切り落とし	25.75	3.75	1.65			
W110	Ⅰ区	B	建物09　P1		建築部材	柱材	柱材	一部炭化	24.4～	5.9	2.9		Ⅲ型	無し
W111	Ⅰ区	B	性格不明遺構01		不明品	その他	有孔板	端部切り落とし	18.05	7.55～	2.7			
W112	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	周辺を削り落とす	24.05～	9.4～	3.0			
W113	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	端部丸く仕上げる	12.1	5.8	1.1			
W114	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	刳り込み	10.15	3.15	0.55			
W115	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	円盤状木製品	曲物	10.0～	3.45～	0.7			
W116	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	突起	11.9	2.9	0.95			
W117	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	抉入棒		18.4～	1.5	1.55			
W118	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	その他	刳り込み	30.0	4.6	2.7			
W119	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	その他	1方向切り落とし	18.8	4.0	1.3			
W120	Ⅰ区	A			不明品	その他	残材	乱雑に刳り込み	26.9	3.85	1.3			
W121	Ⅰ区	A		暗灰色砂質土層（おもかす層含む）	不明品	その他	その他	円形刳り込み	18.75	3.9	1.65			
W122	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	抉入板	刳り込み	22.55	4.55	1.8			
W123	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		13.7～	4.25	2.25			
W124	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板	1箇所の穿孔	20.75	5.5	1.8			
W125	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	中央が山形に盛り上がる	12.0	6.75	2.55			
W126	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	一部炭化	20.1	3.6	1.25			
W127	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	端部切り落とし	8.55～	2.35	0.6			
W128	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	端部丸く仕上げる	7.0	2.5	0.7			
W129	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他		9.6	2.4	0.7			
W130	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	両端部切り落とし	22.35	7.7	1.95			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W131	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	その他	その他	両端部刳り込み	22.0	7.6	5.4	炭化。		
W132	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		29.1	4.75	1.1			
W133	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	刳り込み	18.1	6.4	1.4			
W134	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	その他	その他		13.6～	10.5～	1.55			
W135	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	段有り	9.75	3.8	1.55			
W136	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	段有り	11.15～	3.4	1.3			
W137	Ⅰ区	A		青灰色砂レキ層	不明品	棒状具	その他	中央窪む	10.2	2.3	0.95			
W138	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	8.4	3.25	1.95			
W139	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	その他	乱雑に切り落とし	15.6	6.0	3.25			
W140	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	棒状具	その他	端部炭化	24.15～	3.0	0.85			
W141	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	角材	短材		15.4	5.4	2.05			
W142	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	両端部切り落とし	25.0～	4.15	0.95			
W143	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	周辺を削り落とす	17.8	10.8	2.15			
W144	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	杓子状木製品の可能性有り	12.1～	4.95	0.55			
W145	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	一部炭化	12.8	7.6～	1.95			
W146	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	端部切り落とし	8.3	7.9～	1.2			
W147	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		7.2～	8.9	0.8			
W148	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	残材		9.9	5.65	1.3			
W149	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	残材		9.2	5.05	1.1			
W150	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	不明品	板状具	短材		10.5	6.0	1.1			
W151	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	10.2	6.6	1.05			
W152	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	中央に稜線を持つ	13.65	5.0	1.1			
W153	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	14.35	8.3	2.25			
W154	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	残材		8.4	5.7	1.6			
W155	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板		8.7～	2.5	0.6	曲物の可能性。		
W156	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他	端部丸く仕上げる	6.85～	2.9	0.7	曲物の可能性。		
W157	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他		8.6	4.0	1.4			
W158	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		16.4	8.4	1.4			
W159	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	11.9	5.7	1.45			
W160	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	7.85	4.05	1.5			
W161	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他		9.2	5.5	1.1			
W162	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	その他	残材	端部切り落とし	6.0	4.8	1.4			
W163	Ⅰ区	A			不明品	板状具	その他	端部切り落とし	12.25	6.15	1.45			
W164	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	その他	残材	断面楕円形	6.65	5.7	2.4			
W165	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	1方向切り落とし	10.2	5.45	1.7			
W166	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	10.45	6.85	2.1			
W167	Ⅰ区	A	集石遺構04	暗灰色粘質土層	不明品	板状具	残材	端部切り落とし	8.0	5.35	0.7			
W168	Ⅰ区	A			不明品	その他	残材		7.0	5.8	1.5			
W169	Ⅰ区	A			不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	11.25	6.9	1.4			
W170	Ⅰ区	A			不明品	その他	その他	両端部切り落とし	11.15～	7.85～	1.6			
W171	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	有孔板		7.3	5.6	1.9			
W172	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	その他	その他	ホゾ穴	33.45	6.8	3.3			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W173	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		62.6	5.55	1.3			
W174	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		52.55	5.3	1.3			
W175	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	板状具	その他		82.5	10.8	1.55			
W176	Ⅰ区	B	P108		不明品	角材	その他	1方向切り落とし	31.5	8.6	3.35			
W177	Ⅰ区	A			不明品	板状具	ホゾ付板材	割り込み	70.7	21.15	5.15			
W178	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	不明品	その他	その他	割り込み	28.3	6.15	4.3			
W179	Ⅱ区				不明品	角材	先尖棒		18.45	1.15	0.7			
W180	Ⅱ区	F			不明品	角材	先尖棒		20.2～	1.0	0.75			
W181	Ⅱ区	F			不明品	角材	その他	抉り有り	18.8	2.1	1.55			
W182	Ⅱ区	F			不明品	角材	その他	抉り有り	23.75～	2.05	1.3			
W183	Ⅱ区	F			不明品	角材	その他	抉り有り	21.45	2.0	1.5			
W184	Ⅱ区	F			不明品	板状具	その他	2方向切り落とし	20.45～	2.9	0.85			
W185	Ⅱ区	F			不明品	板状具	短材	端部切り落とし	12.15～	9.7	2.45			
W186	Ⅱ区	D	P182		不明品	角材	残材	両端部切り落とし	6.0	3.75	1.8			
W187	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	残材	端部切り落とし	4.95	4.0	1.15			
W188	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	5.0	3.05	1.1			
W189	Ⅱ区	F			不明品	その他	残材	両端部切り落とし	7.05	3.5	2.5			
W190	Ⅱ区	E	P123		不明品	角材	短材	端部切り落とし	4.7	3.7	2.35			
W191	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	残材	両端部切り落とし	5.6	3.45	1.0			
W192	Ⅱ区	E	P123		不明品	板状具	残材	端部切り落とし	4.8～	2.7	0.65			
W193	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	その他	端部切り落とし	32.1～	5.6	1.1			
W194	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	その他	2方向切り落とし	74.15	10.75	1.1			
W195	Ⅱ区	F			不明品	板状具	有孔板	炭化	37.9～	7.1	1.8			
W196	Ⅱ区	F			不明品	角材	その他		24.2～	4.0	2.8			
W197	Ⅱ区	F			不明品	板状具	その他	割り込み	34.6	9.7	2.75			
W198	Ⅱ区	D	P293		接合補助材	挿入型の止め具か把手	その他		12.65	6.25	3.8			
W199	Ⅱ区	F			不明品	木塊	その他	乱雑に切り落とし	15.0	14.25	6.4			
W200	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	木塊	残材	両端部切り落とし	7.4	6.4	3.6			
W201	Ⅱ区	F			不明品	その他	残材	2方向切り落とし	11.05	6.2	4.1			
W202	Ⅱ区	F			建築部材	柱材	柱材	端部切り落とし	149.8	7.55	7.6	一部炭化。		
W203	Ⅱ区	F	土坑20		不明品	板状具	その他	両端部切り落とし	64.1	8.75	0.8			
W204	Ⅰ区	A			杭材	杭	角杭	3方向削り込み	50.4～	8.4	6.25			
W205	Ⅰ区	A			杭材	杭	角杭	4方向切り落とし	26.5～	6.4	4.4			
W206	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	杭材	杭	角杭	2方向削り込み	32.3～	7.5	5.3			
W207	Ⅰ区	A			杭材	杭	角杭	2方向切り落とし	52.9	5.1	3.0			
W208	Ⅰ区	A			杭材	杭	板杭	2方向切り込み	26.4～	5.7	2.0	端部切り落とし。		
W209	Ⅰ区	A			杭材	杭	板杭	2方向切り落とし	17.9～	5.85	2.05			
W210	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	杭材	杭	板杭	2方向切り落とし	20.0	3.4	1.9			
W211	Ⅰ区	A			杭材	杭	板杭	2方向切り落とし	38.1～	7.15	3.3			
W212	Ⅰ区	A			杭材	杭	板杭	1方向切り落とし	27.9	3.2	2.7	一部炭化。		
W213	Ⅰ区	A			杭材	杭	板杭	2方向削り込み	21.6～	7.9	3.1			
W214	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	57.5～	6.7	4.4	4分割。		

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W215	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り込み	28.6～	5.6	3.5	4分割。		
W216	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	端部切り落とし	26.1～	4.6	1.7	3分割。		
W217	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4分割	37.15～	3.0	2.8	炭化。		
W218	Ⅰ区	A			杭材	杭	半裁丸木杭	3方向切り落とし	10.2～	3.6	2.15			
W219	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	5.6	2.7	1.9	4分割。		
W220	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	32.5～	5.4	3.0	半裁。		
W221	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り込み	32.5～	4.5	2.8	4分割。		
W222	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	34.0～	2.9	2.4	半裁。		
W223	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	31.2～	6.1	3.9	半裁。		
W224	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	22.6～	5.35	2.0	半裁。		
W225	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	25.3～	5.5	2.8	半裁。		
W226	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	杭材	杭	半裁丸木杭	6方向切り落とし	20.5～	5.4	3.3	一部炭化。		
W227	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	32.7～	6.5	3.2	先端破損。		
W228	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	24.0～	5.4	2.9	半裁。		
W229	Ⅰ区	A		暗青灰色土層	杭材	杭	半裁丸木杭	3方向切り落とし	28.95～	2.7	1.2	一部炭化。		
W230	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	30.0～	5.5	2.2			
W231	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	42.5～	5.2	2.3	半裁。		
W232	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	54.25	5.8	3.8	端部切り落とし。		
W233	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	46.55～	5.2	3.8			
W234	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り込み	44.0	4.2	2.8			
W235	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	51.5～	5.5	3.9	クサビ状に加工。		
W236	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	抉入棒	刳り込み	43.0	3.9	3.8			
W237	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	37.35	4.1	3.75	樹種：桜		
W238	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	53.4	3.4	2.6	樹種：桜		
W239	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	47.3～	5.5	5.25			
W240	Ⅰ区	A			杭材	杭	杭	端部炭化	42.8～	7.0	3.15			
W241	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	41.7	3.4	2.4			
W242	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	全方向削り込む	53.6	5.85	4.8			
W243	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	41.5～	3.65	2.8			
W244	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	56.9	3.2	2.8			
W245	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	先尖棒		10.7	1.5	1.36			
W246	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	28.45～	5.9	3.1			
W247	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	5方向切り落とし	26.5～	5.6	5.7			
W248	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	29.0～	4.9	4.4			
W249	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	34.3～	4.3	3.3	炭化。		
W250	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	29.1～	3.6	3.2			
W251	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	33.4	3.8	2.7			
W252	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	27.6	4.2	3.5	端部炭化。		
W253	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	23.7～	4.2	3.3			
W254	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	18.7～	3.8	2.95			
W255	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	先尖棒	2方向切り落とし	15.1	3.6～	3.0			
W256	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭		37.3～	3.9	3.2			
W257	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	16.9～	2.5	2.4			

掲載No.	地区		遺構	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱根形式	樹皮の有無
W258	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	29.7～	3.8	2.95			
W259	Ⅰ区	A		暗灰色粘質土層	杭材	杭	丸木杭		65.5～	6.4	5.7			
W260	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	60.1～	5.5	4.8			
W261	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	65.45	3.4	3.1			
W262	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	88.5	4.1	3.9			
W263	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭		20.4	3.0	2.6			
W264	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	先尖棒	端部切り落とし	12.6～	1.5	1.3			
W265	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	27.3～	3.3	2.5			
W266	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	2方向切り落とし	28.9～	3.4	2.4			
W267	Ⅰ区	A		灰色粘質土層	杭材	杭	丸木杭	3方向削り込み	30.9	3.9	2.6			
W268	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	3方向切り落とし	35.9～	3.0	2.0	ホゾ穴2ヶ所。		
W269	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	1方向切り落とし	17.5～	2.65	2.5	一部炭化。		
W270	Ⅰ区	A			杭材	杭	丸木杭	4方向切り落とし	24.0～	4.6	2.1	クサビ状に加工。		
W271	Ⅰ区	A		青灰色土層	不明品	棒状具	先尖棒	端部炭化	52.05～	2.9	2.5			
W272	Ⅰ区	A			不明品	棒状具	その他	両端部に加工有り	43.9～	3.0	2.6			
W273	Ⅰ区	A			自然物	鹿の角	その他	未加工	19.4～	17.0～	3.6			
W274	Ⅰ区	B	P243		建築部材	柱材	柱材		45.45～	13.6	12.3		Ⅰ型	無し
W275	Ⅰ区	B	建物09　P2		建築部材	柱材	柱材		20.5～	13.25	11.2		Ⅰ型	無し
W276	Ⅰ区	B	P186		建築部材	柱材	柱材	ホゾ穴	44.65～	16.15	14.5		Ⅰ型	無し
W277	Ⅰ区	B	P314		建築部材	柱材	柱材		30.6～	18.1	18.4		Ⅱ型	無し
W278	Ⅰ区	B	P194		建築部材	柱材	柱材		47.75～	12.3	9.5		Ⅲ型	無し
W279	Ⅰ区	B	P184		建築部材	柱材	柱材		37.2～	12.65	11.1		Ⅲ型	無し
W280	Ⅰ区	B	P198		建築部材	柱材	柱材		22.3～	15.7	12.4		Ⅲ型	無し
W281	Ⅰ区	B	建物09　P1		建築部材	柱材	柱材		70.2～	20.15	14.0		Ⅲ型	無し
W282	Ⅱ区	D	P262		建築部材	柱材	柱材	上部切り落とし	45.5～	15.4	13.1		Ⅰ型	無し
W283	Ⅱ区	F	柱列02　P3		建築部材	柱材	柱材		21.4～	20.7	16.4		Ⅰ型	有り
W284	Ⅱ区	D	P169		建築部材	柱材	柱材		19.1～	17.85	12.1		Ⅰ型	無し
W285	Ⅱ区	D	建物16　P2		建築部材	柱材	柱材		34.75～	13.05	10.75		Ⅰ型	無し
W286	Ⅱ区	D	P279		建築部材	柱材	柱材		48.55～	16.4	13.85		Ⅱ型	無し
W287	Ⅱ区	D	P157		建築部材	柱材	柱材		45.1～	19.2	14.5		Ⅲ型	無し
W288	Ⅱ区	E	P126		建築部材	柱材	柱材		78.05～	25.6	26.4		Ⅲ型	有り
W289	Ⅱ区	E	P126		建築部材	柱材	柱材		32.4～	12.05	8.4		Ⅲ型	無し

第1表　谷計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
—	等高線に直交する直線系		1,445.00 82.00～	132.00 550.00～	279.00	N-38.5°-E	

第2表　焼土面計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
—	帯状堆積		265.00～ —	47.00～ —	70.00	N-20.3°-E	

第3表　炭化面計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
—	不整形		295.50～ —	112.50～ —	28.00	N-20.3°-E	

第4表　土器溜計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	不整形		335.00 —	210.00 —	—	N-50.6°-E	土師器　須恵器
02	楕円形		348.00 —	190.00 —	—	N-3.4°-E	土師器 須恵器 鉄滓

第5表　溝計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	等高線に直交した浅いL字形		452.00 140.00	84.00 36.00	13.00	N-60.7°-E	

第6表　ピット計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	円形		56.00 46.00	48.00 40.00	40.00	N-86.7°-E	
02	楕円形		38.00 24.00	20.00 12.00	26.00	N-71.6°-E	

第7表　遺物観察表

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
1			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.4	12.9～				ヘラケズリ			暗茶色	淡橙茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	風化の為調整不明瞭。
2			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.5	7.95～				ヘラケズリ			明橙色	暗茶色	淡茶色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良	古墳後期	口縁、胴部外面スス付着。
3			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	14.9	4.9～				ヘラケズリ		玉縁状口縁	淡黄色	淡黄色	黒灰色	密、3mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	風化の為調整不明瞭。
4			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.6	5.7～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗橙茶色	暗橙茶色	暗橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
5			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	15.2	6.2～				ヘラケズリ			淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
6			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.2	9.0～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡黄茶色	淡橙色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	やや不良	古墳後期	
7			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	18.1	5.8～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗茶色	暗茶色	暗茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	口縁外面スス付着。
8			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.8	20.5～	23.6		ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ	口縁ゆがみ有り	淡橙茶色	淡橙茶色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	外面赤彩。外面底部付近スス付着。
9			トレンチ15	排土	土師器	単純口縁甕	23.0	3.7～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗橙茶色	暗橙茶色	黒色	密、1mm以下の砂粒を多く含む。	良好	古墳後期	
10			トレンチ18	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	19.3	2.35～							橙茶色	橙茶色	橙茶色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良	古墳後期	調整不明。
11			トレンチ15	排土	土師器	単純口縁甕	25.2	4.9～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗茶色	暗茶色	暗茶色	密、1mm以下の砂粒を多く含む。	良好	古墳後期	
12			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	12.6	5.3～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良	古墳後期	口縁、胴部外面スス付着。
13			トレンチ9	灰色粘土・砂レキの混合層（下層になるにつれレキが大きくなる）	土師器	小型壷		6.3～			指おさえ	ヘラケズリ	ハケメ		淡茶色	暗茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	外面赤彩、スス付着。
14			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	19.4	5.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
15			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	17.6	7.5～				ヘラケズリ			明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	風化の為調整不明瞭。
16			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	19.6	16.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗黄茶色	暗茶色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	口縁、胴部外面スス付着。
17			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	14.4	7.4～				ヘラケズリ			茶色	茶色	茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	口縁内面、胴部内外面スス付着。
18			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.5	6.5～				ヘラケズリ			暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
19			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	19.9	29.8	29.0		ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ	玉縁状口縁	淡黄茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	口縁、胴外面、底部内側スス付着。
20			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	18.0	11.9～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡黄橙色	淡黄橙色	淡黄橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
21			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	13.9	7.65～				ヘラケズリ			暗茶色	明橙色	淡茶色	粗、3mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
22			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	20.6	6.1～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡黄茶色	淡橙茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	
23			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	15.8	7.1～				ヘラケズリ			明橙色	明橙色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
24			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	小型甕	10.2	12.5	12.55		指おさえ	ナデ	ヘラミガキ		淡橙茶色	淡橙茶色	淡茶色	密、2mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	外面赤彩。
25			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	小型甕		7.5～				ヘラケズリ	ハケメ		橙茶色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	外面赤彩。
26			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	10.4	4.95～				ヘラケズリ			淡橙茶色	赤橙色	赤橙色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
27			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	12.9	3.5～							淡橙茶色	淡橙茶色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	風化の為調整不明。
28			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	坏	11.8	3.7～	12.0		ヘラケズリ	ヘラミガキ			暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	やや不良	古墳後期	
29			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	小型壷	8.8	3.4～						口縁が内傾している	明橙色	明橙色	明橙色	密、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	調整不明。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
30			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	甕若しくは壷		10.35～		14.4			ナデ若しくはミガキ	平底の厚い底部	淡橙茶色	淡橙色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
31			トレンチ16	明灰色粘質土層	土師器	ミニチュア土器坏	4.0	2.6	4.5		手捏ね				淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	密、1mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	古墳後期	ゆがみ、黒斑有り。
32			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	坏	14.0	6.6～					ヘラミガキ		淡茶色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	外面赤彩。
33			トレンチ25	茶色土層	土師器	坏		1.15～		3.4				厚い底部	橙茶色	橙茶色	橙茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	不明	
34			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	甑		7.5～	厚さ：3.95		手捏ね	ヘラケズリ				明橙色	明橙色	粗、2mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
35			トレンチ7	灰色土層（橙色粒含む）	土師器	甑		4.5～	厚さ：2.3		手捏ね				淡橙茶色	橙茶色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期～奈良	
36			トレンチ5	橙色粘質土層	須恵器	蓋		4.3～		15.3	回転ナデ	回転ヘラケズリ		間隔が空く回転ヘラケズリ	灰色	灰色	灰色	密、1mm程の砂粒を若干含む。	良好	古墳後期	
37			トレンチ5	橙色粘質土層	須恵器	蓋		5.2	15.0	14.8	回転ナデ	回転ヘラケズリ		沈線が廻る	灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	不良	古墳後期	
38			トレンチ5	橙色粘質土層	須恵器	坏	12.6	5.0～	15.2		回転ナデ	回転ヘラケズリ			淡灰色	灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。黒色粒を含む。	良好	古墳後期	
39			トレンチ18	排土	須恵器	坏若しくは蓋	8.8	2.6～	11.0		回転ナデ				灰色	灰色	淡紫灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	古墳後期	
40			トレンチ7	明茶色土層	須恵器	つまみ付蓋		1.5～			回転ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	ボタン状つまみ	淡灰色	黒灰色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	
41			トレンチ23	明茶色・明灰色粘質土層	須恵器	高台付坏		1.45～		9.6	回転ナデ			高台内側に面を持つ	灰色	灰色	暗灰色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	奈良	伏せ焼き。
42			トレンチ6	茶色土層	須恵器	坏		1.8～		6.6	回転ナデ	回転糸切り			淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	ロクロR。
43			トレンチ6	茶色土層	須恵器	坏		1.5～		5.7	回転ナデ	回転糸切り			灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。黒色粒を含む。	やや不良	平安	
44			トレンチ6	茶色土層	須恵器	高台付坏若しくは皿		1.1～		2.0				全面に施釉。砂土目。	暗緑灰色	暗緑灰色	淡灰色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	不明	ケズリ出し高台。
45			トレンチ5	橙色粘質土層	土師器	坏		1.2～		5.0	回転ナデ	回転糸切り			淡茶白色	淡茶白色	淡茶白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	中世	風化の為調整不明瞭。
46			トレンチ21	橙色土層	土師器	坏		1.3～		5.8	回転ナデ				淡赤色	淡赤色	淡赤色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	中世	
47			トレンチ7	明茶色土層	土師器	坏		1.5～		5.4	回転ナデ	回転糸切り			淡茶色	淡茶色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	中世	ロクロR。
48			トレンチ9	灰色粘土層（炭含む）	土師器	坏		1.15～		5.4	回転ナデ	回転糸切り			暗茶色	暗茶色	暗茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	中世	風化の為調整不明瞭。
49			トレンチ24	暗灰色粘質土層	須恵器	ハソウ		1.95～			回転ナデ			一条の沈線。クシ状工具による刺突。	淡灰色	青灰色	淡青灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	
50			トレンチ14	茶色粘質土層	磁器	碗		2.25～						鎬連弁	淡緑色	淡緑色	白色	密。	良好	中世	龍泉窯。
51			トレンチ14	茶色粘質土層	磁器	碗		2.6～						鎬連弁	緑灰色	緑灰色	灰色	密。	良好	中世	龍泉窯。
52			トレンチ17	暗茶色土層	磁器	碗	9.9	3.2～							緑灰色	緑灰色	黄白色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	中世	龍泉窯。
53			トレンチ8	茶色粘質土層	磁器	碗		2.6～							緑灰色	緑灰色	黄白色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	中世	龍泉窯。
54			トレンチ16	明灰色粘質土層	磁器	碗		2.7～		5.8					明緑色	明緑色	灰白色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	中世	龍泉窯。
55			トレンチ19	灰色粘土層（下層に石含む）	陶器	碗		2.4～							明緑色	明緑色	白灰色	密。	良好	中世	龍泉窯。
56			トレンチ25	暗茶色土層	陶器	不明		2.15～						条痕が走る	濃緑灰色	濃緑灰色	黄白色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	中世～近世	石土目痕。
57	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	15.4	5.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を少量含む。	良	古墳中期～後期	ゆがみ有り。
58	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	15.3	8.7～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗橙茶色	淡灰茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	
59			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	単純口縁甕	18.6	7.4～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ	口縁端部つまみ出す	淡橙色	淡橙色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	胴部外面赤彩。
60	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	20.4	6.1～			ヘラケズリ	ハケメ	ヨコナデ		明橙色	明橙色	淡茶色	密、3mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	ハケメ1単位16mm。
61	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	18.8	17.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡茶橙色	淡茶橙色	淡茶色	密、3mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	外面にスス付着。
62			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	単純口縁甕	16.6	5.7～			ヘラケズリ				淡橙茶色	淡橙茶色	淡橙色	密、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	
63	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	18.0	5.8～			ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラミガキ		淡灰色	淡橙色	淡灰橙色	粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	胴外側風化の為調整不明。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
64			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	単純口縁甕	15.9	7.7～			ヘラケズリ				茶色	淡茶色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
65	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	13.8	7.6～			ヘラケズリ			口縁上部にくぼみ	明橙色	淡橙灰色	淡茶橙色	やや粗、2m以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	
66	Ⅱ	A	トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	21.3	9.35～			ヘラケズリ	指おさえ	ハケメ		暗橙茶色	淡橙茶色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	
67	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	17.6	7.9～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗茶色	暗橙茶色	暗茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	口縁外面スス付着。
68	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	18.9	4.0～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡橙茶色	暗橙茶色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	口縁外面薄く剥離。
69	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	土師器	単純口縁甕	15.7	6.0～				ヘラケズリ			淡灰茶色	淡灰茶色	淡灰色	粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期	
70	Ⅰ		土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	15.2	4.55～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	不良	古墳中期～後期	
71	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	19.8	18.4～				ヘラケズリ	ハケメ		淡橙黄色	淡橙黄色	淡灰色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	胴内側中位に帯状のスス付着。
72	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	18.8	6.5～			ヨコナデ				橙茶色	橙茶色	灰茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	口縁外面スス付着。
73	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	単純口縁甕	17.6	4.3～				ヘラケズリ			淡茶色	淡灰橙色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期	
74	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	15.4	4.3～			ヘラケズリ	ヨコナデ	ハケメ		淡灰色	淡橙色	淡橙茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	風化の為調整不明。
75	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	17.0	3.9～							淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
76	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	14.4	3.5～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡黄橙色	淡橙色	淡黄橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	良	古墳後期	
77	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	18.0	6.9～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡橙茶色	暗橙茶色	淡橙茶色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	古墳後期	
78	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	17.0	8.35～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		黄茶色	黄茶色	黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を少量含む。	やや不良	古墳後期	
79	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	19.2	5.4～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		橙茶色	暗橙茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	良	古墳後期	
80	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	18.0	5.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ			明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を少量含む。	やや不良	古墳後期	
81	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	21.0	4.55～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗橙色	暗橙色	暗橙色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良	古墳後期	
82	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	17.0	6.85～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡灰茶色	暗灰橙色	淡黄茶色	密、3mm以下の砂粒を少量含む。	やや不良	古墳後期	
83	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	20.1	6.3～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
84	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	17.3	4.7～			ナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡黄色	淡黄色	淡黄色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期	
85	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	15.5	4.55～			ヨコナデ	ヘラケズリ			暗橙色	暗橙色	淡黄茶色	やや粗、3mm以下の砂粒を若干含む。	良	古墳後期	
86	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	16.8	4.4～			ヨコナデ	ヘラケズリ			橙色	橙色	淡橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
87	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	18.6	4.0～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡橙色	淡橙色	淡橙色	粗、2mm以下の砂粒を若干含む。	不良	古墳後期	
88	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	16.0	4.1～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗茶色	暗茶色	茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
89	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	小型壷	10.0	14.0	14.2		ヘラケズリ	指おさえ	ヘラミガキ		淡茶橙色	明橙色	淡茶色	密、3mm以下の砂粒を少量含む。	良	古墳中期～後期	外側赤彩有り。口縁部ゆがみ有り。
90	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	12.8	5.6～				ヘラケズリ			淡茶色	淡橙茶色	淡黄茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	
91	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	小型甕	7.25	3.9～					ナデ		明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	風化の為調整不明。
92	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	12.5	6.35～			ヘラケズリ				淡茶橙色	明橙色	明橙色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	
93	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	13.0	3.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		淡茶橙色	淡黄橙色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	
94	Ⅱ		トレンチ	橙色粘質土層	土師器	単純口縁甕	16.7	3.4～							暗灰色	明橙色	灰色	密、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	不良	古墳中期～後期	風化の為調整不明。
95	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	単純口縁甕	16.1	4.1～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡橙茶色	暗橙茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	良	古墳中期～後期	

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
96	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	土師器	単純口縁甕	16.3	5.6～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡茶色	明橙色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
97	Ⅰ	C（西）		明茶色粘質土層	土師器	単純口縁甕	19.5	4.5～			ヨコナデ				淡茶橙色	淡茶橙色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期～奈良	
98	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	24.0	4.2～			ヨコナデ	ヘラケズリ			淡茶橙色	暗橙色	淡茶橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期～奈良	外側にスス付着。
99	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	17.5	5.0～				ヘラケズリ			淡橙色	淡黄茶色	淡橙色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
100	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	単純口縁甕	18.6	8.0～			ナデ	ヘラケズリ	指おさえ		淡黄橙色	淡黄橙色	明橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を多く含む。	良	古墳後期～奈良	
101	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	単純口縁甕	16.5	5.0～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ハケメ		明橙色	暗橙茶色	淡灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	古墳後期	ハケメ1単位12mm、10条。
102	Ⅰ			排土	土師器	単純口縁甕	14.3	3.2～							暗橙色	暗橙色	淡橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	不良	古墳	
103	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	単純口縁甕	29.1	4.35～							暗橙茶色	暗橙茶色	暗茶色	密、1mm以下の砂粒を多く含む。	やや不良	古墳後期	風化の為調整不明。
104	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	鉢	15.8	13.4	16.6	8.65		内：指おさえ後丁寧なナデ	外：ヨコハケメ、指押さえ後粗いナデ	内部は丁寧にナデる	黒色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	底部に「×」記号か？
105	Ⅰ	C（西）	P01	暗灰色・橙茶色粘質土混合土層	土師器	坏	15.3	2.4～					ヘラミガキ		淡黄茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
106	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	坏類	13.6	5.1～			ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ		淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	
107	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	坏類	12.5	4.0～							淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳中期～後期	風化の為調整不明。
108	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	坏類	18.8	4.25～				ヘラケズリ	ヘラミガキ		暗橙色	暗橙色	淡茶橙色	密、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	外側ケズリ後ヘラミガキと思われるが単位等不明。
109	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	坏類	19.5	6.3～					ヘラミガキ		淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期	風化の為調整不明瞭。
110	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	土師器	坏類	14.4	3.7～							淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	風化の為調整不明。
111	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	坏類	15.3	2.8～			ナデ	ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヘラミガキ		赤橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	内側赤彩。
112	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	坏類	19.0	6.1～			ナデ	ヘラケズリ	ハケメ		暗橙色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
113	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	土師器	高坏	18.6	3.6～			回転ナデ	ヘラケズリ	ナデ		淡茶色	明橙色	淡茶灰色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	
114	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	土師器	坏類	17.9	4.2～			ヨコナデ	ヘラケズリ後ナデ	ヘラミガキ		淡黄茶色	暗橙色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	外面に赤彩。
115	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	高坏		5.3～			ヘラケズリ後不明	ヨコナデ	ヘラミガキ		暗橙色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
116	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	高坏		10.8～		12.2	回転ナデ	ヘラケズリ後指おさえ	ヘラミガキ		淡灰茶色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	
117	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	高坏		3.55～		12.8					淡灰橙色	明橙色	明橙色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	風化の為調整不明。
118	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	高坏		10.05～		12.1	回転ナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ		明橙色	明橙色	淡茶色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	良	古墳中期～後期	
119	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	高坏		6.8～		9.3					淡黄白色	淡黄白色	淡黄白色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	不良	古墳中期～後期	風化の為調整不明瞭。
120	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	高坏		7.95～		7.5	回転ナデ	ヘラケズリ後指おさえ	ヘラミガキ		明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	不良	古墳中期～後期	
121	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	土製支脚	長さ：10.7～				手捏ね					赤橙色	赤橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。炭を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
122	Ⅰ	C		灰茶色砂質層	土師器	土製支脚	長さ：12.55～	幅：9.7～	厚さ：8.1		手捏ね			背後の穿孔は中心からずれる		淡橙茶色	淡橙茶色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
123	Ⅰ	C（西）		排土	土師器	土製支脚		7.8～		12.5						暗茶色	暗茶色	密、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
124			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	甑		10.7～				ヘラケズリ	ハケメ	円管状の把手	明橙色	淡橙色	黒色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期～奈良	上下一対の把手。若しくは環状の把手。
125	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	甑		10.35～	27.0	26.7		ヘラケズリ	ハケメ		淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
126	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	甑	25.5	9.35～					ヘラミガキ		淡茶色	暗橙茶色	淡茶色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳～奈良	

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
127	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	甑	24.5	7.8～					ヘラミガキ		明橙色	明橙色	淡茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
128	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	土師器	甑		10.1～			手捏ね	ヘラケズリ			淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
129	Ⅰ	A（西）		明灰色粘質土層	土師器	甑		7.55～	厚さ：3.8		手捏ね				淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	不良	古墳後期～奈良	
130	Ⅰ	C		灰茶色砂質層	土師器	甑		2.4～			手捏ね					暗橙色	淡黄橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
131	Ⅰ	B		橙茶色粘質土層	土師器	甑		6.35～	厚さ：4.1		手捏ね					淡橙色	淡茶橙色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
132			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	甑		4.7～	厚さ：3.8～		手捏ね					暗橙茶色	暗橙茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
133	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	甑		4.2～	厚さ：3.5		手捏ね					明橙茶色	淡橙茶色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
134	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	移動式カマド		25.25～				ヘラケズリ	ハケメ		暗茶色	淡茶色	淡茶色	密、3mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良	古墳後期～奈良	粘土紐積上げ。
135	Ⅰ	B		橙茶色粘質土層	土師器	甑		3.9～			手捏ね					灰茶色	明橙色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
136			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	甑		4.55～	厚さ：4.4		手捏ね				暗赤茶色	暗赤茶色	暗赤茶色	密、1mm以下の砂粒を多く含む。	良好	古墳後期～奈良	
137			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	土師器	移動式カマド	22.2	28.0	39.7	39.5	ヨコナデ		ハケメ		黄白色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	内側未調整。
138	Ⅱ		トレンチ5	橙灰色粘土層	土師器	移動式カマド		13.8～				ヘラケズリ	ハケメ		暗茶色	明橙色	淡黄茶色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	粘土紐積上げ。
139	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	移動式カマド		8.0～							淡橙色	淡橙色	淡橙色	やや粗、3mm程の砂粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
140	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	土師器	移動式カマド		5.7～	24.8	24.6		ヘラケズリ	ハケメ		明橙色	淡茶色	淡黄色	やや粗、2mm程の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	
141	Ⅰ	A		砂レキ層	土師器	移動式カマド		4.45～	23.2	23.0			指おさえ		淡茶橙色	淡橙色	淡茶橙色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	粘土紐積上げ。
142	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	土師器	土錘	長さ：3.9	幅：3.75	厚さ:3.55	重さ(g)：52	手捏ね			球形	淡黄色	淡黄色	淡黄色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	不明	外面スス付着。
143	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	蓋		4.4～	12.4	12.2	回転ナデ	回転ヘラケズリ		口縁内側に沈線	灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	ロクロL。
144	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	蓋	8.1	3.6	14.9	14.8	回転ナデ	回転ヘラケズリ			淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期	ロクロR。
145	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	蓋	5.6	3.4	11.6	11.5	回転ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ			淡紫灰色	淡紫灰色	淡紫灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	ゆがみ有り。ロクロL。
146	Ⅰ	A（西）		明灰色粘質土層	須恵器	不明		1.35～			指おさえ	つまみ付け後ナデ		ボタン状つまみ	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期～奈良	
147	Ⅰ	A（西）		明灰色粘質土層	須恵器	蓋		2.0～			回転ナデ	回転糸切り		輪状つまみ	淡青灰色	淡青灰色	灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。黒色粒を含む。	良好	奈良	
148			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	須恵器	坏	9.8	5.0	12.3		回転ナデ	回転ヘラケズリ			淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	ロクロR。
149	Ⅱ		トレンチ		須恵器	坏若しくは有蓋高坏	11.1	3.25～	13.0		回転ナデ				紫灰色	暗灰色	紫灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	
150	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	坏		3.6～	13.9		回転ナデ				暗灰色	暗灰色	暗灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	底部外面にヘラ記号「x」
151	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	須恵器	坏	13.1	4.3～	16.0		回転ナデ	ヘラケズリ			淡紫灰色	淡紫灰色	灰紫色	密、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	重ね焼き痕有り。ロクロR。
152	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	坏	15.0	4.9	15.3	5.7	回転ナデ				灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm程の砂粒を含む。	不良	奈良～平安	風化の為調整不明。
153	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	高台付坏若しくは埦		1.55～		8.7	回転ナデ	回転ヘラ切り	高台付後ナデ	低い高台が外へ開く	淡青灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を若干含む。黒色粒を含む。	良好	奈良	底部にヘラ記号「ー」ロクロR。
154	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	有蓋高坏	11.7	8.1	14.2	10.0	回転ナデ	坏と脚接合後ナデ			青灰色	青灰色	青灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	ゆがみ有り。
155	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	有蓋高坏		3.65～			回転ナデ	カキメ			暗青灰色	暗灰色	暗紫色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
156	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	坏若しくは高坏	14.5	3.8～	14.6		回転ナデ				暗灰色	暗灰色	暗灰色	密、1mm以下の白色砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	
157	Ⅰ	C		明茶色粘質土層	須恵器	高坏	12.2	2.7～			回転ナデ				淡灰色	黒灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	
158	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	高坏		5.8～		10.3	回転ナデ				緑灰色	緑灰色	緑灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を多く含む。	良	古墳後期～末期	ゆがみ有り。

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
159	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	高坏		6.55～			回転ナデ	カキメ		脚部に沈線廻る	乳白色	乳白色	乳白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期～末期	
160	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	須恵器	高坏		5.3～			回転ナデ	坏と脚接合後ナデ			淡紫灰色	暗灰色	暗紫灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	
161	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	高坏		4.85～			回転ナデ				灰白色	灰白色	灰白色	密、1mm以下の砂粒を含む。	不良	古墳後期～末期	
162	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	高坏		5.1～			回転ナデ				灰色	灰色	灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。黒色砂を含む。	良好	古墳後期～末期	
163	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	高坏		4.55～			回転ナデ				灰色	暗灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	ゆがみ有り。
164	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	低脚付坏		4.4～		8.55	回転ナデ	坏と脚接合後ナデ			黄灰色	黄灰色	紫灰色	密、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	ロクロL。
165	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	須恵器	高坏		2.3～		10.7	回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～末期	ゆがみ有り。
166	Ⅰ	B		橙茶色粘質土層	須恵器	瓶	12.8	4.6～			回転ナデ	内：タタキ			灰色	灰色	暗紫灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	古墳後期～平安	
167	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	瓶	12.0	5.3～			回転ナデ			口縁端部に面を持つ	淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～平安	
168	Ⅰ	B		橙茶色粘質土層	須恵器	瓶子		3.35～			回転ナデ	頸部内側ヘラケズリ		頸部段を持つ	黒灰色	淡灰色	灰色	密、あまり砂粒を含まない。	良好	平安～中世	
169	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	須恵器	横瓶胴部粘土板		4.4～			内：回転ナデ	外：指おさえ		胴部充填部分	淡灰色	淡灰色	暗紫色	密、1mm以下の白色砂粒を多く含む。	良	古墳後期～末期	
170	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	甕		4.8～			回転ナデ	内：同心円タタキ	外：タタキ後ヨコナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期～奈良	外面のナデは細板を使用している可能性がある。
171	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	須恵器	甕		2.4～			回転ナデ	内：同心円タタキ	外：タタキ後ヨコナデ		暗青灰色	黒灰色	黒灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	
172	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	須恵器	瓶		13.0～			内：同心円タタキ後一部ナデ	外：平行タタキ			灰色	黒灰色	白灰色	密、1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	古墳後期	
173	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	壷		17.35～	24.8		回転ナデ				淡灰色	暗灰色	淡灰色	密、3mm以下の砂粒を含む。黒色粒を含む。	良好	古墳後期～平安	ロクロR。
174	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	壷		9.7～			回転ナデ				黒灰色	黒灰色	黒灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	奈良～平安	
175	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	須恵器	壷	10.7	4.2～			回転ナデ				灰色	暗灰色	暗紫灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～平安	
176	Ⅰ	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	壷	4.5	13.5～	15.2		回転ナデ			口縁端部外側に面を持つ	青灰色	青灰色	青灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	
177			トレンチ3	明灰色粘質土層（炭含む）	須恵器	壷		4.35～			回転ナデ	平行タタキ			淡青灰色	淡青灰色	淡青灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～平安	
178	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	甕		4.8～			内：同心円タタキ後ナデ	外：不明タタキ後ナデ			青灰色	青灰色	青灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
179	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	瓶	16.6	3.5～			回転ナデ			口縁端部内側に折り返し面を持つ	灰色	灰色	灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	奈良～平安	
180	Ⅰ	C		灰茶色砂質層	須恵器	瓶	16.2	2.2～			回転ナデ				灰色	灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～平安	
181	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	須恵器	甕		2.55～		18.0	回転ナデ			口縁端部に面を持つ	暗灰色	青灰色	青灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
182	Ⅰ	A		砂レキ層	須恵器	甕	41.7	5.85～			回転ナデ			口縁端部内側に折り返し面を持つ	淡灰色	淡灰色	黒灰色	粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	
183	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	瓶	17.4	3.3～			回転ナデ			玉縁状口縁	淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
184	Ⅱ		トレンチ	灰色粘土層	須恵器	甕		5.5～			内：同心円タタキ	外：平行タタキ後部分的にナデ			淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
185	Ⅰ	C（西）		暗茶灰色粘質土層	須恵器	甕		12.3～			内：同心円タタキ後一部ナデ	外：格子タタキ後ナデ後平行タタキ			灰色	暗灰色	淡灰色	密、2mm程の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
186	Ⅰ	C		灰茶色砂質層	須恵器	短頸壷	12.8	4.35～			回転ナデ				淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、若干砂粒を含む。黒色粒を含む。	良	奈良	
187	Ⅰ	C		淡灰色粘質土層（小レキ含む）	須恵器	壷		3.65～		19.4	回転ナデ	ヨコナデ		底部外周をヘラケズリ	淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良	奈良	
188	Ⅰ	C（西）		灰茶色砂質層	須恵器	不明	11.5	3.9～			回転ナデ				暗灰色	灰色	灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	不明	
189	Ⅰ	C（西）		明茶色粘質土層	須恵器	甕		2.0～			回転ナデ				青灰色	青灰色	淡灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良	古墳後期	ゆがみ有り。
190	Ⅰ	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	甕		6.6～			回転ナデ	内：同心円タタキ後ナデ	外：タタキ後ヨコナデ		青灰色	青灰色	青灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期～奈良	

掲載No.	地区		遺構	土色	種別	器種	寸法（cm）				調整			特徴	色調			胎土	焼成	時代	備考
							口径	器高	最大径	底径	1次	2次	3次		内面	外面	断面				
191	I	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	須恵器	甕	24.7	52.4	47.6			内：同心円タタキ	外：平行タタキ	口縁端部に面を持つ	淡灰色	淡灰色	淡灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
192	I	A	土器溜02	砂レキ層	須恵器	甕		55.4～	61.2			内：同心円タタキ	外：平行タタキ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。黒色粒を含む。	良好	古墳後期	ゆがみ、重ね焼痕有り。
193	I	B		橙茶色粘質土層	須恵器	甕		2.8～			回転ナデ	施文			淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
194	I	A（西）		明灰色粘質土層	須恵器	甕		3.6～				内：同心円タタキ	外：平行タタキ後ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	やや不良	古墳後期	
195	I	A		砂レキ層	須恵器	瓶		13.7～				内：同心円タタキ	外：平行タタキ（格子状）後一部ナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
196	I	C（西）		暗茶灰色粘質土層	須恵器	甕		5.55～			回転ナデのち波状文			沈線に区画された2条の波状文	灰色	灰色	灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	古墳後期	
197	I		トレンチ2	淡灰茶色粘質土層	須恵質土器	不明	19.4	2.1～			回転ナデ			口縁端部に面を持つ	青灰色	暗灰色	青灰色	密、1mm以下の砂粒を含む。黒粒を多く含む。	良好	不明	
198	I	C		灰茶色砂質層	須恵器	丸瓦	長さ：12.35～	幅：9.4～	厚さ：2.2						黒色	黒色	淡灰色	やや粗、2mm程の砂粒を多く含む。	不良	中世～近世	アゴ接合の為荒らしている。燻し瓦の可能性有り。
199	I	C		暗茶灰色粘質土層	須恵器	平瓦	長さ：7.75～	幅：7.1～	厚さ：2.15		平行縄目タタキ			内側風化の為不明。外側縄目タタキ。	明橙色	明橙色	明橙色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	平安	
200	I	C		明茶色粘質土層	須恵器	丸瓦	長さ：5.9～	幅：7.3～	厚さ：2.15		ヘラケズリ	ナデ		外面にヨコ方向ケズリ痕	灰色	灰色	灰色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良	平安～中世	
201	I			排土	須恵器	丸瓦	長さ：6.05～	幅：6.7～	厚さ：2.1		ナデ			内面に布目。外面にケズリ。	黒灰色	黒灰色	灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を若干含む。	良好	平安～中世	
202	I	C		灰茶色砂質層	須恵器	丸瓦	長さ：11.8～	幅：9.6～	厚さ：2.65		内：布目	外：横方向のナデ			暗青灰色	暗青灰色	淡灰色	やや粗、2mm程の砂粒を多く含む。	良好	平安～中世	
203	I	A	土器溜01	灰色粘質土層（炭化物多く含む）	土師器	単純口縁甕	27.3	4.9～			ナデ			口縁端部に面を持つ	淡茶色	淡茶色	淡茶色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良好	中世	
204	I	A		砂レキ層	土師器	坏		1.45～		5.8	回転ナデ	回転糸切り			淡茶白色	淡茶白色	淡茶白色	密、1mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	中世	ロクロ不明。
205	I	A		砂レキ層	土師器	坏	17.05	6.6	17.35	7.6	回転ナデ	回転糸切り			暗茶色	暗茶色	暗茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	平安	ロクロR。
206	I			排土	土師器	坏		2.0～		5.95	回転ナデ	回転糸切り			暗茶色	淡黄茶色	淡黄茶色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	不良	中世	ロクロL。内面にススか？
207	I	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	坏		1.85～		8.2					暗橙茶色	暗橙茶色	暗橙茶色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	良好	中世	風化の為調整不明瞭。
208	I	C（西）		灰茶色砂質層	土師器	坏		1.45～		5.7					乳白色	乳白色	乳白色	密、2mm以下の砂粒を含む。	不良	中世	風化の為調整不明。
209	I	B		排土	青磁	碗		2.4～		5.6				見込み中央釉かき取り	明緑色	明緑色	灰白色	密。	堅至	中世	2次的に比熱。
210	I	B		淡灰茶色粘質土層	青磁	碗	10.0	1.7～							緑灰色	緑灰色	淡灰色	密。	堅至	中世	
211	I			排土	青磁	碗		3.05～							緑灰色釉厚くかかる	緑灰色釉厚くかかる	淡灰色	密。	堅至	中世前期	龍泉窯Ⅱ類。
212	I	C		明茶色粘質土層	土師器	擂鉢		4.3～				ハケメ	御し目		淡茶色	淡茶色	淡茶色	やや粗、3mm以下の砂粒を含む。赤色粒を含む。	やや不良	中世	御目5条で1単位、幅18mm。
213	I	B		淡灰茶色粘質土層	陶磁器	備前系甕		3.1～		16.6	回転ナデ	粗いナデ			黒灰色	黒灰色	暗紫色	密、1mm以下の砂粒を含む。	良好	中世	底部のナデは粗い。

第8表　木製品観察表

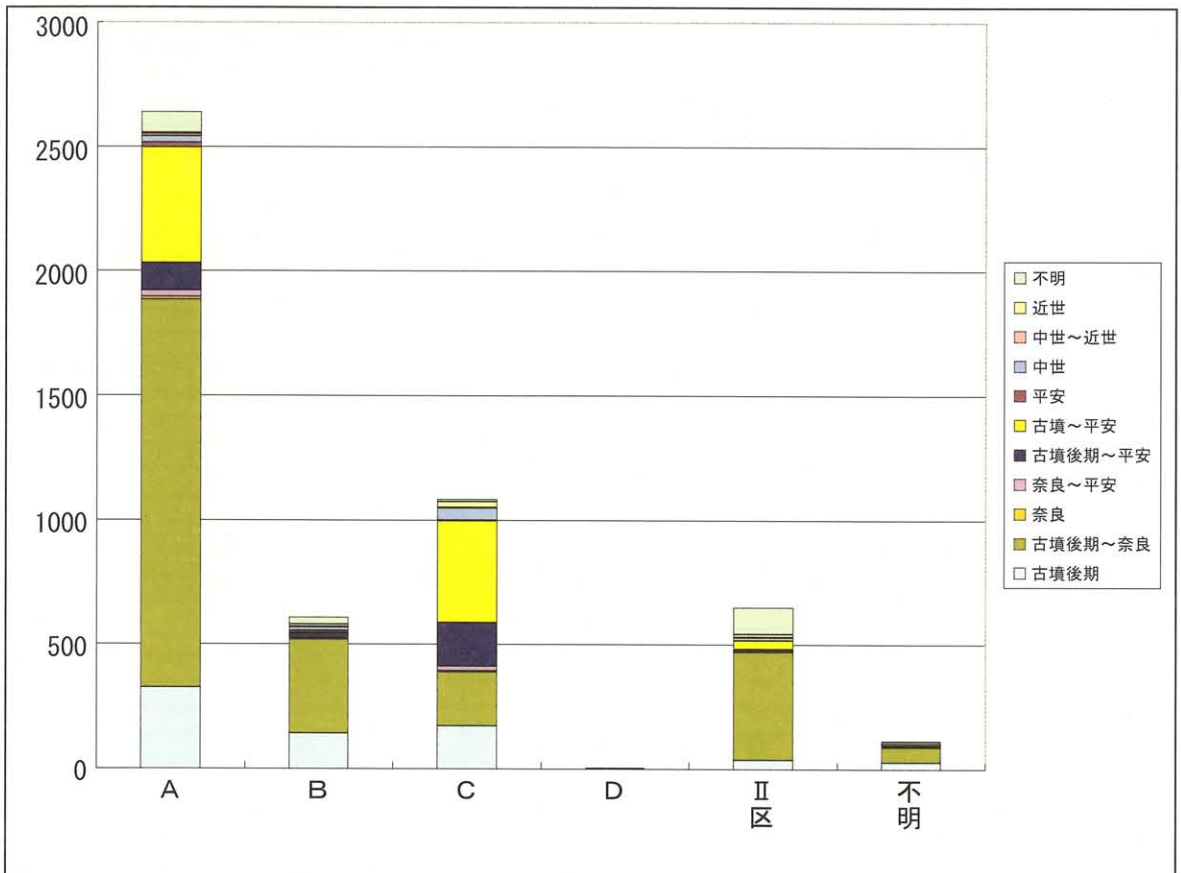
掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法					特徴	内	外	備考
						器高	底径	長さ	幅	厚さ				
W1	I	B	暗橙灰色粘質土層	木製品	椀	2.9 ～	8.2					黒漆、赤漆絵付け	黒漆	低い高台を持つ。
W2	I	A	砂レキ層	木製品	椀			5.85	2.4	0.3	薄い造り。端部切断。			
W3	I	C	淡灰色粘質土層（小レキ含む）	木製品	板状木製品			9.6	3.35	0.7	短冊状に形成。穿孔有り。			
W4	I	B	橙茶色粘質土層	木製品	板状木製品			21.9	6.75	1.8	矢板状に加工。			端部炭化。

第9表　羽代前田遺跡出土遺物分類表

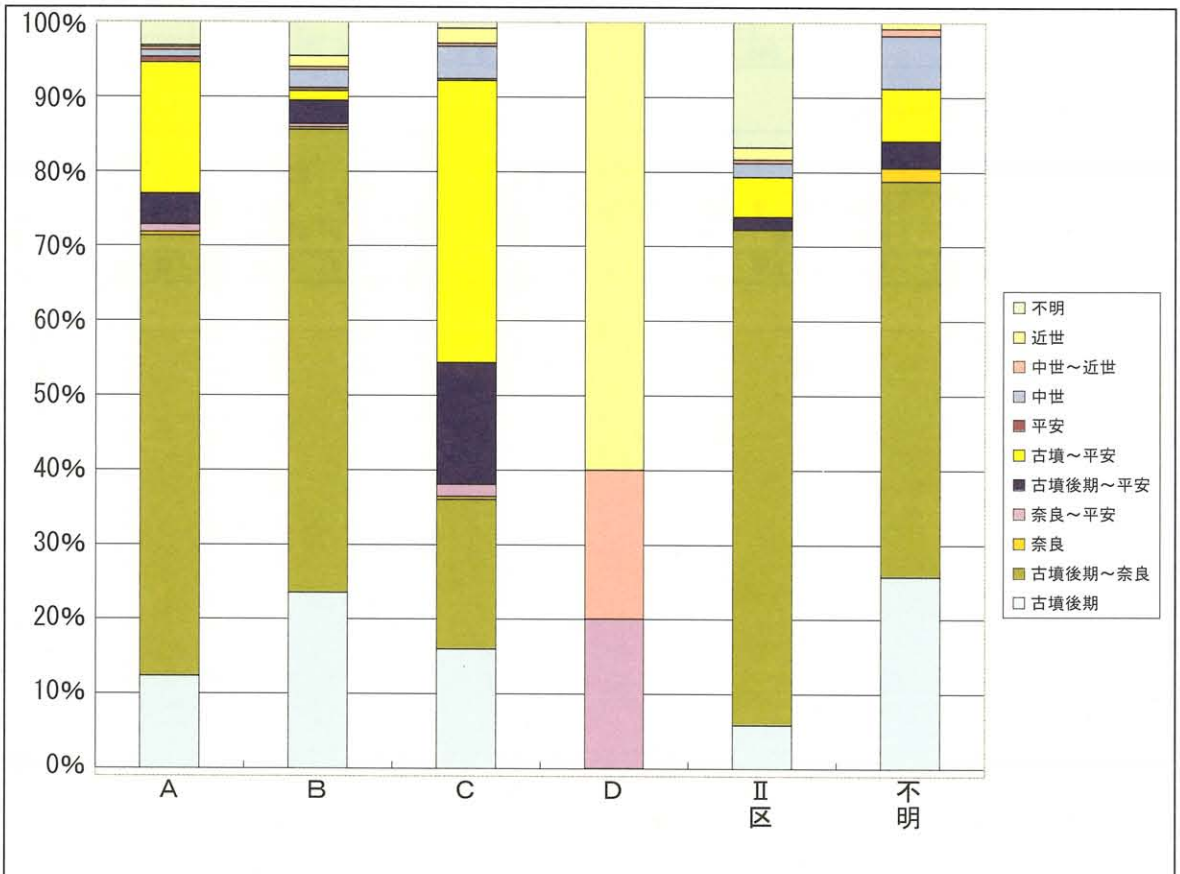
時代	時期	種別	Ⅰ区					Ⅰ区合計	Ⅱ区合計	試掘合計	総計
			A	B	C	D	不明				
縄文		石器		2	3			5		1	6
弥生後期～古墳後期		土師器	1					1			1
古墳		土師器	1					1			1
古墳	中期	土師器	4					4			4
	後期	土師器	17	2	15		1	35	9		44
		須恵器	308	141	158			607	29	28	664
古墳後期～奈良		土師器	1,594	378	301		24	2,297	467	43	2,807
		須恵器	110	19	176			305	11	4	320
奈良		須恵器	12	2	4			18		2	20
奈良～平安		須恵器	26	3	18	1		48			48
古墳～平安		土師器	429	7	325		1	762			762
平安		土師器	11		1			12			12
		須恵器	7	2	1			10			10
		瓦			1			1			1
平安～中世		須恵器	1		1			2			2
		陶器		1				1			1
		瓦			1			1			1
中世		土器			1			1			1
		土師器	19	14	43		3	79	7	3	89
		須恵器						0	4	2	6
		磁器	6	1	3			10	1		11
中世～近世		磁器		1	1			2			2
		瓦器						0	2	1	3
		瓦			1			1			1
		不明	10	1	2	1		14	1		15
近世		土器			3		1	4			4
		陶器	5	9	14	3		31	11		42
		不明			5			5			5
不明		石器	2					2	1		3
		土器	10	19	1			30	16		46
		土師器	24		1			25			25
		須恵器	45	8				53	17		70
		製鉄遺物	2		7			9	75		84
		自然物		1				1			1
		不明	2					2			2
総計			2,646	611	1,087	5	30	4,379	651	84	5,114

第10表　製鉄関連遺物観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
I1	I	B	橙茶色粘質土層	鉄滓	流動滓	4.1	4.2	3.05	44.80	メタル度高い。
I2	I	C	灰茶色砂質層	鉄滓	流動滓	10.6	8.6	7.2	678.00	
I3	I	C（西側）	淡灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	5.4	3.6	2.0	34.64	激しく風化している。



グラフ1　調査区別遺物集計グラフ



グラフ2　調査区別遺物構成比（百分率）

第11表　各時代における器種一覧表

時　代	種　別	器　種	合計
縄文	黒曜石	核	1
	石器	磨製石器	2
		石錘	1
		石槍	1
		不明	1
弥生後期～古墳後期	土師器	甕	1
古墳中期	土師器	高坏	4
古墳後期	土師器	鉢	1
		高坏	26
		不明	17
	須恵器	坏	33
		蓋	7
		坏若しくは蓋	25
		高坏	26
		壷	2
		甕	461
		壷若しくは甕	2
		不明	107
古墳後期～奈良	土師器	坏	62
		小型壷	14
		壷	1
		甕	321
		壷若しくは甕	907
		移動式カマド	125
		甑	42
		土製支脚	12
		不明	1,323
	赤色土器	坏	1
	須恵器	坏	14
		蓋	1
		壷	12
		甕	153
		瓶	1
		不明	139
奈良	須恵器	坏（高台付）	12
		蓋	4
		ボタン状つまみ付蓋	2
		輪状つまみ付蓋	2
		短頸壷	1
奈良～平安	須恵器	坏	8
		蓋	1
		坏若しくは蓋	25
		不明	14

時　代	種　別	器　種	合計
古墳～平安	土師器	甕	137
		不明	625
平安	土師器	坏	2
		不明	10
	須恵器	坏	5
		甕	3
		不明	2
	瓦	平瓦	1
平安～中世	瓦	瓦	1
		丸瓦	2
	陶器	甕	1
	須恵器	不明	70
古墳後期～中世	土器	擂鉢	1
中世	土師器	坏	47
		不明	42
	須恵器	擂鉢	3
		壷若しくは甕	2
		不明	1
	白磁	坏	1
		合子	3
		不明	5
	青磁	坏	2
中世～近世	青磁	坏	1
		不明	1
	瓦	平瓦	1
	瓦質土器	不明	3
	不明	不明	15
近世	土器	不明	4
	染付	不明	39
	陶器	擂鉢	2
		碗	1
	不明	鉢	2
		不明	3
不明	石器	不明	3
	土器	不明	46
	土師器	土錘	1
		把手	5
		不明	19
	製鉄遺物	鉄滓	84
	骨	不明	1
	不明	不明	2
総計			5,114

第12表　石器観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)		
S1	I	B	橙茶色粘質土層	石器	石槍	6.6	2.7	0.9	16.17	サヌカイト	風化の為調整不明瞭
S2	I	B	橙色粘質土層（青灰色土含む）	石器	石核	4.95	3.5	2.2	44.53	黒曜石	

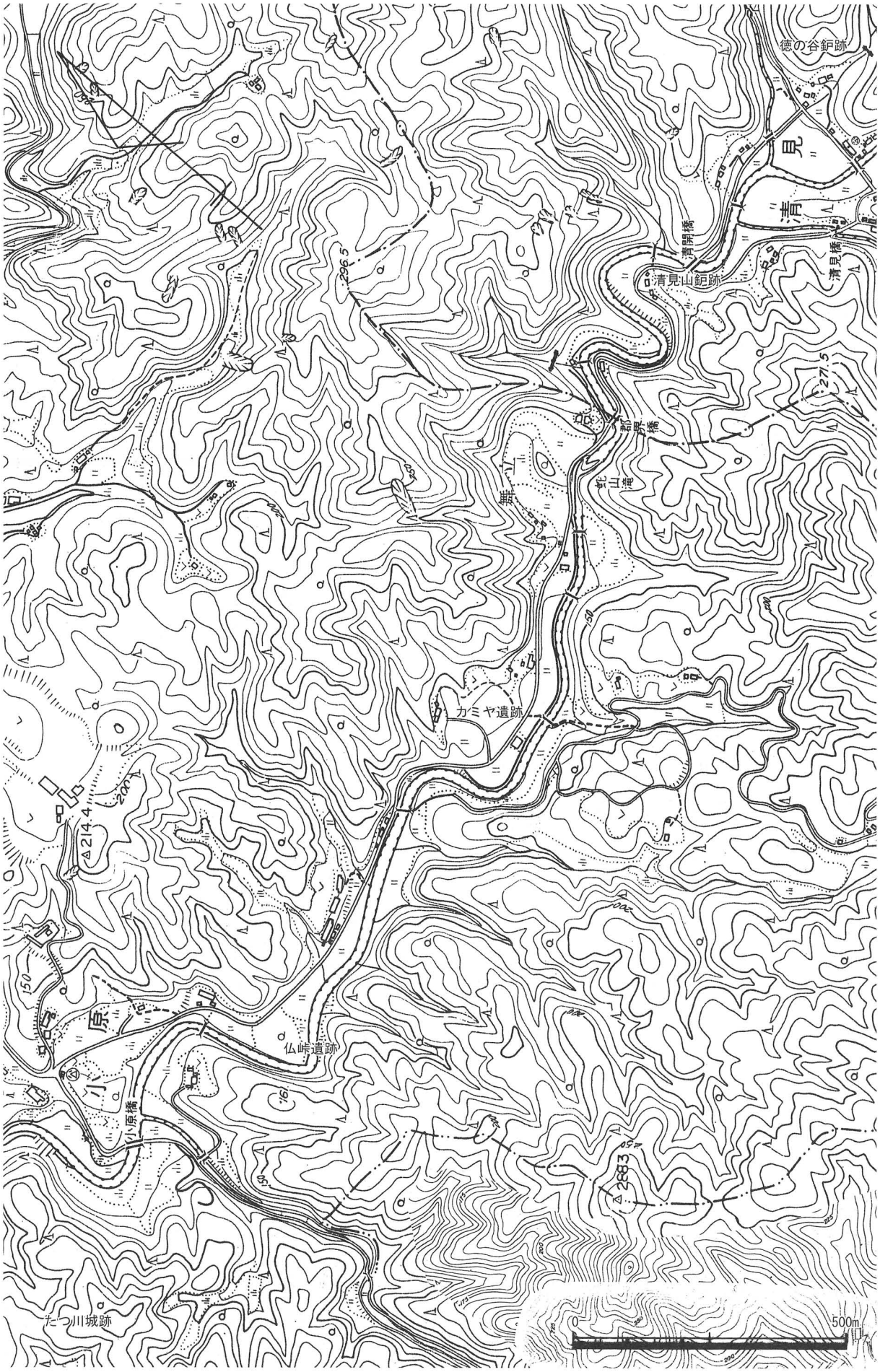
第13表　骨製品観察表

掲載No.	地区		土色	種別	器種	寸法（cm）			
						長さ	幅	厚さ	重さ(g)
B1	I	B	橙茶色粘質土層	自然物	骨	4.9	3.1	1.85	8.67

第1図　江津市南部の遺跡　S＝1/40,000

第41表　江津市南部の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	所在地	時代	概要	備考
1	山根家墓地	古墳	桜江町　市山	古墳	近世墓地	
2	湯浅家墓地	古墳	桜江町　市山	古墳	戦国～江戸期	
3	阿刀城跡	城跡	跡市町　跡市	中世	郭	
4	たつ川城跡	城跡	跡市町　小原	中世		
5	城山城跡	城跡	桜江町　後山	中世	郭	
6	福田城跡	城跡	有福温泉町　本明	中世	郭、土塁、堀切	
7	草ノ城跡	城跡	金城町　今福	中世	郭、腰郭	
8	屋敷城跡	城跡	桜江町　長谷	中世		
9	市山城跡	城跡	桜江町　市山	中世	山城、削平地	
10	江尾城跡	城跡	桜江町　市山　江尾	中世	山城	
11	川上氏宅裏経塚	経塚	跡市町　徳田	中世	一字一石経	
12	仏峠遺跡	集石	跡市町　小原	近世		
13	沢津Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	金城町　追原	近世		
14	沢津Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	金城町　追原	近世		
15	福原鈩跡	製鉄遺跡	金城町　追原　福原	近世		
16	清見山崎鈩跡	製鉄遺跡	清見町	近世		
17	徳の谷鈩跡	製鉄遺跡	清見町　徳の谷	近世		
18	蛭田鉄穴跡	鉄穴跡	桜江町　長谷　蛭田	近世	天堤、溝、切羽	
19	山中鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　長谷　山中東	近世	鉄滓	
20	長谷鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　長谷　南郷谷	近世	鉄滓	
21	田尻鉄穴跡	鉄穴跡	桜江町　長谷　田尻	近世	洗池	大きく破棄
22	八戸Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　八戸　八戸東	近世	鉄滓	
23	八戸鍛冶跡	鍛冶跡	桜江町　八戸　八戸東	近世	平坦面2	
24	八戸Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　八戸　八戸東	近世	鉄滓	
25	鈩ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　後山　鈩ヶ谷	近世		一部破棄
26	下笹畑鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　後山　下笹畑	近世		
27	糸谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　江尾	近世		
28	糸谷鍛冶跡	鍛冶跡	桜江町　江尾　糸谷	近世	金屋子神、鉄滓少々	
29	糸谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　江尾	近世	鉄滓	
30	糸谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	桜江町　江尾	近世	鉄滓	
31	鋳物師跡	生産遺跡	桜江町　市山	近世		
32	後山常光寺跡	寺院跡	桜江町　後山	―		
33	千手院跡	寺院跡	桜江町　市山	―		
34	市山常光寺跡	寺院跡	桜江町　市山	―		
35	護清院跡	寺院跡	桜江町　市山	―		
36	瀧三寺跡	寺院跡	桜江町　市山	―	仏像	
37	神宮寺跡	寺院跡	桜江町　市山	―	仏像	
38	宝珠寺跡	寺院跡	桜江町　市山　小市川	―	棟札、古文書	
39	江尾常光寺跡	寺院跡	桜江町　江尾	―		
40	順誓寺跡	寺院跡	桜江町　江尾	―		
41	観音院跡	寺院跡	桜江町　江尾　観音	―		
42	香伝庵跡	寺院跡	桜江町　今田	―	延命地蔵菩薩	
43	浜田三次往還	街道跡		近世	近世街道跡	
★	カミヤ遺跡	集落跡	跡市町　舞立	縄文～近世	須恵器、土師器、鉄滓、炉壁、羽口、木製品、中世陶磁器、石器	

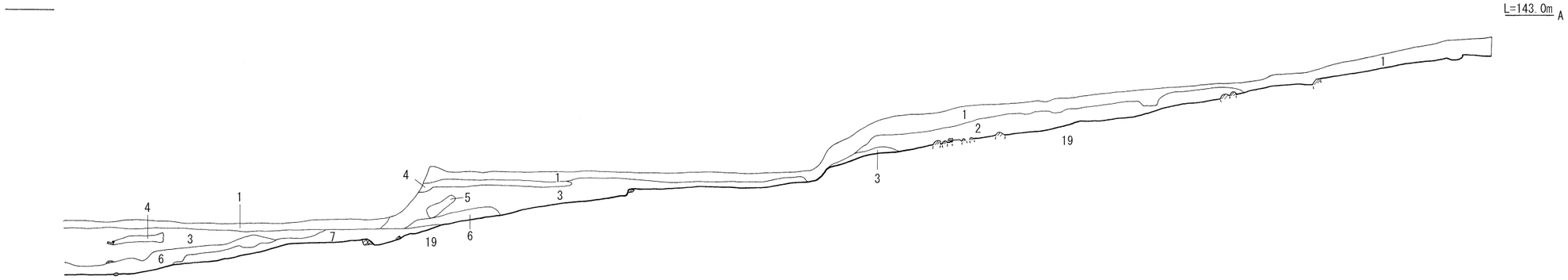


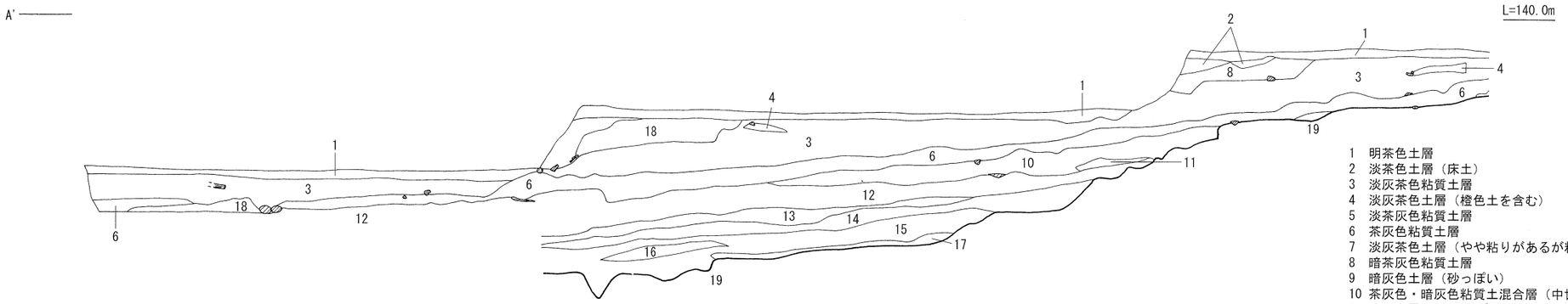
第２図　カミヤ遺跡周辺の状況　S＝1/10,000

第３図　カミヤ遺跡調査区配置図　Ⅰ区（A～C）Ⅱ区（D～G）　S＝1/2,000

第４図　本調査及び確認調査範囲指定図　S＝1/600

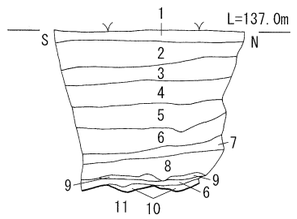
第５図　調査区全体図　S＝1/400





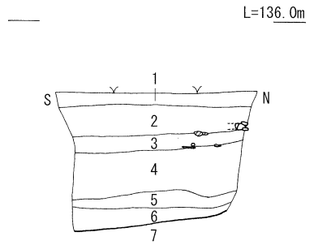
1 明茶色土層
2 淡茶色土層（床土）
3 淡灰茶色粘質土層
4 淡灰茶色土層（橙色土を含む）
5 淡茶灰色粘質土層
6 茶灰色粘質土層
7 淡灰茶色土層（やや粘りがあるが粒子が粗い）（中世以降）
8 暗茶灰色粘質土層
9 暗灰色土層（砂っぽい）
10 茶灰色・暗灰色粘質土混合層（中世以降）
11 小レキ層（10層をブロックで含む）
12 暗灰色粘質土層（場所によって砂レキ層を含む）
13 暗灰色・青灰色砂レキ層（粘質土をブロックで含む）
14 淡灰色粘質土層（所々レキ層を含む）
15 青灰色土層（やや砂っぽい、おもかす層を含む）
16 暗灰色砂質土層（レキ層を含む）
17 暗灰色砂質土層（おもかす層を含む）
18 暗茶灰色粘質土層
19 岩盤

トレンチ02

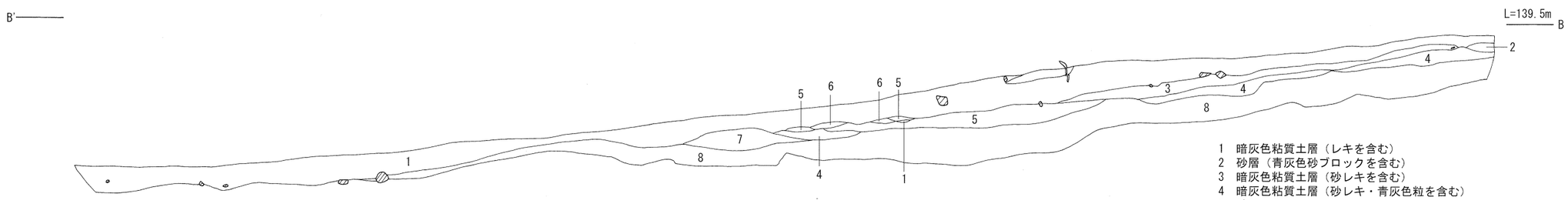


1 明茶色土層
2 淡茶灰色粘質土層
3 淡灰色粘質土層
4 茶灰色粘質土層
5 茶灰色粘質土層・暗灰色粘質土層の混合層
6 暗灰色粘質土層
7 暗灰色粘質土層（砂レキを含む）
8 暗茶色粘質土層
9 青灰色砂層
10 暗灰色砂レキ層
11 岩盤

トレンチ03



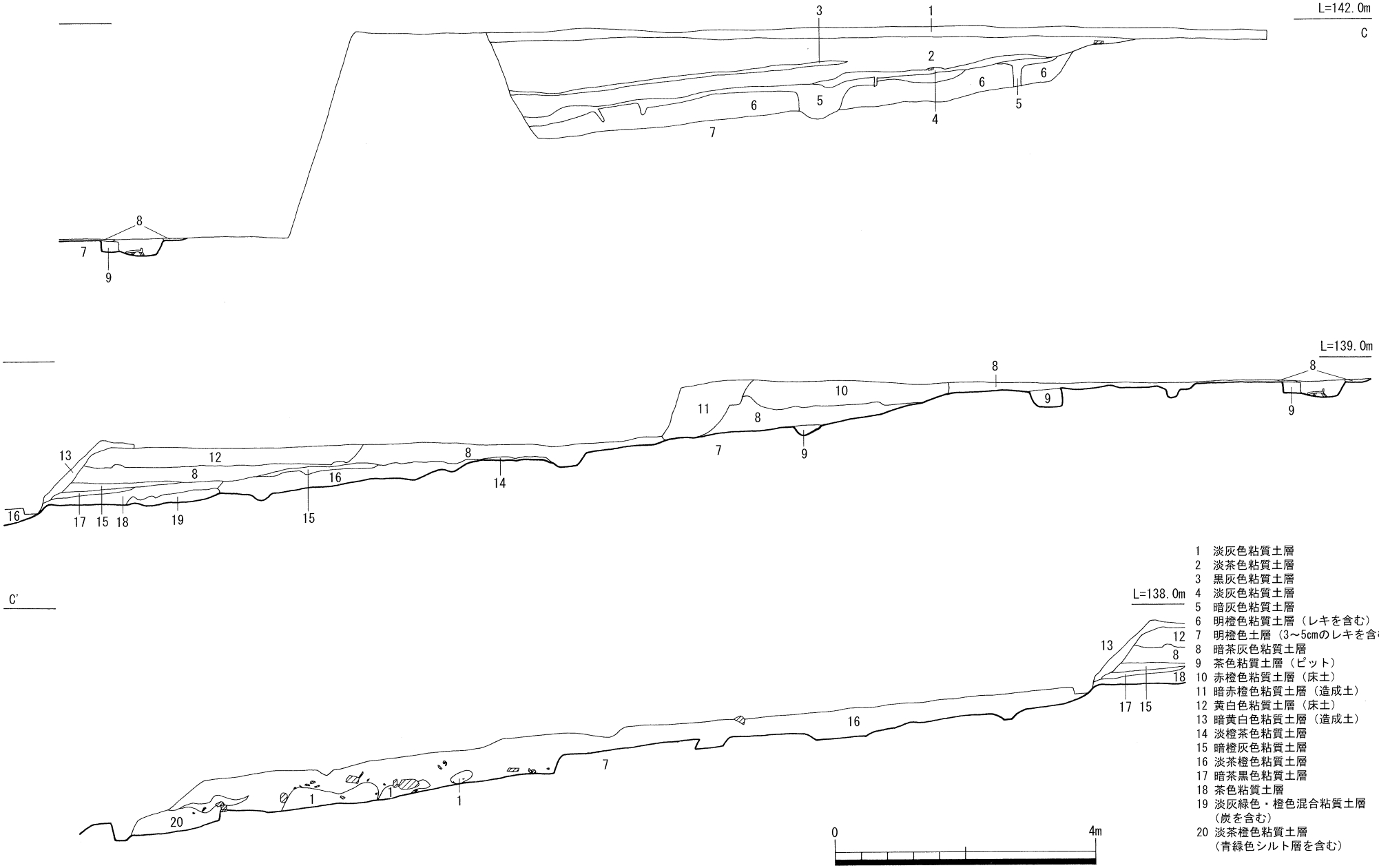
1 明茶色土層
2 淡灰色粘質土層
3 灰色粘質土層
4 暗灰色粘質土層
5 暗灰色砂レキ層
6 淡灰色粘質土層
7 青灰色砂レキ層



1 暗灰色粘質土層（レキを含む）
2 砂層（青灰色砂ブロックを含む）
3 暗灰色粘質土層（砂レキを含む）
4 暗灰色粘質土層（砂レキ・青灰色粒を含む）
5 砂層
6 砂層・砂レキ層の混合層
7 砂レキ層
8 青灰色砂レキ層

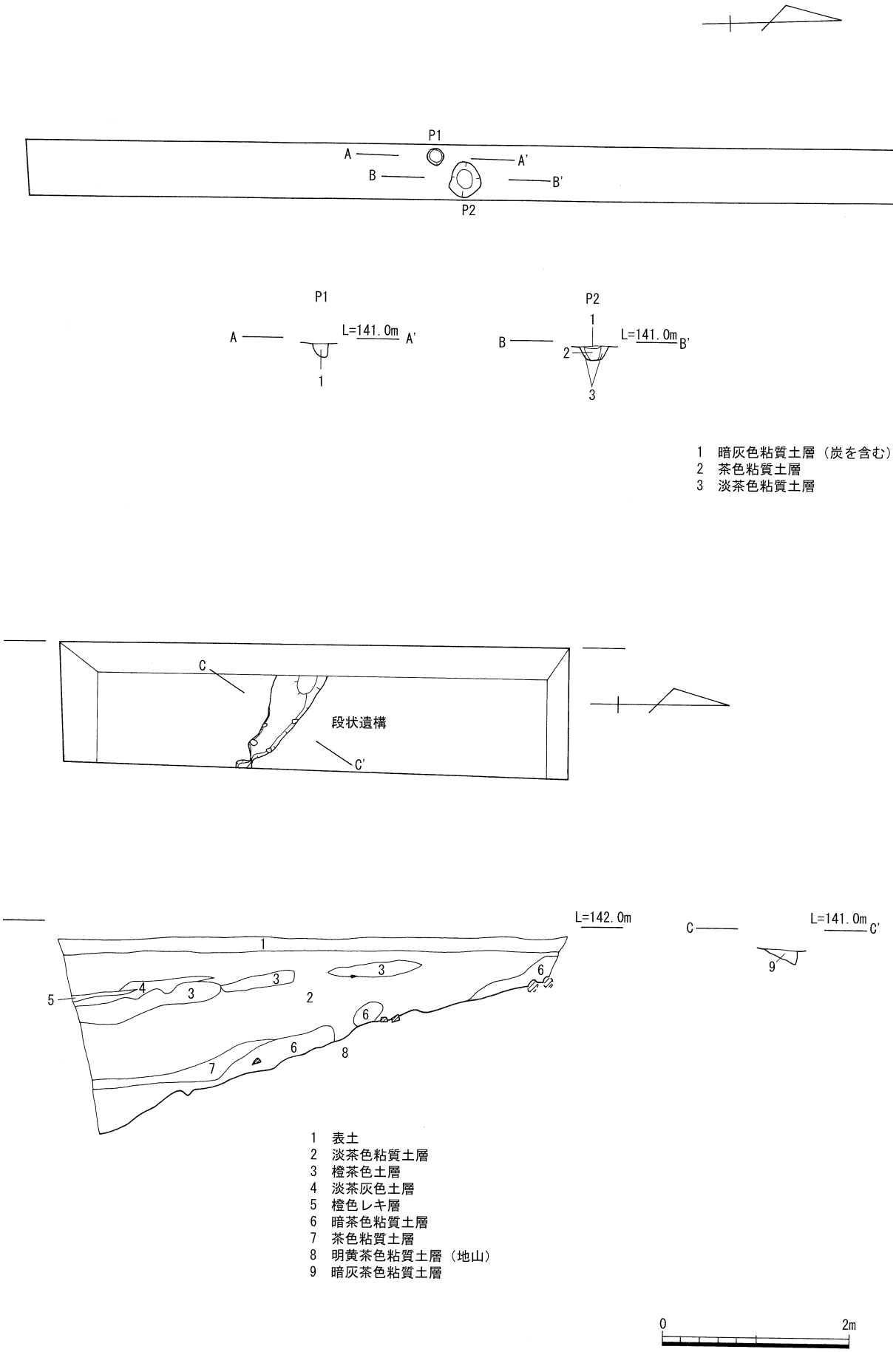
0 4m

第6図　Ⅰ区調査区土層図　S＝1/80



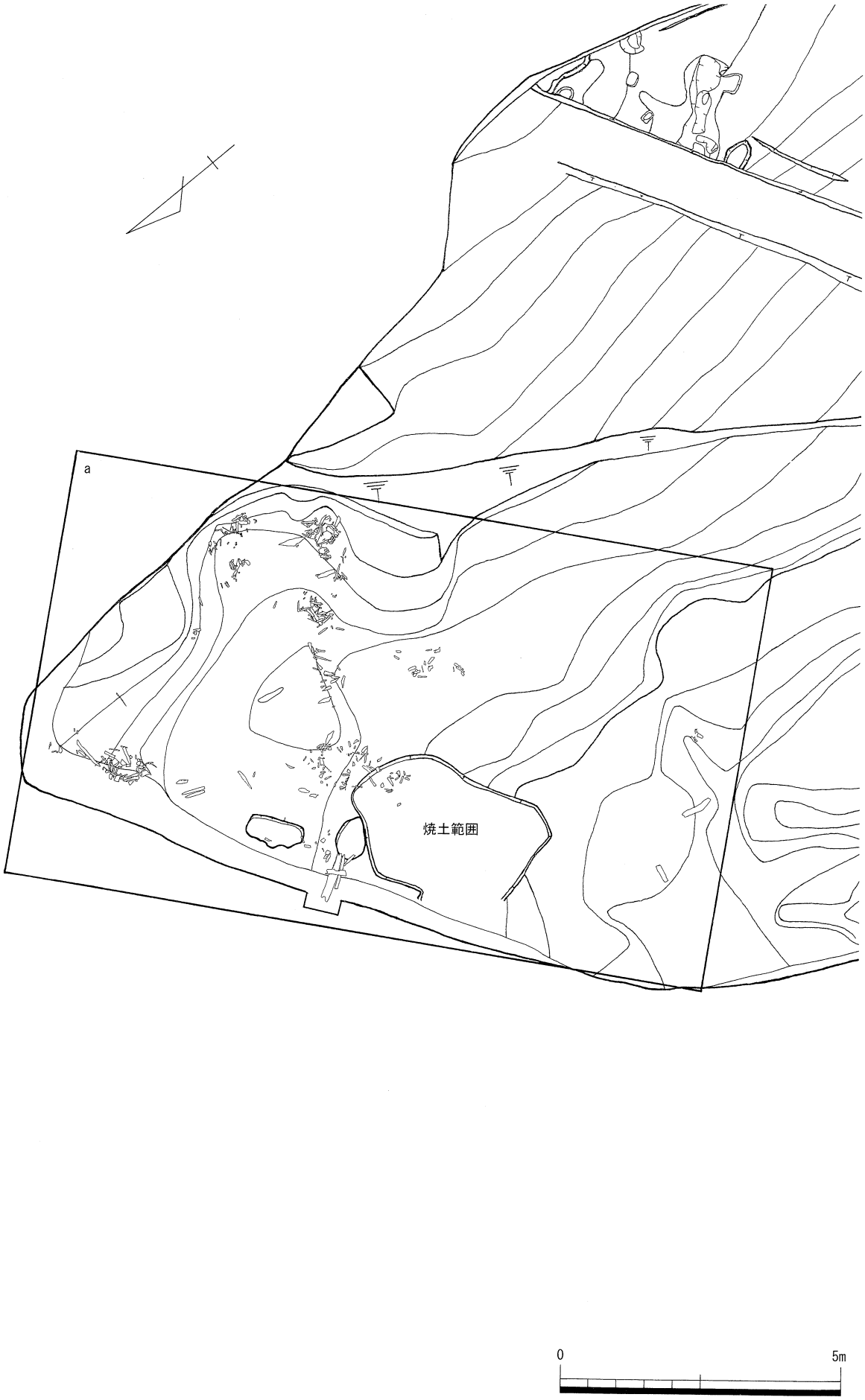
1 淡灰色粘質土層
2 淡茶色粘質土層
3 黒灰色粘質土層
4 淡灰色粘質土層
5 暗灰色粘質土層
6 明橙色粘質土層（レキを含む）
7 明橙色土層（3～5cmのレキを含む）
8 暗茶灰色粘質土層
9 茶色粘質土層（ピット）
10 赤橙色粘質土層（床土）
11 暗赤橙色粘質土層（造成土）
12 黄白色粘質土層（床土）
13 暗黄白色粘質土層（造成土）
14 淡橙茶色粘質土層
15 暗橙灰色粘質土層
16 淡茶橙色粘質土層
17 暗茶黒色粘質土層
18 茶色粘質土層
19 淡灰緑色・橙色混合粘質土層（炭を含む）
20 淡茶橙色粘質土層（青緑色シルト層を含む）

第7図　Ⅱ区調査区土層図　S＝1/80



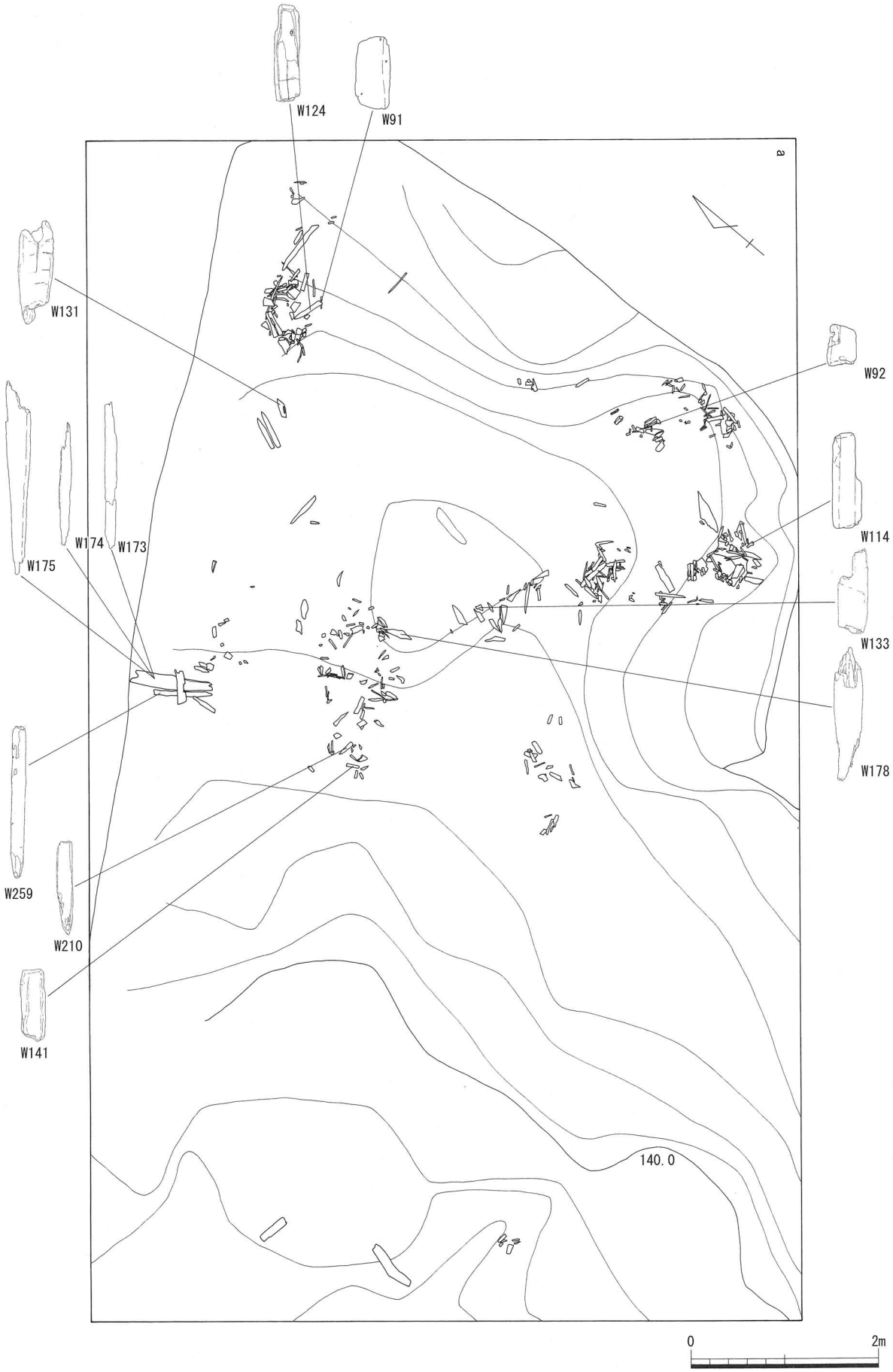
第８図　Ｉ－Ｃ区調査区土層図　Ｓ＝1/60

第９図　Ⅰ－Ａ区　谷１　遺構配置図１　Ｓ＝1/200

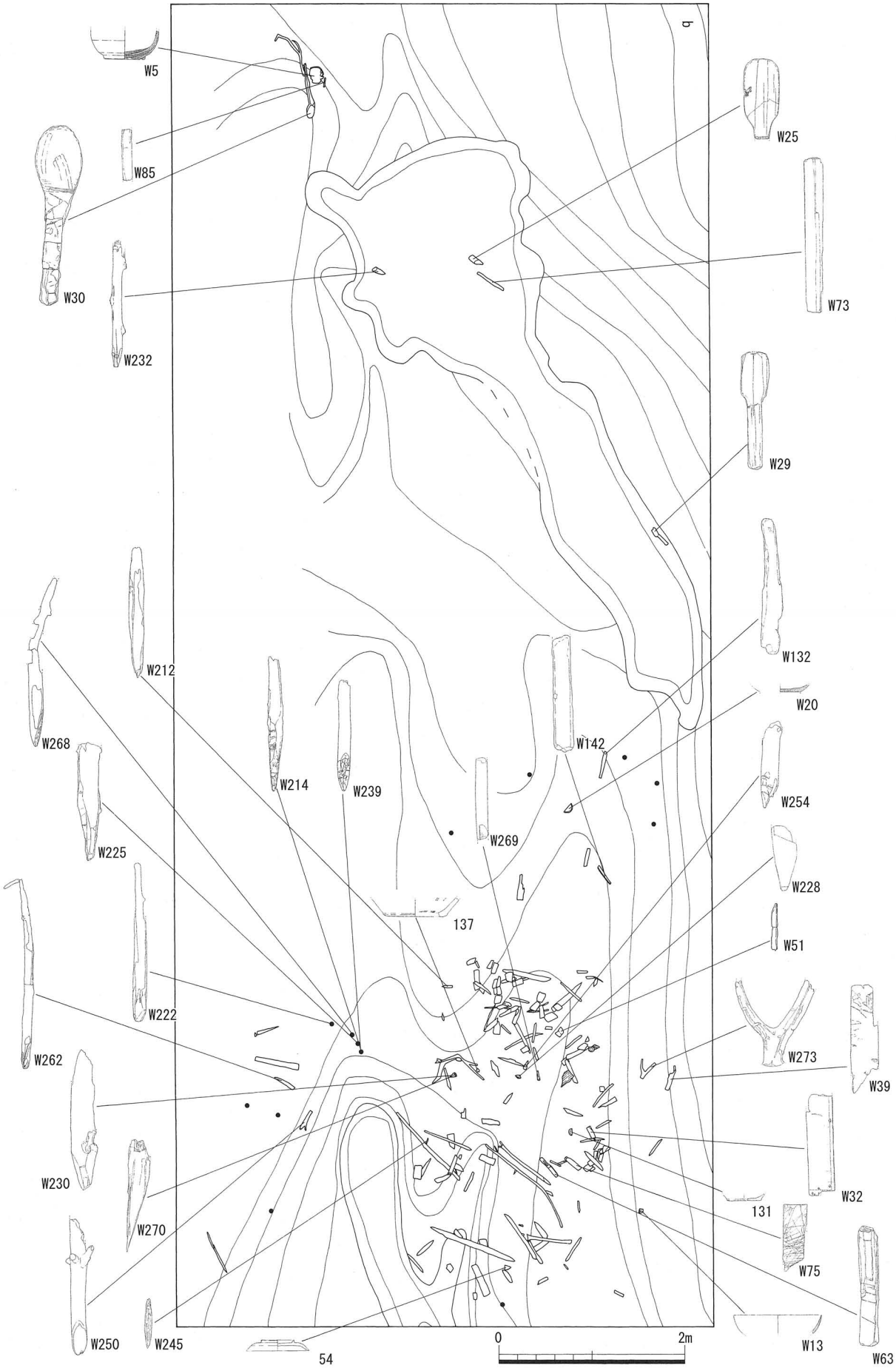


第10図　Ⅰ－Ａ区　谷１　遺構配置図２　Ｓ＝1/100

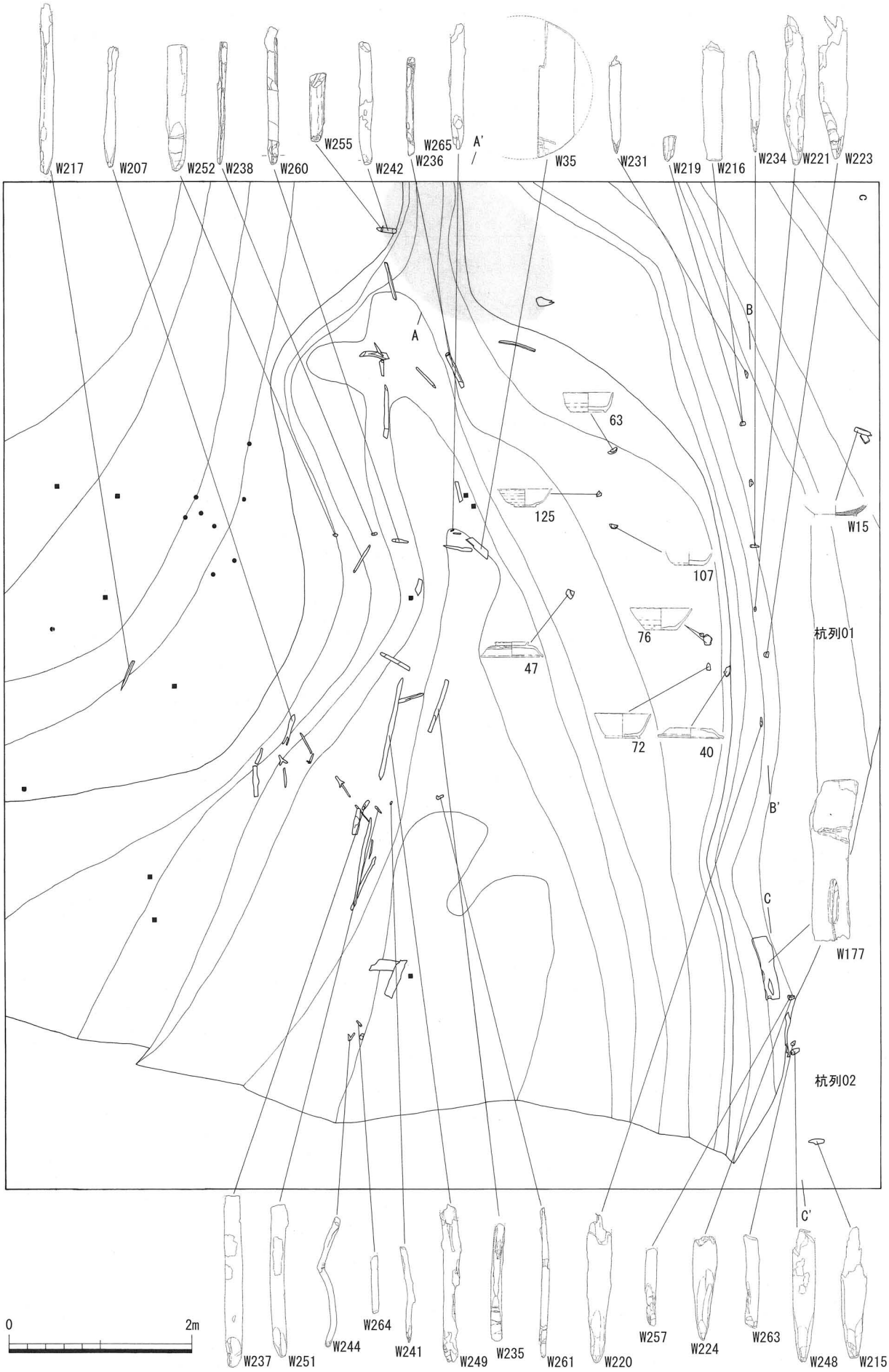
第11図　Ⅰ－A区　谷1　遺構配置図3　S＝1/100



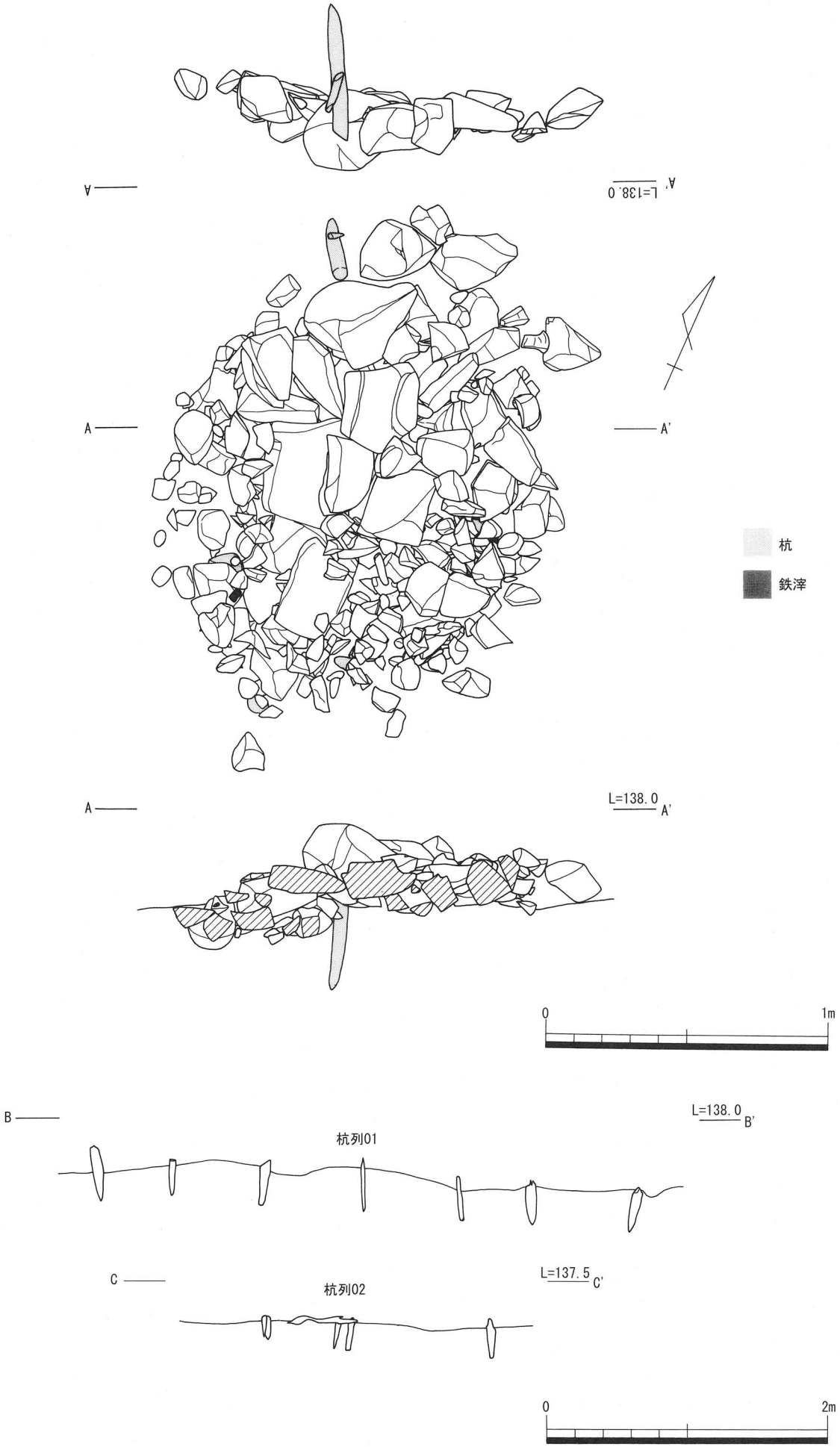
第12図　Ⅰ－A区　谷1　遺物出土状況a　S＝1/60



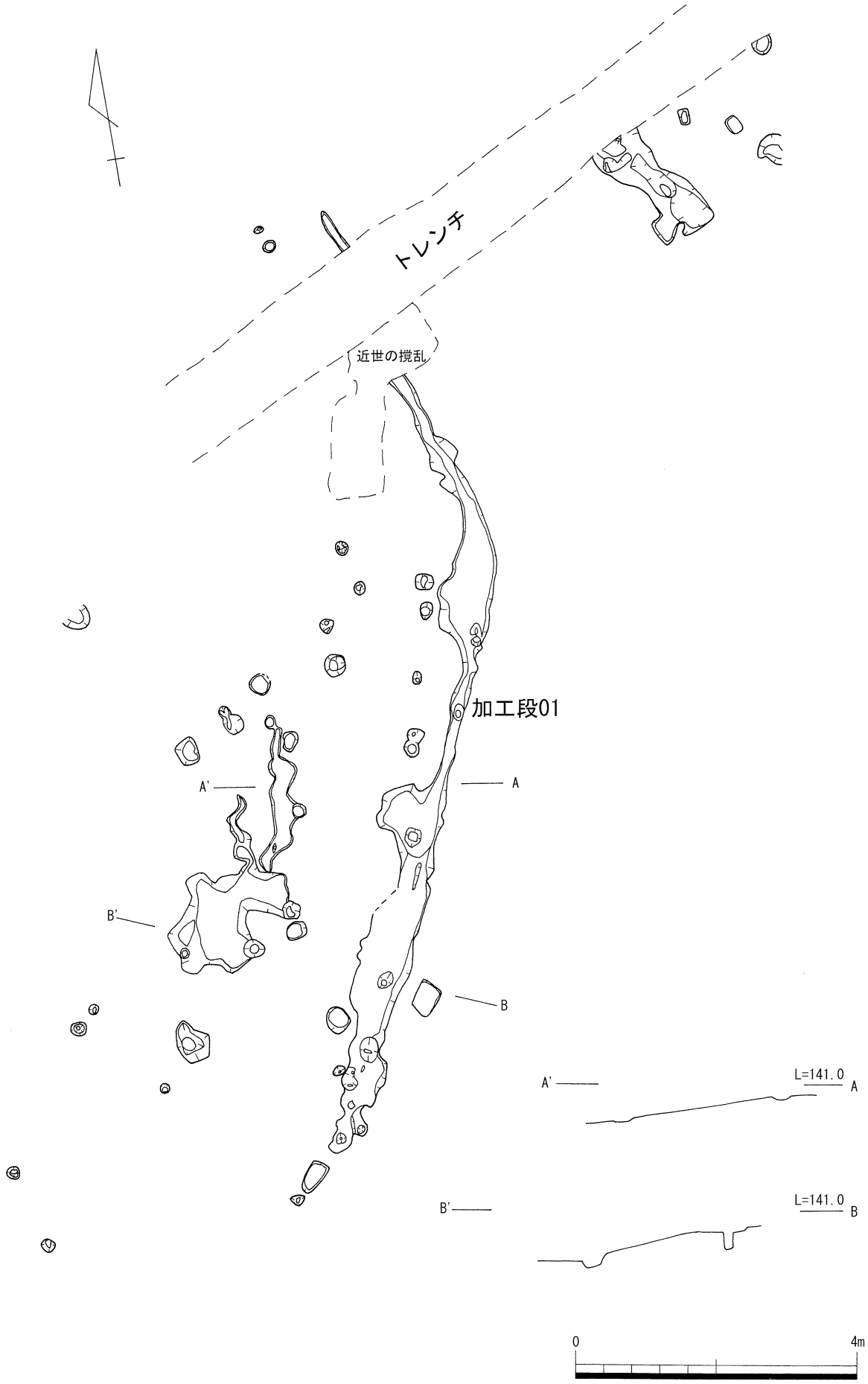
第13図　Ⅰ－A区　谷1　遺物出土状況b（●木製品■製鉄関連）　S＝1/60



第14図　Ⅰ－Ａ区　谷１　遺物出土状況ｃ（●木製品■製鉄関連）網かけは集石遺構01　Ｓ＝1/60



第15図　Ⅰ－A区　集石遺構01　実測図　S＝1/20　杭列01・02　実測図　S＝1/40



第16図　Ⅰ－A区　加工段01　実測図　S＝1/80

第24表　谷計測表

報告番号	平面形	幅	上場（m） 下場（m）	全長（m）	深さ（m）	主軸	出土遺物
Ⅰ-A区	等高線に直交する直線系		7.75 2.48	72.30	2.10	N-44.2°-E	土師器 須恵器 磁器 陶器 製鉄遺物 木製品

第25表　段状遺構計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
Ⅰ-C区	不整楕円形		130.00 115.00	47.00 39.00	15.00	N-0.5°-E	

第26表　焼土範囲計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
Ⅰ-A区	不整円形		362.00 354.00	237.00 225.00	9.00	N-66.7°-E	磁器 陶器 ガラス

第27表　流路跡計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
Ⅰ-A区	不整直線形		725.00 680.00	210.00 185.00	27.00	N-17.1°-E	土師器　青磁

第28表　集石遺構計測表

報告番号	平面形	長さ	長軸（cm）	短軸（cm）	高さ（cm）	主軸	出土遺物
01	楕円形		226.00	141.00	—	N-1.5°-E	土師器 須恵器 磁器
02	長円形		143.00	52.00	48.00	N-78.0°-W	須恵器　磁器

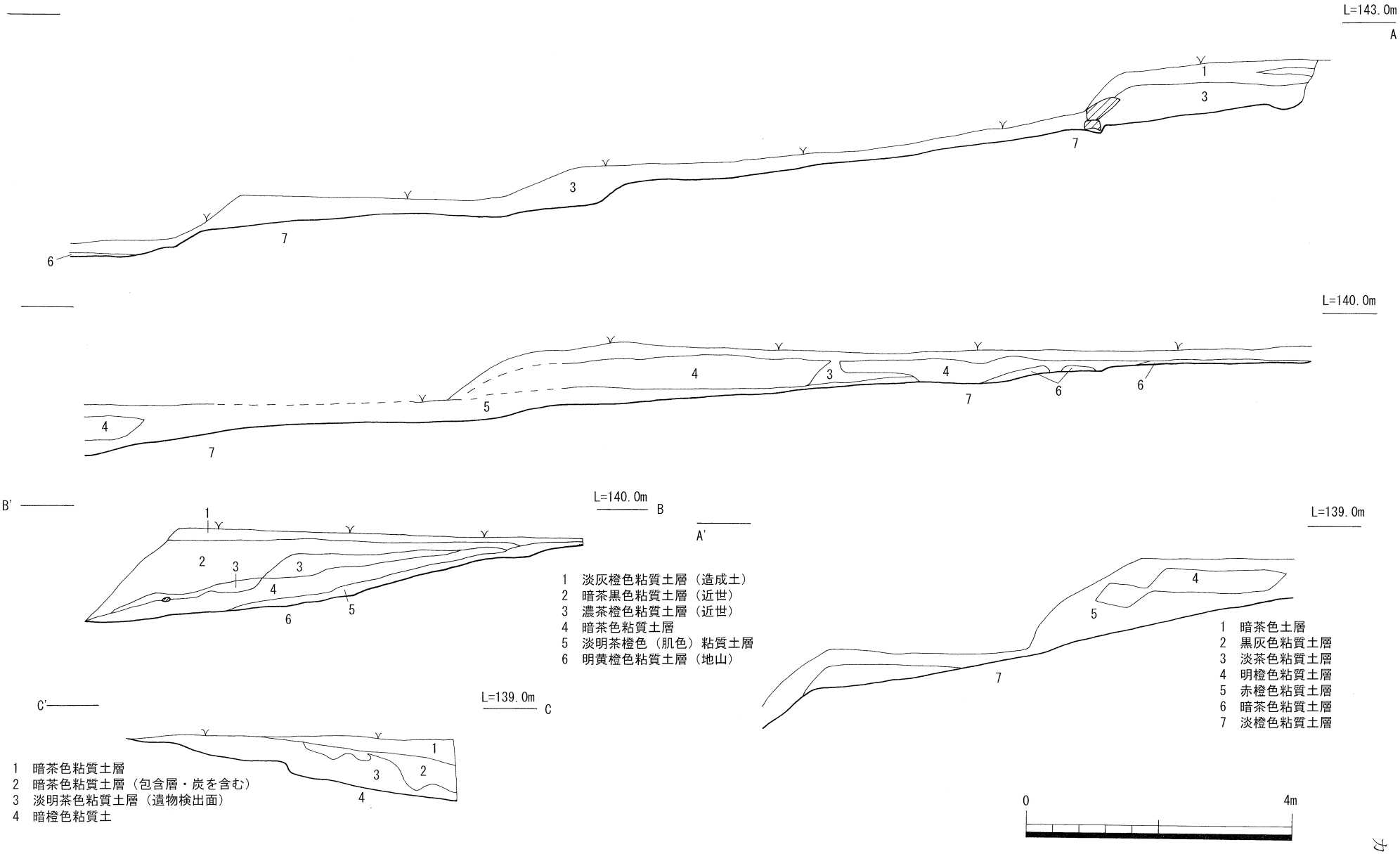
第29表　加工段計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	等高線に沿う浅いL字形		876.00 884.00	90.00 72.00	32.00	N-23.5°-E	
02	等高線に沿う不整形		570.00 535.00	235.00 207.00	22.00	N-86.0°-E	
Pit（cm）	番号		4				
	上面径（cm）		134×232～				
	底径座標（m）		137.70				
03	等高線に沿う不整形		660.00 643.00	205.00 140.00	89.00	N-84.0°-E	
Pit（cm）	番号		1	2	3		
	上面径（cm）		103×81	105×81	82×64		
	底径座標（m）		137.61	137.50	137.48		

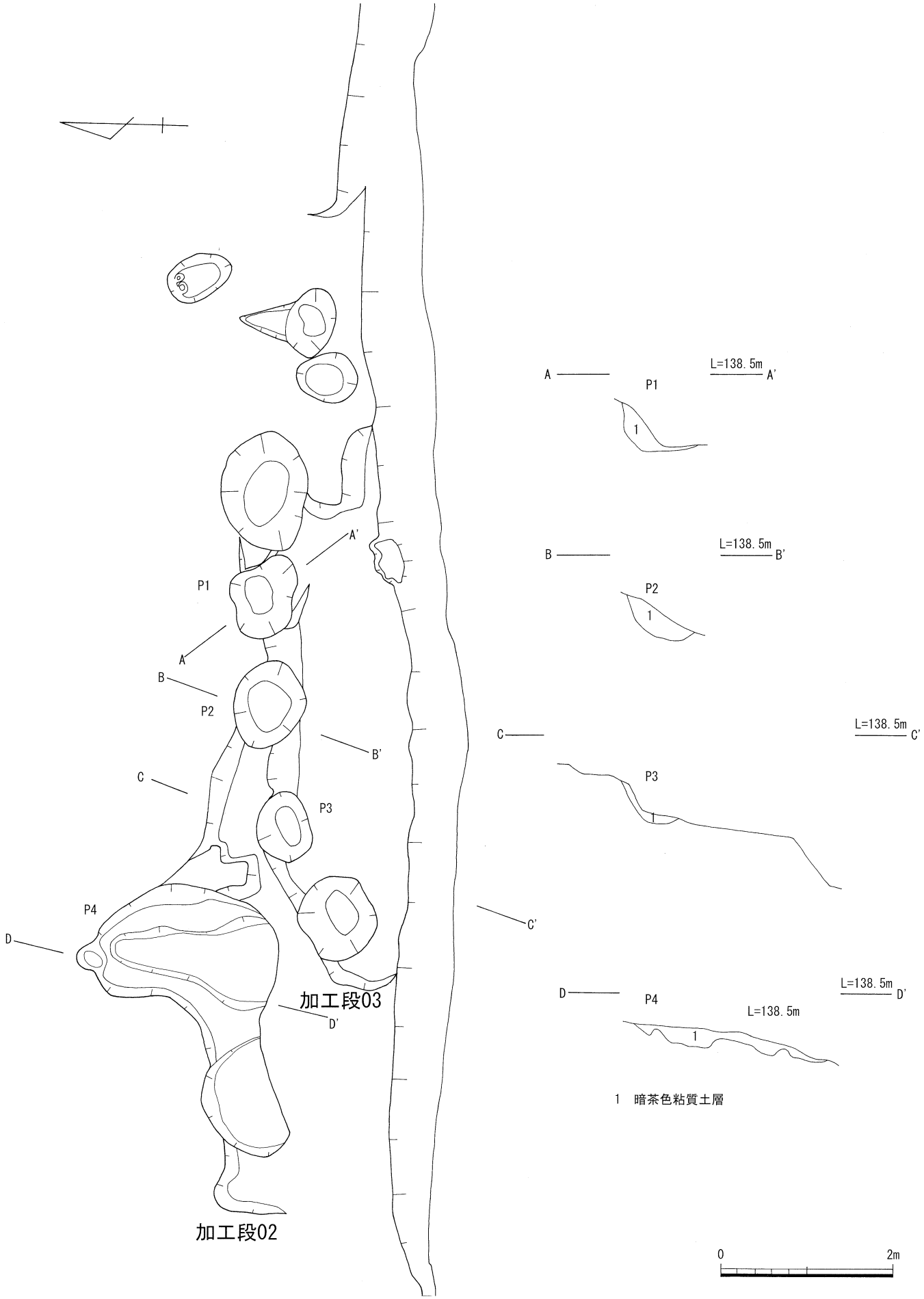
第30表　Ⅰ－C区ピット計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸（cm） 長軸（cm）	短軸（cm） 短軸（cm）	深さ（cm）	主軸	出土遺物
01	円形		19.00 14.00	18.00 14.00	15.00	N-77.9°-W	
02	円形		38.00 20.00	34.00 14.00	15.00	N-80.0°-E	土師器

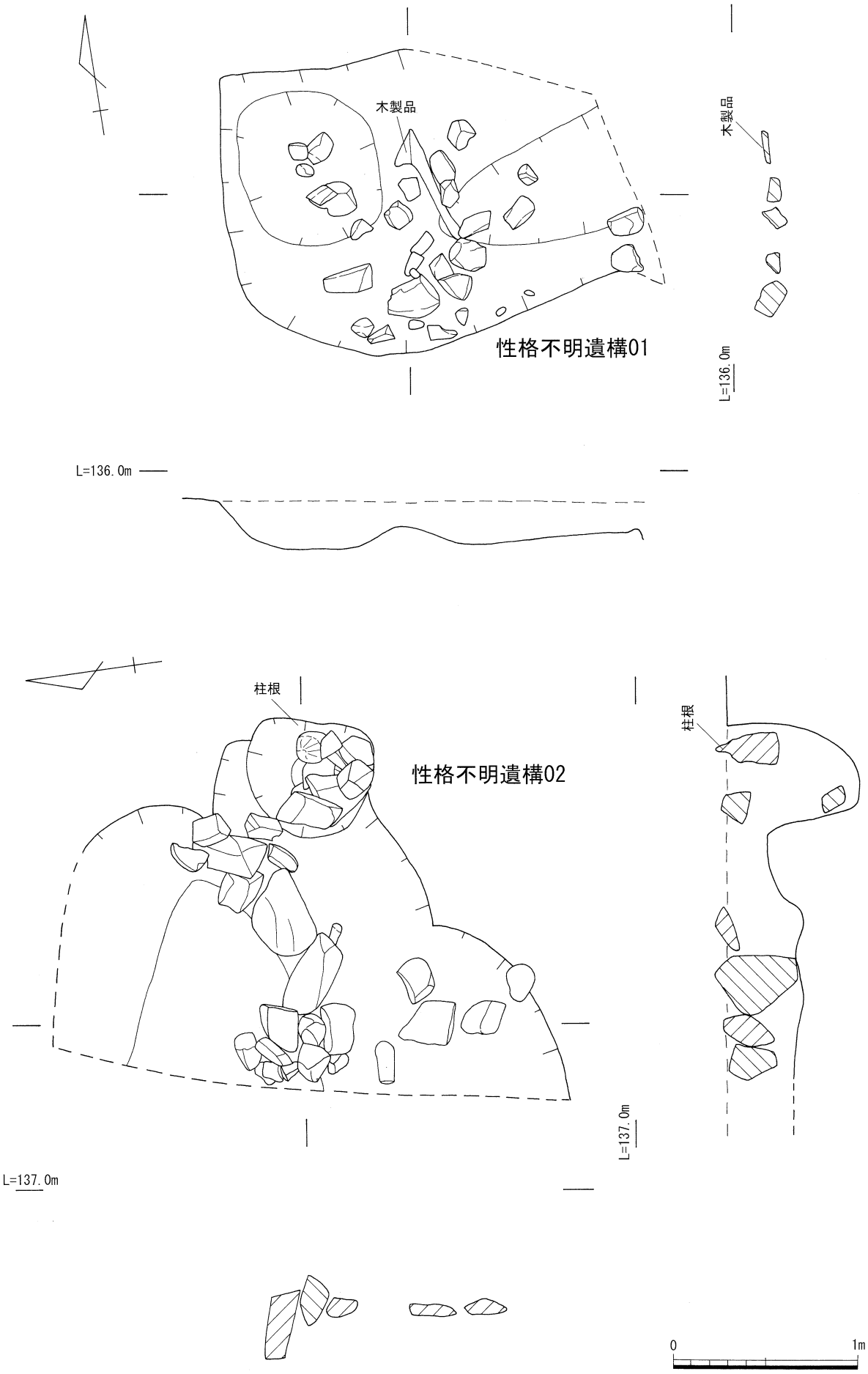
第17図　Ⅰ－B区・Ⅱ－D区西側　遺構配置図　S＝1/200



第18図 I－B区 土層図 S＝1/80

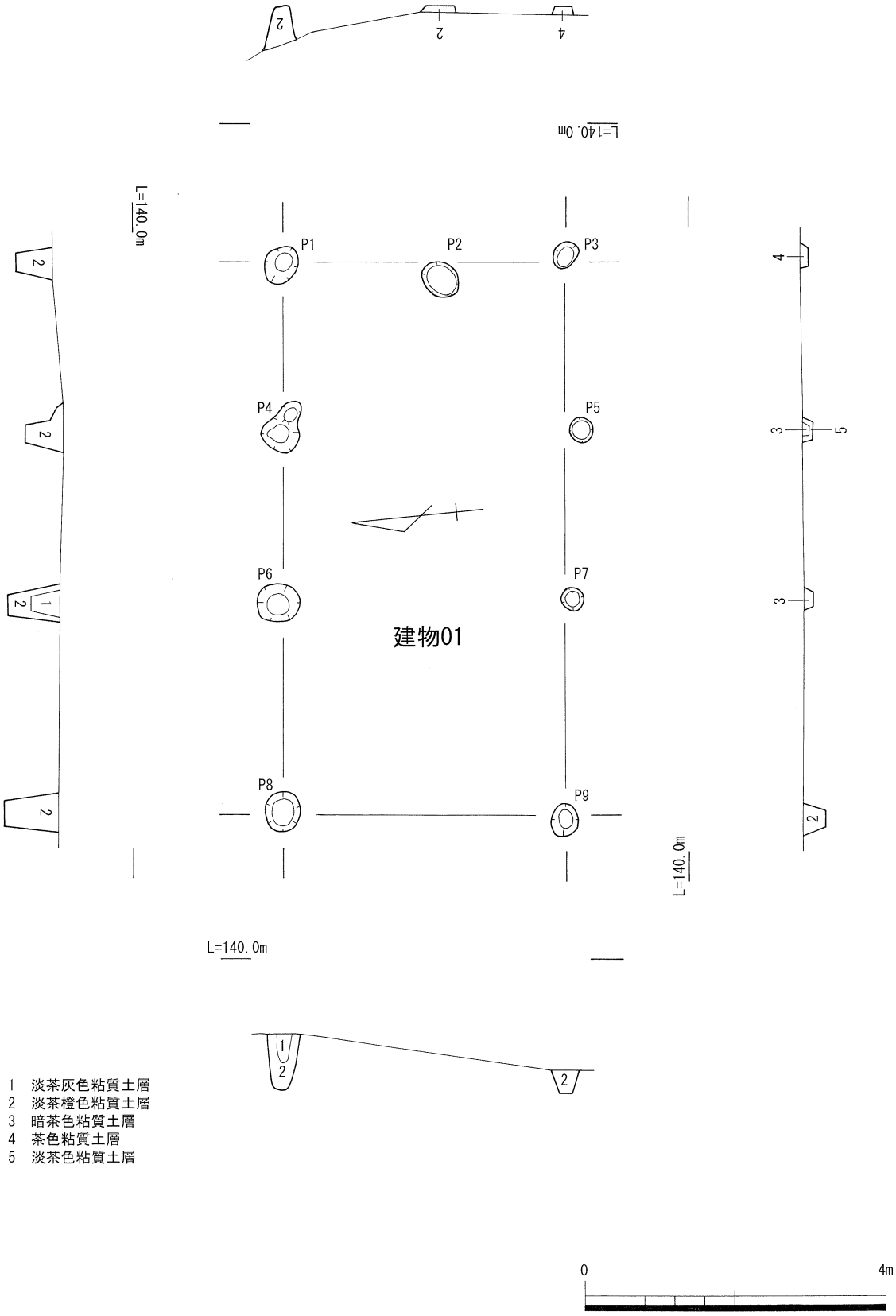


第19図　Ⅰ－B区　加工段02・03　実測図　S＝1/60

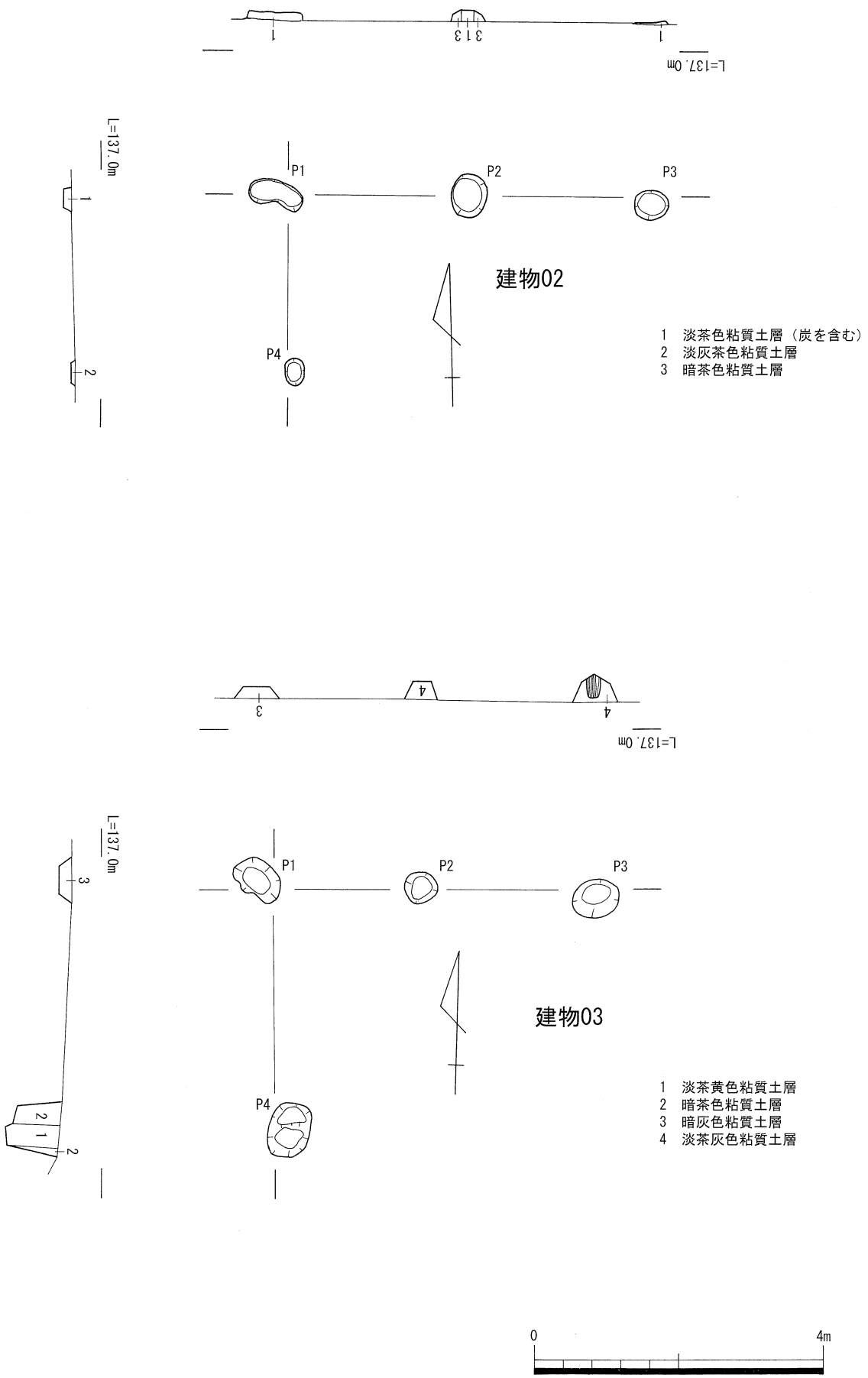


第20図　Ⅰ－B区　性格不明遺構01・02　実測図　S＝1/30

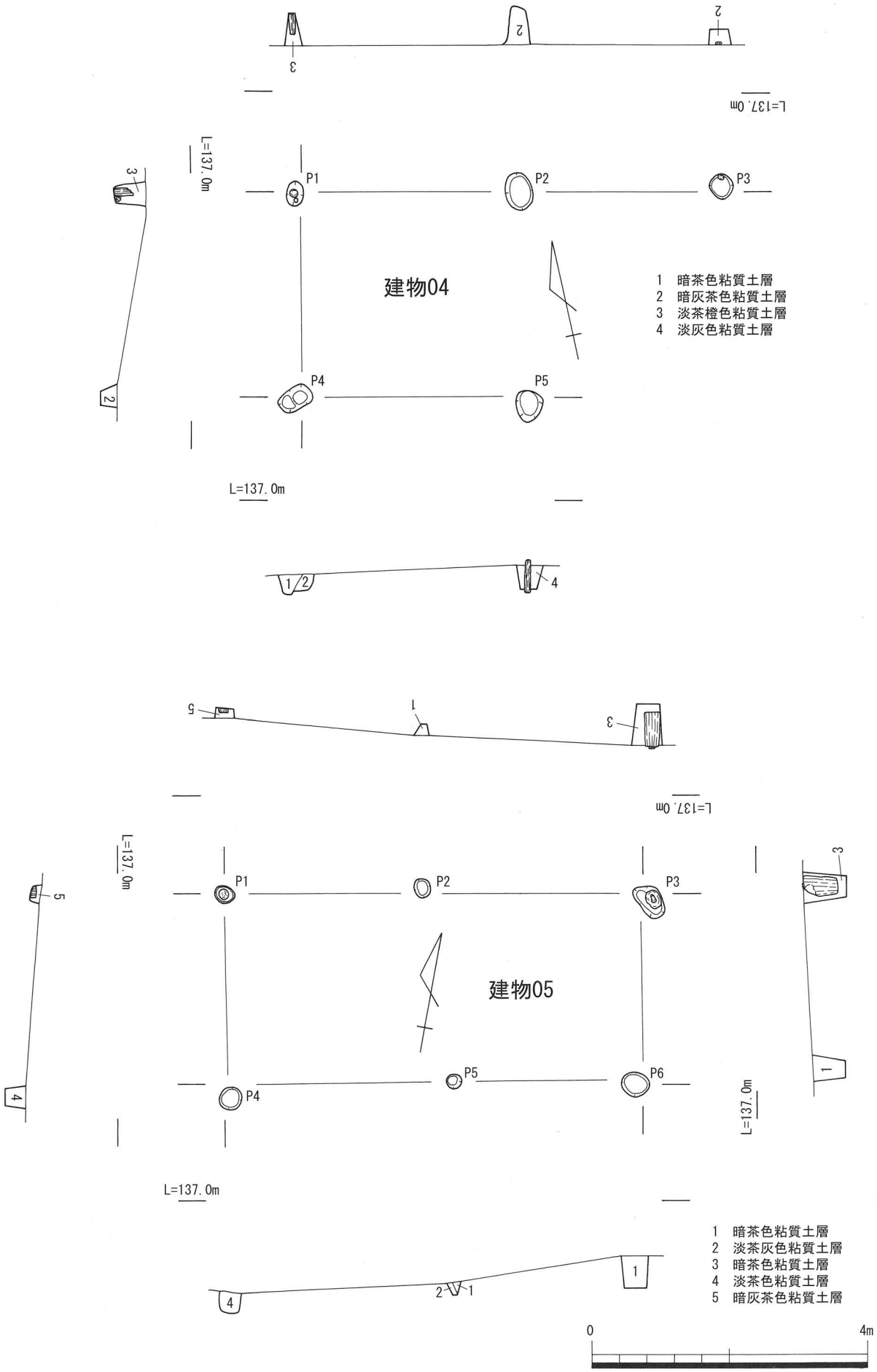
第21図　Ⅰ－B区　遺構配置図　S＝1/100



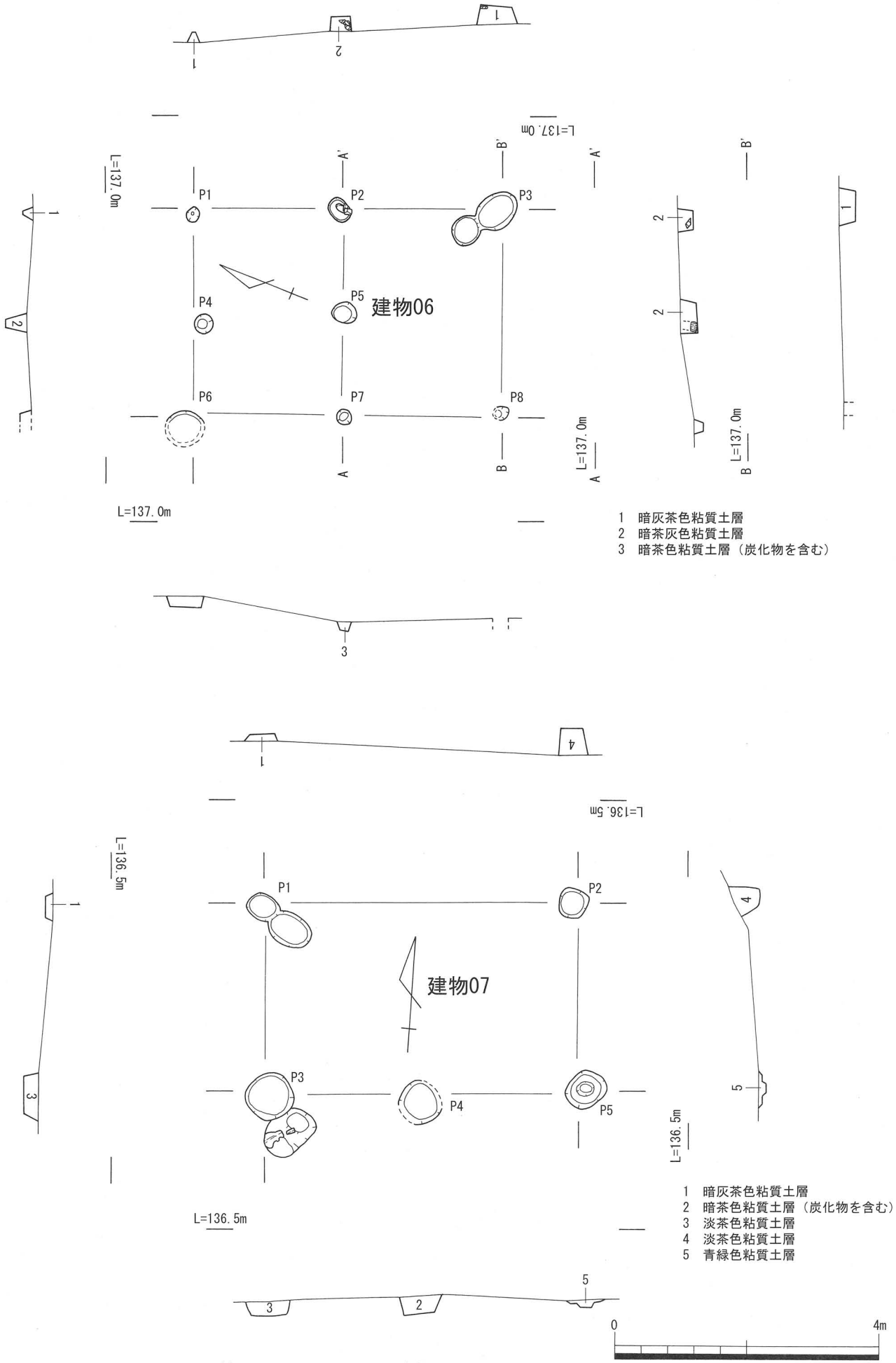
第22図　Ⅰ－B区　建物01　実測図　S＝1/80



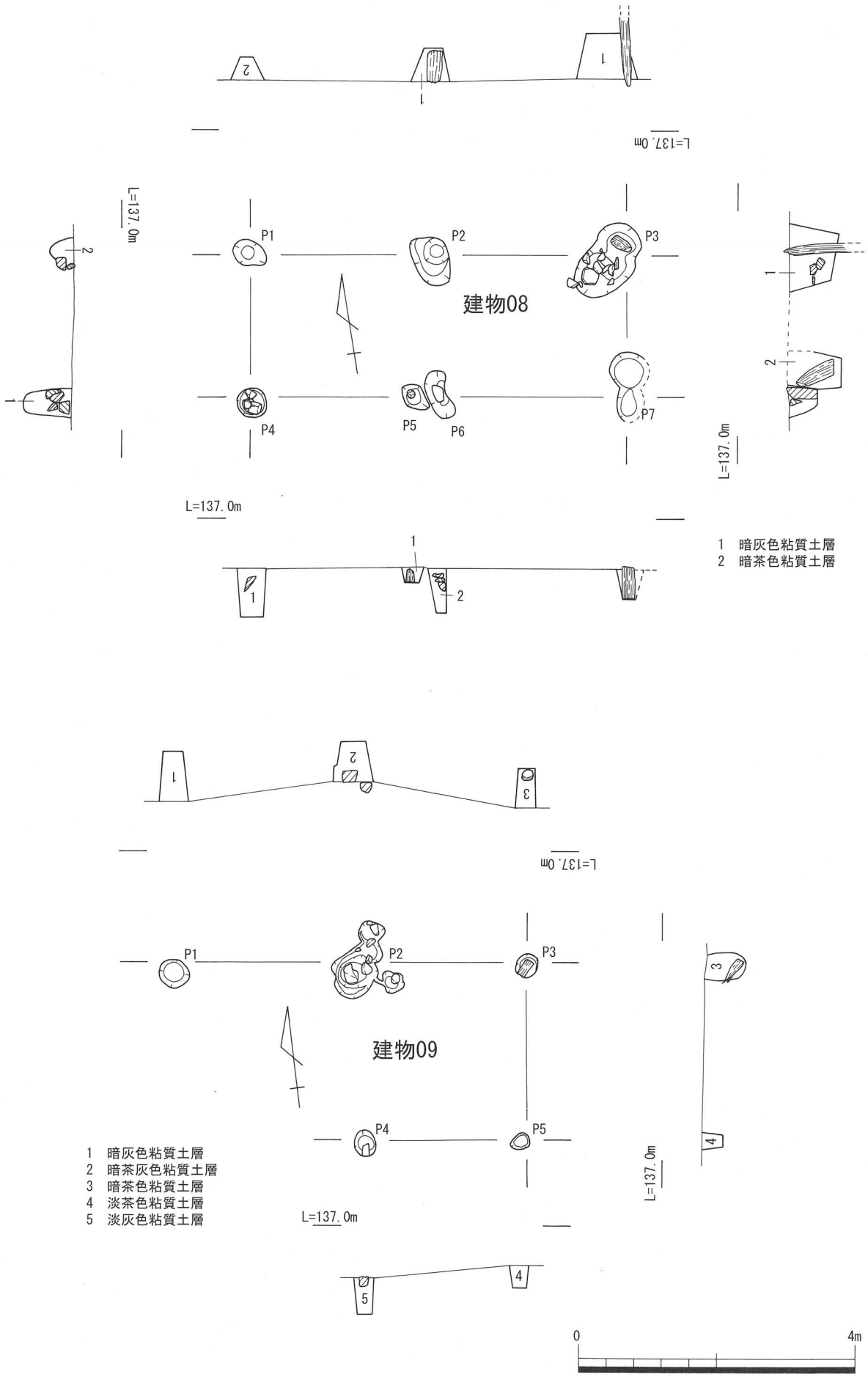
第23図　Ⅱ－D区西側　建物02・03　実測図　S＝1/80



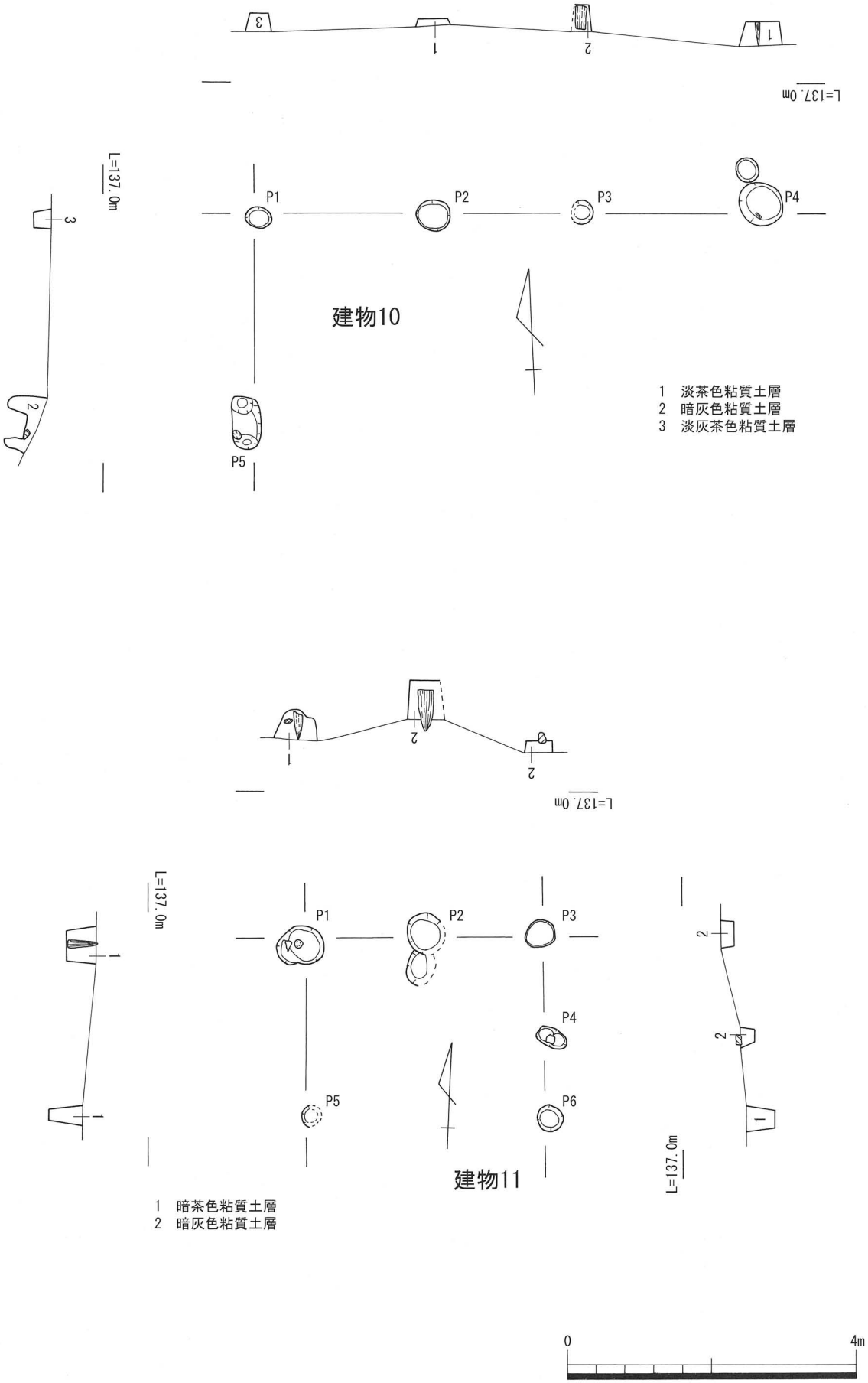
第24図　Ⅰ－B区　建物04・05　実測図　S＝1/80



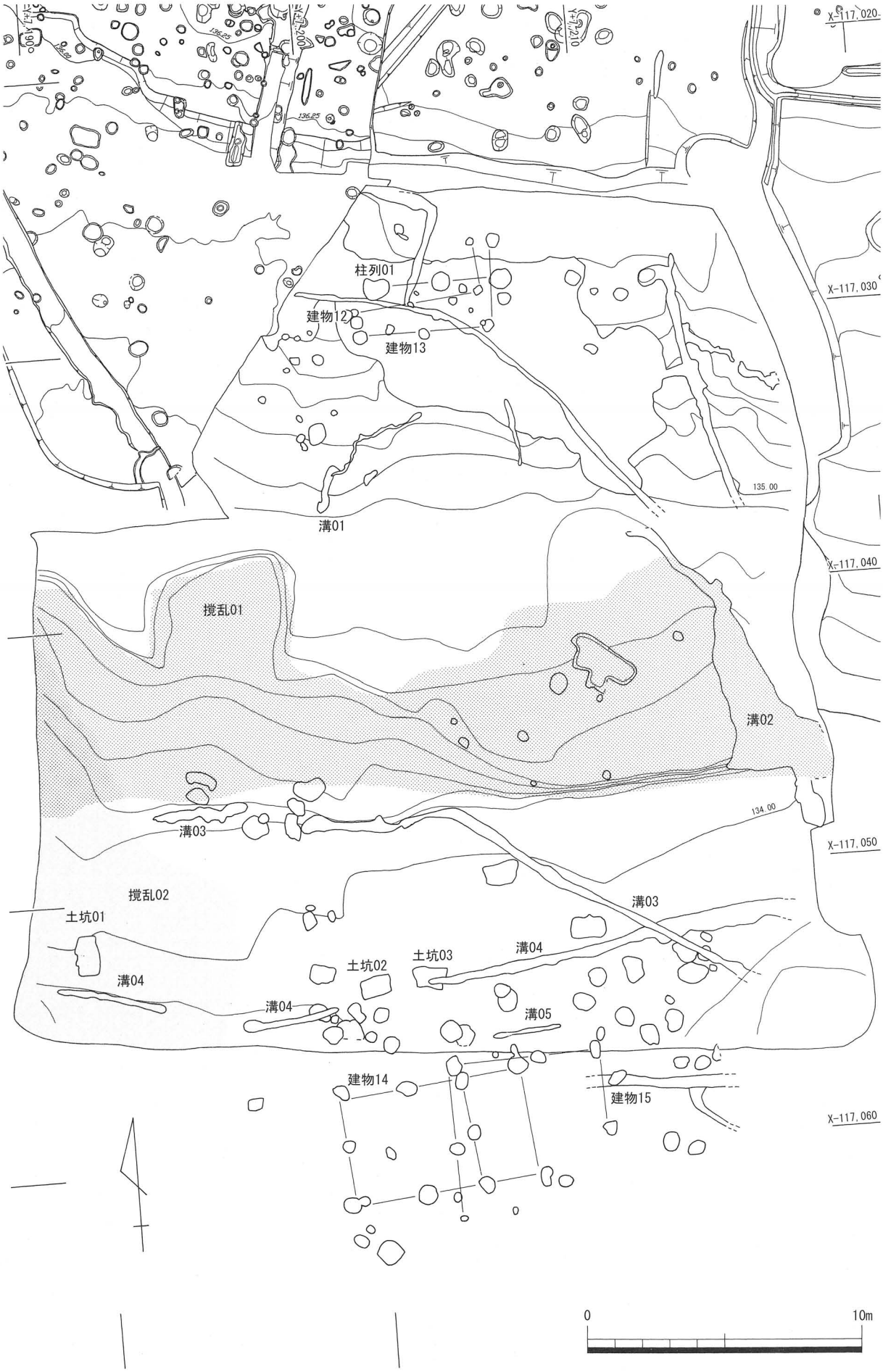
第25図　Ⅰ－B区　建物06・07　実測図　S＝1/80



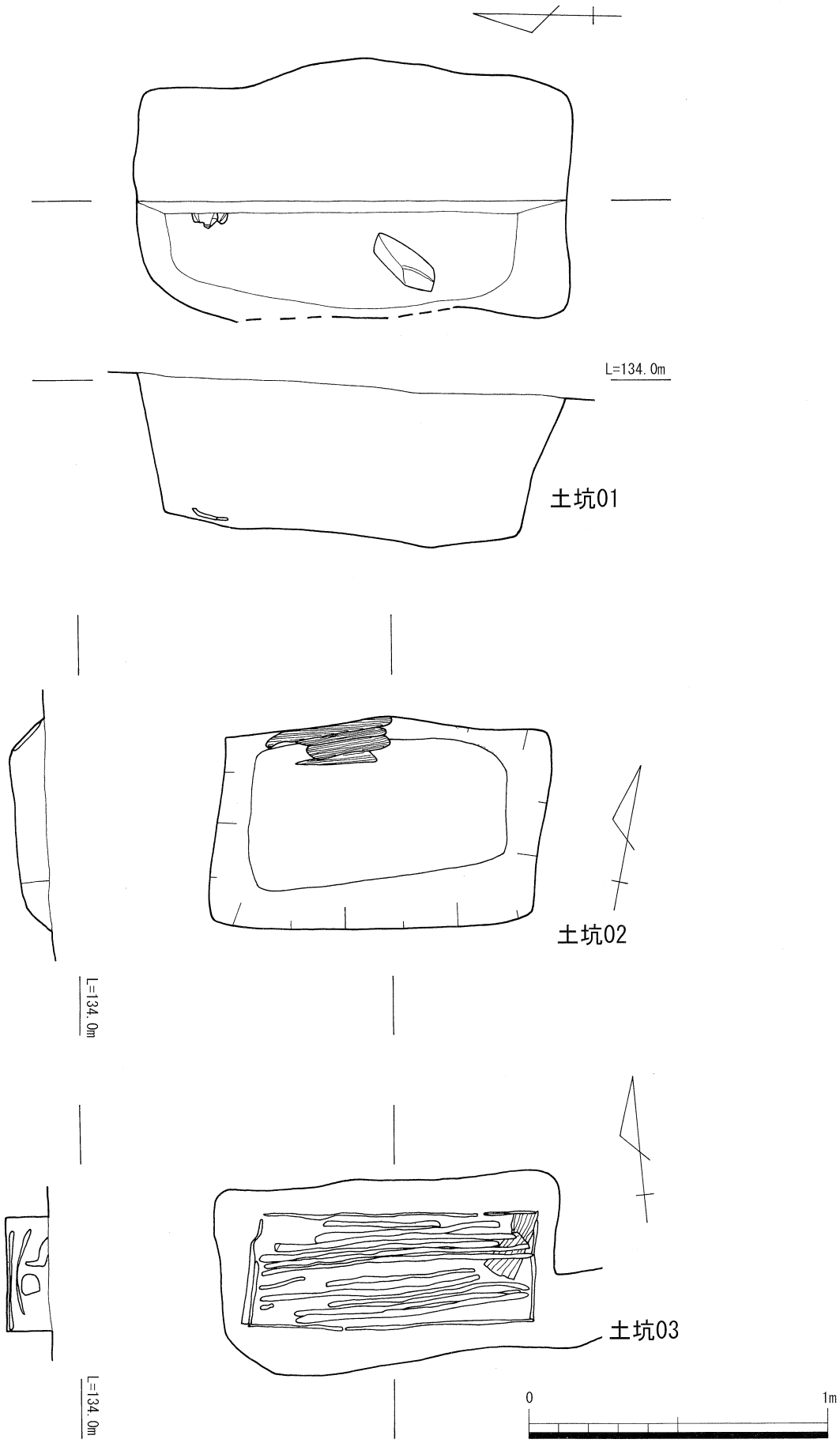
第26図　Ⅰ－B区　建物08・09　実測図　S＝1/80



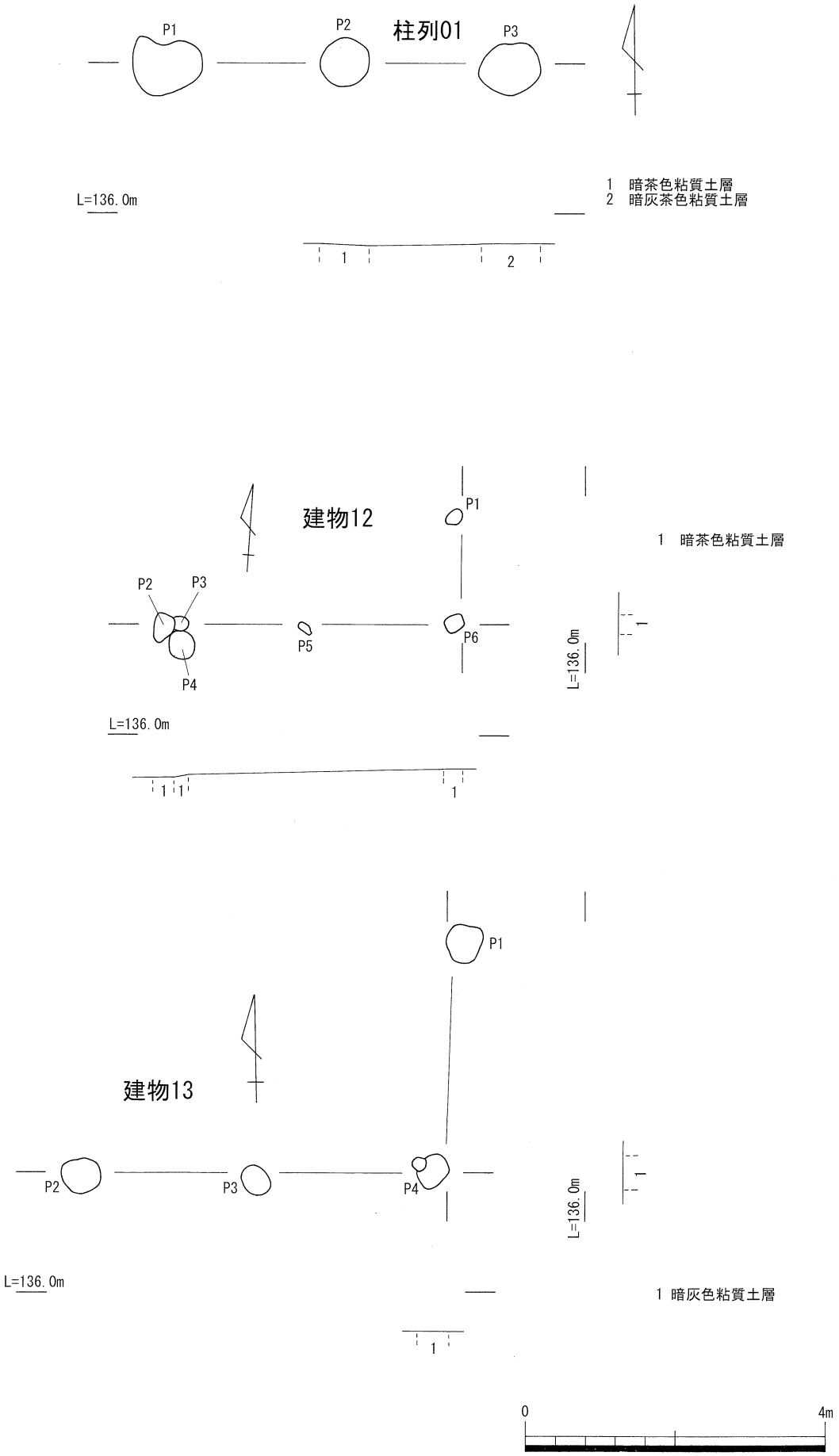
第27図　Ⅰ－B区　建物10・11　実測図　S＝1/80



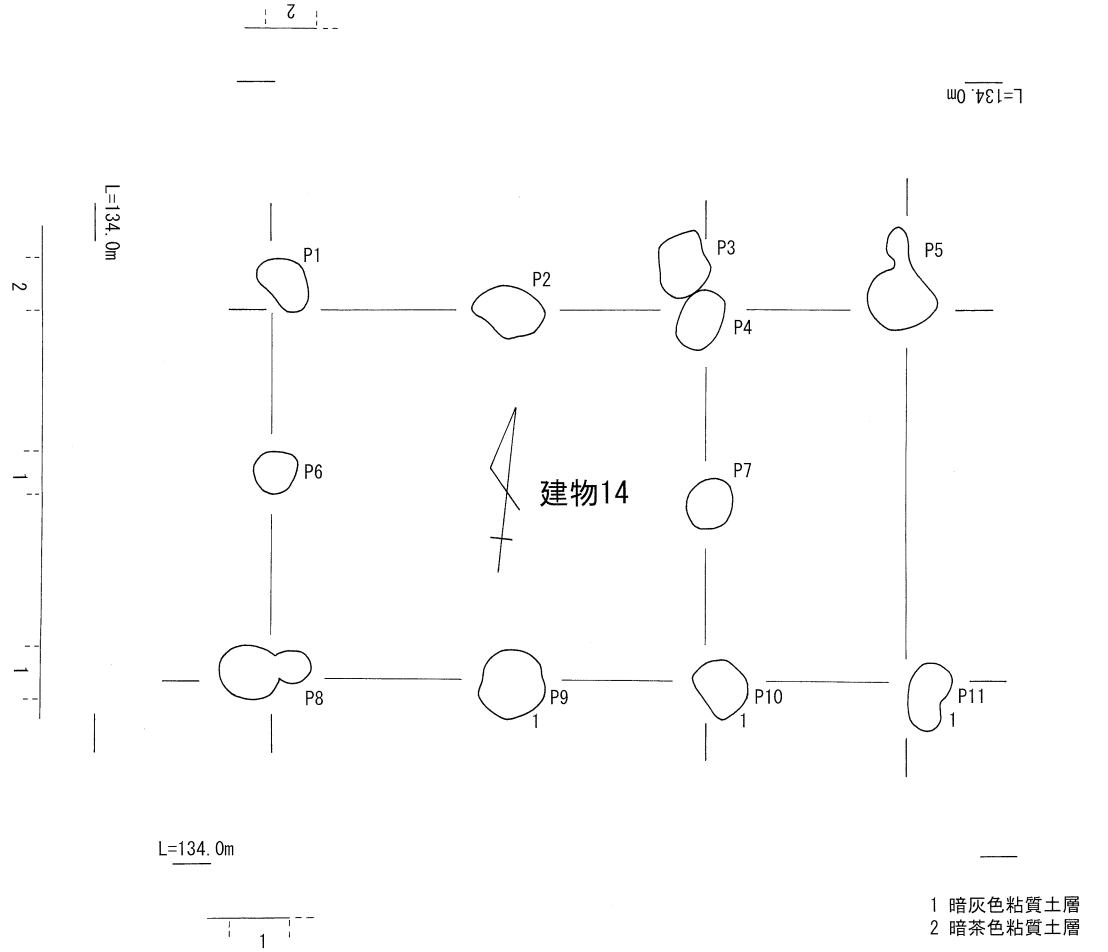
第28図　Ⅱ－E区西側・F区西側・G区　遺構配置図　S＝1/200

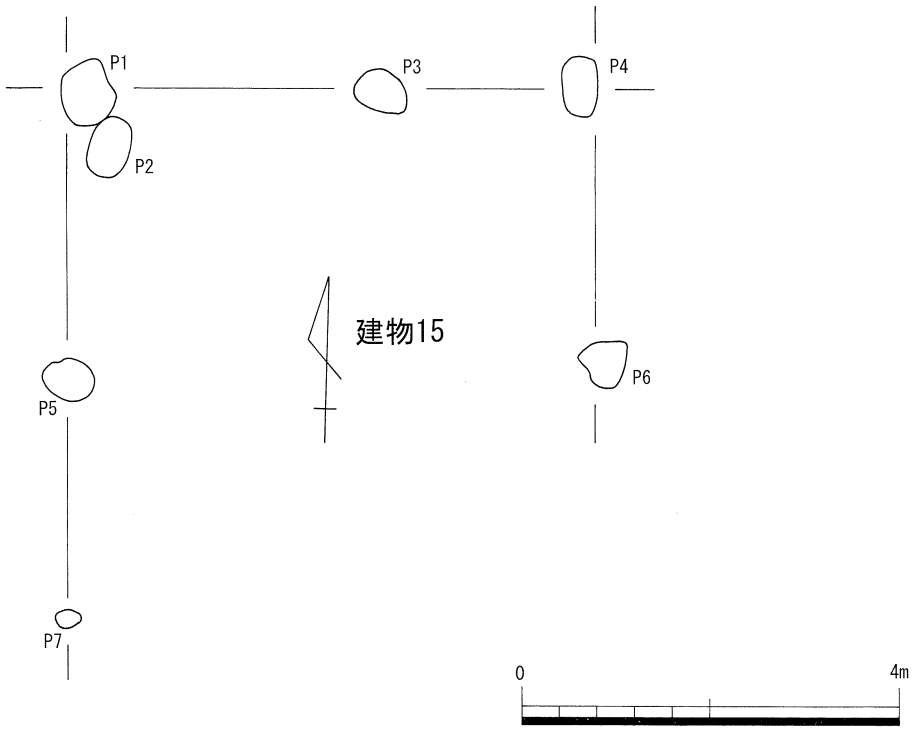


第29図　Ⅱ－F区西側　土坑01～03　実測図　S＝1/20



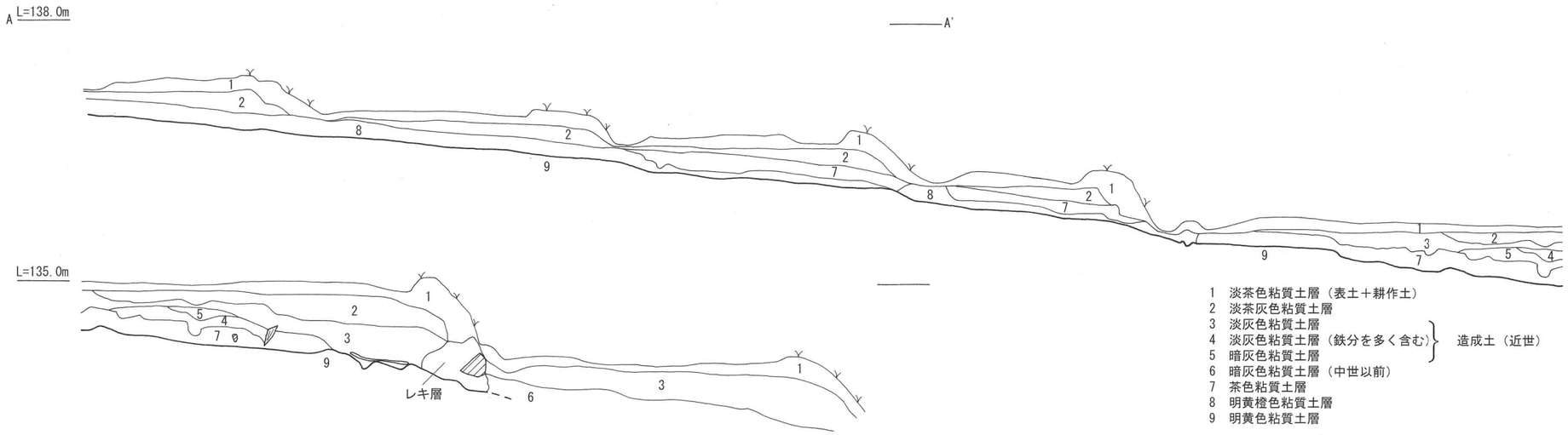
第30図　Ⅱ－E区西側　柱列01・建物12・13　実測図　S＝1/80

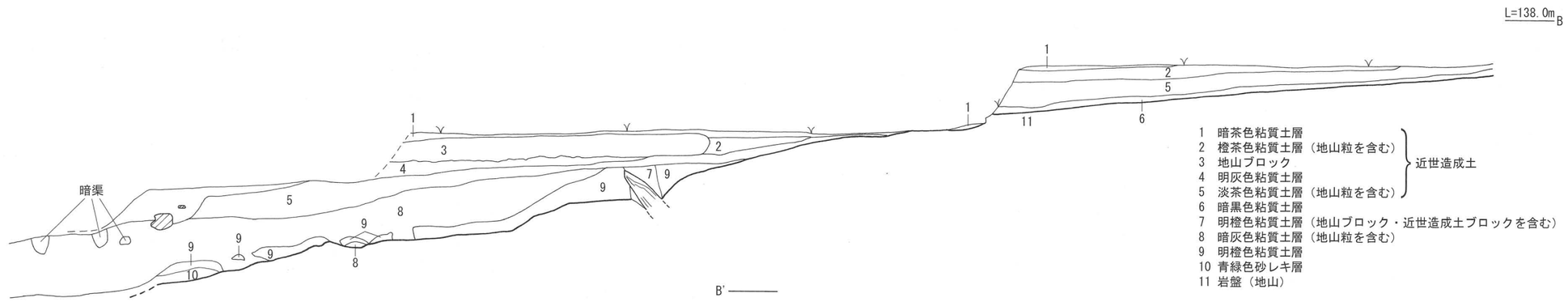


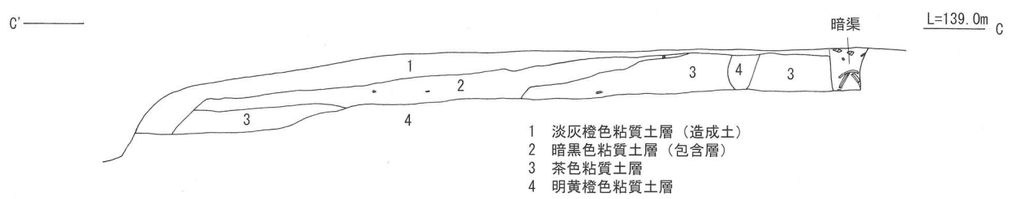


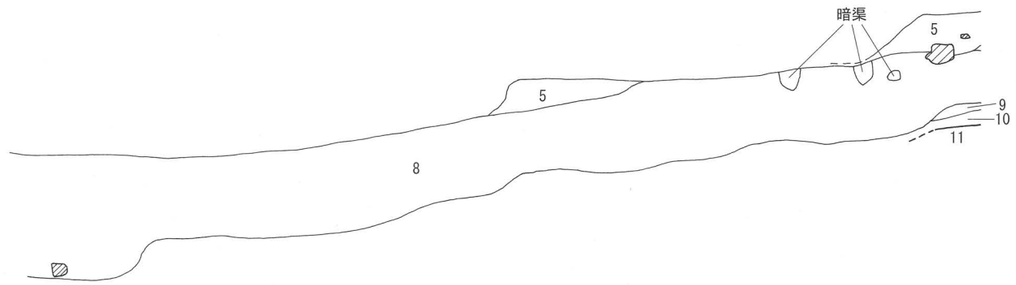
第31図　Ⅱ－F区西側・G区　建物14・建物15　実測図　S＝1/80

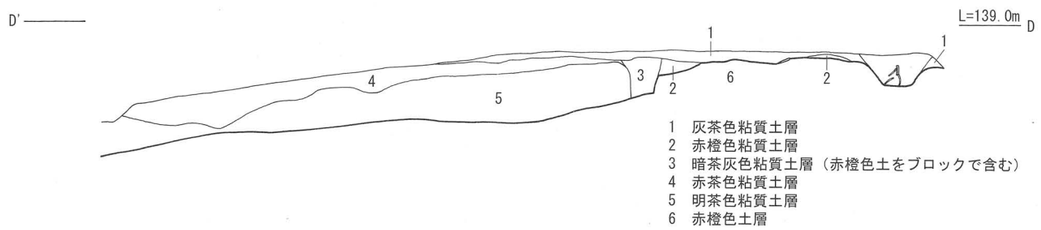
第32図　Ⅱ－D区・E区・F区　遺構配置図　S＝1/200

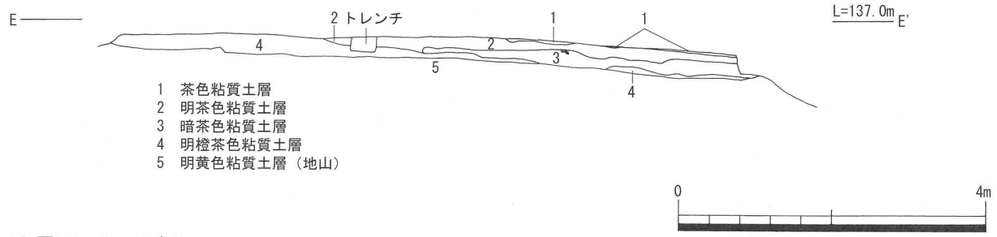






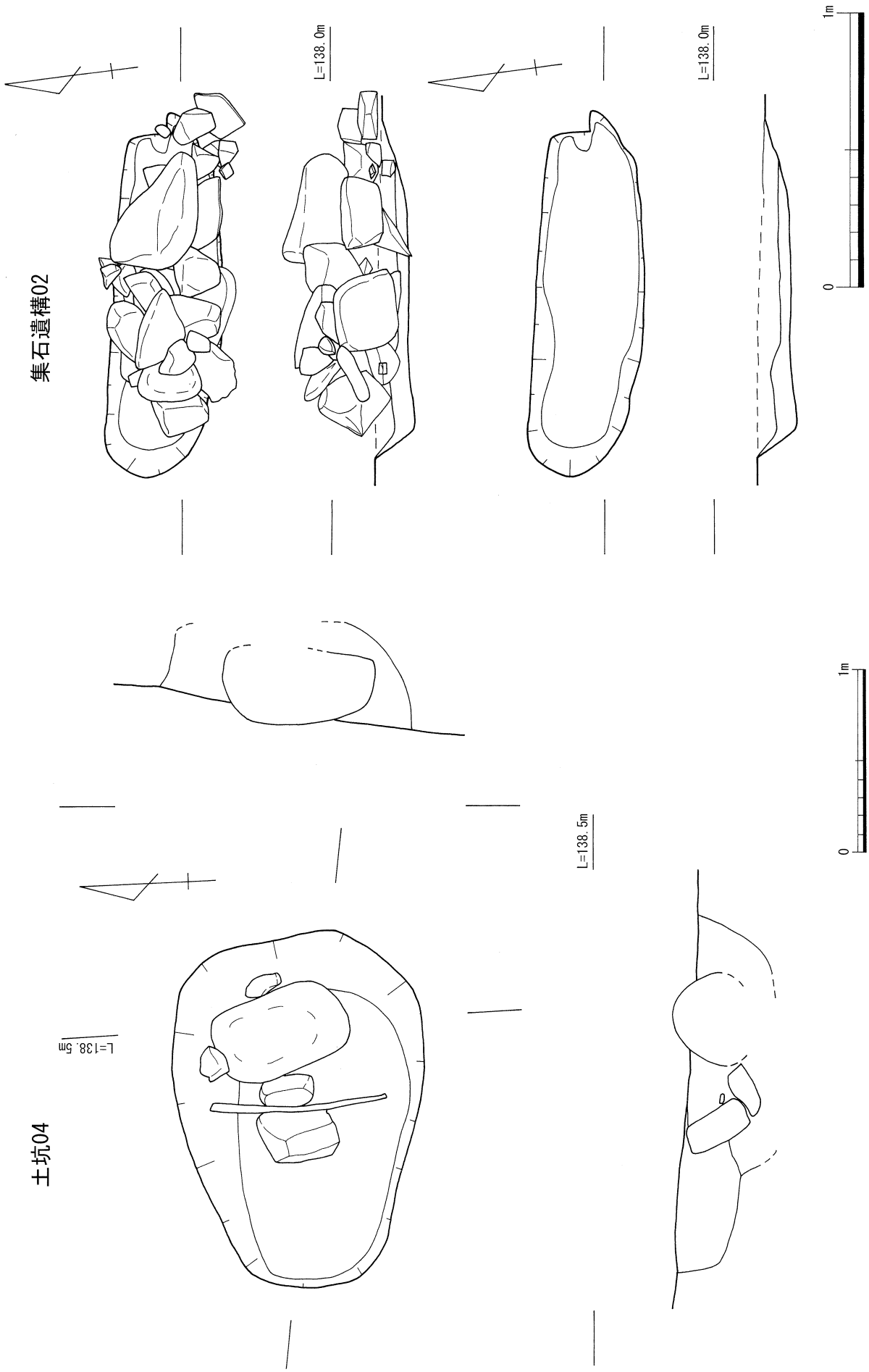




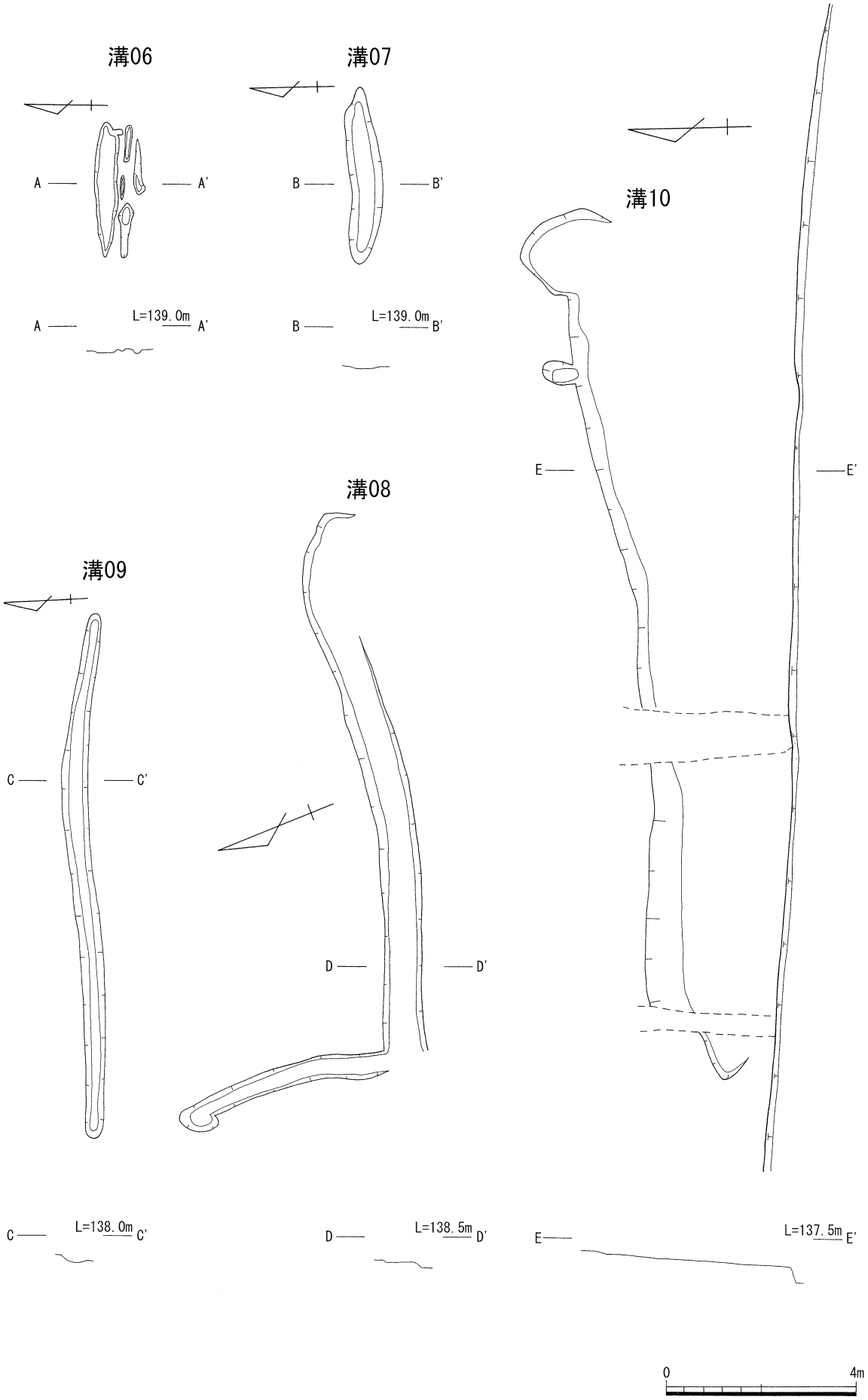


第33図　Ⅱ－D区・E区・F区　調査区土層図　S＝1/80

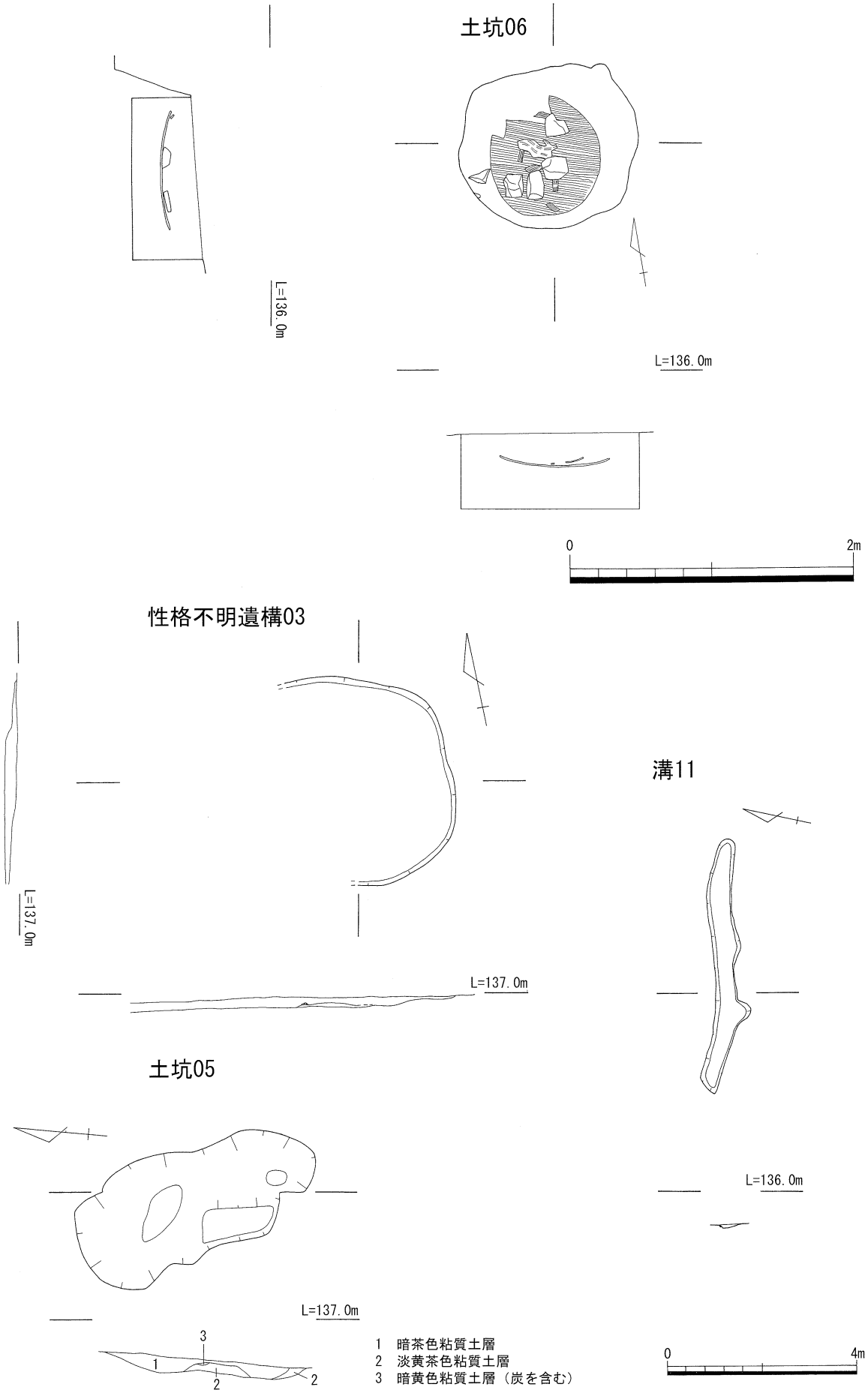
第34図　Ⅱ－Ｆ区　トレンチ06　集水遺構及び遺物出土状況　Ｓ＝１/30



第35図　Ⅱ－D区　集石遺構02　実測図　S＝1/20　土坑04　実測図　S＝1/30

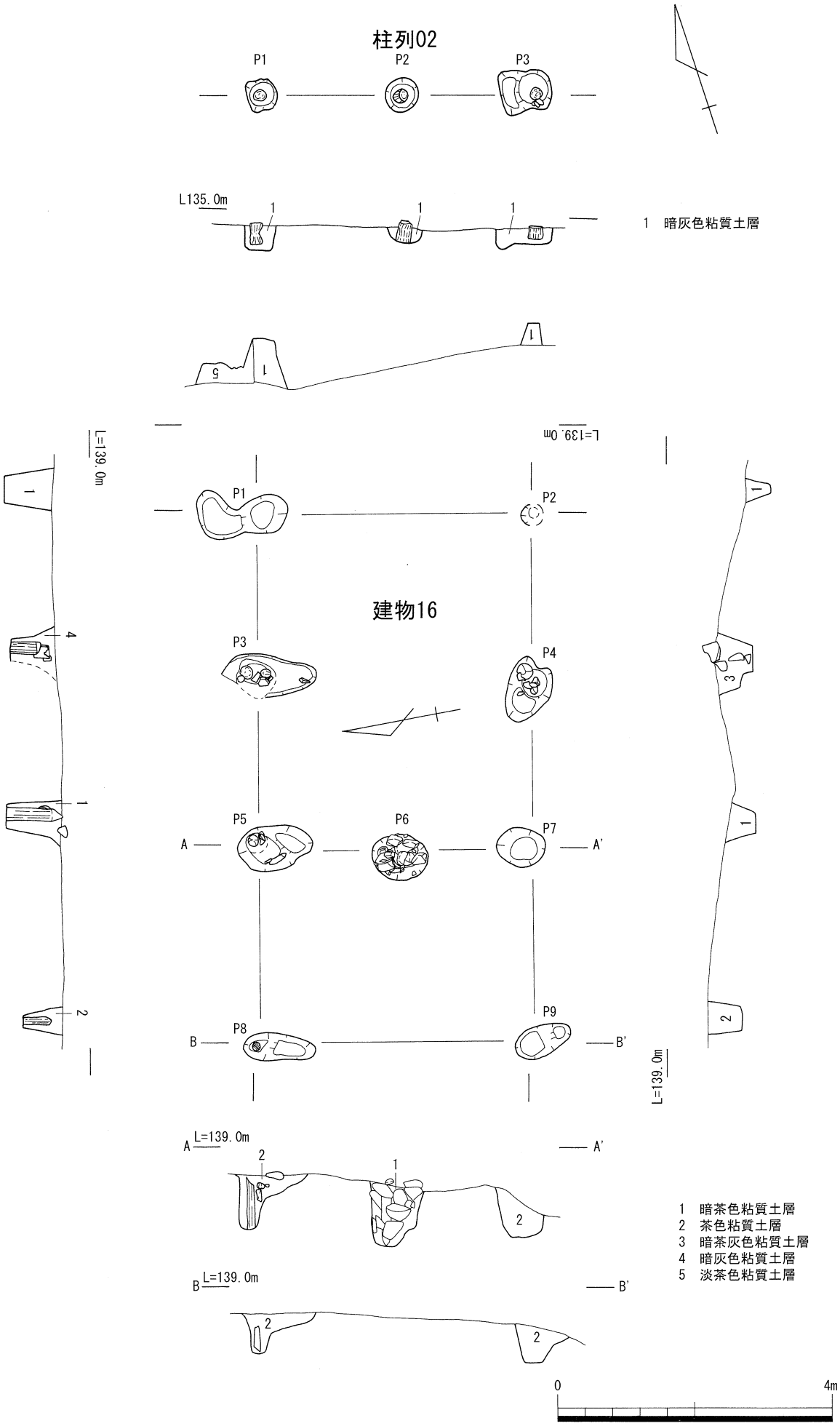


第36図　Ⅱ－D区　溝06～10　実測図　S＝1/120

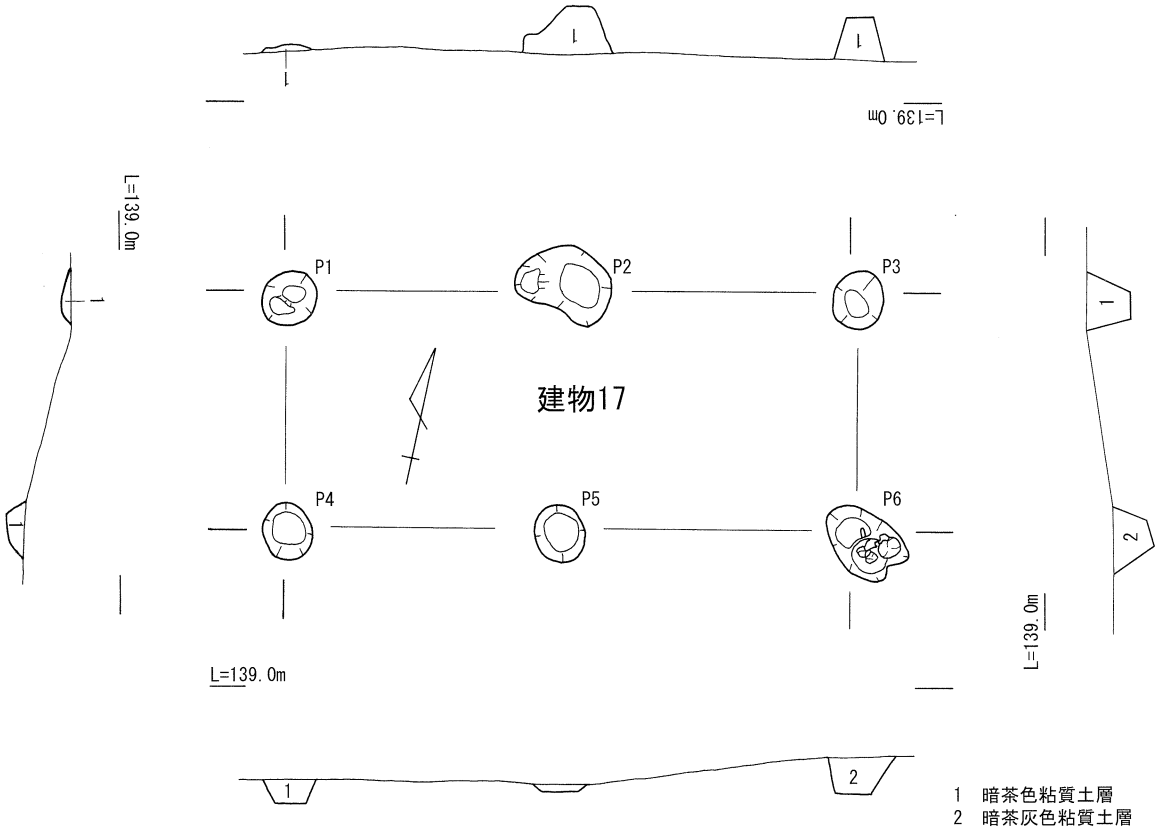


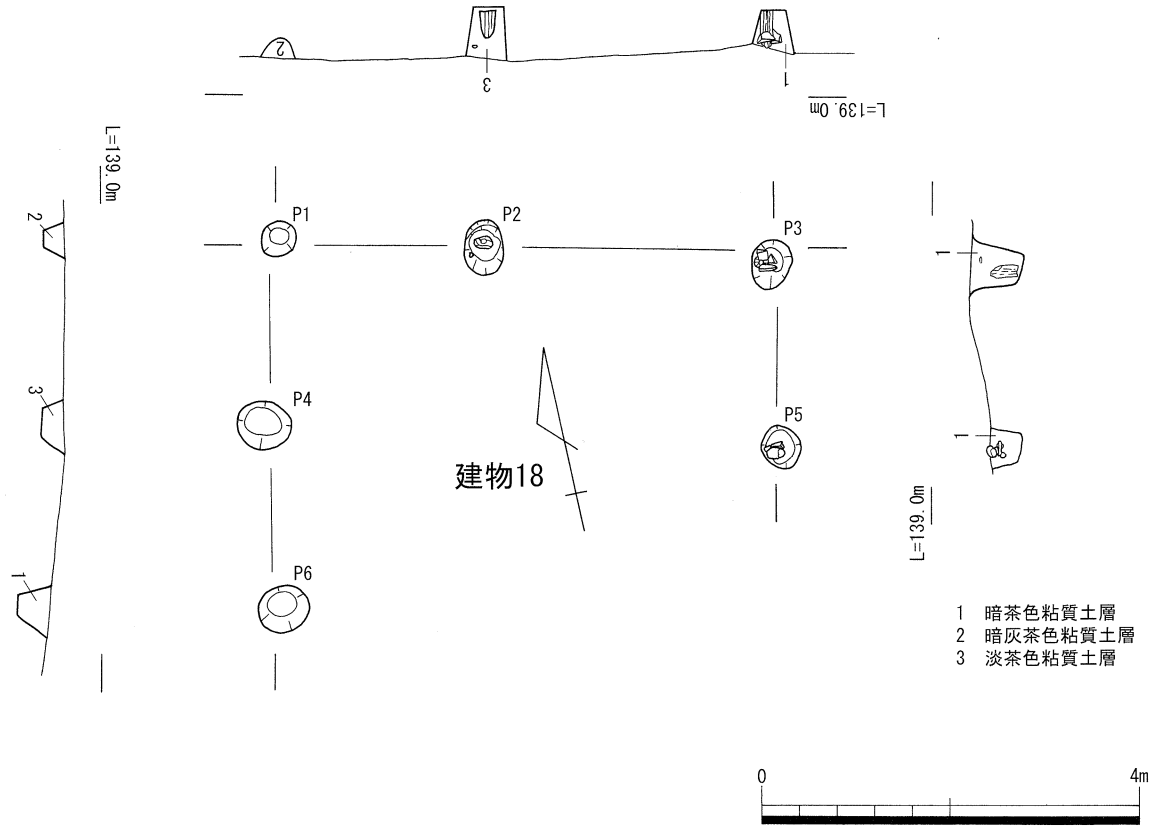
第37図　Ⅱ区　性格不明遺構03　土坑05・06　溝11　実測図　S＝1/120（土坑06はS＝1/40）

第38図　Ⅱ－D区　建物配置図　S＝1/100

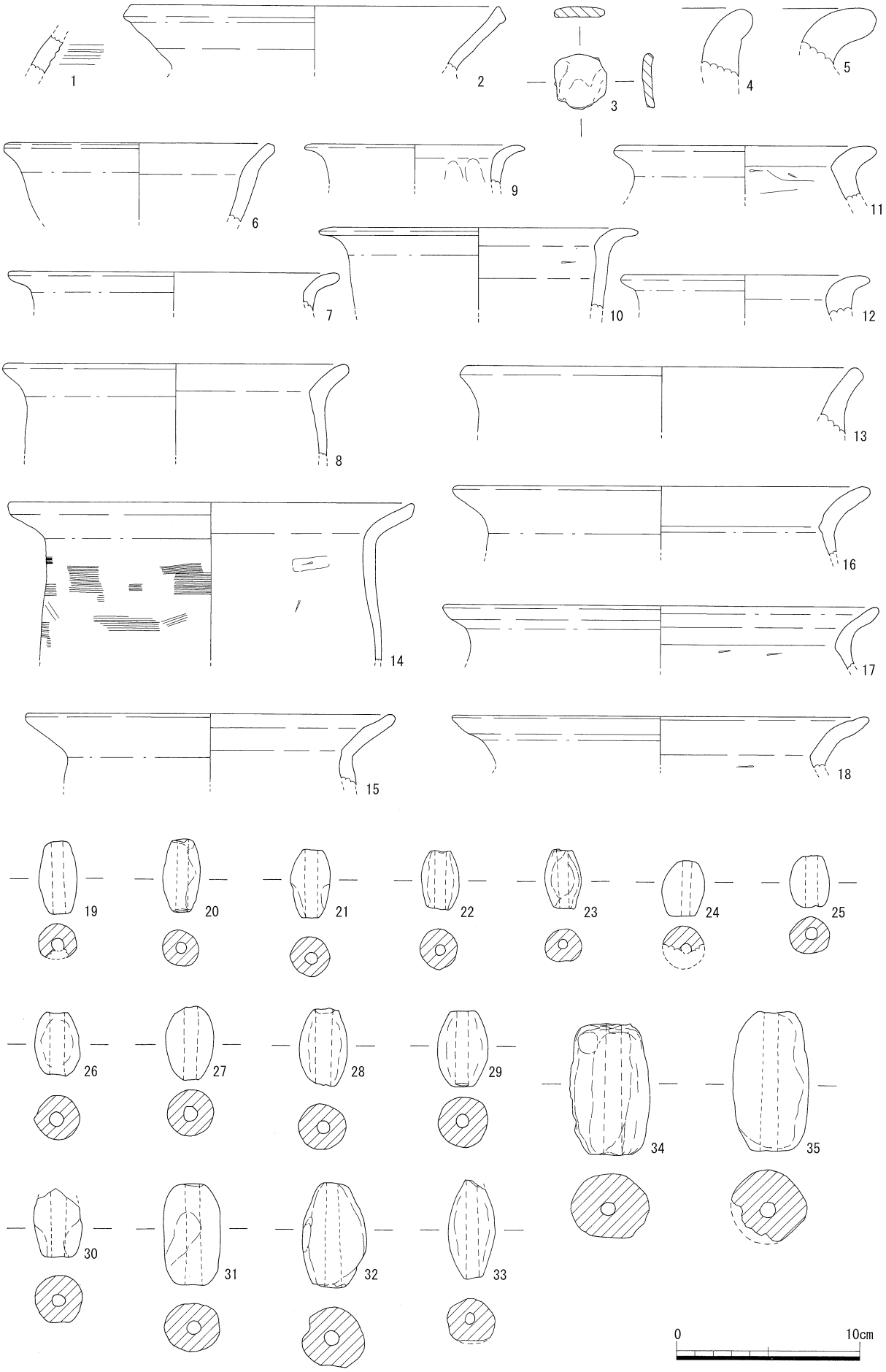


第39図　Ⅱ－D区　建物16　実測図　S＝1/80　Ⅱ－F区　柱列02　実測図　S＝1/80

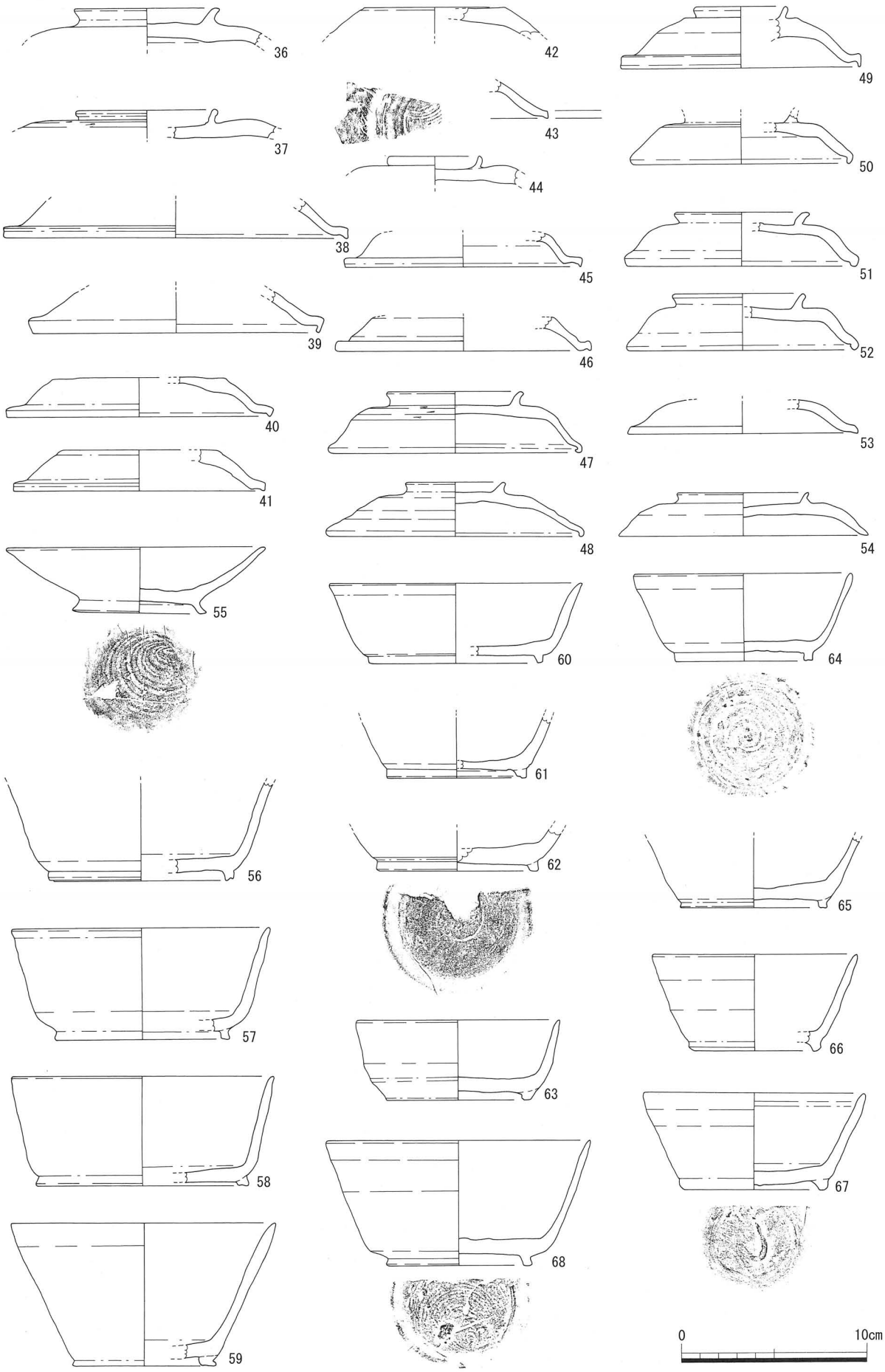




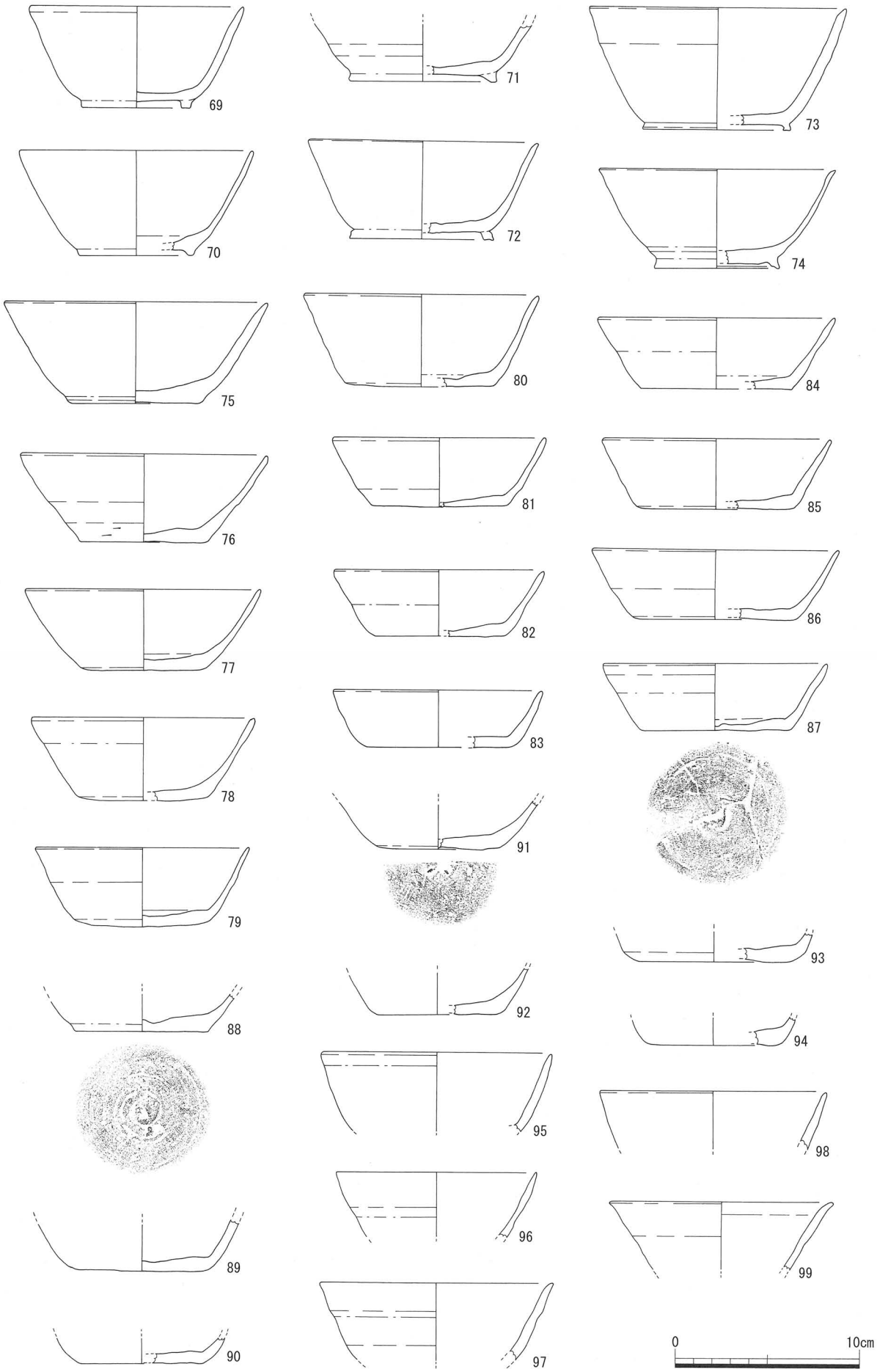
第40図　Ⅱ－D区　建物17・18　実測図　S＝1/80



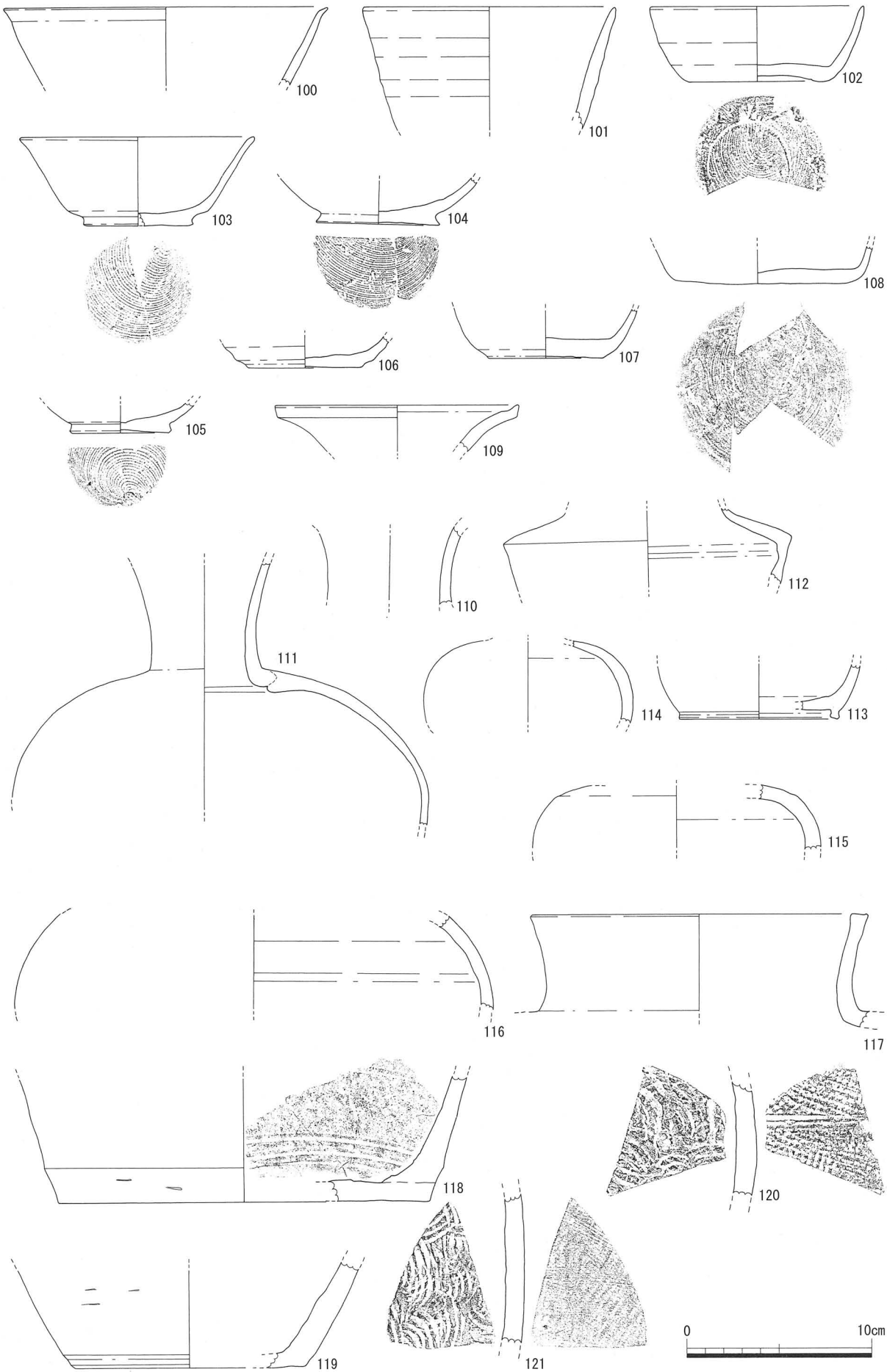
第41図　カミヤ遺跡出土遺物実測図1　S＝1/3



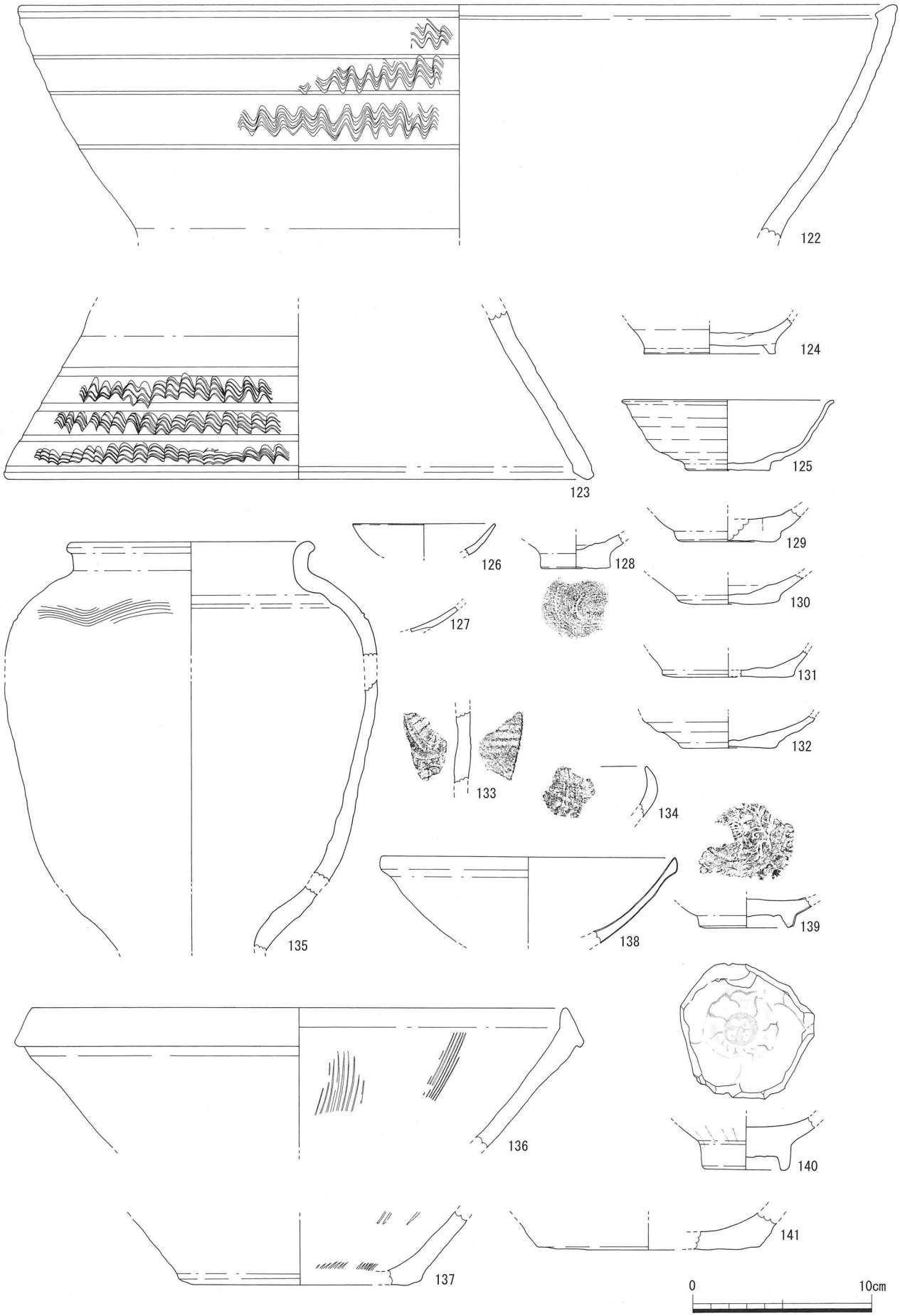
第 42 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 2　S ＝ 1/3



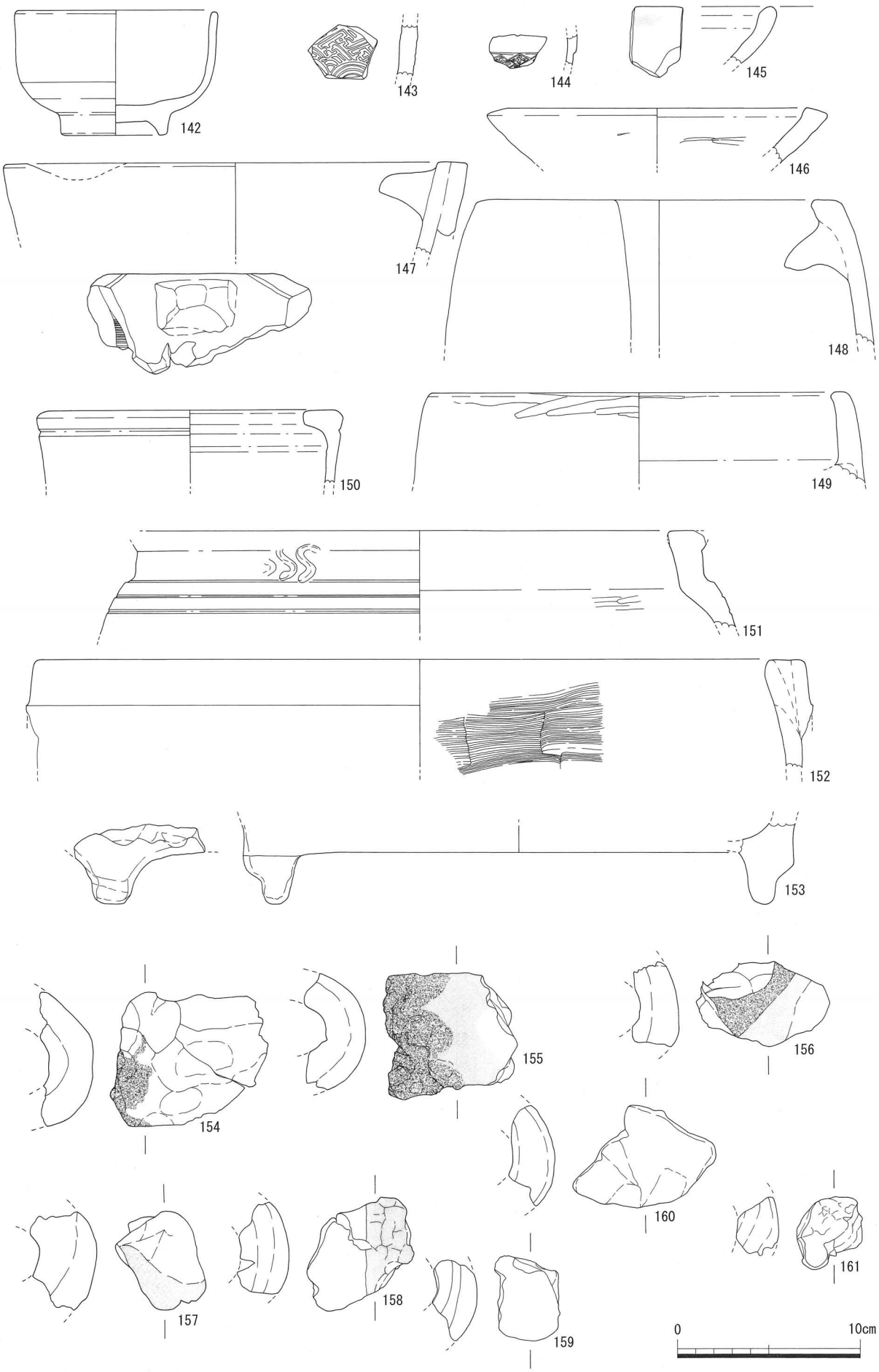
第 43 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 3　S ＝ 1/3



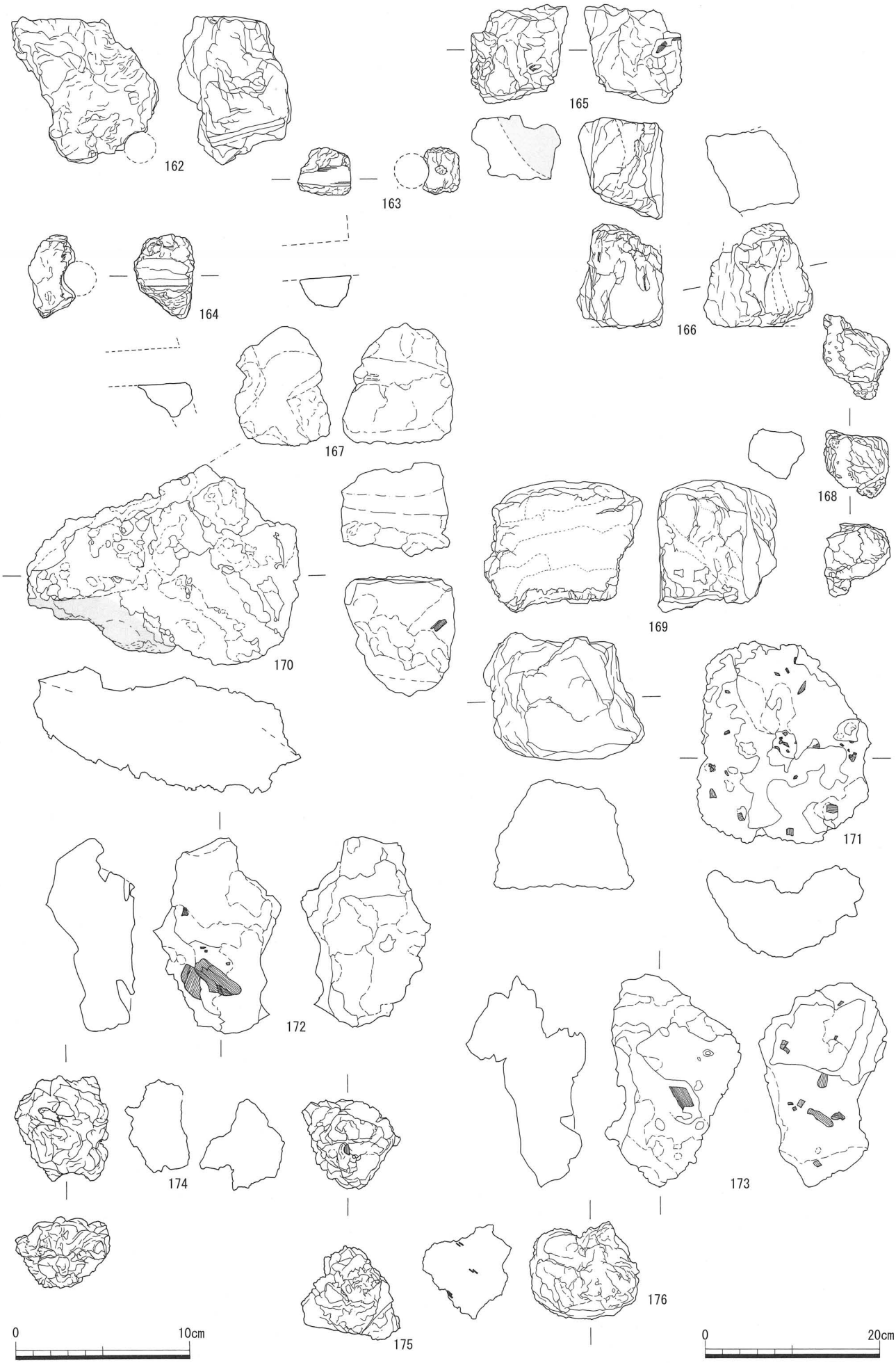
第 44 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 4　S ＝ 1/3



第 45 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 5　S ＝ 1/3

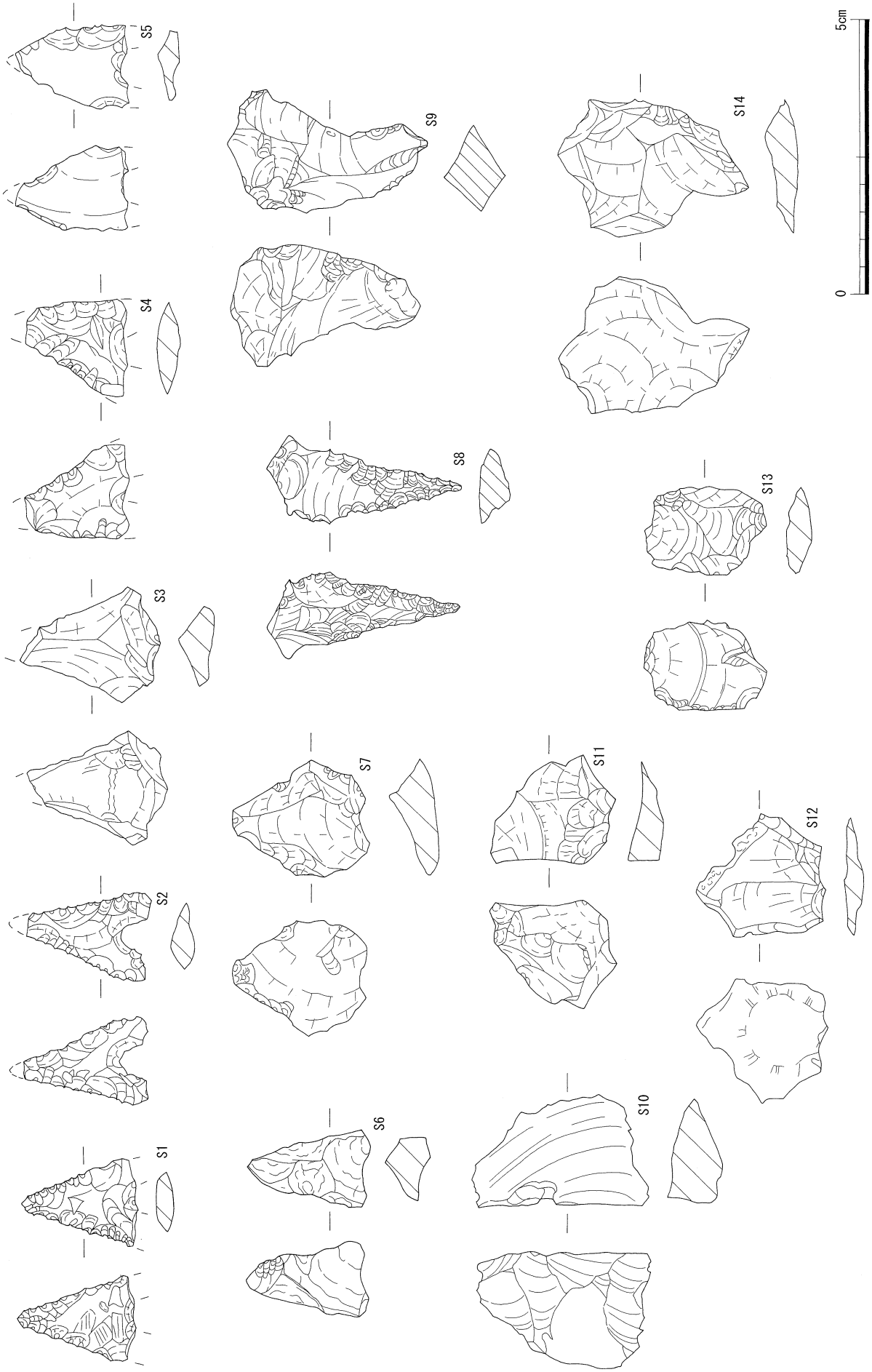


第46図　カミヤ遺跡出土遺物実測図6　S＝1/3

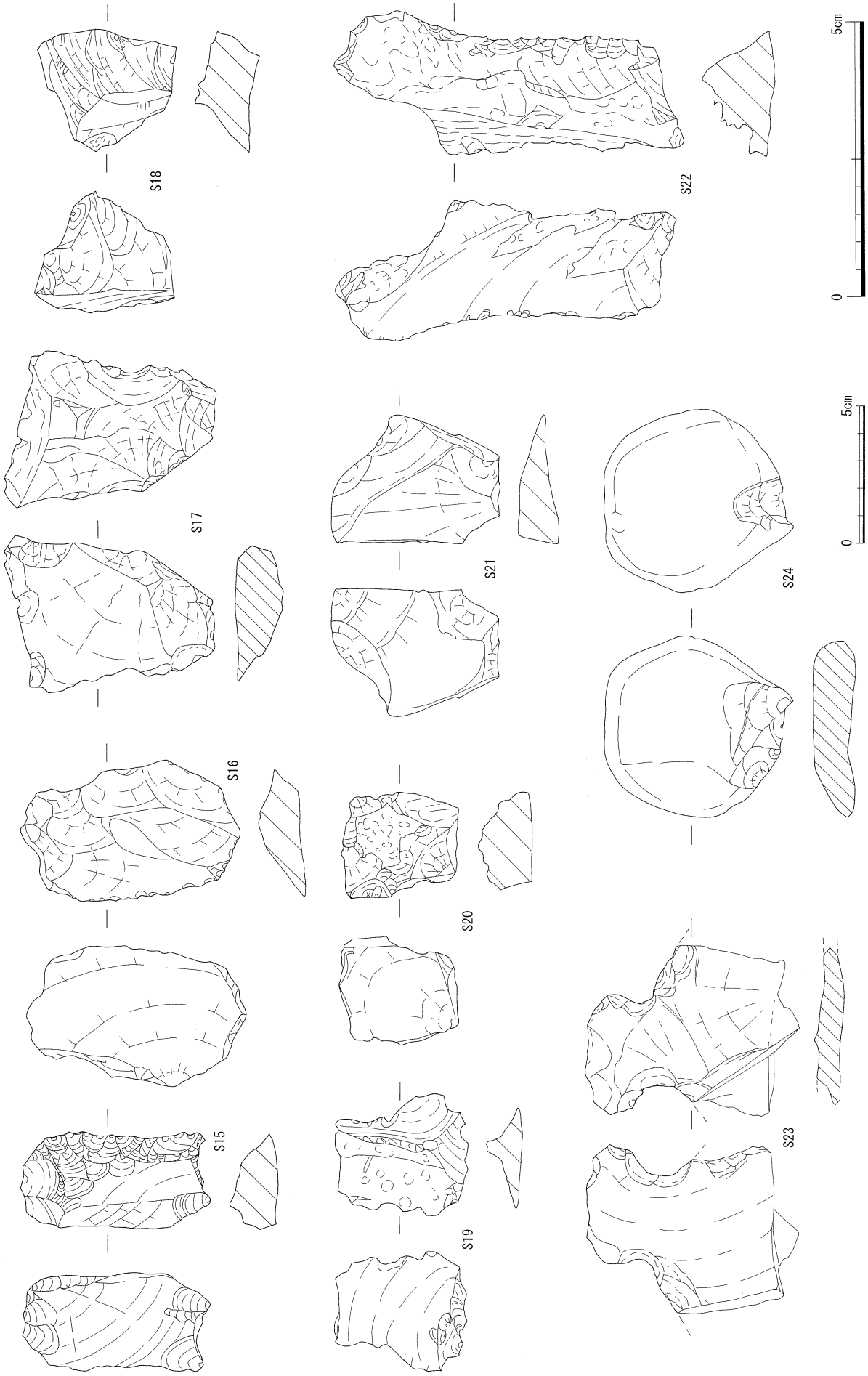


第 47 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 7　S ＝ 1/6（172・173 は S ＝ 1/3）

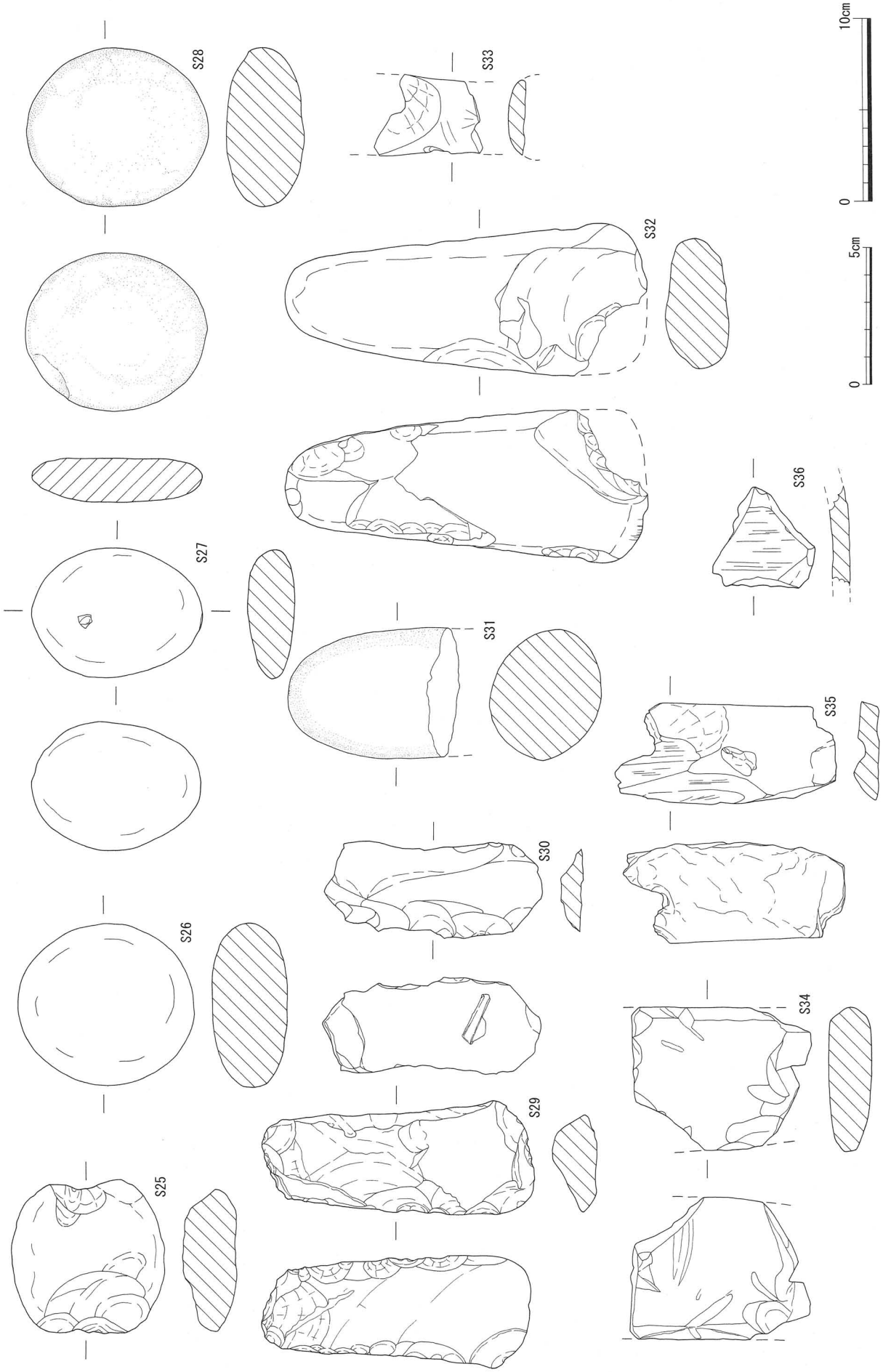
第48図　カミヤ遺跡出土遺物実測図8　S＝1/3



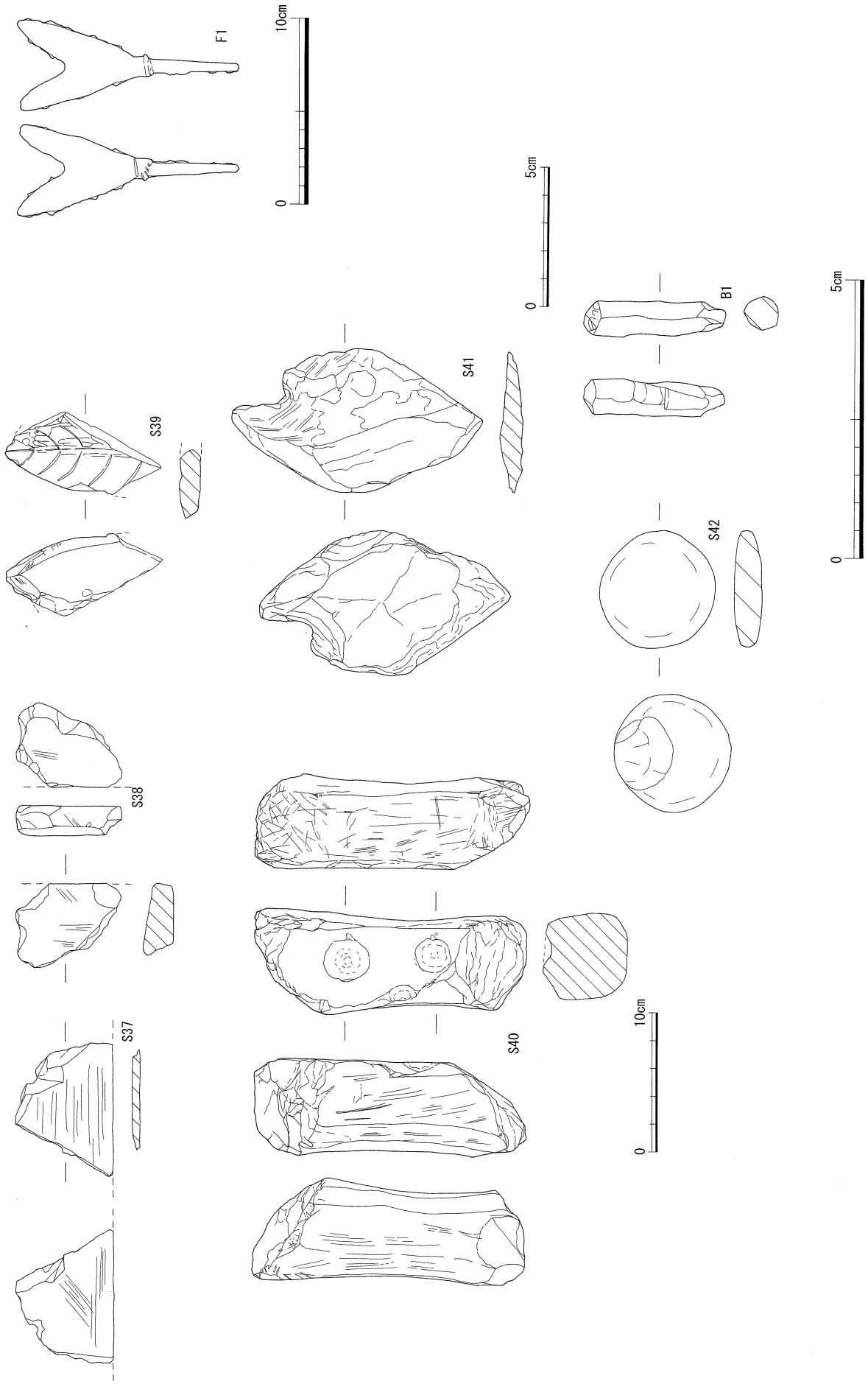
第 49 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 9　S ＝ 1/1



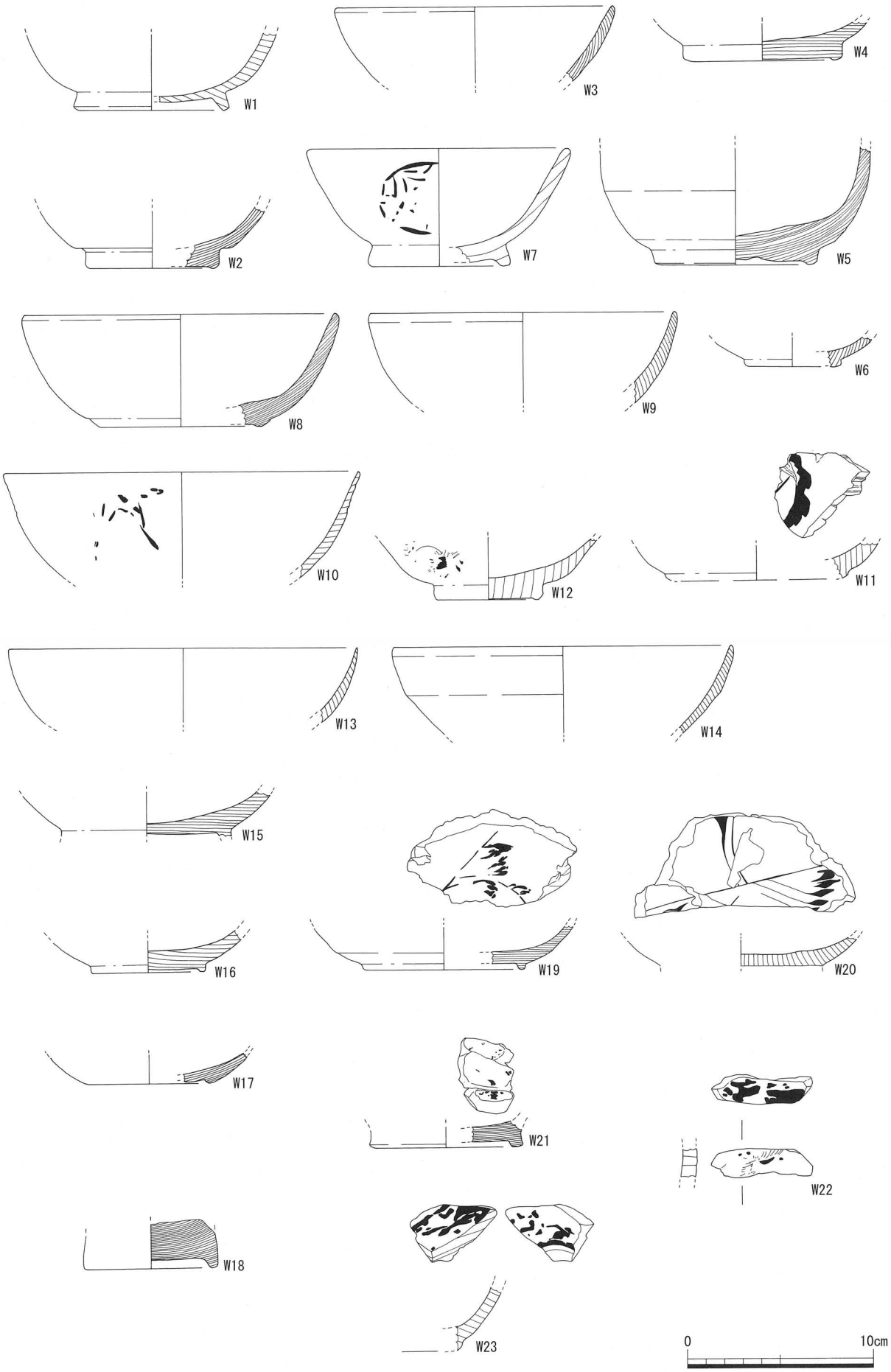
第 50 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 10　S ＝ 1/1（S24 は S ＝ 1/2）



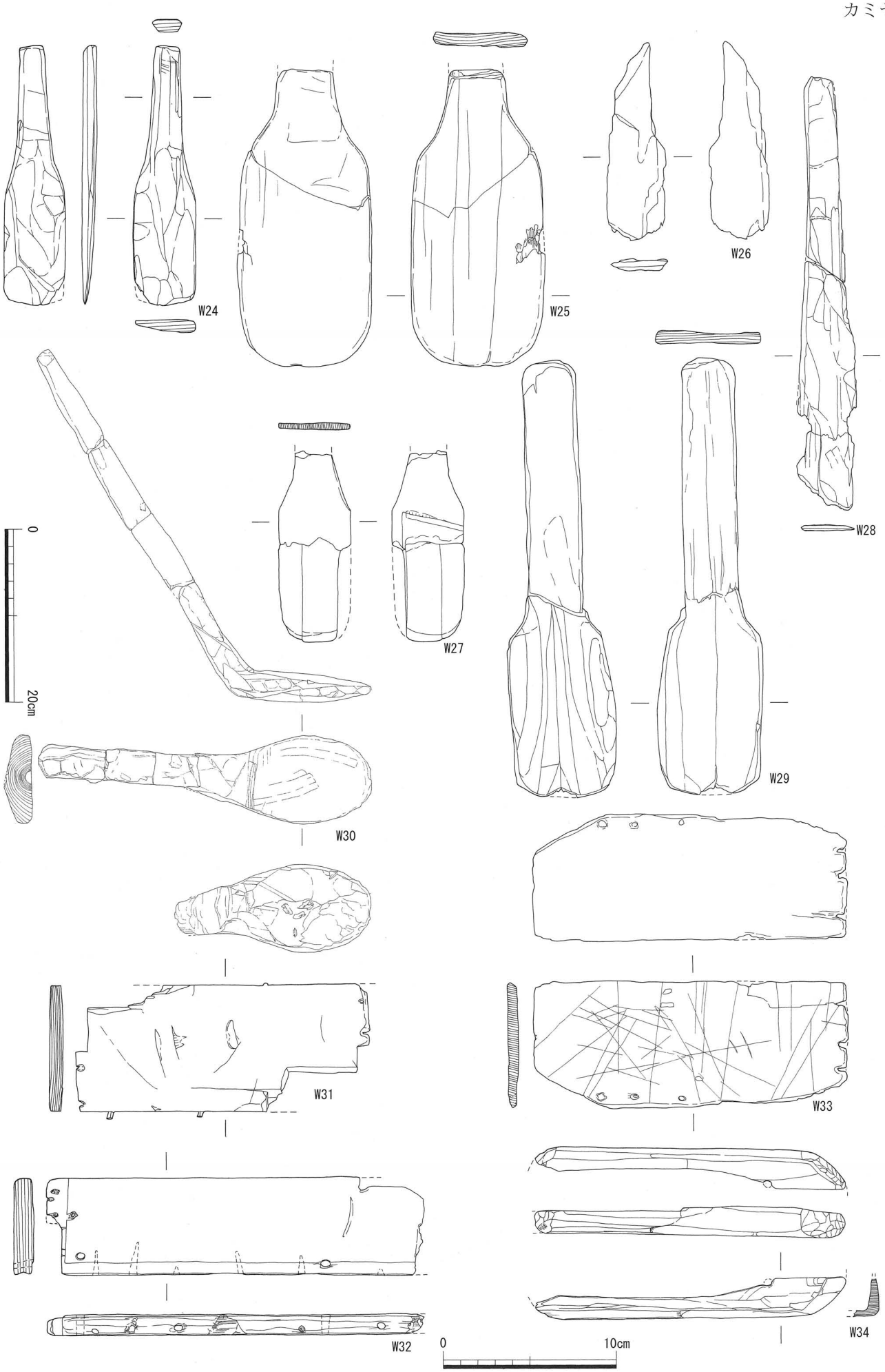
第 51 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 11　S ＝ 1/2（S26・S28 は S ＝ 1/3）



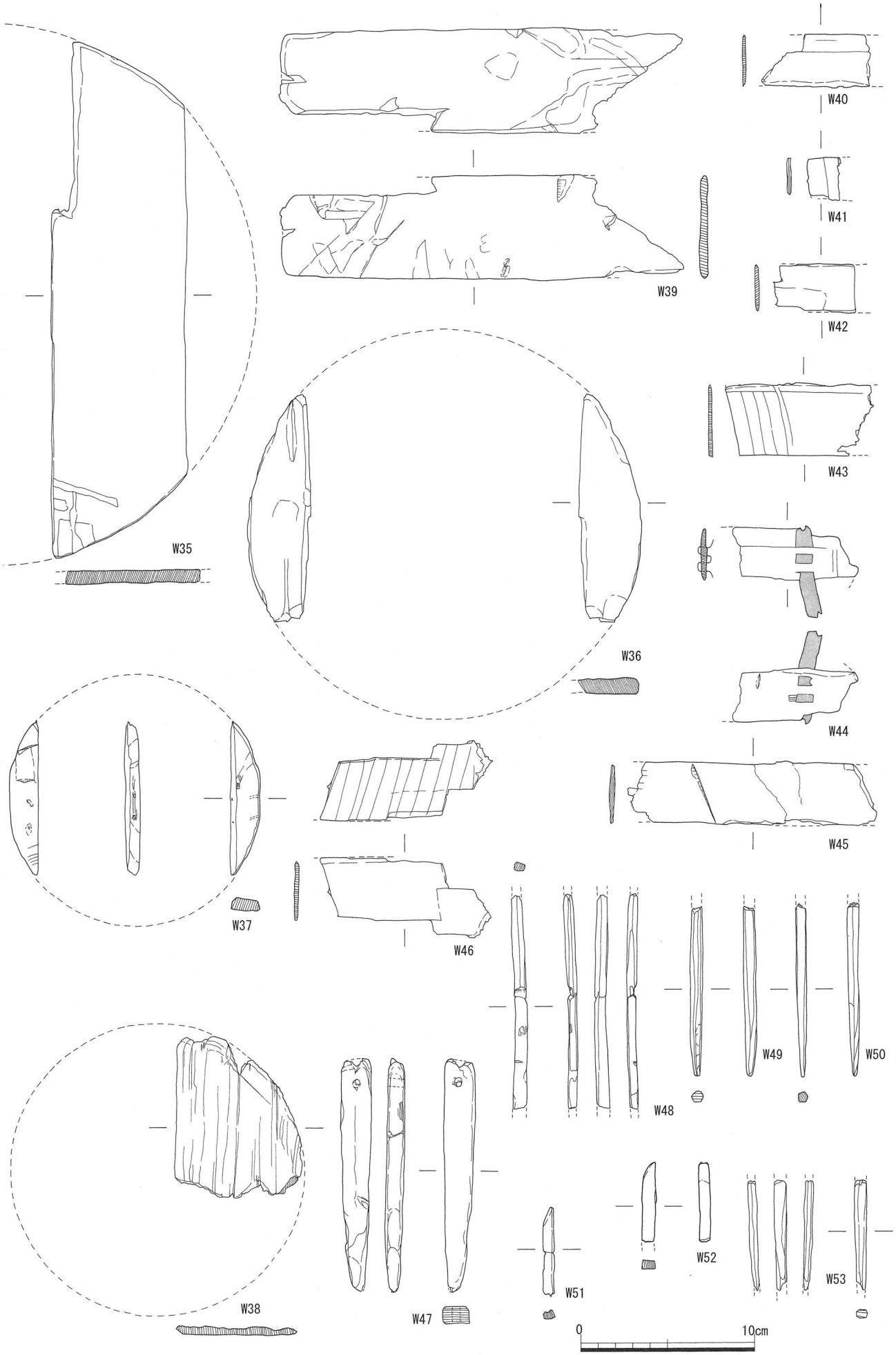
第52図　カミヤ遺跡出土遺物実測図12　S＝1/2（S40はS＝1/4　S42・B1はS＝1/1　F1はS＝1/3）



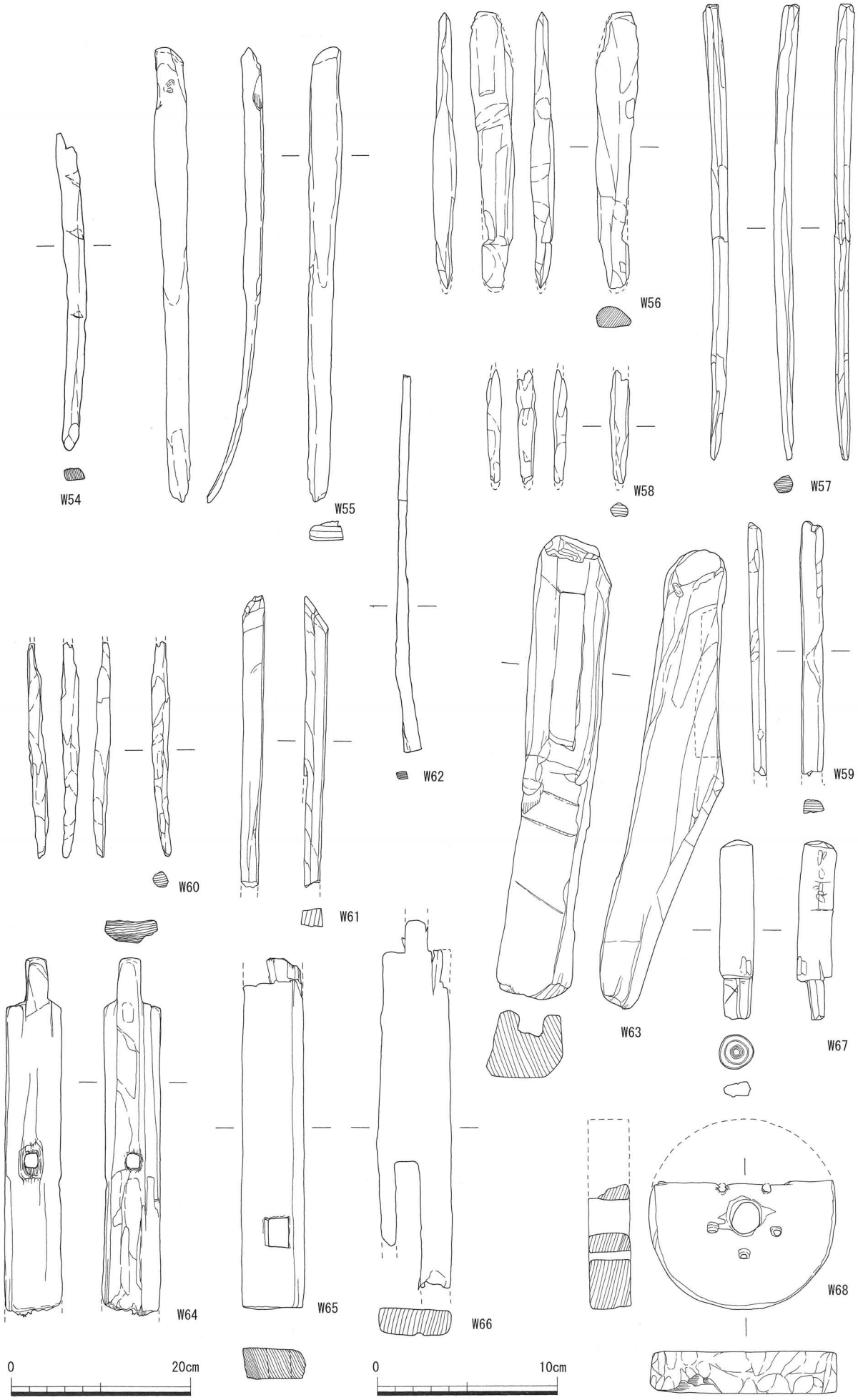
第53図　カミヤ遺跡出土遺物実測図13　S＝1/3



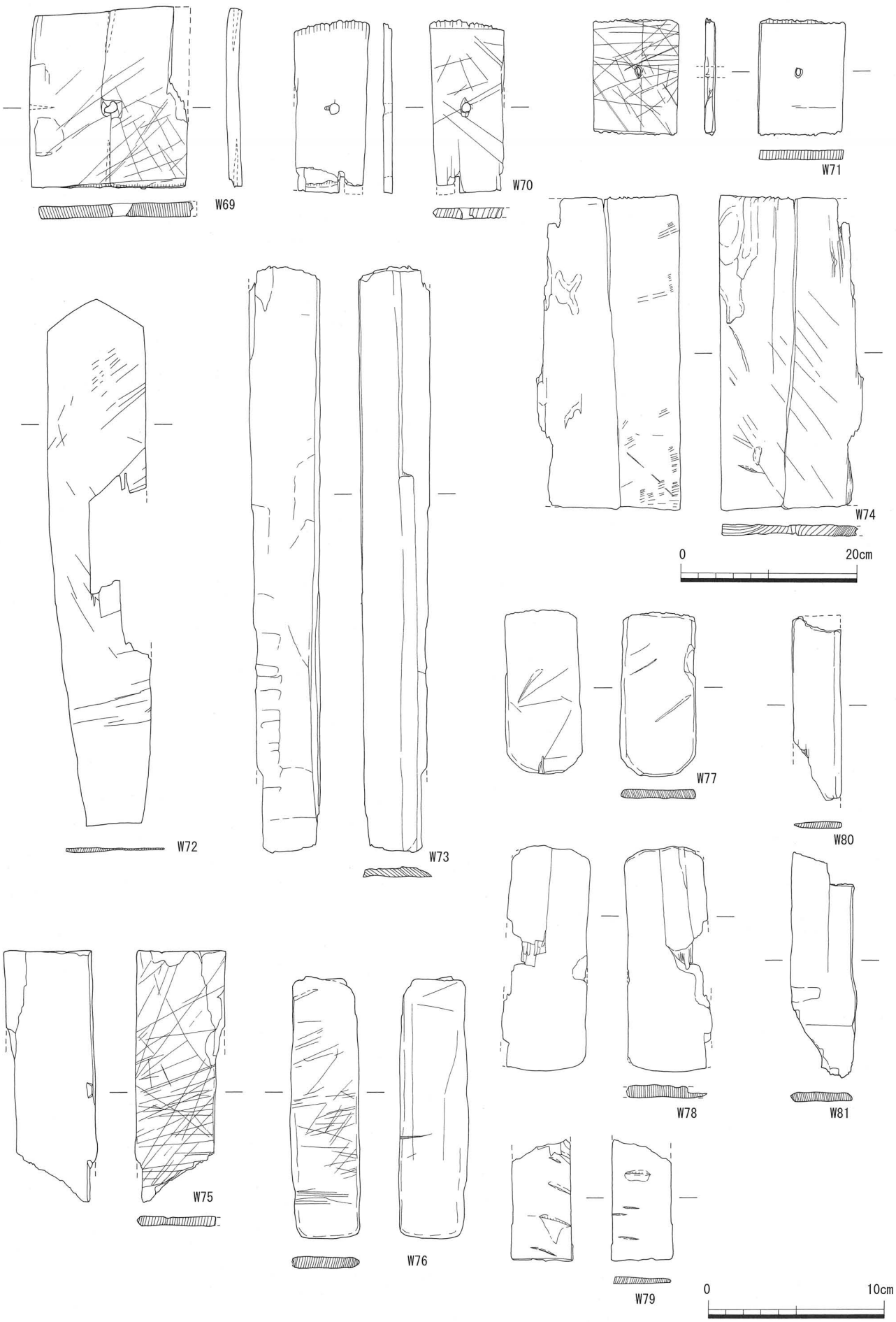
第 54 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 14　S ＝ 1/3（W30 は S ＝ 1/6）



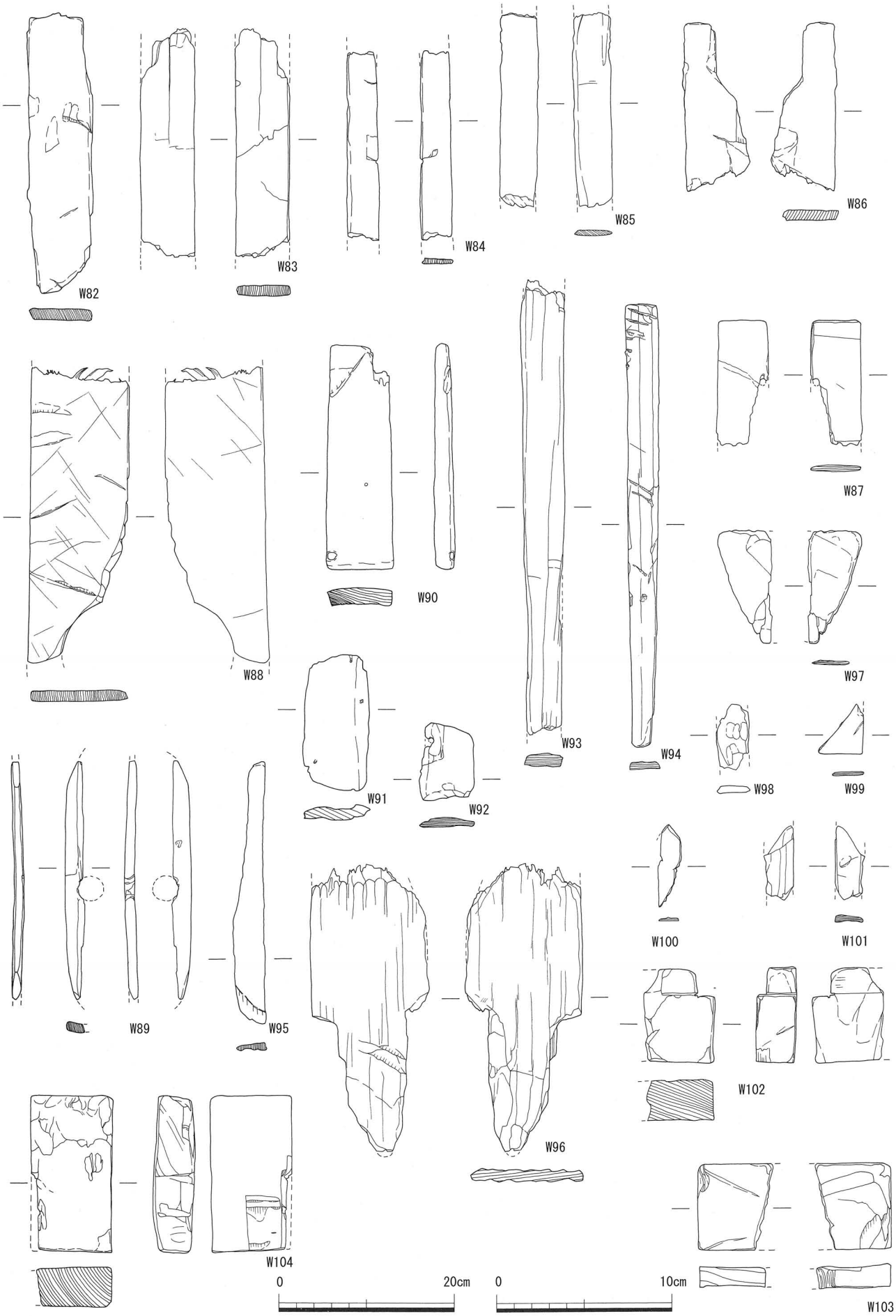
第 55 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 15　S ＝ 1/3



第 56 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 16　S ＝ 1/3（W62 は S ＝ 1/6）

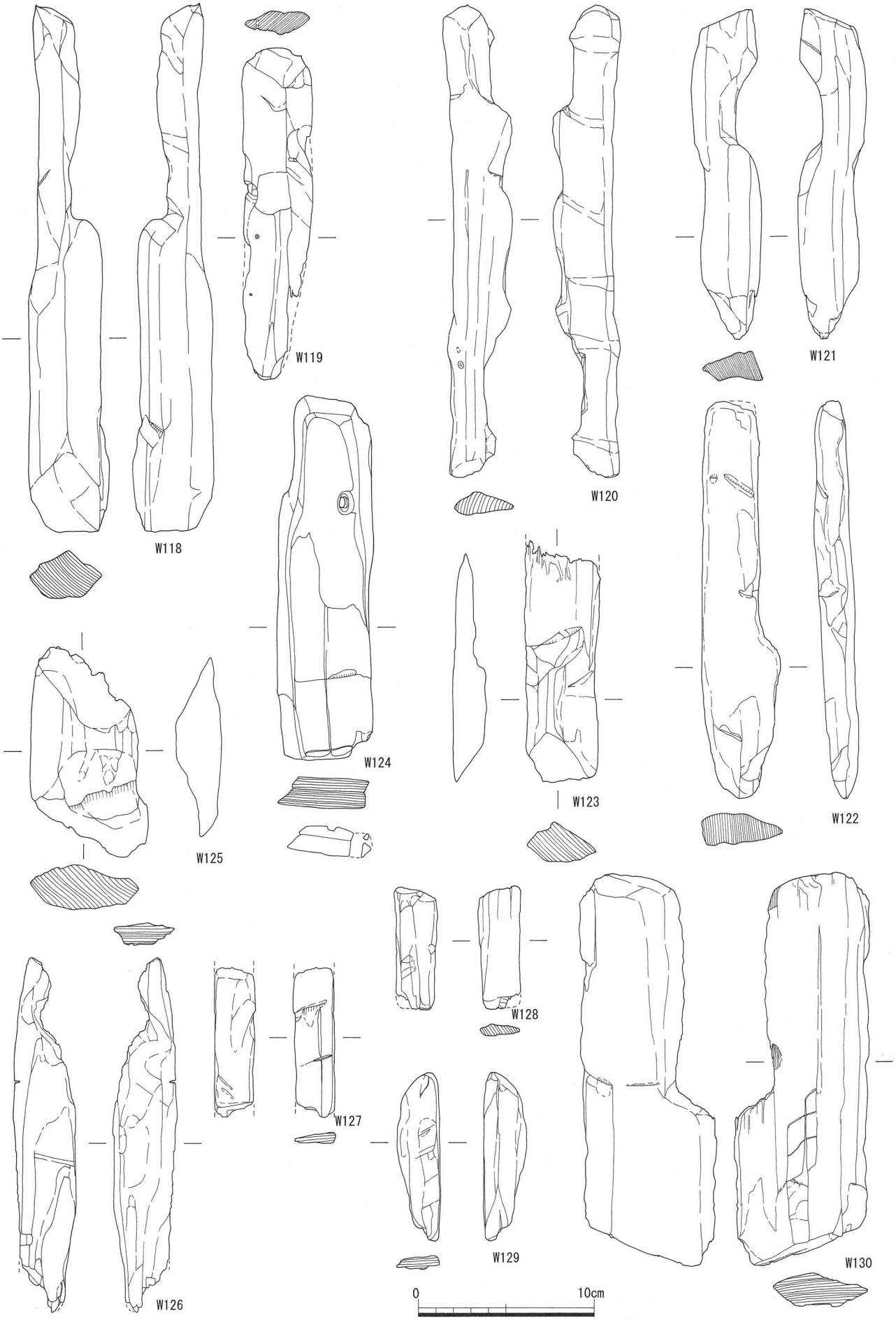


第 57 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 17　S = 1/3（W74 は S = 1/6）

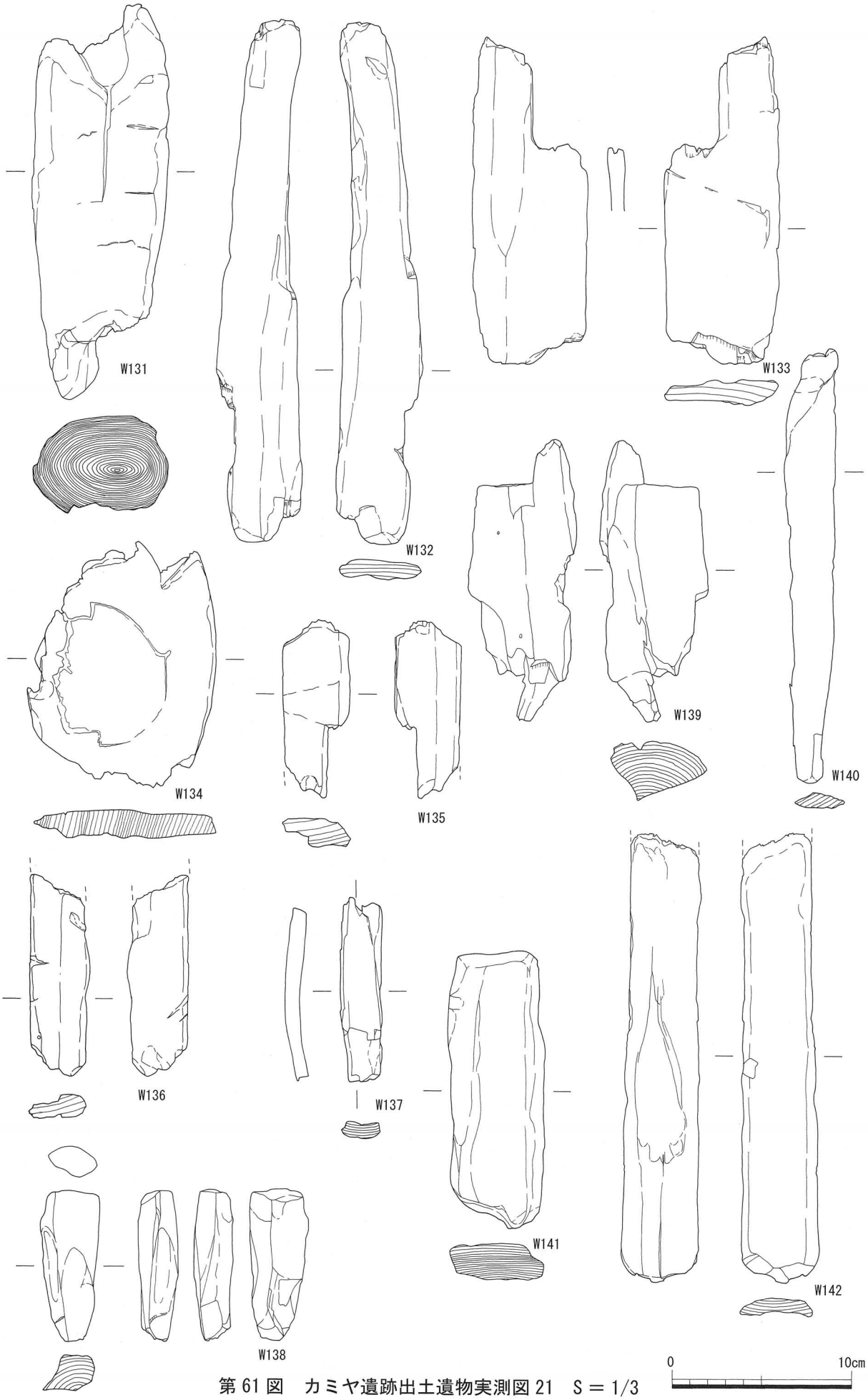


第 58 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 18　S ＝ 1/3（W94 は S ＝ 1/6）

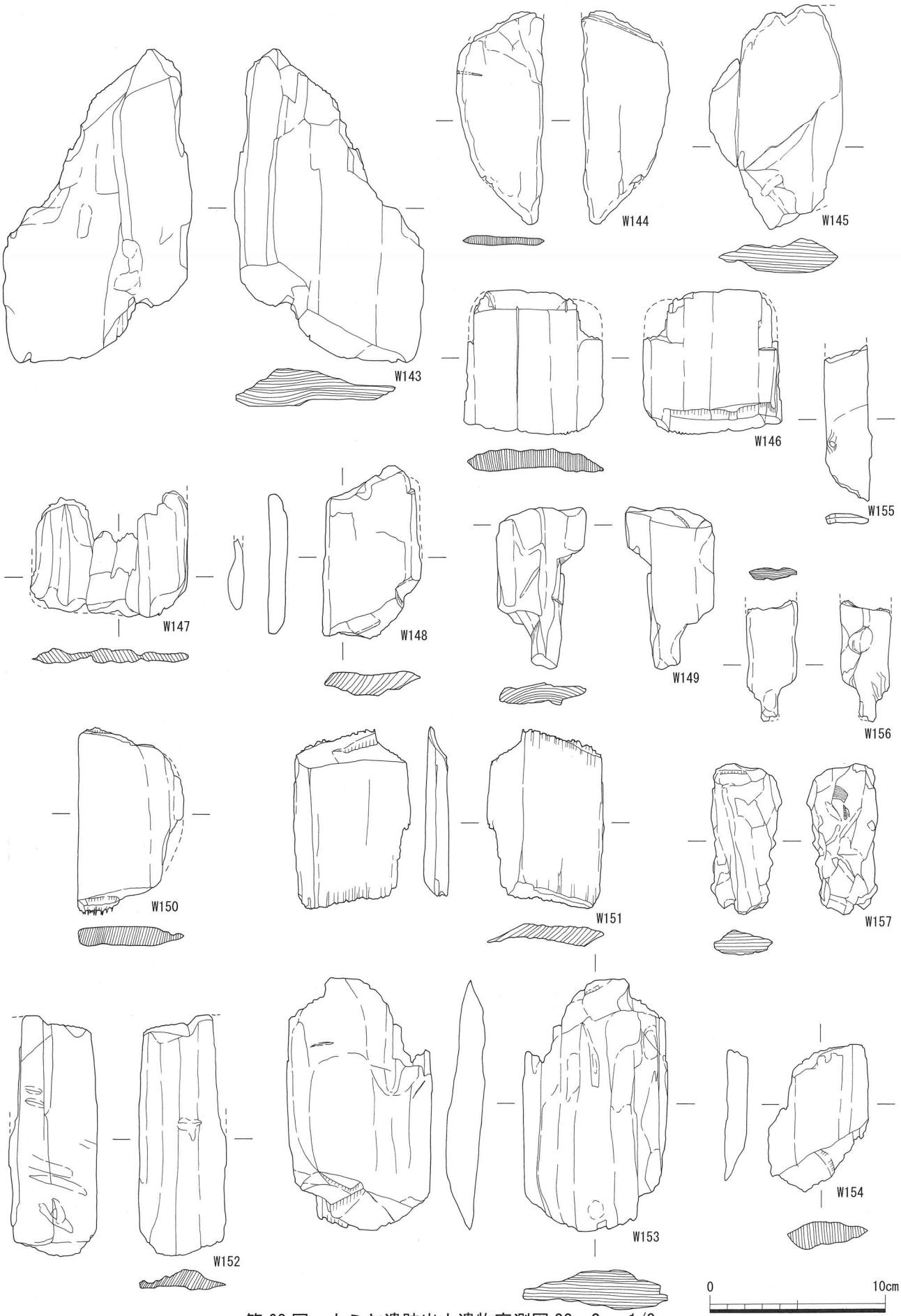
第59図　カミヤ遺跡出土遺物実測図19　S＝1/3



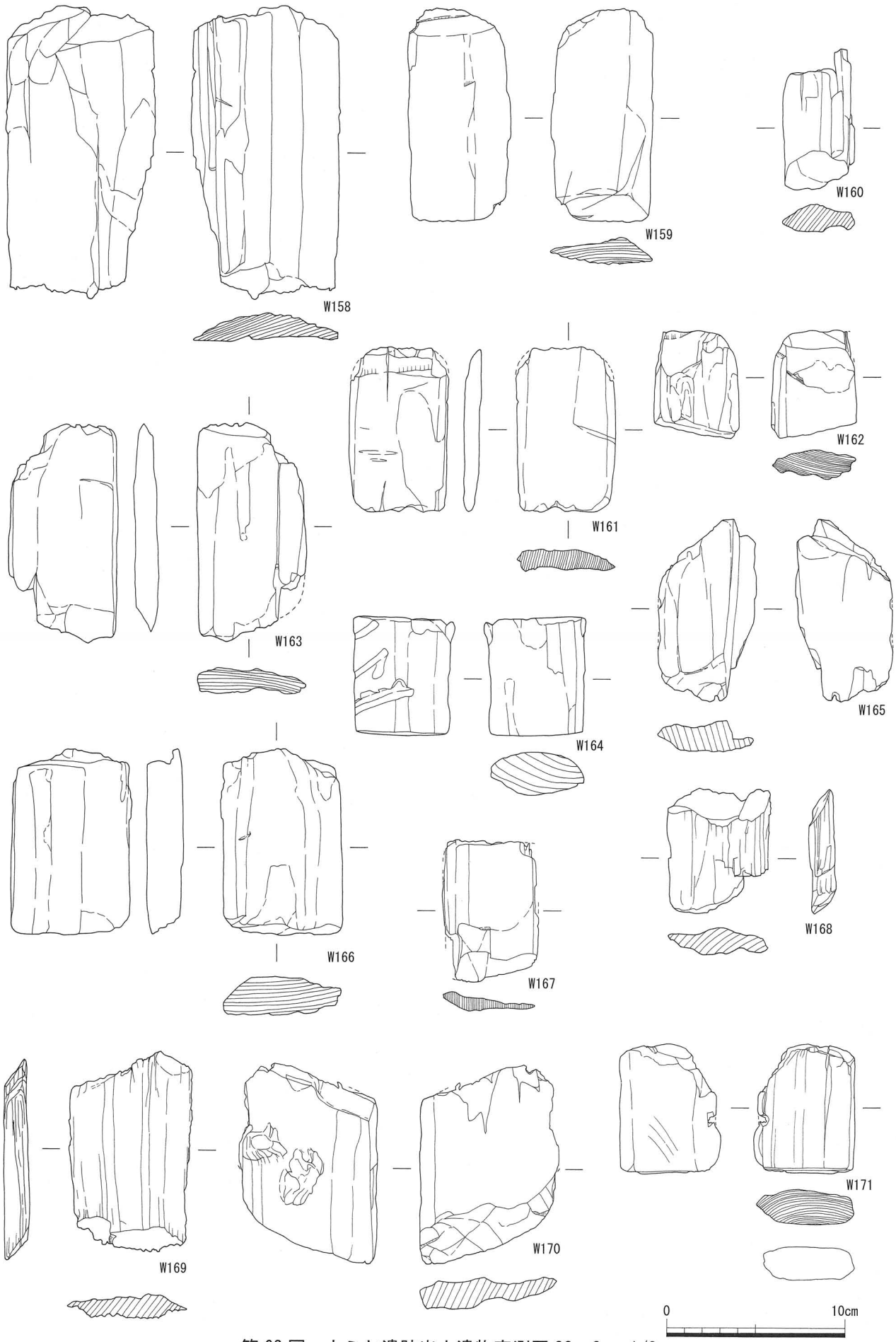
第 60 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 20　S ＝ 1/3



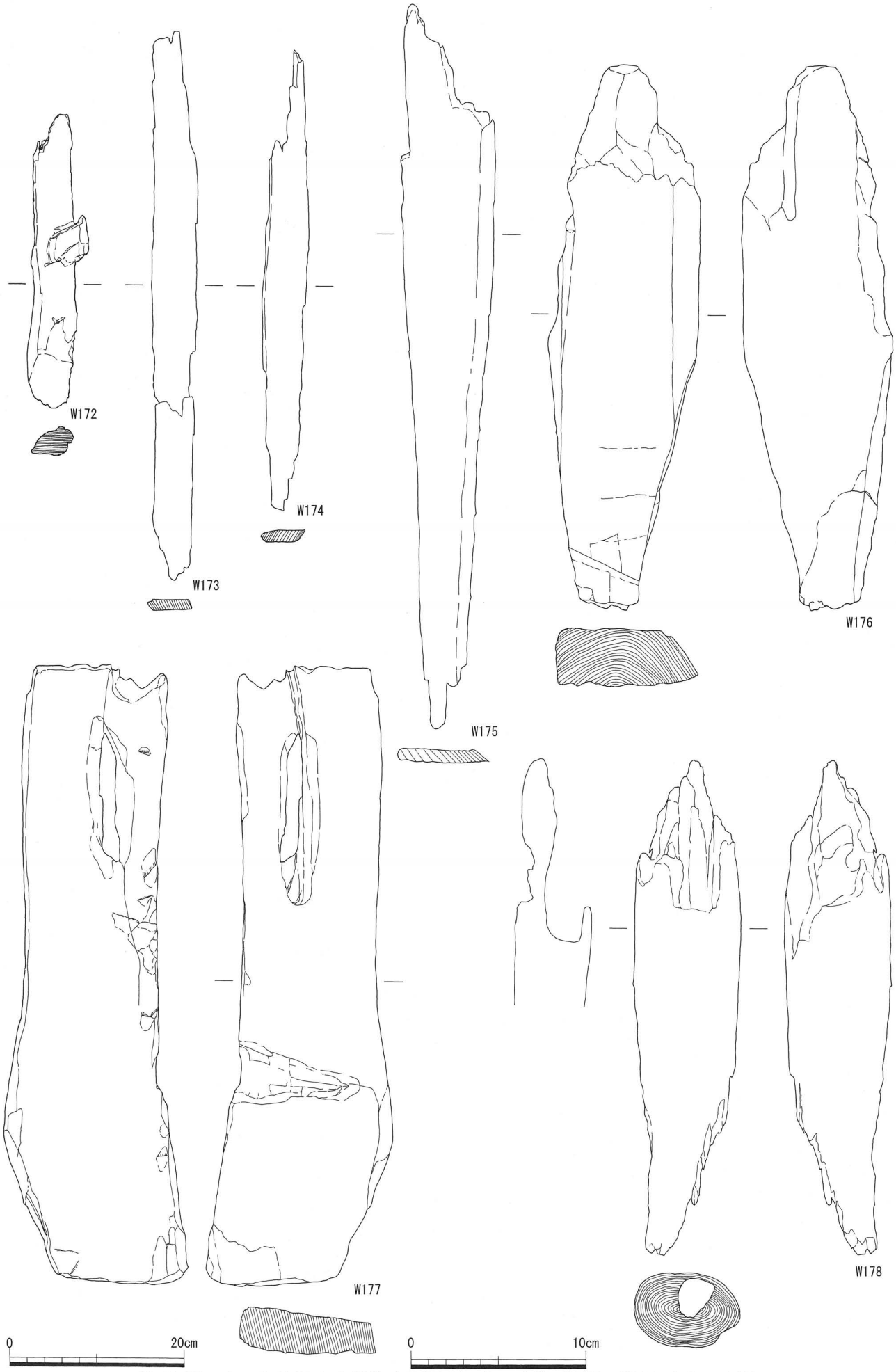
第 61 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 21　S ＝ 1/3



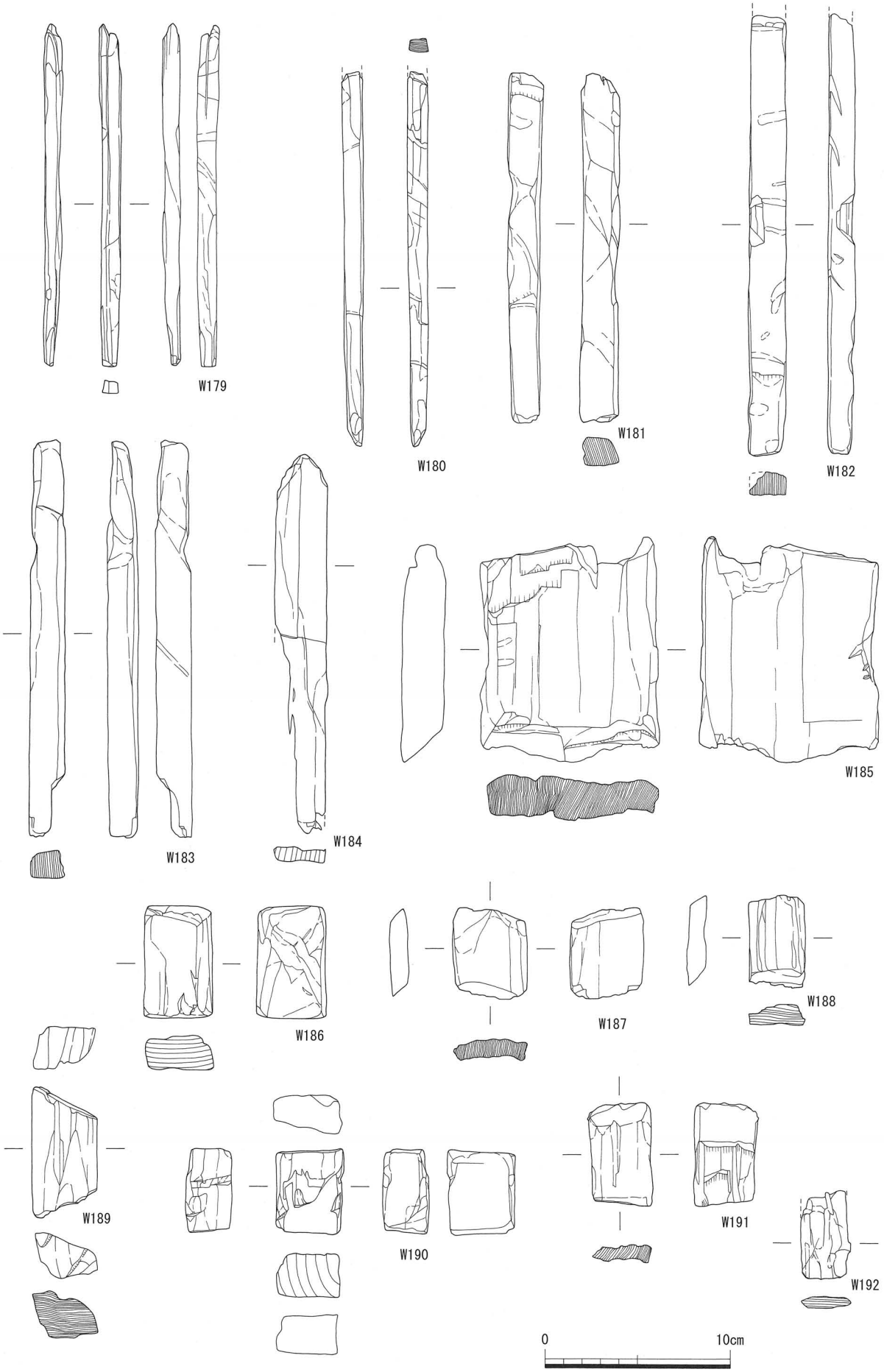
第 62 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 22　S ＝ 1/3



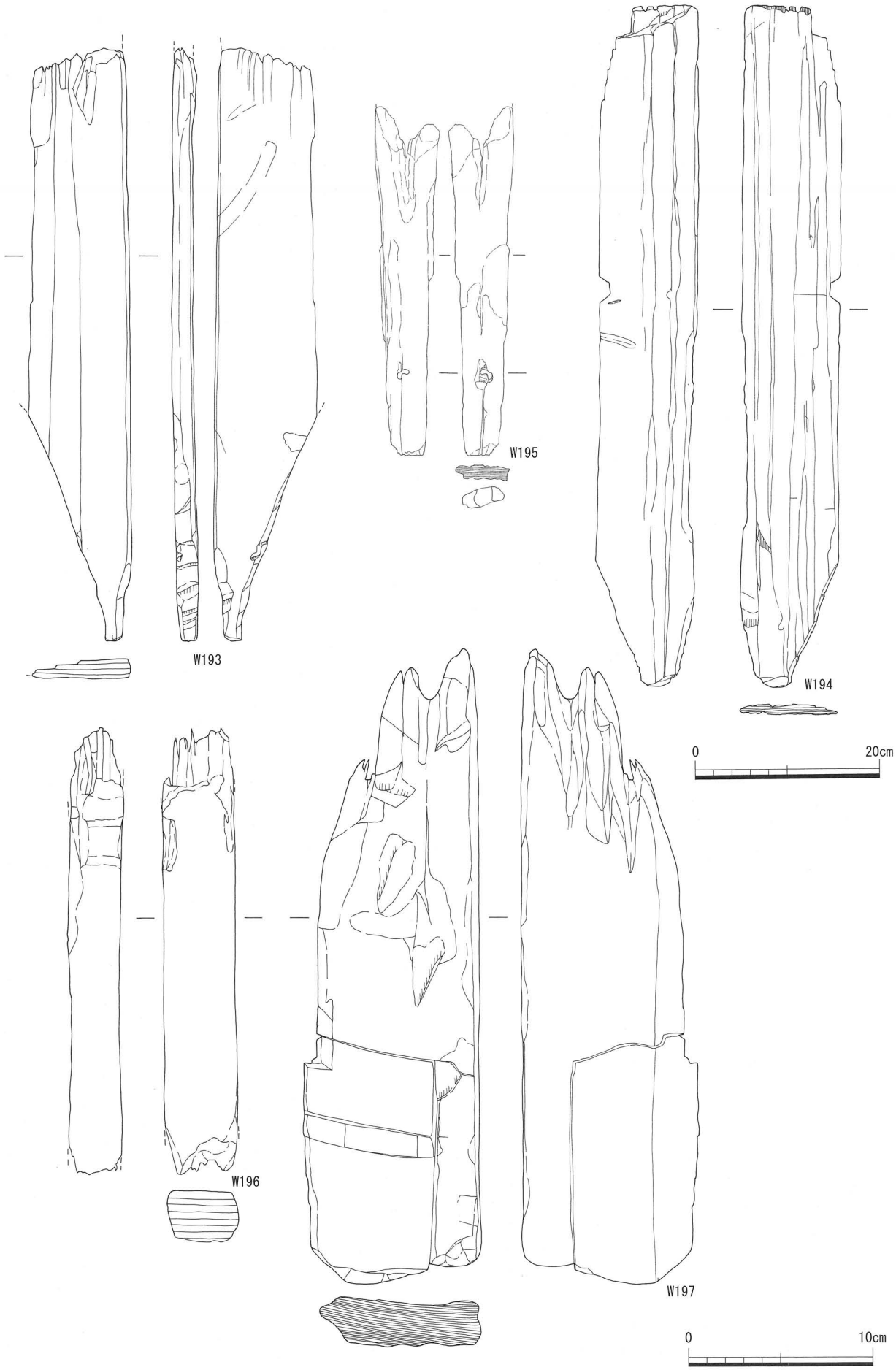
第 63 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 23　S ＝ 1/3



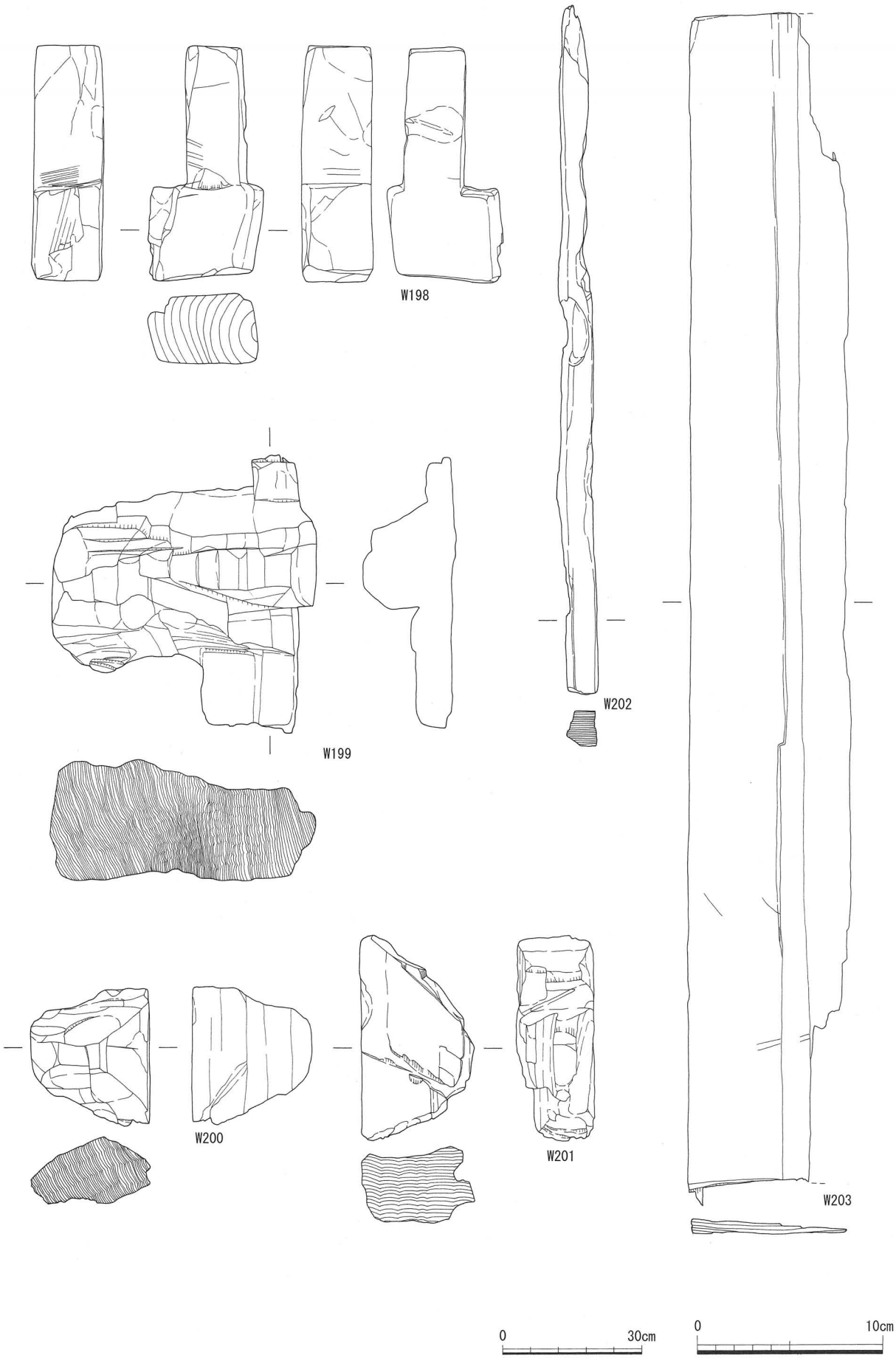
第 64 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 24　S ＝ 1/6（W176・W178 は S ＝ 1/3）



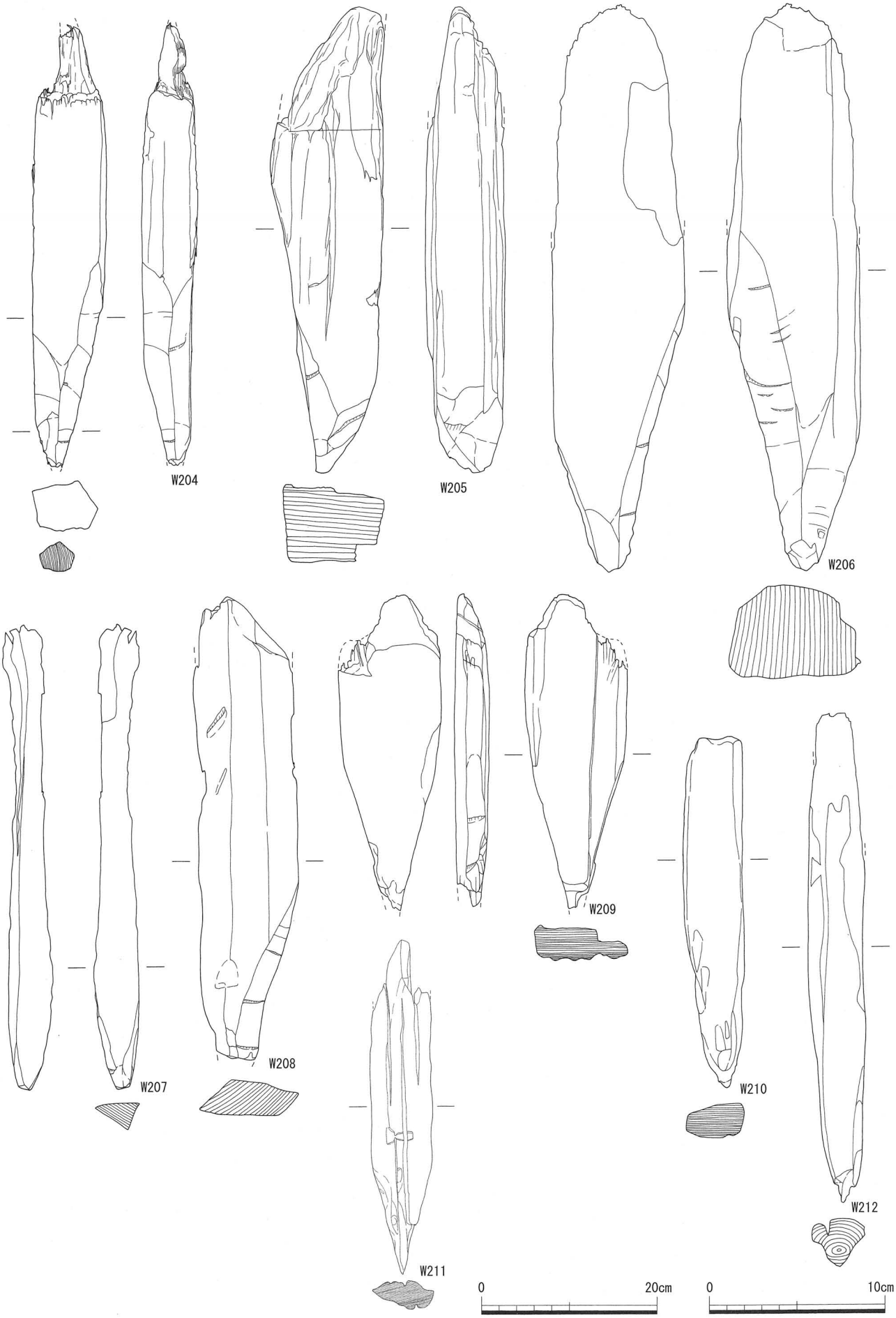
第 65 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 25　S ＝ 1/3



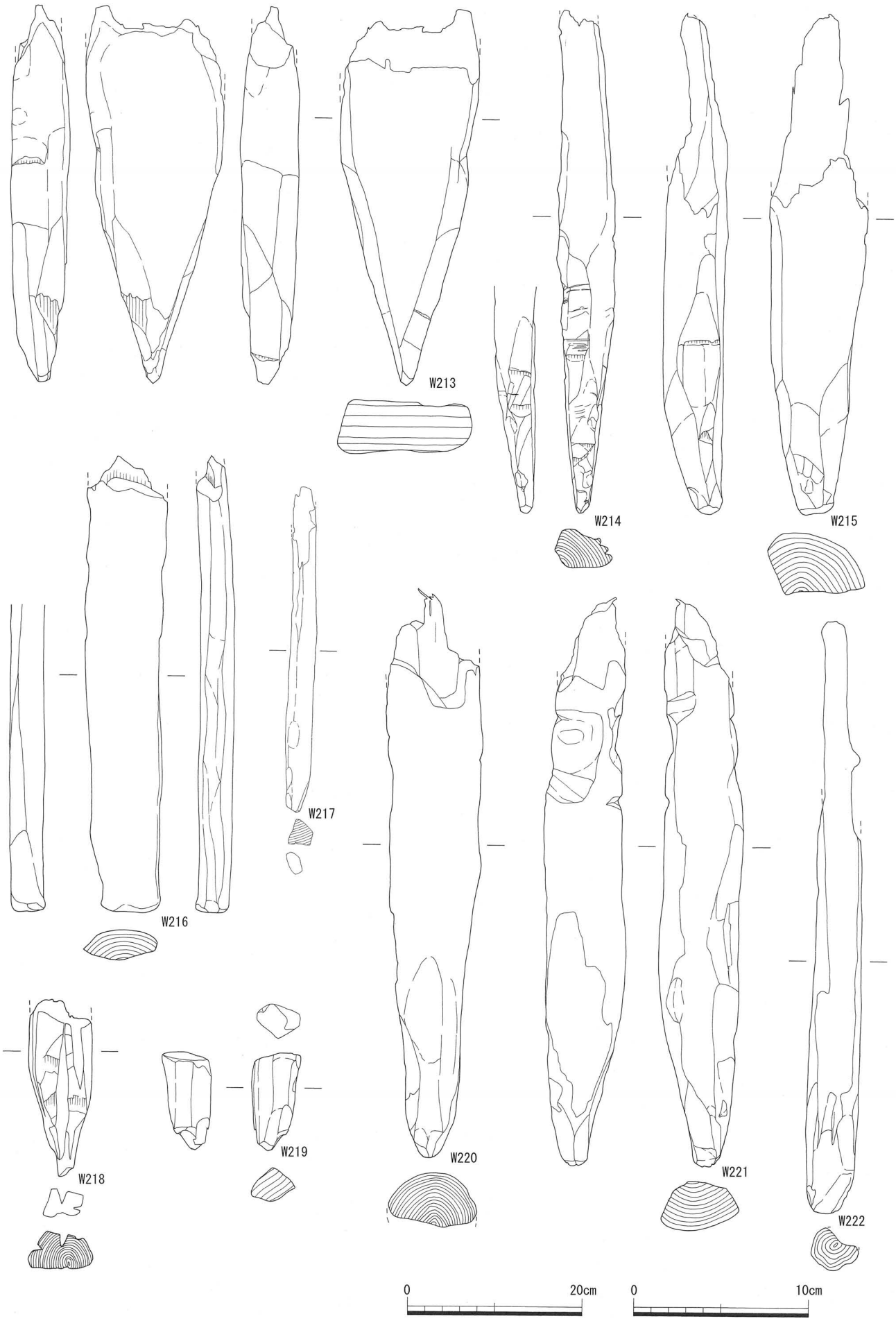
第66図　カミヤ遺跡出土遺物実測図26　S＝1/3（W194・W195はS＝1/6）



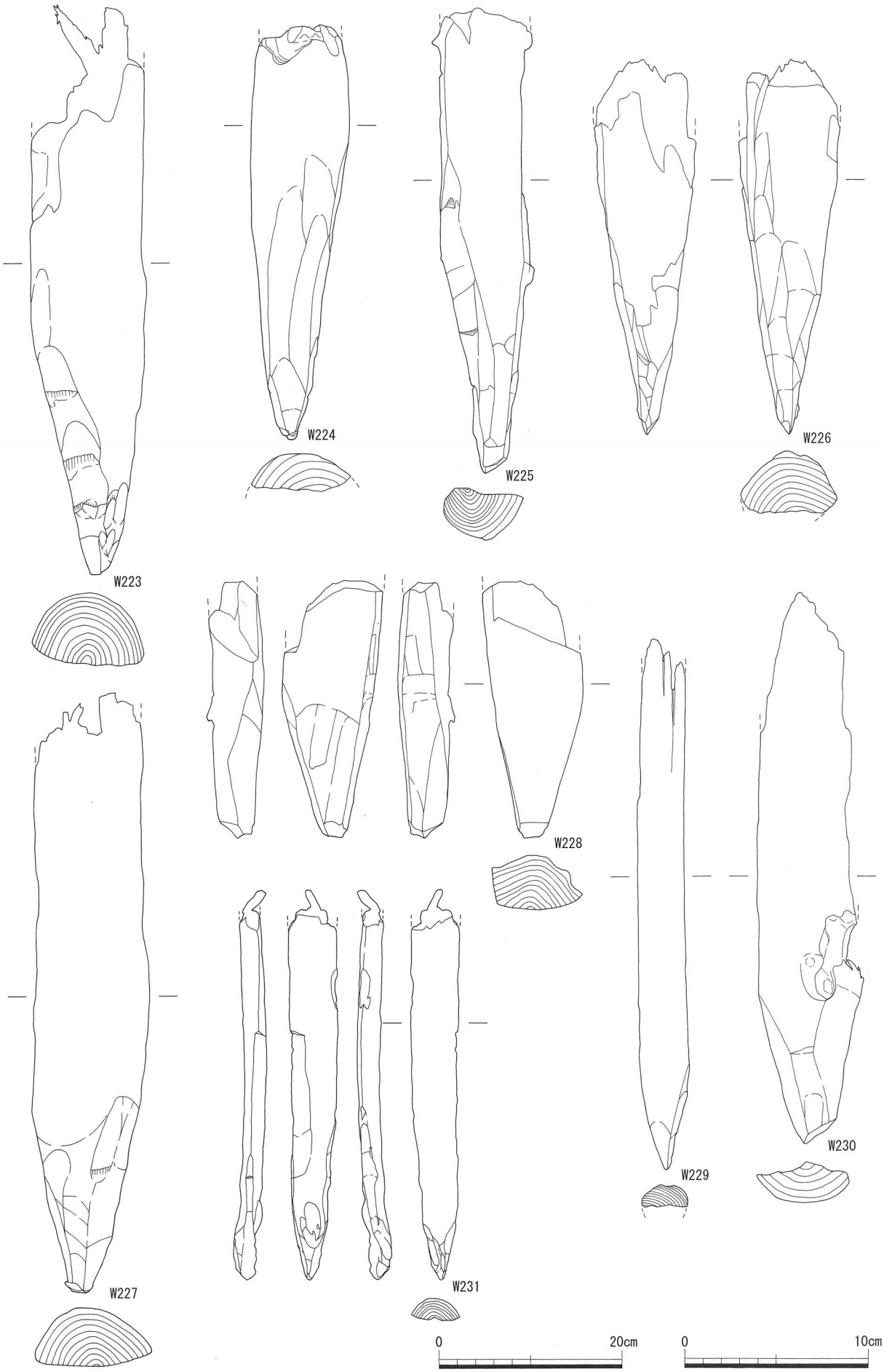
第 67 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 27　S ＝ 1/3（W202 は S ＝ 1/12）



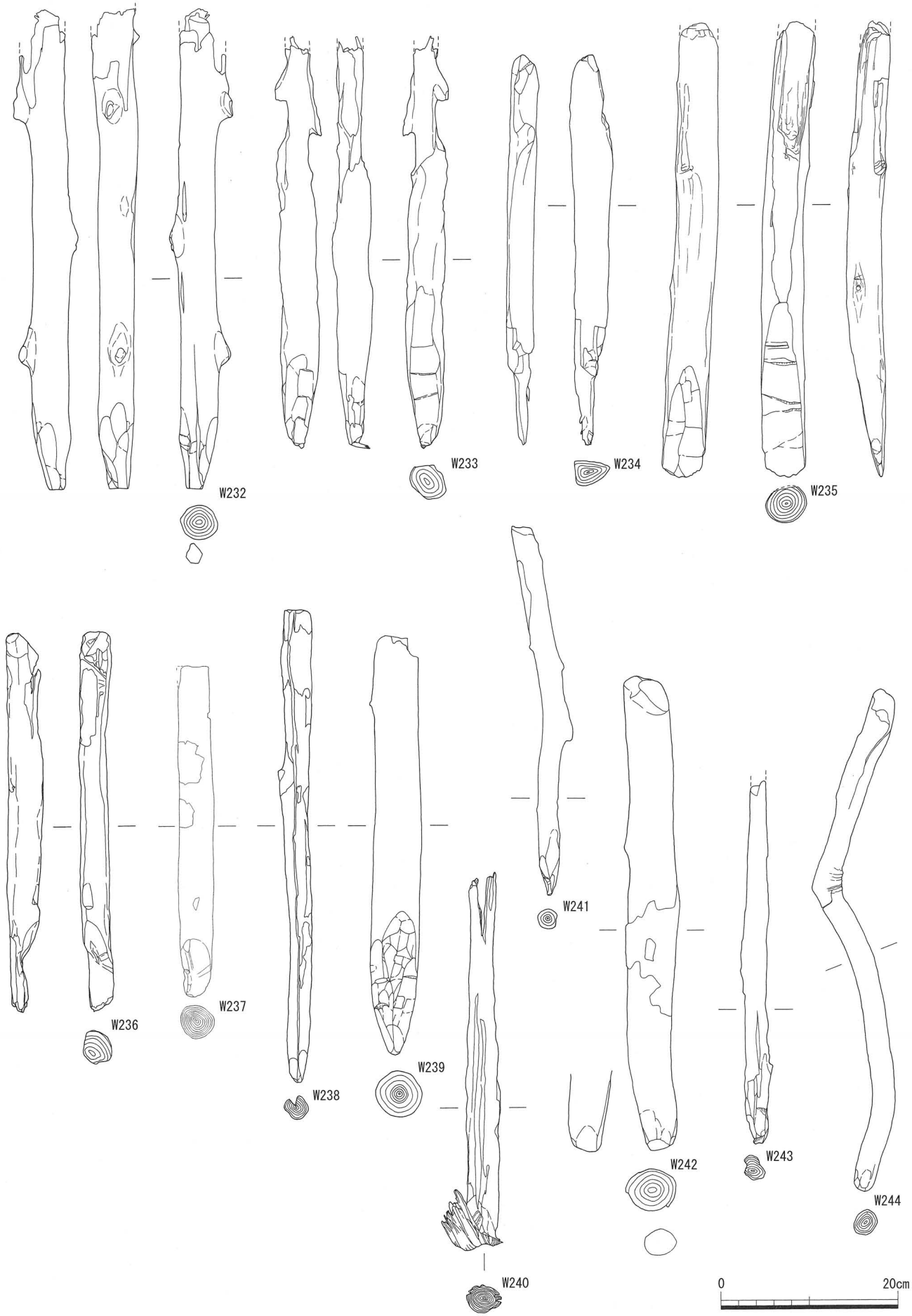
第 68 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 28　S ＝ 1/3（W204・W207・W211 は S ＝ 1/6）



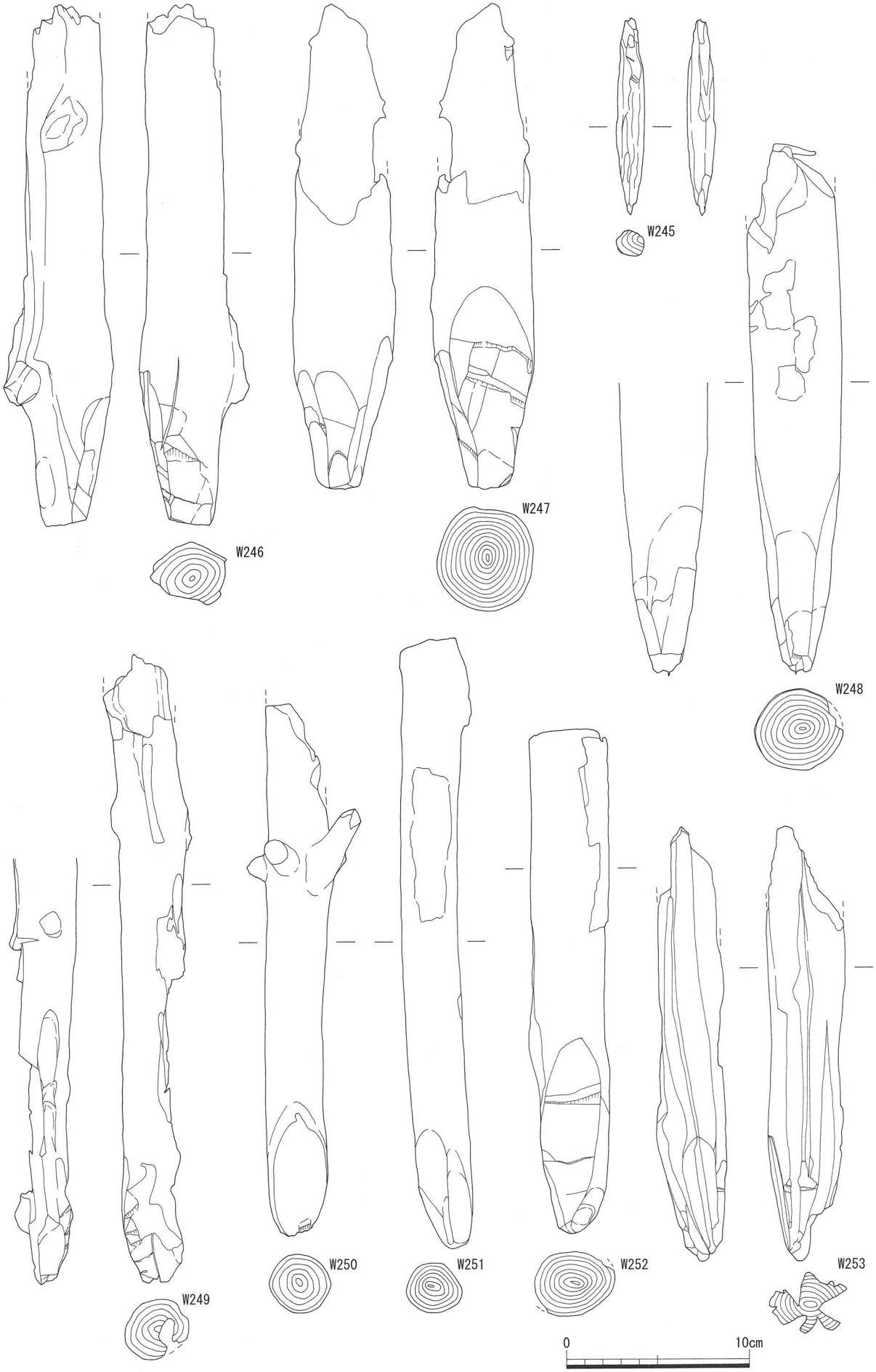
第 69 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 29　S ＝ 1/3（W214・W217 は S ＝ 1/6）



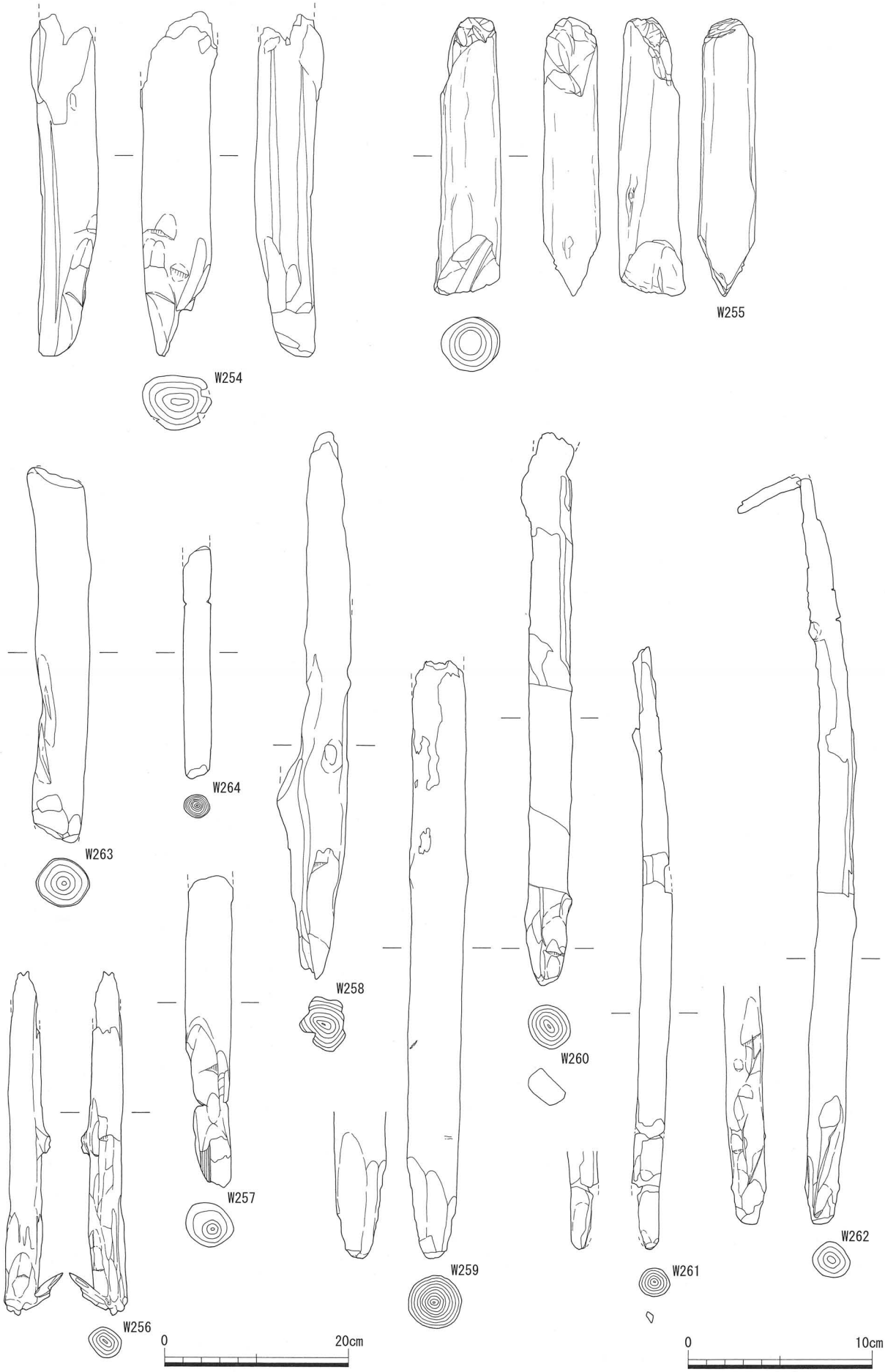
第 70 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 30　S ＝ 1/3（W231 は S ＝ 1/6）



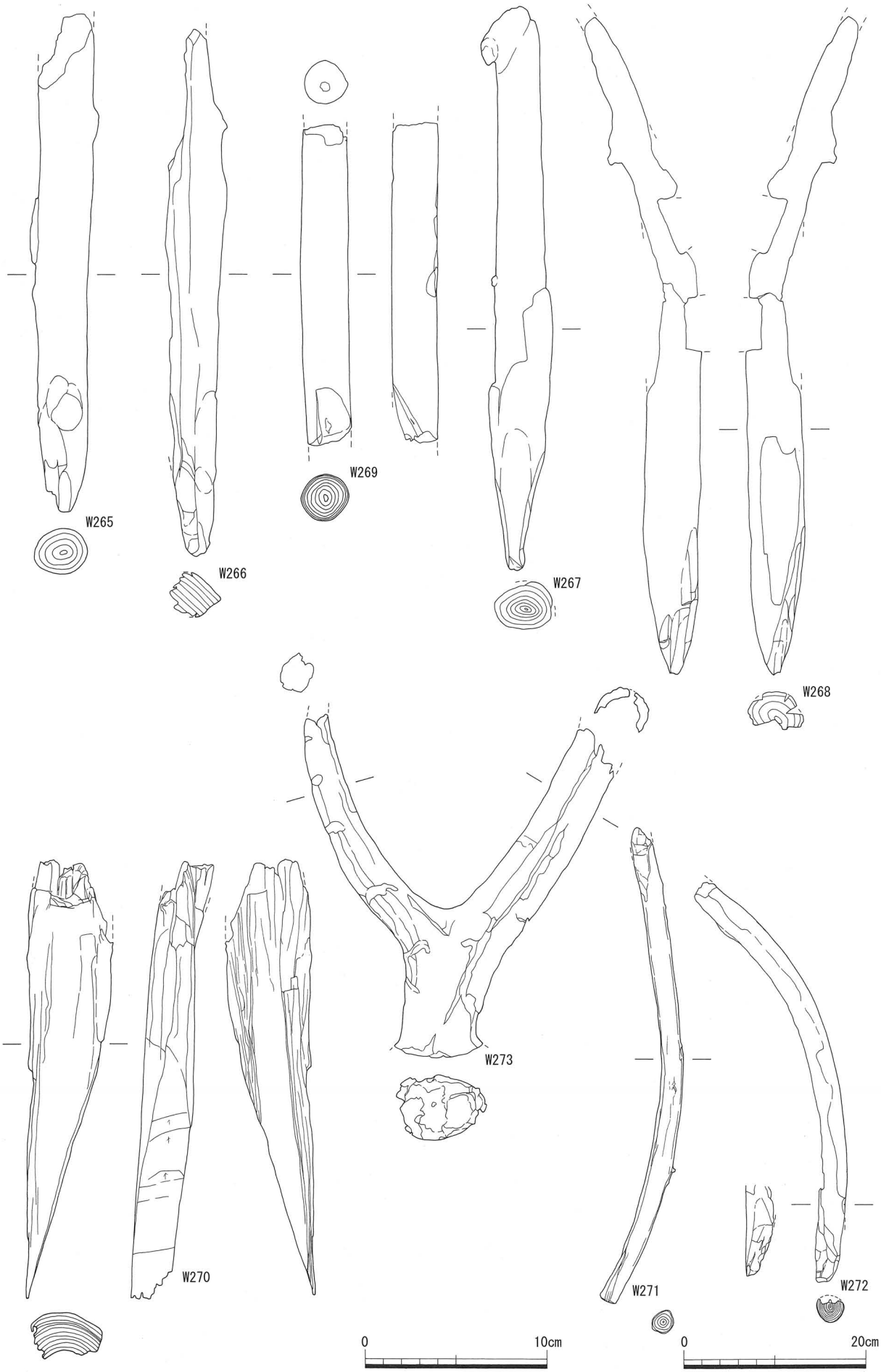
第 71 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 31　S ＝ 1/6



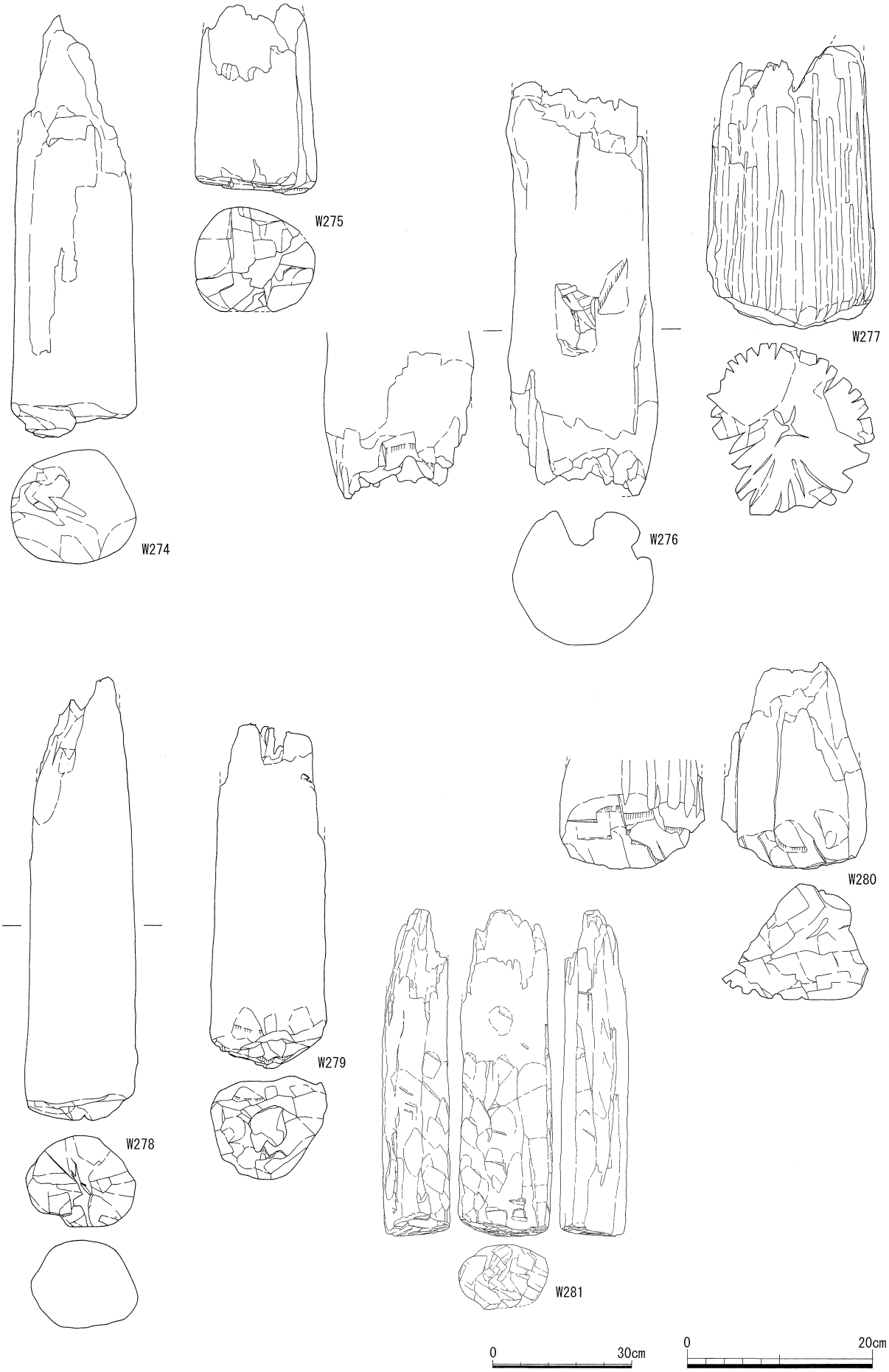
第 72 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 32　S ＝ 1/3



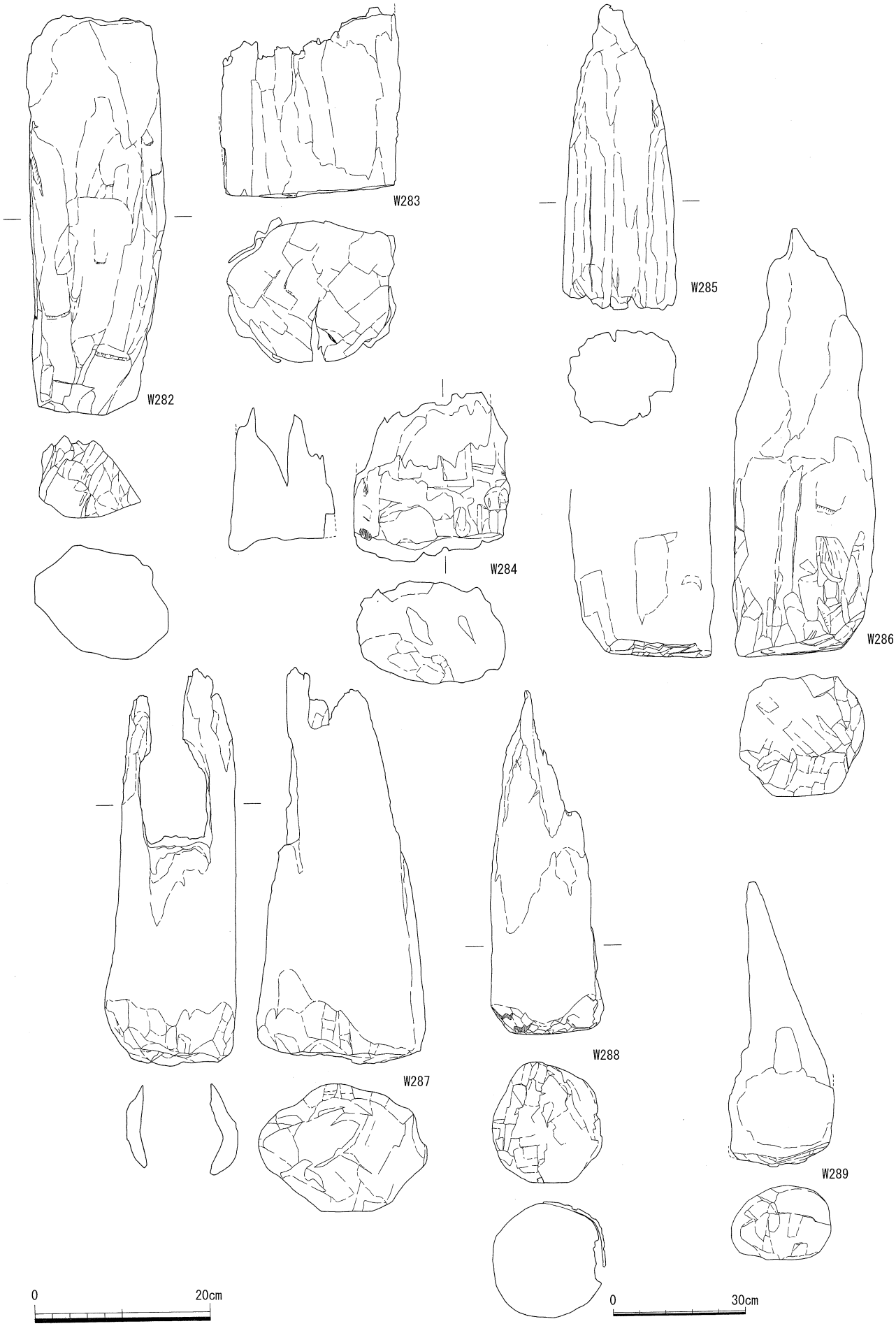
第 73 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 33　S ＝ 1/3（W256・W259 ～ 262 は S ＝ 1/6）



第 74 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 34　S ＝ 1/3（W271・W272 は S ＝ 1/6）



第 75 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 35　S ＝ 1/6（W281 は S ＝ 1/12）



第 76 図　カミヤ遺跡出土遺物実測図 36　S ＝ 1/6（W288 は S ＝ 1/12）